

独立行政法人国立高等専門学校機構
呉工業高等専門学校

第3期中期目標期間
(平成 26 年度～平成 30 年度)
自己点検・評価報告書
【第 9 報】

令和 2 年 7 月
自己点検・評価委員会

はじめに

自己点検・評価を行う委員会が果たすべき本来の役割は、本校の学則第 1 条の 2 に定められていますように、本校の教育研究水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うことにあります。

これに従って、第 2 期中期目標期間（平成 21 年度～平成 25 年度）を終え、自己点検・評価をまとめて自己点検・評価報告書【第 8 報】として報告されていましたが、前任の森野校長としては、第 2 期中期目標期間中の中期計画ならびに年度計画が不十分であり、本校全体として、目的としている教育研究水準の向上が図れているかどうか評価し、判断を下すことが難しいとの判断をされました。そこで、その反省の基に、第 3 期中期目標期間（平成 26 年度～平成 30 年度）中の平成 27 年度に自己点検等管理委員会の規則を改正し、平成 28 年度から、自己点検・評価委員会に衣替えし、点検・評価を明確にしました。さらに、期間中における中期計画および年度計画を慎重に設定し、計画を実現すべく様々な活動を実施し、その成果を評価・改善する PDCA システムを構築しています。

今回、第 3 期中期目標期間中の成果に関して、中期計画、年度計画の順に順次記述し、その結果の評価、分析さらには改善した結果を自己点検・評価報告書【第 9 報】としてまとめています。

本自己点検・評価報告書を基に第 4 期中期目標期間（令和元年度～令和 5 年度）において、本校における教育・研究の質をよりいっそう向上させるよう、努めたいと思っています。

令和 2 年 7 月

校長 篠崎 賢二

第3期中期目標期間（平成26年度～平成30年度）
自己点検・評価報告書
【第9報】

目 次

はじめに

一 独立行政法人国立高等専門学校機構が達成すべき業務運営に関する目標 （独立行政法人通則法第29条）	2
二 呉工業高等専門学校 第3期中期目標期間 自己点検・評価	
1 教育に関する事項	6
（1）入学者の確保	7
① 地域の中学校校長会、教育委員会及びメディア等を通じて積極的な 広報活動を行い、本校の認知度を高める。	
② 本校の学習内容を体験できるような学校見学会、入試説明会、体験 イベント等を充実させ、特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推 進する。	
③ 中学生やその保護者に本校の特徴を効果的に周知できる広報資料 を作成する。	
④ 本校のアドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜で きるような入試を適切に実施する。	
⑤ 女子学生の受入れをさらに推進するとともに、入学志願者の質を維 持する。	
（2）教育課程の編成等	20
① 呉高専教育改革検討プロジェクトの答申（平成26年5月）に基づ き、「地域発・インキュベート型教育」へ教育体制を転換する。	
② 専攻科は一本化へと改組する。	
③ 学習到達度試験やTOEICなどを活用して基礎学力を把握する とともに、技術者として必要な基礎能力の向上を図る。	
④ 卒業生を含めた学生による授業評価・学校評価を実施し、その結果 を積極的に活用する。	
⑤ ものづくりに関連した全国的な競技会やコンテストへの参加を積 極的に奨励・支援し、ものづくり能力の向上を図る。	
⑥ ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの 様々な体験活動を充実させる。	
（3）優れた教員の確保	52

- ① 公募制等によって多様な背景を持ち、優れた教育力・研究力を有する教員を採用する。
- ② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、他高専、大学等との人事交流を図る。
- ③ 専門科目、理系の一般科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者を全体として70%、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を全体として80%を下回らないように採用する。
- ④ 女性教員の比率向上を図るためのポジティブアクションを継続して実施するとともに、働きやすい職場環境の整備を推進する。
- ⑤ FDなど教員の能力向上を目的とした研修を計画的に実施するとともに、各種研修に積極的に参加する。
- ⑥ 教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。
- ⑦ 文部科学省等の制度を利用した国内外の大学等の研究・研修への参加を促進するとともに、教員の国際会議への参加を推進する。

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

- ① 学生の主体的な学びを実現するICT活用教育環境を整備し、モデルコアカリキュラムも導入することにより、教育の質保証を推進する。
- ② 呉高専教育検討改革プロジェクトの答申に基づき、「地域発・インキュベート型教育」を行うことにより、学生を”世界目線“の技術者へ孵化させ、従来の「ものづくりの中核技術者」に加え、「社会を変える人材」を3%（学科で1人）育てる。
- ③ 専攻科において、他高専と連携することにより、良質な教育資源を有効活用し、教育力を向上させることで専攻科の充実を図る。
- ④ 在学中の資格取得を積極的に推進するとともに、JABEEプログラムを再構築することにより、教育の質の向上を図る。
- ⑤ 高専間や大学等の多方面における学生の交流活動を積極的に推進する。
- ⑥ 呉高専教育改革検討プロジェクトから答申された「地域発・インキュベート教育」による特色ある教育への取組や優れた教育実践例を機構へ提供する。
- ⑦ 機関別認証評価の結果を教育の改善に活用する。
- ⑧ インターンシップ等による産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育の推進を図る。
- ⑨ 企業技術者や外部の専門家など、知識・技術をもった人材に加え、幅広いスキルやネットワークを有した外部人材を活用し、教育体制の充実を図る。
- ⑩ 理工系大学との間で、教員の研修、教育課程の改善、卒業生の継続教育などで、有機的な連携を推進する。

- ⑪ アクティブラーニングを効果的に実施できるように校内ネットワーク等の情報基盤を整備し、ICT活用教育を充実する。

(5) 学生支援・生活支援等 81

- ① 学生支援に関する機能強化・充実を図る。
- ② 寄宿舍等の学生支援施設の整備計画を策定する。
- ③ 各種奨学金制度の情報を学生に紹介し、奨学金の効果的な活用を促進する。
- ④ 入学から卒業までのキャリア形成支援を充実させるとともに、就職率については高い水準を維持する。

(6) 教育環境の整備・活用 90

- ① 施設の老朽化・狭隘化、耐震性を考慮し、その結果を踏まえて整備、及び省エネ化対策を推進する。
- ② 安全衛生に関する講習会を継続して実施するほか、実験実習安全必携を配布する。
- ③ 男女共同参画を推進するため、各高等専門学校の参考となる情報を収集し、必要な取り組みを実施する。

2 研究や社会連携に関する事項 97

- ① 全国高専テクノフォーラム等への参加を奨励し、外部資金獲得では組織的、計画的に取り組み、全教員が何らかの外部資金獲得に向けて応募できるような活動を促進する。
- ② 協働研究センターを活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取組を促進するとともに、これらの成果を公表する。
- ③ 高専機構コーディネーターと連携して知財化を推進するための学内ルールを明確化し、漏れの無い知財出願ができるような環境を整備する。
- ④ 教員の研究分野や協働研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられる広報体制の充実を図る
- ⑤ 地域の教育委員会等との連携を深め、公開講座、出前授業及びサイエンスショー等を実施し、満足度調査を実施する。

3 国際交流に関する事項 111

- ① 「世界に挑戦」をキャッチフレーズにし、海外の大学との学術交流及び海外インターンシップを推進する。
- ② 海外の教育機関と学術交流を締結し、双方向の交流を推進する。
- ③ 海外留学を希望する学生を支援するため、必要な情報を提供するとともに東南アジア諸国を中心に海外インターンシップを奨励する。

- ④ 海外からの留学生の受け入れを充実させるため、地域社会、周辺の中学・高校との交流を推進するほか、寄宿舍等の整備について検討する。
- ⑤ 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行を毎年度実施する。

4 管理運営に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125

- ① 校長がイニシアティブをとり、迅速かつ責任ある意思決定を行うとともに、校長裁量経費により戦略的かつ計画的な資源配分を行う。
- ② 管理運営の在り方について、各種研修会及び会議で得た情報が共有できるよう、定期的に運営連絡会を開催するほか、管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図る。
- ③ 業務の集約化、効率化及び合理化を推進するため、費用対効果を考慮した上でアウトソーシング等に対応可能な業務がないか検討する。
- ④ 学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態等を予測し、防止策等に取り組む。
- ⑤ 機構及び地区等の主催する各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。
- ⑥ コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。
- ⑦ 学内の監査体制の充実を図る。
- ⑧ 平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」確実に実施する。
- ⑨ 事務職員や技術職員の能力の向上のため、各種研修を計画的に実施するとともに、必要に応じ文部科学省、地方自治体及び企業などが主催する研修に職員を参加させる。
- ⑩ 事務職員及び技術職員については、国立大学や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。
- ⑪ 情報セキュリティ対策を適切に推進し、情報システム環境を整備する。
- ⑫ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、中期計画及び各年度計画を定める。
- ⑬ 具体的成果指標を検討し、実現に向け努力する。

5 業務運営の効率化に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162

- ① 一般管理費の縮減及び随意契約の見直しを行う。
- ② 自己収入の増加と固定的経費の削減を図る。
- ③ 保有施設の長寿命化、省エネルギー化、及び障害者等に配慮した長期的な施設整備計画としてのキャンパスマスタープランを作成する。
- ④ 教職員共に積極的に人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、資質の向上と職務能力の向上を図る。

三 關係法令 1 7 4

 学校教育法（抄）

 学校教育法施工規則（抄）

 独立行政法人通則法（抄）

第3期中期目標期間における自己点検・評価について

高等専門学校は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第109条及び第123条において、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表することと定められている。

また、独立行政法人国立高等専門学校機構は、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第29条（中期目標）、第30条（中期計画）、第31条（年度計画）に基づき達成すべき業務運営に関する各事項を定めることとされており、呉工業高等専門学校においても、独立行政法人国立高等専門学校機構の定めた各事項に応じて達成すべき事項を定めることとされている。

今回、第3期中期目標期間（平成26年度～平成30年度）において定めた中期計画及び年度計画の各項目の達成状況を、各種統計情報やアンケート結果等を基に、分析・評価した結果を公表するものである。

呉工業高等専門学校
自己点検・評価委員会

1 独立行政法人国立高等専門学校機構が達成すべき業務運営に関する目標（独立行政法人通則法第 29 条）

I 中期目標期間（第 1 号）

中期目標期間は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項（第 3 号）

（1）教育に関する目標

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという高等学校や大学とは異なる特色ある教育課程を通し、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせることができるように、以下の観点に基づき各学校の教育実施体制を整備する。

① 入学者の確保

高等学校や大学とは異なる高等専門学校の特性や魅力について、中学生や中学校教員、さらに広く社会における認識を高める広報活動を組織的に展開するとともに入試方法の見直しを行うことによって、十分な資質を持った入学者を確保する。

② 教育課程の編成等

産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、各高等専門学校がそれぞれの地域性や特色、立地条件等に応じ、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。このため、学科構成を見直し、地域の要請に即応した新分野の学科の設置や改組・再編・整備を適切に進めるとともに、地域や各高等専門学校の実情に応じ専攻科の整備・充実を行う。

また、「中央教育審議会答申」（平成 20 年 12 月 24 日）の趣旨や入学志願者の動向、ニーズ等を踏まえ、高等専門学校の配置の在り方について地域の要望に即した見直しを行うものとし、宮城、富山、香川及び熊本の 4 地区にある高等専門学校の統合を着実に進める。

さらに、高等教育機関としての専門教育の充実や技術者として必要とされる英語力を伸長させることはもとより、高等学校段階における教育改革の動向も踏まえた「確かな学力」の向上を図るべく、各学校における教育課程の不断の改善を促すための体制作りを推進する。

このほか、全国的な競技会の実施への協力などを通して課外活動の振興を図るとともに、ボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動を始め、「豊かな人間性」の涵養を図るべく様々な体験活動の機会の充実に努める。

③ 優れた教員の確保

公募制などにより博士の学位を有する者や民間企業で実績をあげた者など優れた教育力を有する人材を教員として採用するとともに、採用校以外の教育機関などにおいても勤務経験を積むことができるように多様な人事交流を積極的に図る。

また、ファカルティ・ディベロップメントなどの研修の組織的な実施や優秀な教員の表彰を始め、国内外の大学等で研究に専念する機会や国際学会に参加する機会を設けるなど、教員の教育力の継続的な向上に努める。

④ 教育の質の向上及び改善のためのシステム

教育研究の経験や能力を結集して国立高等専門学校の特性を踏まえた教育方法や教材などの共有を進めるとともに、前中期目標期間中に策定したモデルコアカリキュラムを本格導入し、高等専門学校教育の質保証を図る。

学校の枠を越えた学生の交流活動を推進するとともに、高等専門学校における教育方法の改善に関する取組を促進するため、特色ある効果的な取組の事例を蓄積し、全ての学校がこれらを共有する。さらに、学校教育法第123条において準用する同法第109条第1項に基づく自己点検・評価や同条第2項に基づく文部科学大臣の認証を受けた者による評価などを通じた教育の質の保証がなされるようにする。

実践的技術者を養成する上での学習の動機付けを強めるため、産業界等との連携体制の強化を支援するほか、理工系の大学、とりわけ高等専門学校と連続、継続した教育体系のもと教育を実施し実践的・創造的・指導的な技術者の養成を推進している技術科学大学などとの有機的連携を深める。

⑤ 学生支援・生活支援等

中学校卒業直後の学生を受入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、修学上の支援に加え進路選択や心身の健康等の生活上の支援を充実させる。また、寄宿舎などの学生支援施設の整備を計画的に進めるとともに、各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。さらに、学生の就職活動を支援する体制を充実し、学生一人ひとりの適性と希望にあった指導を行う。

⑥ 教育環境の整備・活用

施設・設備の有効活用、適切な維持保全、運用管理を図るとともに、産業構造の変化や技術の進歩に対応した教育を行うため、耐震補強などの防災機能の強化を含む施設改修、設備更新など安全で快適な教育環境の整備を計画的に進める。その際、施設の長寿命化や身体に障害を有する者にも配慮する。

教職員・学生の健康・安全を確保するため各高等専門学校において実験・実習・実技に当たっての安全管理体制の整備を図っていく。科学技術分野への男女共同参画を推進するため、

修学・就業上の環境整備に関する方策を講じる。

（２）研究や社会連携に関する目標

教育内容を技術の進歩に即応させるとともに教員自らの創造性を高めるため、高等専門学校における研究活動を活性化させる方策を講じる。

地域共同テクノセンター等を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取組を促進するとともに、その成果の知的資産化に努める。

高等専門学校における共同研究などの成功事例を広く公開する。また、地域の生涯学習機関として公開講座を充実させる方策を講じる。

（３）国際交流に関する目標

急速な社会経済のグローバル化に伴い、産業界のニーズに応える語学力や異文化理解力、リーダーシップ、マネジメント力等を備えグローバルに活躍できる技術者を育成する。

安全面に十分な配慮をしつつ、教員や学生の国際交流への積極的な取組を推進する。また、留学生の受入れについては、「留学生３０万人計画」の方針の下、留学生受入拠点を整備するなど、受入れの推進及び受入数の増大を図るとともに、留学生が我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を組織的に提供する。

（４）管理運営に関する目標

機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。また、本法人の効率的な運営を図る観点から、管理業務の集約化やアウトソーシングの活用などにより、法人全体として管理部門をスリム化することを検討する。

法人組織内の内部統制については更に充実・強化を図る。また、常勤監事を置き監事監査体制を強化する。

事務職員の資質の向上のため、国立大学法人などとの人事交流を積極的に行うとともに、必要な研修を計画的に実施する。

業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を適切に推進するため、政府の方針を踏まえ、情報システム環境を整備する。

Ⅲ 業務運営の効率化に関する事項（第２号）

高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費（人件費相当額を除く。）については３％、その他は１％の業務の効率化を図る。

なお、毎年の運営費交付金額の算定については、運営費交付金債務残高の発生状況にも留意する。

51 の国立高等専門学校が 1 つの法人にまとめられたスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行うとともに、業務運営の効率化を図る観点から、更なる共同調達の推進や一般管理業務の外部委託の導入等により、一層のコスト削減を図る。

また、業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。

さらに、平成 19 年度に策定した随意契約見直し計画の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請する。また、随意契約見直し計画の取組状況をホームページにより公表する。

Ⅳ 財務内容の改善に関する事項

1 自己収入の増加

共同研究、受託研究、寄附金、科学研究費助成事業などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。

2 固定的経費の節減

管理業務の合理化に努めるとともに、定員管理や給与管理を適切に行い、教職員の意識改革を図って、固定的経費の節減を図る。

総人件費については、政府の方針を踏まえ、厳しく見直しをするものとする。なお、給与水準については、国家公務員の給与水準を十分考慮し、当該給与水準について検証を行い、適正化に取り組むとともに、その検証結果や取組状況を公表する。

呉工業高等専門学校
第3期中期目標期間 自己点検・評価

1 教育に関する事項

1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

【第3期中期計画】

- ① 地域の中学校校長会、教育委員会及びメディア等を通じて積極的な広報活動を行い、本校の認知度を高める。

【年度計画活動内容及び実施評価】

地域の中学校校長会等との連携

平成26年度年度計画

教育委員会等との連携を深め、本校の広報活動を行う。教育委員会と連携した事業を進めるとともに、メディア等を通じ、広く社会に向けて広報活動を行う。

【活動内容】

○呉市教育委員会と連携し、公開講座・市民セミナー（計36回）、おもしろ科学体験フェスティバル（6/15、6/22）を実施した。

○運営顧問会議（7/25、3/2）を開催し、中学校長等に参加していただき、本校の説明を行い、提言を求めた。

○創立50周年を迎え、呉市と共催で記念事業を実施した他、呉市中学校校長会において12月20日に開催する「高専女子フォーラム in 中国」について広報を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

教育委員会等との連携を深め、本校の広報活動を行う。教育委員会と連携した事業を進めるとともに、メディア等を通じ、広く社会に向けて広報活動を行う。

【活動内容】

○呉市教育委員会と連携し、公開講座・市民セミナー（計33回）、びっくりワクワクサイエンスショー（12/13）を実施した。

○県内の中学校（17校）を本校校長が独自に訪問し、中学校校長に対して呉高専の特別推薦の入試制度の導入などの広報活動を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

中学校等との連携を深め、本校の広報活動を行う。中学校等と連携した事業を進めるとともに、メディア等を通じ、広く社会に向けて広報活動を行う。

【活動内容】

○呉市教育委員会と連携し、公開講座（計37回、呉市との連携講座8回を含む）、出前授業（計20回）、びっくりワクワクサイエンスショー（12/11）を実施した。

○県内の中学校（30校）を本校校長が訪問し、中学校校長に対して呉高専の教育の特色（7年一貫教育の体制強化、インキュベーションワーク、特別推薦の入試制度の導入）などを中心に広

報活動を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

中学校等との連携を深め、メディア等を通じて、広く社会に向けて広報活動を行う。

【活動内容】

○呉市教育委員会などと連携し、公開講座（計33回、呉市との連携講座7回を含む）、出前授業（計27回）を実施した。

○県内の中学校（26校）を本校校長が独自に訪問し、中学校校長に対して呉高専の特別推薦の入試制度の導入などの広報活動を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

中学校等との連携を深め、メディア等を通じて、広く社会に向けて広報活動を行う。

【活動内容】

○呉市教育委員会などと連携し、公開講座（計20回、呉市との連携講座5回を含む）、出前授業（計16回）を実施した。

○県内の中学校（9校）を本校校長が独自に訪問し、中学校校長に対して呉高専の特別推薦の入試制度の導入などの広報活動を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|---|
| ② 中学生が国立高等専門学校の学習内容を体験できるような入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等を充実させ、特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推進する。 |
|---|

【年度計画活動内容及び実施評価】

入学説明会、体験入学、女子学生の志願者確保にむけた取り組み

平成26年度年度計画

学校見学会、入試説明会、及びおもしろ科学体験フェスティバルを実施する。女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。女子学生広報部において小中学校訪問、イベントを通じて広報活動を行う。

【活動内容】

○6月15日に広島市広島駅前地下広場、6月22日に福山市ショッピングモールにおいて、「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催し、多数の参加者があった。なお、福山会場は米子高専と広島商船高専との3高専合同開催で実施した。

○8月3日に第1回学校見学会を開催し、昨年度より14名増の629名の参加者があった。また、11月1日に第2回学校見学会を実施し、昨年度より87名増の882名の参加者があった。

○10月5, 11, 19, 26日の4日間（5会場）で入試説明会を実施し、261名の参加があった。

○8月3日の第1回学校見学会において女子中学生を対象とする「女子中学生なんでも相談室」を開催した。また、「おもしろ科学体験フェスティバル」においても「女子中学生相談ブース」を開設し、相談・情報発信を行った。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成27年度年度計画

学校見学会、入学説明会及びびっくりワクワクサイエンスショーを実施する。女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。女子学生広報部において小中学校訪問、イベントを通じて広報活動を行う。女子中学生対象のホームページをリニューアルし、広報活動を活性化させる。

【活動内容】

○8月2日に第1回学校見学会を開催し、昨年度より56名増の685名の生徒・保護者の参加があった。また、10月31日に第2回学校見学会を実施し、昨年度より11名減の242名の生徒の参加者があった。

○10月4, 18, 25日の3日間（4会場）で入試説明会を実施し、昨年度より29名増の153名の生徒・保護者の参加があった。

○12月13日に「びっくりワクワククリスマスサイエンスショー」を開催し、647名の参加があった。

○女子学生広報部がびっくりワクワククリスマスサイエンスショー及び高専ロボコンの中国地区大会(10/11)に広報ブースを出展し、女子学生の活動をPRした。

○学校見学会において女子学生なんでも相談室を設置し、女子中学生とその保護者に高専の魅力を伝えるだけでなく、就職活動あるいは進学のための活動等々の進路についてもPRした。また、併せて簡単な工作キットを使用し、工作を通じて工学への興味を醸成した。

○本校で特に活躍している女子学生が夏期休業中に出身中学を数校訪問し、本校のPRを行った。また、春期休業中に8校訪問した。

○女子中学生対象のホームページは今後リニューアルする予定である。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

学校見学会、入学説明会、びっくりワクワクサイエンスショーを実施し、小学生や中学生に理系の魅力を発信する。女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。女子学生広報部において中学校訪問、イベントを通じて広報活動を行う。女子中学生対象のホームページをリニューアルし、広報活動を活性化させる。専攻科入試説明会を実施し、学内の広報に努める。専攻科における改組の内容や入試内容についてHPでPRに努める。

【活動内容】

○7月31日に第1回学校見学会を開催し、昨年度より1名増の368名の生徒(全体で689名)の参加があった。また、10月29日に第2回学校見学会を実施し、昨年度より28名減の107名の生徒(全体で214名)の参加があった。

○10月9, 16, 23の3日間（4会場）で入試説明会を実施し、昨年度より6名増の159名の生徒(全体で346名)の参加があった。

○12月11日に「びっくりワクワククリスマスサイエンスショー」を開催し、761名（昨年度650名）の参加があった。

○女子学生広報部がびっくりワクワククリスマスサイエンスショーに広報ブースを出展し、女子学生の活動をPRした。

○学校見学会において女子学生なんでも相談室を設置し、女子中学生とその保護者に高専の魅力を伝えるだけでなく、就職活動あるいは進学のための活動等々の進路についてもPRした。また、併せて簡単な工作キットを使用し、工作を通じて工学への興味を醸成した。

○本校女子学生が春期休業中に6校訪問し、本校のPRを行った。

○女子中学生対象のホームページのリニューアルに向けての準備をした。

○専攻科志願者対策として、4月13日に本科生対象に専攻科入試説明会を実施した。また、平成29年1月13日にはSAPARの一環として、本科3・4年生を対象に専攻科の魅力について紹介した。

○専攻科における改組の内容や入試内容について、HPでPRに努めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

学校見学会、入試説明会、びっくりワクワクサイエンスショー等を実施し、小学生や中学生、保護者に高専でのものづくり教育の魅力を発信する。女子中学生をより多く受け入れるために女子学生によるイベントの企画・運営に係る活動等の取組を促進する。女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。女子学生広報部において中学校訪問、イベントを通じて広報活動を行う。専攻科入試説明会を実施し、学内の広報に努める。専攻科における教育内容や入試内容についてHPでPRに努める。

【活動内容】

○7月30日に第1回学校見学会を開催し、329名の生徒、全体で666名（昨年は689名）の参加があった。また、10月28日に第2回学校見学会を開催し、82名の生徒、全体で173名の参加があった。

○10月7、14、22日の3日間（3会場）で入試説明会を実施し、昨年度より49名減の110名の生徒（保護者や教員を含めると全体で239名）の参加があった。

○12月10日にびっくりワクワクサイエンスショーを開催し、775名の参加者があった。公開講座（26講座）及び呉市との連携講座（7講座）を実施した。

○7月30日に開催された学校見学会及び10月28日の第二回学校見学会で、女子中学生なんでも相談会を開催し、女子中学生とその保護者に本校女子学生が学校生活全般や先輩の活躍等々を紹介し、入学後どのように成長し、卒業後どのように活躍できるかをわかりやすく伝えた。また、女子学生が開発した工学への興味を醸成する工作キットを作成してもらい、本校のPRを行った。

○学校見学会で女子学生が広報活動を行うとともに、夏期休業中に出身中学校を中心に3校訪問し、本校のPRを行った。春期休業中も実施した。

○びっくりワクワクサイエンスショー（12月10日）に女子学生が出展し、多くの女子中学生やその保護者と交流して本校のPRを行った。

○在校生を対象とした専攻科入試説明会を4月12日に開催し、93名の学生が参加した。

○4月に専攻科に関するHPをリニューアルした。

○本校の入試関係 HP について、スマートフォンによる閲覧を配慮したものに改善した。
実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 30 年度年度計画

学校見学会、入試説明会、びっくりワクワクサイエンスショー等を実施し、小学生や中学生、保護者に高専でのものづくり教育の魅力を発信する。専攻科入試説明会を実施し、学内の広報に努める。女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。女子学生広報部において中学校訪問や、学校外でのイベント開催し、そのイベントを通じて広報活動を行う。

【活動内容】

- 9月8日に第1回学校見学会を開催し、259名の生徒、全体で519名（昨年は666名）の参加があった。また、11月3日に第2回学校見学会を開催し、122名の生徒、全体で260名（昨年は173名）の参加があった。
- 10月7、14、21日の3日間（3会場）で入試説明会を実施し、昨年度より41名増の151名の生徒（保護者や教員を含めると全体で319名）の参加があった。
- 12月9日にびっくりワクワクサイエンスショーを開催した。また、公開講座（15講座）及び呉市との連携講座（5講座）を1月末までに実施した。
- 在校生を対象とした専攻科入試説明会を4月11日に開催し、約100名の学生が参加した。
- 9月8日、11月3日に開催された学校見学会で女子中学生なんでも相談会を開催し、女子中学生とその保護者に本校女子学生が学校生活全般や先輩の活躍等々を紹介し、入学後どのように成長し、卒業後どのように活躍できるかをわかりやすく伝えた。また、女子学生が開発した工学への興味を醸成する工作キットを作成してもらい、本校のPRを行った。
- 大型ショッピングモールにて女子学生が企画・運営した子供向けの工作教室を実施し、保護者に本校のPRを行った。
- 豪雨災害のため夏期休暇中に実施できなかった、女子学生による出身中学校の訪問計画を、春期休業中に実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|---------------------------------------|
| ③ 中学生やその保護者に本校の特徴を効果的に周知できる広報資料を作成する。 |
|---------------------------------------|

【年度計画活動内容及び実施評価】

効果的なPR活動の実施

平成 26 年度年度計画

中学校訪問における訪問先、訪問時期、訪問方法の更なる見直しなどを行い、効果的なPR活動を実施する。本校を紹介するホームページの充実を図る。

【活動内容】

- 相手中学校にも負担にならない方式で、広島県の全中学校を訪問した（一部の中学校は双方の都合が合わず資料送付のみとなった）。
- 中学生にも分かりやすいように、平成27年3月からホームページの大幅なリニューアルを行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

中学校訪問における訪問先、訪問時期、訪問方法の更なる見直しなどを行い、効果的なPR活動を実施する。本校を紹介するホームページ等の充実を図る。

【活動内容】

○本校教員による県内の中学校訪問の一部を、校長による中学校訪問（トップセールス）に改め、中学校・高専とも校長レベルの面談による広報活動を加えた（37校実施）。

○本校ホームページについて「新聞テレビ等に載った呉高専」、「教育改革の成果」、「文化行事」を新設するとともに、「呉高専日誌」や「中学生の皆さんへ」などを改善し充実を図った。なお、呉高専日誌については、タイトルを今年新設した電光掲示板にも掲示し、広くアピールすることに努めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

中学校訪問における訪問先、訪問時期、訪問方法の更なる見直しなどを行い、効果的なPR活動を実施する。本校を紹介するホームページ等の充実を図る。

【活動内容】

○本校教員による県内の中学校訪問を、校長による中学校訪問（トップセールス）に改め、中学校・高専とも校長レベルの面談による広報活動に改めた（30校実施）。

○専攻科における改組の内容や入試内容について、HPでPRに努めた。

○本校ホームページ内の各項目（各月毎）の閲覧数の集計方法について、実態に基づいた集計方法に変更した。その結果、「呉高専日誌」の閲覧数が極めて多く、1か月当たり1万から4万件の閲覧数があることが分かった。呉高専日誌の各項目「教育・研究」、「クラブ活動」、「イベント等」ができるだけ均等に露出するように調整し、分かりやすくなるよう見え方を改善した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

中学校訪問における訪問先、訪問時期、訪問方法の更なる見直しなどを行い、効果的なPR活動を実施する。本校を紹介するホームページ等の充実を図る。

【活動内容】

○本校教員による県内の中学校訪問を、校長による中学校訪問（トップセールス）ならびに教員による指定校訪問制に改め、校長レベルの面談ならびに重点校訪問による広報活動に改めた（67校訪問。うち校長訪問26校）。

○本校の公式WEBサイトの閲覧者数集計を正式に開始した。

○集計結果から「呉高専日誌」の学外からの閲覧者数が毎月平均約3万件あることが判明した。

○本校ホームページ内の呉高専日誌の各項目「教育・研究」、「インキュベーションワーク」、「クラブ活動」、「イベント等」ができるだけ均等に露出するように4つの項目に再編し、分かりやすくなるよう見え方を改善した。

○本校ホームページに「呉高専の特色」のバナーを新たに設け、本校の魅力発信を強化した。

○本校ホームページをスマホ対応にした。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

中学校訪問の担当者や訪問中学校などを見直し、効果的なPR活動を実施する。本校を紹介するホームページ等の充実を図る。

【活動内容】

○本校教員による県内の中学校訪問を、校長による中学校訪問（トップセールス）ならびに教員による指定校訪問制に改め、校長レベルの面談ならびに重点校訪問による広報活動に改めた（64校訪問。うち校長訪問9校）。

○次年度の授業参観時の保護者アンケートでは、保護者が普段よく閲覧している本校ホームページの具体的な内容を問い、保護者の関心を考慮してホームページの内容を充実する予定である。

○毎月1回、公式WEBサイトの閲覧者数集計を行い、項目ごとの閲覧者数の把握をしている。また、集計結果や閲覧者からの意見等を反映してHPの充実（内容、見せ方等）を図っている。

○スマホ対応のHPも閲覧者が見やすいものとなるよう都度改善している。

○地方紙（中国新聞）との連携を密にし、呉高専に関する記事を従前以上に掲載してもらえよう体制を整えた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|---|
| ④ 本校のアドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるような入試を適切に実施する。 |
|---|

【年度計画活動内容及び実施評価】

ものづくりに関心と適性を有する者など本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。
--

平成26年度年度計画

本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるような入学選抜試験を実施する。公正な試験を実施し、入試ミスの防止のための措置を講ずる。

【活動内容】

○本科の推薦入学選抜の方法を見直し、作文を廃止するとともに、「特別推薦」を導入した。その結果、特別推薦の高いレベルの出願資格を満たす15名の志願者があり、全員合格となった。

○専攻科の推薦入試は、15名の志願者があり、13名が合格した。また、学力入試では、22名が受検し、18名が合格した。なお、学力入試において外部試験利用者は13名であった。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成27年度年度計画

本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるような入学選抜試験を実施する。公正な試験を実施し、入試ミスの防止のための措置を講ずる。

【活動内容】

○平成27年度入学生より導入した「特別推薦」を、学校見学会や中学校訪問に周知に努めた結

果、27名の志願者があった。

○機構本部からの情報を参考に、学力入試へのマークシート方式の導入に伴う対応を検討し、スムーズに実施した。

○専攻科の推薦入試は、8名の志願者があり、8名が合格した。また、学力入試では、25名が受験し、20名が合格した。なお、英語の学力試験は全員外部試験を利用することになった。

○専攻科入試改革として、数学の試験において外部評価の利用を検討し、平成29年度入学生から導入することを決めた

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるような入学選抜試験を実施する。公正な試験を実施し、入試ミスの防止のための措置を講ずる。平成27年度入試から実施している特別推薦制度の内容を再検討し、より優秀な学生の獲得に努める。専攻科推薦入試において、改組に伴って、受験資格の見直しを行い、優秀な学生の確保に努める。

【活動内容】

○平成27年度入学生より導入した「特別推薦」を、学校見学会、中学校訪問、入試説明会で周知に努めた。

○機構本部からの情報を参考に、学力入試へのマークシート方式の導入に伴う対応を検討した。

○平成29年度入試の推薦入試について、適性検査を個人面接の中で実施することに改め、個人面接のやり方と配点を見直した。

○専攻科の推薦入試は、5名の志願者があり、5名が合格した。また、学力入試では、28名が受験し、25名が合格した。

○専攻科定員40名に達しないため、2次募集を11月2日に実施し、3名の志願者があり、2名が合格した。

○専攻科入試改革として、平成29年度入学生から数学の試験において外部評価の利用を可能とし、学力入試（2次を含む）の31名の受験者中、16名が数学の試験における外部評価を利用した。

○第4ブロックの他高専と協力し、マークシート対応の共通予備問題を作成した。これにより採点業務の合理化を図ることができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるような推薦入試（特別推薦、一般推薦）を再検討し、より優秀な生徒の獲得に努める。専攻科推薦入試において、平成28年度に受験資格の見直しを実施しており、引き続き優秀な学生の確保に努める。

【活動内容】

○平成27年度入学生より導入した「特別推薦」を、学校見学会、中学校訪問、入試説明会で周知に努めた。

○平成30年度入試で、特別推薦については出願基準を、一般推薦については個人面接の質問事項をそれぞれ見直した。

○5月12日に専攻科推薦入試（志願者数30名、合格者数29名）を実施した。また、6月10日に専攻科学力入試（志願者数28名、合格者数26名）を実施した。さらに、2月10日に

専攻科学力入試二次募集（志願者数 3 名、合格者数 3 名）を実施した。
実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 30 年度年度計画

学力入試における検査会場の他高専との共同開催を検討する。帰国子女特別選抜の平成 31 年度入試導入を検討する。専攻科入試（推薦・学力）において、優秀な学生の確保に努める。

【活動内容】

○平成 27 年度入学生より導入した「特別推薦」を、学校見学会、中学校訪問、入試説明会で周知に努めた。

○平成 31 年度入試から新たに帰国子女特別選抜を導入し、募集要項に追加した。

○5 月 11 日に専攻科推薦入試（志願者数 22 名、合格者数 20 名）を実施した。また、6 月 9 日に専攻科学力入試（志願者数 24 名、合格者数 24 名）を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第 3 期中期計画】

⑤ 女子学生の受け入れをさらに推進するとともに、入学志願者の質を維持する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子学生等の受入れを推進し、入学志願者の質を維持する。

平成 26 年度年度計画

「いい学生を育てる」ことを通じ、中学生に実績を P R し、入学者の学力水準の維持・向上に努める。男女共同参画推進モデル校の採択を受け、女子学生によるイベントの企画・運営等に係る活動を行うことにより、女子中学生をより多く受入れるための取組を推進する。

【活動内容】

○学校見学会や入試説明会において、中学生及び保護者に対して、本校学生が自主的に学生課ロビーをものづくりスペース（名称「co-ba 呉高専」）に改修した活動や創立 50 周年記念行事に合わせて全コースの専攻科生が協働して製作した東京スカイツリーの模型を紹介し、本校学生の優れた教育成果を P R した。

○男女参画推進事業モデル校活動の中核をなす女子学生広報部が本校主催の各種イベントに工作ブースを出展し、イベントに参加する女子中学生に工学の楽しさを伝え、加えて中学生だけでなくその保護者及び帯同している女子小学生に対して本校の広報活動を行った。

また、3D プリンタ、レーザー加工機を駆使した工作キットの開発を行い、広報部メンバーの出身中学を訪問し広報活動を行った。その結果、昨年度より 5 名増の 47 名の女子志願者があった。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成 27 年度年度計画

「いい学生を育てる」ことを通じ、中学生に実績を P R し、入学者の学力水準の維持・向上に努める。男女共同参画推進モデル校として、女子中学生をより多く受け入れるために女子学生によるイベントの企画・運営等に係る活動等の取組を促進する。

【活動内容】

○女子学生広報部のメンバーが各種イベントの内容を企画，運営した。

○全学生・全教員によるインキュベーションワークを導入し、学生の主体的・積極的な学習姿勢の教育に努めた。

○学校見学会などを通じて、女性技術者の社会での活躍の実情を広報した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

「良い学生を育てる」ことを通じ、中学生に実績をPRし、入学者の学力水準の維持・向上に努める。女子中学生をより多く受け入れるために女子学生によるイベントの企画・運営等に係る活動等の取組を促進する。

【活動内容】

○全学生・全教員によるインキュベーションワークを導入し、学生の主体的・積極的な学習姿勢の教育に努めた。

○学校見学会などを通じて、女性技術者の社会での活躍の実情を広報した。

○女子学生広報部のメンバーが各種イベントの内容を企画，運営した。

○社会で活躍している女性技術者と女子学生との交流会を12月17日，2月22日に実施した。

○上記の取組に伴い平成29年度入試では前年度を上回る志願者（推薦入試213名、学力入試201名）を確保することができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるような推薦入試（特別推薦、一般推薦）を再検討し、より優秀な生徒の獲得に努める。専攻科推薦入試において、平成28年度に受験資格の見直しを実施しており、引き続き優秀な学生の確保に努める。

【活動内容】

○平成27年度入学生より導入した「特別推薦」を、学校見学会、中学校訪問、入試説明会で周知に努めた。

○平成30年度入試で、特別推薦については出願基準を、一般推薦については個人面接の質問事項をそれぞれ見直した。

○5月12日に専攻科推薦入試（志願者数30名、合格者数29名）を実施した。また、6月10日に専攻科学力入試（志願者数28名、合格者数25名）を実施した。さらに、2月10日に専攻科学力入試二次募集（志願者数3名、合格者数3名）を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

中学生に本校の教育実績をPRし、入学者の学力水準の維持・向上に努める。女子中学生をより多く受け入れるために女子学生によるイベントの企画・運営等に係る活動等の取組を促進する。

【活動内容】

○本校で実施している海上自衛隊地下壕調査の取り組みが中国新聞や地元のタウン誌（くれえばん）に、豪雨災害に伴う教育・研究の取り組み（神田研究室など）が中国新聞やTV等に紹介された。

○学校見学会（計２回）や入試説明会（計３回）の参加者に本校の教育実績をPRした。

○要覧（p.9）に本校の教育実績を掲載した。

○４月２日に大型ショッピングモールにて女子学生が企画・運営した子供向けの工作教室を実施し、保護者に本校のPRを行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【総合分析，評価及び改善事項】

本校の認知度を高める取り組みとして、各教員が実施していた中学校訪問に加え、平成２６年度から校長自らが各中学校長を訪問し、本校の特色や推薦制度を個別説明するトップセールスを行う体制に変更した。また、訪問時の説明資料である学校要覧の抜本的な見直しや、ホームページのリニューアル、スマホサイトの開設など広報活動について各種改善を行った。ホームページのリニューアルについては、受験生がアクセスしやすいよう受験に関する特設ページを作成したり、教職員及び学生が自ら情報を発信できる「呉高专日誌」を設けたり、報道機関による報道案件を掲載等、中学生や保護者に対しての情報発信を強化した。

各種説明会等についても定期的に開催しており、学校説明会では女子学生参画ブースを設け女子学生の受入れにも配慮し、かつ展示スペースの見直しなどを行い、前中期目標期間中は平均約６５０名の参加実績に対し、第３期中期計画期間中は平均約８７０名の参加実績となり、参加者は大幅に増加している。対して入試説明会の参加者数については、前中期目標期間中の平均約２６０名に対し、第３期中期計画期間中は平均約２９０名の参加と微増に留まっており、更なる改善が必要と考える。ただし、入試説明会については本校以外にも外部会場（広島市内会場・福山市内会場）を設けており、会場のキャパシティや費用対効果等も検証の上、検討していく必要がある。また、対象範囲を広げる取り組みとして、平成３０年度から大型ショッピングモールでの工作教室の開催を始めており、中学校や学習塾への訪問とは異なるターゲット層へ広報活動を実施したことは評価できる。【別表１，２】

この点に関し、見学会及び説明会の参加者増加に対して、志願者倍率は前中期目標計画の平均１．４５倍に対して、１．５２倍と微増での推移となっており、大幅な増加には繋がっていない。

【別表２】

広島県の１５～１９歳人口が、２０１５年１３５，５７６人から、２０２０年１２９，３８６人（推計）と減少していく厳しい情勢ではあるが、入学生の質向上の観点からも、継続的な入学志願者確保のための施策が求められる。

最後に入試について、平成２７年度から推薦入学選抜方法の見直しを図り、従前の作文を廃止し、学業もしくは学業以外でも優れた成績を評価する「特別推薦」制度の導入を行った。また、専攻科入試についても、平成２９年度から外部評価を取り入れる等、各種入試改革に取り組んだ。

上記事項を勘案し、入学者の確保について十分な活動を実施していると評価できる。

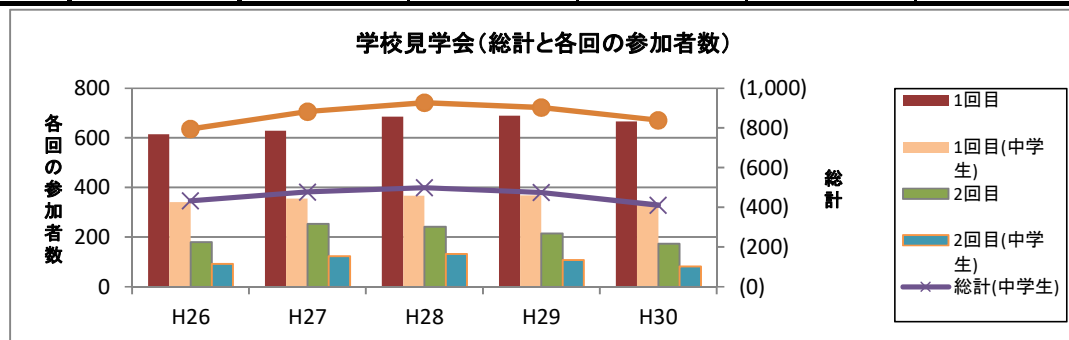
別表 1 入学説明会、体験入学等入試広報関連事業一覧（平成26年度～平成30年度）

年度	事業名	事業の概要	対象	実施 時期	実施 回数	参加 中学校	訪問中学校数						参加者数(総数)					備考
							計		県内		県外							
							延べ 訪問 校数	所要 日数	延べ 訪問 校数	所要日 数	延べ 訪問 校数	所要日 数	中学生	保護者	教員	その他	計 (人)	
平成二十六年 度	入試説明会	中学生（受験生）に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生・ 保護者・ 教諭	10月	5回	88校							124	127	10		261	
	中学校での説明会	中学校へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・ 保護者・ 教諭	5-11 月	9回	9校							900	100			1,000	参加者数 は概算
	中学校訪問	県内の中学校へ出向き、本校の紹介を行うとともに、中学校の情報収集を行う。	進路担当 教諭	7-12 月			225校	102日	225校	102日								
	おもしろ体験科学教室	中学生に実験等を体験させ科学の面白さを紹介すると共に、本校で学べることの一端を体験させる。	中学生・ 保護者・ 教諭	6,9月	2回								400	200			600	参加者数 は概算
	進学説明会（塾主催）	進学説明会イベント（塾主催）へ出向き、本校の紹介を行う。	進路担当 教諭	6,9月	2回								1,000	500			1,500	参加者数 は概算
	学校見学会	中学生、保護者、中学校教員に対し本校の紹介をすると共に、本校で学べることの一端を体験させる。	中学生・ 保護者・ 教諭	8,11 月	2回	143校							478	403	1		882	
					20回	240校	225校	102日	225校	102日	校	日	2,902	1,330	11		4,243	
平成二十七年 度	入試説明会	中学生（受験生）に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生・ 保護者・ 教諭	10月	4回	85校							153	157	9		319	
	中学校での説明会	中学校へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・ 保護者・ 教諭	5-10 月	9回	9校							900	100			1,000	参加者数 は概算
	中学校訪問	県内の中学校へ出向き、本校の紹介を行うとともに、中学校の情報収集を行う。	進路担当 教諭	7-12 月			97校	81日	97校	81日								
	びっくりワクワクサイエンスショー	呉高専単独開催で、実験等を通し科学技術を体験・理解してもらい、併せて高専を理解してもらう。	中学生・ 保護者・ 教諭	12月	1回	22校							450	200			650	参加者数 は概算
	塾訪問	学習塾を訪問し、本校の紹介等を行う。	学習塾担 当者	9月	3回								1,000	500			1,500	参加者数 は概算
	学校見学会	中学生、保護者、中学校教員に対し本校の紹介をすると共に、本校で学べることの一端を体験させる。	中学生・ 保護者・ 教諭	8,11 月	2回	159校							499	424	4		927	
					19回	275校	97校	81日	97校	81日	校	日	3,002	1,381	13		4,396	
平成二十八年 度	入試説明会	中学生（受験生）に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生・ 保護者・ 教諭	10月	4回	91校							159	180	7		346	
	中学校での説明会	中学校へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・ 保護者・ 教諭	6,9,10 月	7回	7校												
	中学校訪問	県内の中学校へ出向き、本校の紹介を行うとともに、中学校の情報収集を行う。	進路担当 教諭	5-7 月			60校		60校									
	びっくりワクワクサイエンスショー	呉高専単独開催で、実験等を通し科学技術を体験・理解してもらい、併せて高専を理解してもらう。	中学生・ 保護者・ 教諭	12 月	1回								550	210			760	
	進学説明会（塾主催）	進学説明会イベント（塾主催）へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・ 保護者	6,9 月	2回													
	学校見学会	中学生、保護者、中学校教員に対し本校の紹介をすると共に、本校で学べることの一端を体験させる。	中学生・ 保護者・ 教諭	7,10	2回	146校							475	428			903	
					16回	244校	60校	日	60校	日	校	日	1,184	818	7		2,009	
平成二十九 年度	入試説明会	中学生（受験生）に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生・ 保護者・ 教諭	10月	3回	81校							110	128	3		241	
	中学校での説明会	中学校へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・ 教諭	6-3 月	15回	15校												
	中学校訪問	県内の中学校へ出向き、本校の紹介を行うとともに、中学校の情報収集を行う。	進路担当 教諭	6,7 月			64校	64日	64校	64日								
	びっくりワクワククリスマスサイエンスショー	呉高専単独開催で、実験等を通し科学技術を体験・理解してもらい、併せて高専を理解してもらう。	中学生・ 保護者・ 教諭	12 月	1回								10			765	775	参加者数 は概算
	進学説明会（塾主催）	進学説明会イベント（塾主催）へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生・ 保護者	6,7,9 月	3回		3校	3日	3校	3日								
	公開講座（小・中）	本校で学べることの一端を体験させる	中学生	5-12 月	18回								143			227	370	
	学校見学会	中学生、保護者、中学校教員に対し本校の紹介をすると共に、本校で学べることの一端を体験させる。	中学生・ 保護者・ 教諭	7,10 月	2回	155校							411	425	3		839	
平成三十 年度					42回	251校	67校	67日	67校	67日	校	日	674	553	6	992	2,225	
	学校見学会	中学生、保護者、中学校教員に対し本校の紹介をすると共に、本校で学べることの一端を体験させる。	どなた でも	9,11 月	2回	141校							381	398			779	
	入試説明会	中学生（受験生）に対し、当該年度の入試概要の説明、本校の紹介を行う。	中学生全 校	10 月	3回	97校							151	163	5		319	参加者数 は概算
	進路説明会（中学校主催）	中学校から依頼を受けて、中学校等へ出向き本校の紹介を行う。	中学生全 校	5-3 月	8回	8校	233校	108日	233校	108日								
	進路説明会（塾主催）	進学説明会イベント（塾主催）へ出向き、本校の紹介を行う。	中学生全 校	6-9 月	3回	3校												
	ようこそ先輩（中学校主催）	中学校から依頼を受けて、中学校等へ出向き本校の紹介を行う。	中学生全 校	8-3 月	5回	5校												
	呉高専ミニロボコン	自作した歩行ロボットによりスピードを競い、ロボットに関する興味を高めてもらう	中学生全 校	9月	1回	3校							18				18	
呉高専建築デザインコンクール	課題内容をスケッチと文章で表現することにより、デザインに興味を持ってもらう。	中学生全 校	8-9 月	1回	4校							4				4		
				23回	258校	236校	108日	233校	108日	校	日	554	561	5		1,120		

別表2 学校見学会・入試説明会の参加者数及び志願倍率の推移(H26～H30)

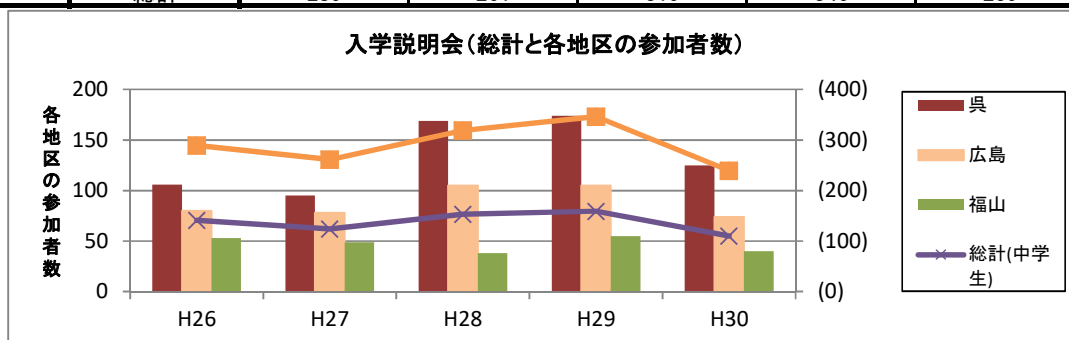
●学校見学会(1回目 8月、2回目 10月)

学校見学会		H26	H27	H28	H29	H30
	1回目	615	629	685	689	666
	1回目(中学生)	(341)	(355)	(367)	(368)	(329)
	2回目	180	253	242	214	173
	2回目(中学生)	(92)	(123)	(132)	(107)	(82)
	総計(中学生)	(433)	(478)	(499)	(475)	(411)
	総計	795	882	927	903	839



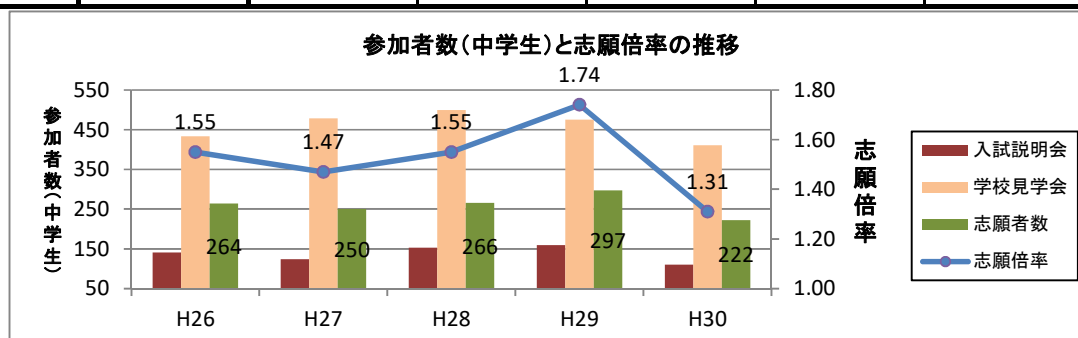
●入試説明会(10月、11月)

入試説明会		H26	H27	H28	H29	H30
	呉	106	95	169	174	125
	広島	80	78	105	105	74
	福山	53	49	38	55	40
	三次	10	15	7	12	0
	東広島	40	24	0	0	0
	総計(中学生)	(141)	(124)	(153)	(159)	(110)
	総計	289	261	319	346	239



●参加者数(中学生)と志願倍率の推移

参加者数と志願倍率		H26	H27	H28	H29	H30
	入試説明会	141	124	153	159	110
	学校見学会	433	478	499	475	411
	志願者数	264	250	266	297	222
	志願倍率	1.55	1.47	1.55	1.74	1.31
	合格者数	170	170	172	171	169



(2) 教育課程の編成等

【第3期中期計画】

- ① 呉高専教育改革検討プロジェクトの答申（平成26年5月）に基づき、「地域発・インキュベート型教育」へ教育体制を転換する。

【年度計画活動内容及び実地評価】

教育体制の転換

平成26年度年度計画

呉高専教育改革検討プロジェクトの答申に基づき、「地域発・インキュベート型教育」の実現に向け、教育プログラムならびに教育環境の検討を行う。

【活動内容】

○平成27年度から「地域発・インキュベート型教育」として、全学年・全学科一斉に実施するインキュベーションワークを開講するようにカリキュラムを改定した。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成27年度年度計画

「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行う。4高専（徳山・宇部・北九州）連携教育において、後期から5科目（数学応用工学Ⅰ、物理応用工学、化学応用工学、生命科学、経営管理工学）の実施を行う。来年度は数学応用工学Ⅱを実施するための準備を行う。専攻科改組に伴う新設科目について、平成28年度実施に向けた準備を行う。平成28年長期インターンシップ実施に向けて、今年度はプレステージとして、4週間程度の中期インターンシップを実施する。また長期インターンシップ受入先の確保を行う。

【活動内容】

○「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行った。

○平成28年度に2専攻の専攻科を1専攻「プロジェクトデザイン工学専攻」に改組することに伴い、学位授与機構で認定専攻科の審査を受け、教育課程および全科目の審査で適と判定された。

○ビデオ会議システムと電子黒板を利用して4高専（呉、徳山、宇部、北九州）の専攻科で連携教育を行った。後期に5科目（数学応用工学Ⅰ、物理応用工学、化学応用工学、生物圏科学、経営システム工学）を実施した。本連携教育に関する学生アンケートを実施し、授業評価を行い、改善のために平成28年3月23日に連携教育担当教員のためのFD研修会を実施した。

○平成28年専攻科インターンシップ実施に向けて、今年度はプレステージとして、4週間程度の中期インターンシップを実施した。また平成28年度入学生分（23名）以上の受入先を確保できた。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行う。4高専（徳山・宇部・北九州）連携教育において、前期は生命科学、後期数学応用工学Ⅰ、物理応用工学、化学応用工学、経営管理工学を実施する。専攻科改組に伴う平成28年度

新設科目を適正に実施する。また平成29年度新設科目の準備を行う。平成28年長期インターンシップを実施し、実習期間中は学生のフォローを行う。また次年度に向けて、長期インターンシップ受入先の確保を行う。

【活動内容】

○「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行った。

○平成27年度の4高専（呉・宇部・徳山・北九州）連携教育は、今年度、5高専（呉・宇部・徳山・北九州・広島商船）に拡充した。前期に生命科学（徳山・宇部・呉）、後期は数学応用工学Ⅰ（宇部・呉）、物理応用工学（呉・宇部・徳山・北九州）、化学応用工学（宇部・徳山・呉・北九州）、経営管理工学（呉・宇部・広島商船）を行った。

○専攻科改組に伴う新設科目を実施するとともに、平成29年度実施に向けた科目準備（プロジェクトデザイン工学演習など）を行った。

○平成28年長期インターンシップを実施し、23名の学生が参加した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

平成31年度からの新カリキュラムの導入に向けて、新カリキュラムの検討・策定を行う。「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行う。「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行う。6高専（呉・徳山・宇部・北九州・広島商船・大島商船）連携教育において、グローバル倫理、経営マネジメント、物理応用工学、生命科学を実施する。専攻科改組に伴う平成29年度新設科目を適正に実施する。長期インターンシップを実施し、実習期間中は学生のフォローを行う。また次年度に向けて、長期インターンシップ受入先の確保を行う。

【活動内容】

○「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行った（合計79テーマ）。

○後期より、5高専（呉・宇部・北九州・広島商船・大島商船）連携教育としてグローバル倫理、経営マネジメント、物理応用工学を実施した。当初予定していた徳山高専は選択科目のため不参加となった。

○平成28年度の専攻科改組に伴い、専攻科2年生に対する新設科目を開講した。前期・後期開講科目ともに実施済みである。

○5月8日～7月14日の期間において、専攻科1年生19名が長期インターンシップを実施し、8月4日にインターンシップ報告会を開催した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

平成31年度からの新カリキュラムの導入に向けて、新カリキュラムの検討・策定を行う。「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行う。「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行う。6高専（呉・徳山・宇部・北九州・広島商船・大島商船）連携教育において、後期にグローバル倫理、経営管理工学を実施する。専攻科1年生において長期インターンシップを実施する。

【活動内容】

○「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行った（合計76テーマ）。

○後期より、4高専（呉・宇部・広島商船・大島商船）連携教育としてグローバル倫理、経営マネジメントを実施した。（専攻科）

○5月7日～7月20日の期間において、専攻科1年生43名が長期インターンシップを実施し、10月19日にインターンシップ報告会を開催した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

② 専攻科は一本化へと改組する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

他高専（宇部高専，徳山高専）の専攻科と連携した共同教育課程について具体的に検討

平成26年度年度計画

ビデオ会議システムを活用し，他高専（宇部高専，徳山高専）の専攻科と連携した共同教育課程について具体的に検討を進める。

【活動内容】

○平成28年度から専攻科を1専攻「プロジェクトデザイン工学専攻」に改組することとした。

○平成29年度に本科を改組するとの方向性を決定し，「呉高専教育改革検討プロジェクト」で具体案を検討することとした。

○ビデオ会議システムを利用して実施する専攻科の4高専（呉，徳山，宇部，北九州）連携教育について，5科目（数学応用工学Ⅰ，物理応用工学，化学応用工学，生命科学，経営管理工学）の各高専担当者を決定し，授業内容を検討した結果，シラバスを作成し，平成27年後期から実施することとなった。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成27年度年度計画

7年一貫教育も見据えた本科のカリキュラムの見直しを検討する。平成28年専攻科改組を実施する。2専攻を1専攻「プロジェクトデザイン工学専攻」に改める。

【活動内容】

○平成29年度を目標に，7年間一貫教育を見据えた本科改組を検討したが，機構本部の承認を得ることができなかったため，平成31年度を目途に本科改組を継続検討する。

○平成28年度の専攻科改組に伴う組織・規則等について整備し，学位授与機構における認定専攻科の審査を受け適と判定された。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

7年一貫教育も見据えた本科のカリキュラムの見直しを検討する。

【活動内容】

○新カリキュラムを検討してきたが，高専イニシアティブ4.0に合わせて新たに「地域実践教

育プログラム（仮）」を導入することになり、このためのWGを新たに発足した。今後は7年間一貫教育を見据えた本科改組を検討する予定である。

○平成28年度の専攻科改組に伴って、特例適用申請を行い、機械工学分野、電気電子分野（電気情報工学分野）、土木分野（環境都市工学分野）、建築学分野の全てで認められた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

「KOSEN4.0 イニシアティブ」の実施を通して教育課程の編成等の改善に取り組む。

【活動内容】

○「KOSEN4.0 イニシアティブ」のために地域実践教育センター準備WGを6回開催（10月末時点）し、地域実践教育プログラムや新カリキュラムの概要を検討し、ほぼ大枠を決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

「KOSEN4.0 イニシアティブ」の実施を通して教育課程の編成等の改善に取り組む。

【活動内容】

○「KOSEN4.0 イニシアティブ」のために地域実践教育センター準備WGを6回開催し、地域実践教育プログラムや新カリキュラムの概要を検討し、次年度から地域実践教育プログラムを含めた教育プログラムを開始することを決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|--|
| ③ 学習到達度試験や TOEIC などを利用して基礎学力を把握するとともに、技術者として必要な基礎能力の向上を図る。 |
|--|

【年度計画活動内容及び実施評価】

学習到達度試験の継続実施

平成26年度年度計画

学習到達度試験や TOEIC を実施して基礎学力の定着度を検証し、技術者として必要な基礎学力の向上を図る。

【活動内容】

○9月27日に希望者対象の TOEIC IP テストを新しく企画・実施した。

○12月2日に英語統一試験を実施した。

○1月15日に数学及び物理の学習到達度試験を実施した。その結果、全国を100としたとき、数学は102.2、物理は105.2と全国平均をやや上回った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

学習到達度試験や TOEIC を実施して基礎学力の定着度を検証し、技術者として必要な基礎学力の向上を図る。

【活動内容】

- 6 月 1 1 日に全学生対象とした英語統一試験を実施した。
- 1 2 月 5 日と 1 月 9 日に希望者対象の TOEIC IP テストを新しく実施した。
- 1 2 月 1 2 日に EMaT 試験を実施した。
- 1 月 1 5 日に数学及び物理の学習到達度試験を実施し、数学は全国 1 位、物理は全国 1 2 位であった。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成 2 8 年度年度計画

学習到達度試験や TOEIC を実施して基礎学力の定着度を検証し、技術者として必要な基礎学力の向上を図る。専攻科改組に伴う平成 2 8 年度新設科目を適正に実施する。また平成 2 9 年度新設科目の準備を行う。

【活動内容】

- 6 月 7 日に専攻科 1 年生を除く全学生を対象とした英語統一試験を実施した。
- 4 月 1 0 日、6 月 2 6 日、1 2 月 1 1 日の TOEIC 公開テスト団体受験の手続きを希望者を対象に行った（合計 1 5 7 名申込）。
- 1 2 月 1 0 日に EMaT 試験を実施し、1 3 9 名が受験した。
- 1 月 1 2 日に数学及び物理の学習到達度試験を実施し、数学は全国上位、物理はほぼ全国平均の結果であり、昨年と比較して若干下がった。
- 専攻科改組に伴う平成 2 8 年度新設科目を適正に実施し、2 9 年度新設科目の準備を行った。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成 2 9 年度年度計画

学習到達度試験や TOEIC を通じて基礎学力の定着度を検証し、技術者として必要な基礎学力の向上を図る。専攻科改組に伴う平成 2 9 年度新設科目を適正に実施する。

【活動内容】

- 6 月 6 日に長期インターンシップ中の専攻科 1 年生を除く全学生を対象とした英語統一試験を実施した。
- TOEIC 公開テスト団体受験の手続きを希望者を対象に行った（4 月 9 日：4 2 名受験、1 2 月 1 0 日：5 9 名、3 月 1 1 日：4 0 名受験）。
- 1 2 月 9 日に EMaT 試験を実施し、1 6 8 名が受験した。
- 1 月 1 1 日に数学及び物理の学習到達度試験を実施した。
- 平成 2 8 年度の専攻科改組に伴い、専攻科 2 年生に対する新設科目を開講した。前期開講科目、後期開講科目とも当初の予定通り実施した。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成 3 0 年度年度計画

学習到達度試験や TOEIC を通じて基礎学力の定着度を検証し、技術者として必要な基礎学力の向上を図る。

【活動内容】

- TOEIC 公開テスト団体受験の希望者の取りまとめ手続きを行った（9 月 9 日：2 5 名受験）。1 月と 3 月に団体受験を実施した。
- 1 2 月 8 日に EMaT 試験を実施し、1 7 2 名が受験した。

○10月以降、数学、物理、化学のC B Tを適宜、実施した。
実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

【第3期中期計画】

④ 卒業生を含めた学生による授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

授業評価・学校評価の実施と教員及び学校運営へのフィードバック

平成26年度年度計画

学生による授業評価アンケート、教育環境アンケート内容を見直し、より適切なものに改善した上で実施し、教員及び学校運営にフィードバックする。

【活動内容】

○前期末および学年末に学生による授業評価アンケートを実施し、結果を教員にフィードバックした。なお、アンケート内容については、アンケートの実施方法をWeb化することを合わせて次年度に検討することとした。

○前期末に「良い先生」に関するアンケートを実施した。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

学生による授業評価アンケート、教育環境アンケート内容を見直し、より適切なものに改善した上で実施し、教員及び学校運営にフィードバックする。

【活動内容】

○学生による授業評価アンケートに関しては、教務主事主導で簡便かつ的確な内容に改善し、これを実施した。

○学生による授業評価アンケートの内容を主要な項目に厳選し、学生・教員・職員の負担を軽減した。

○教育環境アンケートに関してはこれまで形骸化されていることからこれを廃止し、新たに年二回、学生会と管理職教員とがface-to-faceで話し合う「呉高専をよくする会（仮称）」を設け、学生の意見を組み入れる仕組みにした。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

学生による授業評価アンケートの内容を継続的に見直し、より適切なものに改善した上で実施し、教員及び学校運営にフィードバックする。

【活動内容】

○教育環境に関しては年二回、学生会と管理職教員とがface-to-faceで話し合う「学校を良くする懇談会」を実施し、グラウンドの夜間照明、学生寮駐輪場の自動照明施設など学生の意見をもとに教育環境改善に努めた。

○専攻科改組に伴い、専攻科棟の内部改修を実施するとともに、研究が機能的に推進できるよう、教員室、実験室、学生研究室などの配置を整理統合した。

○学生による授業評価アンケートに関しては、昨年度、簡便かつ的確な内容に改めたアンケート

票を用いて前期分を7月に実施した。後期分、通年分については1月に実施した。

○授業評価アンケートの結果を、教員の人事査定に導入した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

学生による授業評価アンケートの内容を再検討し、より適切な授業評価を行う

【活動内容】

○授業評価アンケートの内容を見直し、新しい評価項目で後期及び通年科目の授業評価アンケートを実施し、教員はアンケート結果を反映した所見を記入し、これを学内で公表した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

昨年一部変更した学生による授業評価アンケートを継続実施し、適切な授業評価を行い、教員にフィードバックする。

【活動内容】

○授業評価アンケートの前期分を実施し、学内に公表した。総合評価が3点未満（5点満点）の科目については、授業改善に向けて科目担当教員に対して個別面談を行い、授業改善に努めた。

○授業評価アンケートの後期分を実施して、公表し、授業改善に活用する予定である。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|---|
| ⑤ ものづくりに関連した全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励・支援し、ものづくり能力の向上を図る。 |
|---|

【年度計画活動内容及び実施評価】

全国的な競技会やコンテストへの積極的参加

平成26年度年度計画

ロボコン、プロコン、デザコン、CADコン、英語プレコン及び体育大会等に積極的に参加し、入賞をめざす。

【活動内容】

○ロボコン、プロコン、デザコン、CADコン、英語プレコン及び体育大会等に参加し、ロボコン、プロコン、デザコン、CADコンでは全国大会に出場が決定した。なお、英語プレコンのプレゼン部門では全国2位の成績を収めた。

○体育大会では3競技が全国大会に出場し、2競技が入賞を果たした。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成27年度年度計画

体育大会、ロボコン、プロコン、デザコン及び英語プレコン等に積極的に参加し、入賞をめざす。

【活動内容】

○ロボコン、プロコン、デザコン、CADコン、英語プレコン及び体育大会（地区大会（夏季、

冬季))等に参加し、ロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコンでは全国大会に出場が決定し、デザコンのAMデザイン部門で優秀賞を受賞した。また、体育大会(夏季)では5競技が全国高専体育大会に出場し、1競技が全国優勝を果たした。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

体育大会、ロボコン、プロコン、デザコン及び英語プレコン等に積極的に参加し、入賞をめざす。

【活動内容】

○ロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコン及び体育大会(地区大会(夏季、冬季))等に参加した。

○プロコン、デザコン、英語プレコンでは全国大会に出場し、デザコンについては構造部門で、最優秀賞と優秀賞を受賞した。

○体育大会(夏季)では4競技が全国高専体育大会に出場し、ソフトテニス女子ダブルスが2年連続で全国優勝、硬式野球が3位に入賞した。

○上記の成果に伴い学生のやる気や自信が徐々にではあるが芽生えつつある。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

体育大会、ロボコン、プロコン、デザコン及び英語プレコン等に積極的に参加し、入賞をめざす。

【活動内容】

○ロボコン、プロコン、体育大会(地区大会(夏季))等に参加した。

○ロボコン中国地区大会では、本校から出場2チームの、Aチームが優勝、Bチームが準優勝し、Aチームが全国大会に出場を果たした。全国大会では一回戦を勝ち上がるも、2回戦敗退となった。

○体育大会(夏季)では陸上・水泳・ソフトテニス・剣道・サッカー・テニスの6競技が全国高専体育大会に出場したが、上位入賞は無かった。

○デザコンには構造デザイン部門に2チームが出場し、それぞれ5位入賞・審査員特別賞を受賞した。

○英語プレコンは予選落ちとなり、本選出場には至らなかった。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

体育大会、ロボコン、プロコン、デザコン及び英語プレコン等に積極的に参加し、入賞をめざす。

【活動内容】

○ロボコン、プロコン、体育大会(地区大会(夏季))等に参加した。

○ロボコン中国地区大会では、本校からAチームが決勝トーナメントに進出し全国大会出場推薦チームとなり、全国大会(11/25)出場が決定した。

○ロボコン全国大会では特別賞を受賞した。

○体育大会(夏季)では陸上・水泳・ソフトテニス・テニスの4競技が全国高専体育大会に出

場した。

上位入賞は、水泳（バタフライ100m2位、200m2位）

ソフトテニス部（男子、団体3位、ダブルス優勝、女子、ダブルス3位）テニス（男子ダブルス3位）であった。

○英語プレコンは、プレゼンテーションシングル部門2位、暗唱部門1位となり、プレゼンテーションシングル部門は本選出場となった。

○デザコンでは、構造部門で優秀賞を獲得した。

○第3回廃炉創造ロボットコンテストにおいて、福島県知事賞を獲得した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

⑥ ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動

【年度計画活動内容及び実施評価】

ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動等の実施

平成26年度年度計画

キャリア開発セミナー等を通じてボランティア活動の意義を説明し、社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を呼び掛ける。

【活動内容】

○キャリア開発セミナーは11名が受講し、前期における活動のまとめとして9月6日～7日に広島経済大学立町キャンパスでキャリア開発キャンプを実施した。後期は1月24日にビジネス・ボランティアプランコンテストを実施し、体験的活動の成果として、ビジネス部門1件、ボランティア部門3件のあわせて4件の発表があった。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

インキュベーションワーク等を通じてボランティア活動の意義を説明し、社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を呼び掛ける。

【活動内容】

○インキュベーションワークやインターアクトの活動を通じてボランティア活動の意義を、学生に呼びかけた。インキュベーションワークでは、地元の福祉施設の訪問し、高齢者のニーズを配慮した車いすの開発を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

インキュベーションワーク等を通じてボランティア活動の意義を説明し、社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を呼び掛ける。専攻科プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠで高齢期を疑似体験する演習を行い、課題発見能力と思いやりを有する技術者の育成を行う。

【活動内容】

○インキュベーションワークやインターアクトの活動を通じてボランティア活動の意義を、学生に呼びかけた。また次年度に向けて学生提案のテーマが増加しており、学生の自主性が醸成され

つつある。

○専攻科プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠで、23名の学生が高齢期を疑似体験する演習を行い、課題発見能力と思いやりを有する技術者の育成を行った。また、後期には本科の卒業研究に関する発表・討議により多様な視点に基づくプロジェクトデザイン能力の育成を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

インキュベーションワーク等を通じてボランティア活動の意義を説明し、社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を呼び掛ける。インターアクトクラブの活動を通じてボランティア活動を実施する。

【活動内容】

○インキュベーションワークやインターアクトクラブの活動を通じて、ボランティア活動の意義を、学生に呼びかけた。

○インターアクトクラブでは、6月に呉中央コスモス園、9月に阿賀コスモス園での車いす清掃活動を、呉東ロータリークラブと共同で実施した。また、5月のインターアクト指導者研修会では、県内のインターアクトクラブ会員が集まって日頃の活動について情報交換を行った。7月に開催されたインターアクト地区大会では、広島・山口両県のインターアクトクラブの代表者が集まって講演会やグループ討議を通じて奉仕の精神を学んだ。また、1月には清水ヶ丘高校インターアクトクラブと合同で呉市交通遺児救済募金活動を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

インキュベーションワーク等を通じてボランティア活動の意義を説明し、社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を呼び掛ける。インターアクトクラブの活動を通じてボランティア活動を実施する。

【活動内容】

○インキュベーションワークやインターアクトクラブの活動を通じて、ボランティア活動の意義を、学生に呼びかけた。

○インターアクトクラブでは、6月に呉中央コスモス園、9月に阿賀コスモス園での車いす清掃活動を、呉東ロータリークラブと共同で実施した。また、5月のインターアクト指導者研修会では、県内のインターアクトクラブ会員が集まって日頃の活動について情報交換を行った。

○7月の豪雨災害では、学生がボランティアとして被災地の復旧にあたり被災者からお礼の電話や手紙を頂いた。

神田研究室は、豪雨災害で交通網が寸断されたため、バスの所要実績情報や路線バスの位置情報システムの構築を行い国土交通省中国運輸局長から感謝状を贈呈された。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

【総合分析，評価及び改善事項】

教育改革検討プロジェクトの答申を受け，平成27年度から全学年・全学科横断的に実施するPBL教育「インキュベーションワーク」を開講した。また，平成28年度から，高専イニシアティブ4.0に対応するため，地域実践教育センター準備WGを設置し，第4期中期目標期間に向けた地域実践教育プログラムや新カリキュラムの検討を行い，令和元年度入学生から新カリキュラムの導入を行った。また，同じく令和元年度に，地域実践教育を展開・推進するため地域実践教育センターを組織した。

専攻科の改組について，平成28年度に従来の「機械電気工学専攻」「建設工学専攻」の2専攻から，複合型の1専攻「プロジェクトデザイン工学専攻」へ改組し，併せて定員も本科定員の25%と大幅に増員し，本科から専攻科まで連続した7年一貫教育の体制を構築した。

基礎学力の定着度を検証する取組として，TOEIC，EMaT，CBT試験を実施し，成績推移や全国平均と比較し検証を行っている。特にTOEICに関しては，前中期目標期間中から大幅に上昇しており，全高専の平均点を越え，理工農学系の大学1年生に近づく水準まで上昇できたことは評価できる。【別表3，4，5】

授業評価については，毎年度授業アンケートを実施し，報告書を作成している。総合評価の低い科目については，科目担当教員と面談を行い，授業改善の際の指標として役立てている。

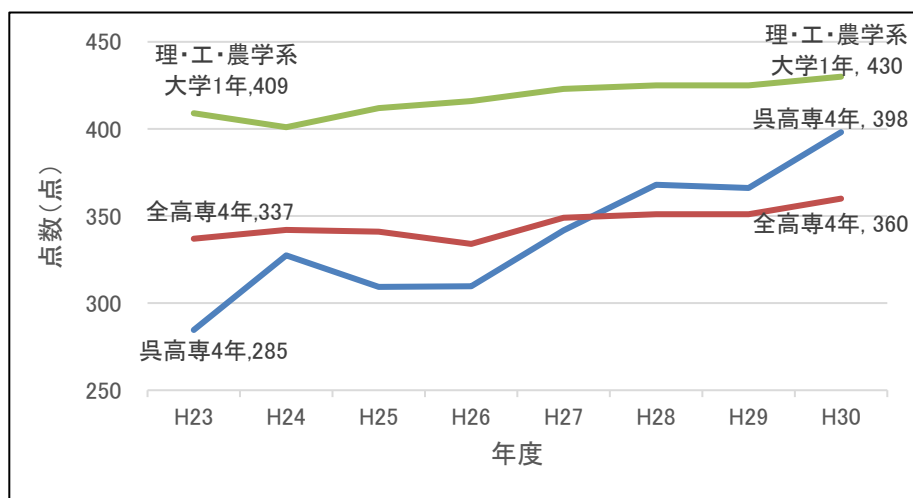
また，教育目標の認知度を把握するため，令和元年度末に在学生に対してアンケート調査を実施した。教育理念，教育目標について「あまり知らない」が半数弱となっており，教職員に対して実施したアンケート結果に対して著しく低い結果となっており，認知度の向上に更なる対策を講ずる必要がある。対して学習達成度については「あまり達成していない」が1割前後を切る結果となっており，一定の評価があることが確認できる。【別表6，7】

在学生以外に対してアンケート調査が実施できていなかったため，令和元年度末に平成25年度前後の「卒業生（修了生）」に対してアンケート調査を実施した。「卒業時（修了時）」及び「卒業生（修了生）」へのアンケート結果では，「専門科目の講義」「専門科目の実験」「インターンシップ」「卒業研究」「教育施設」については満足度が高かった半面，「課外活動」「学寮生活」「学生相談」「資格取得支援」については「どちらでもない」が半数を超える結果となった。中でも「資格取得支援」の満足度が低い結果となっており，次期中期目標期間では資格取得支援について対策を講じる必要があることがわかった。なお，全体総括である総合満足度では，「満足評価」80%（96票），「どちらでもない」13%（15票），「不満足評価」7%（9票）であったため，概ね高評価を得ていると確認できる。【別表8，9，10】

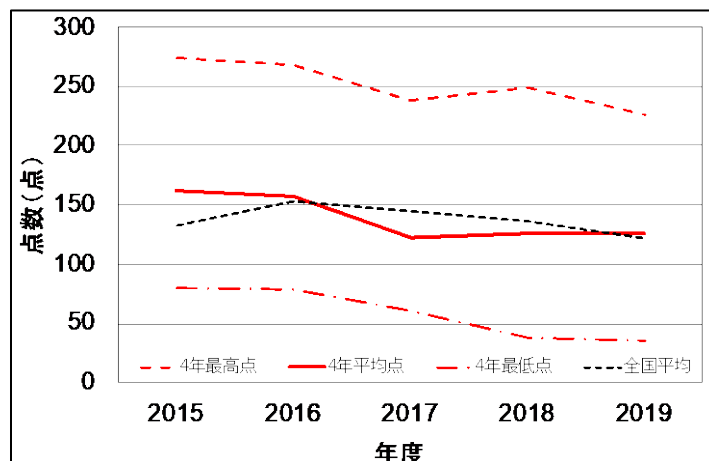
競技会やボランティア等の課外活動に対しても，いずれも積極的な活動実績が確認できた。

上記勘案し，教育理念・教育目標の認知度，資格取得への支援については課題が残るが，概ね活動していると評価できる。

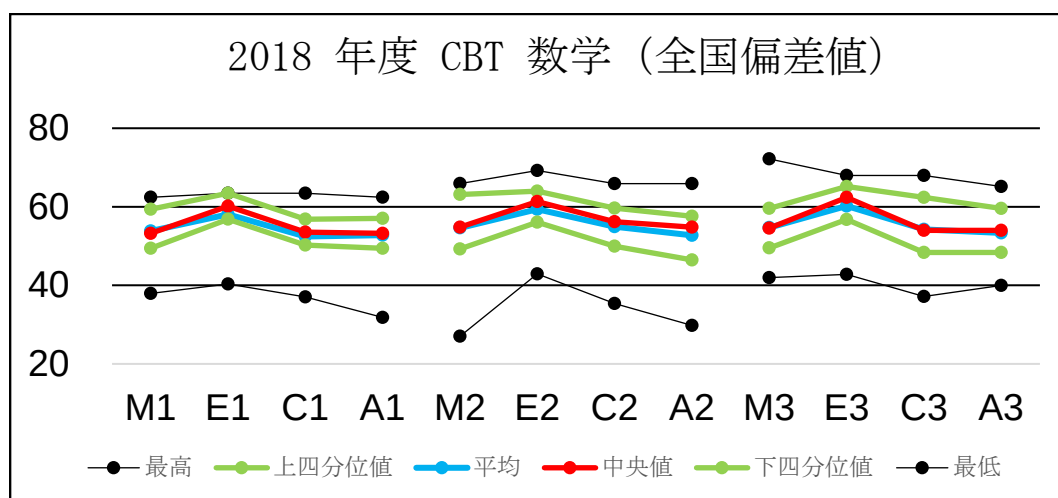
別表3 本科4年次のTOEICスコア



別表4 本科4年次のE M a T試験結果



別表5 平成30年度CBT試験結果



2019 年度 教育目標の認知度等に関するアンケート (本科)

呉工業高等専門学校 自己点検・評価委員会

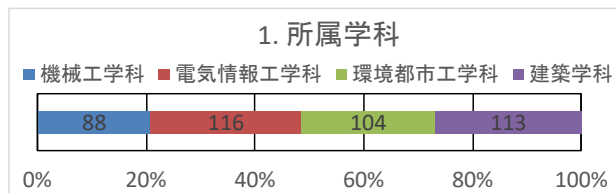
■調査概要

- 調査年月日： 2020.2.10～2020. 4.30
- 調査対象： 2020 年度 呉高専本科 2～5 年生学生 662 名
- 回答方法： e-learning システムを利用した web 上での回答
- 回答数（回答率）： 421（63.6%）

■アンケート結果

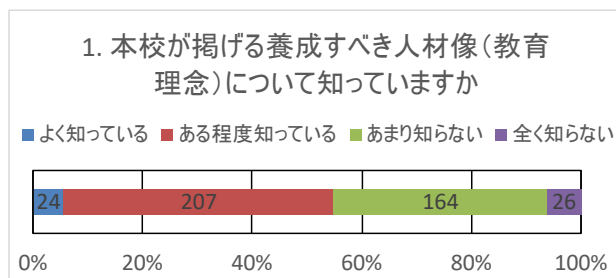
問1 学科と学年を教えてください

1. 学科を教えてください（必須 4 択式）

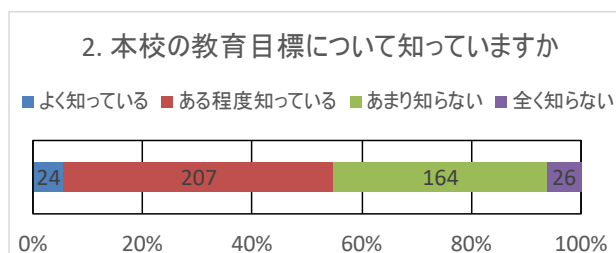


問2 教育理念、教育目標の認知度に関して、4 段階で自己評価してください

1. 本校が掲げる養成すべき人材像（教育理念）について知っていますか（必須 4 択式）

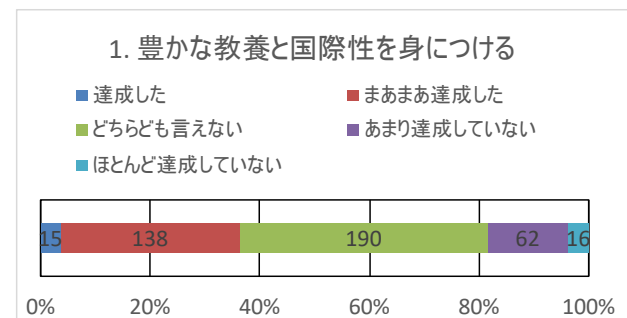


2. 本校の教育目標について知っていますか（必須 4 択式）

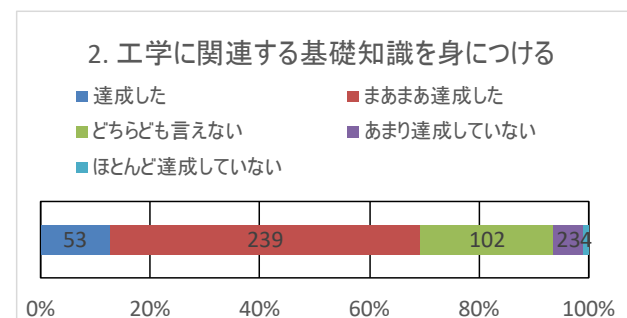


問3 学習達成度について、5 段階で自己評価してください

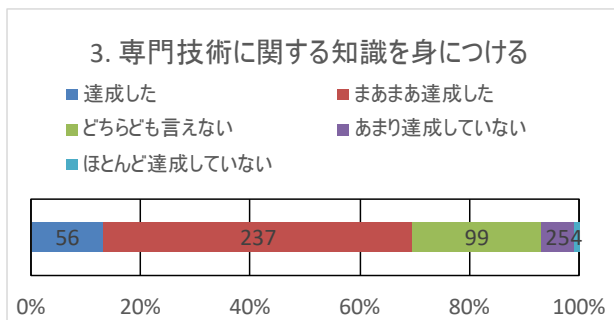
1. 豊かな教養と国際性を身につける（必須 5 択式）



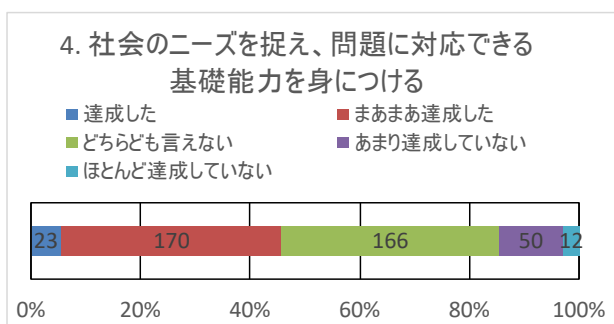
2. 工学に関連する基礎知識を身につける（必須 5 択式）



3. 専門技術に関する知識を身につける（必須 5 択式）



4. 社会のニーズを捉え、問題に対応できる基礎能力を身につける（必須 5 択式）



別表7 教育目標の認知度等に関するアンケート(教職員)

2019 年度 教育目標の認知度等に関するアンケート（教職員）

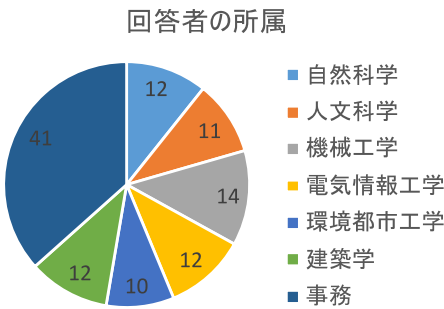
呉工業高等専門学校 自己点検・評価委員会

■調査概要

- 調査年月日： 2020. 4. 1 ～ 2020. 4. 13
- 調査対象： 2019 年度 呉高専教職員 123 名
- 回答方法： Microsoft Forms を利用した web 上での回答
- 回答数（回答率）： 112（91%）

■アンケート結果

問1 あなたの所属を教えてください。



問2 本校の「教育理念」をどの程度知っていますか。ご自身の認知度を下の4段階で評価してください。

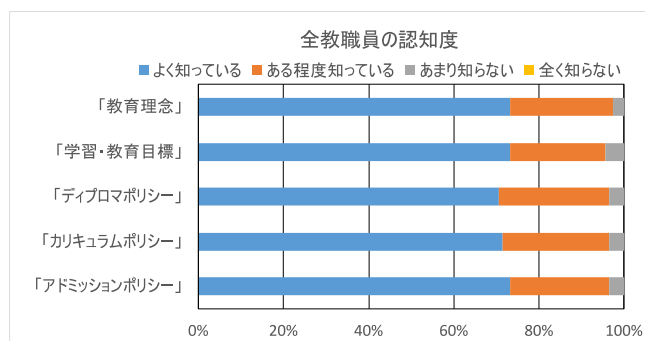
問5 本校の「カリキュラムポリシー」をどの程度知っていますか。ご自身の認知度を下の4段階で評価してください。

問3 本校の「学習・教育目標」をどの程度知っていますか。ご自身の認知度を下の4段階で評価してください。

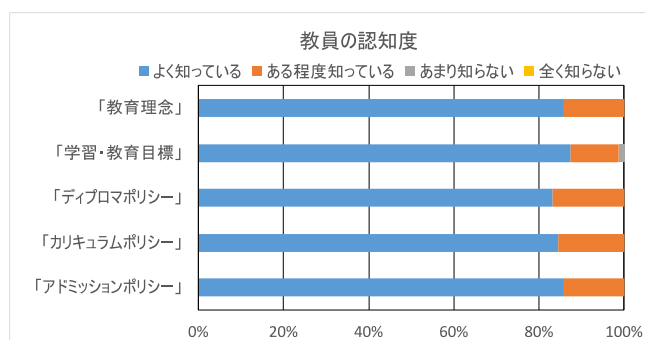
問6 本校の「アドミッションポリシー」をどの程度知っていますか。ご自身の認知度を下の4段階で評価してください。

問4 本校の「ディプロマポリシー」をどの程度知っていますか。ご自身の認知度を下の4段階で評価してください。

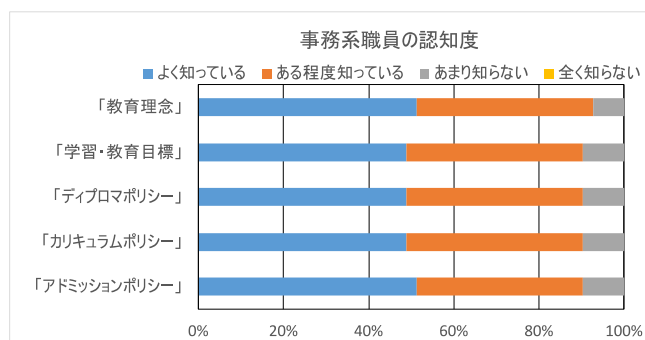
□調査対象の全教職員の各項目の認知度



□教員の各調査項目の認知度



□事務系職員の各項目の認知度



2019 年度呉高専の教育環境改善のためのアンケート 調査結果 (卒業時アンケート調査)

呉工業高等専門学校 自己点検・評価委員会

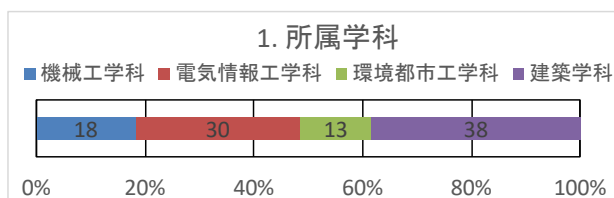
■調査概要

- 調査年月日： 2020.2.10～2020. 3.20
- 調査対象： 2019 年度 呉高専本科卒業見込み学生 170 名
- 回答方法： e-learning システムを利用した web 上での回答
- 回答数（回答率）： 99（58.2%）

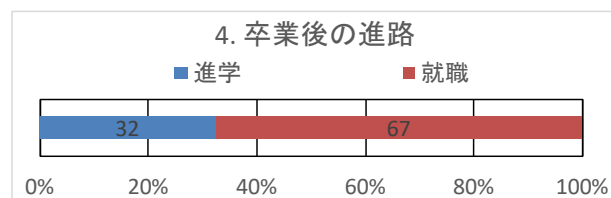
■アンケート結果

◇回答者に関する質問

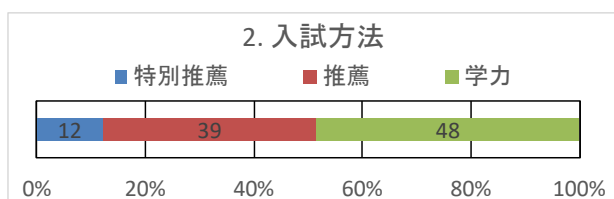
1. 所属学科を教えてください（必須 4 択式）



4. 卒業後の進路を教えてください（必須 4 択式）

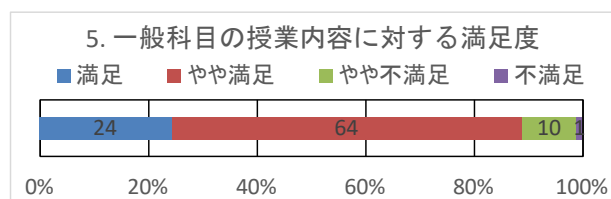


2. 本学に入学したときの入試方法を教えてください（必須 4 択式）

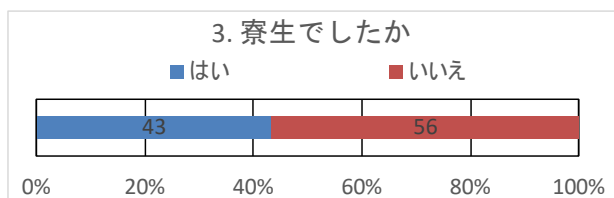


◇本校の教育に関する質問

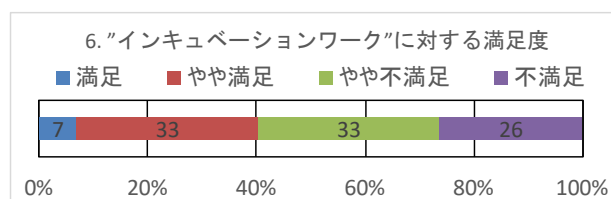
5. 一般科目の授業内容に対してどのくらい満足していますか（必須 4 択式）



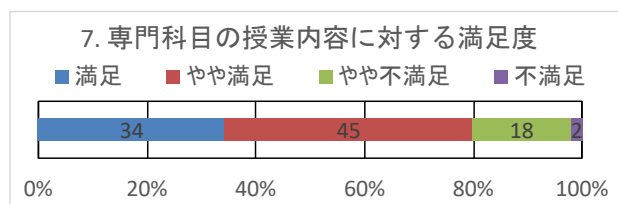
3. 寮生でしたか？



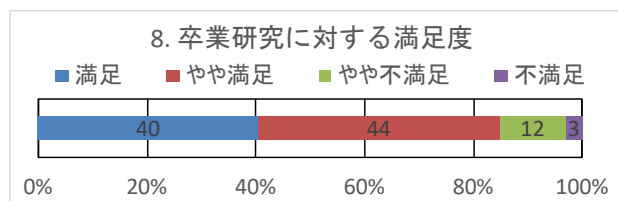
6. “インキュベーションワーク”に対してどのくらい満足していますか（必須 4 択式）



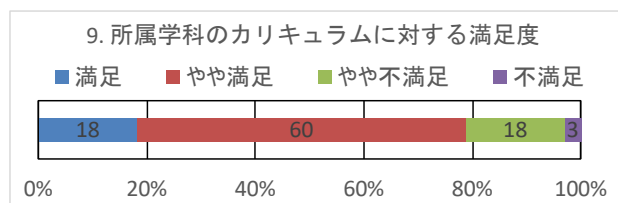
7. 専門科目の授業内容に対してどのくらい満足していますか（必須 4 択式）



8. 卒業研究に対してどのくらい満足していますか（必須 4 択式）

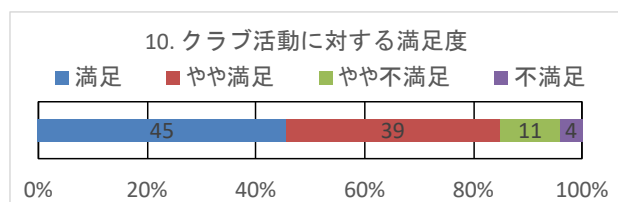


9. 所属学科のカリキュラムに対してどのくらい満足していますか（必須 4 択式）



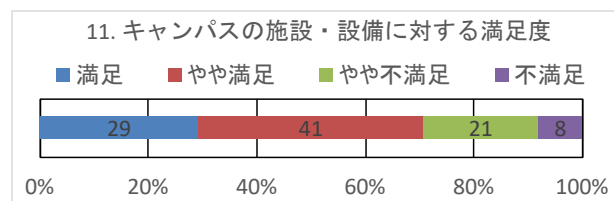
◇本校の学生指導に関する質問

10. クラブ活動に対してどのくらい満足していますか（必須 4 択式）



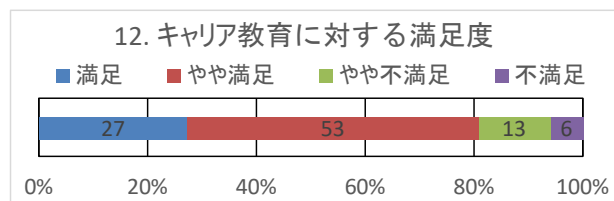
◇本校でのキャンパスライフに関する質問

11. キャンパスの施設・設備に対してどのくらい満足していますか（必須 4 択式）

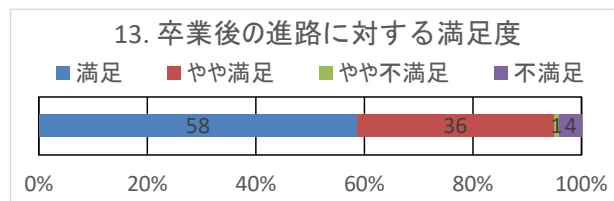


◇本校のキャリア教育に関する質問

12. キャリア教育（進路指導・支援）に対してどのくらい満足していますか（必須 4 択式）

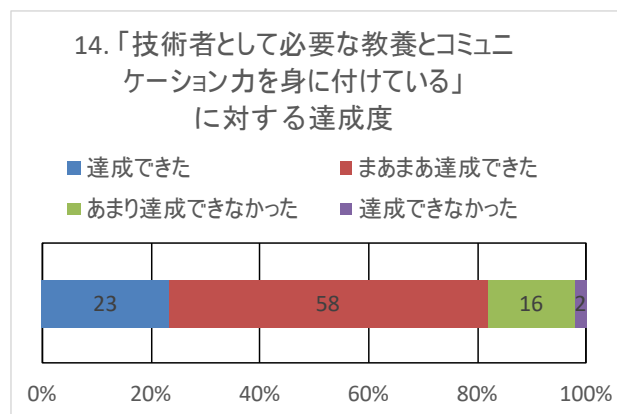


13. 卒業後の進路に対してどのくらい満足していますか（必須 4 択式）

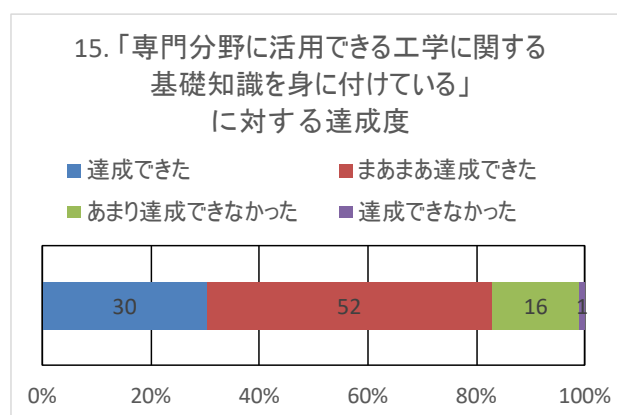


◇ディプロマポリシーに対する達成度に関する質問

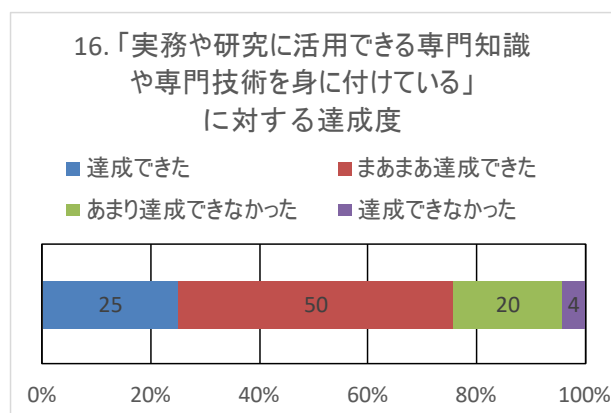
14. 「技術者として必要な教養とコミュニケーション力を身に付けている」について、どのくらい達成できたと思いますか（必須 4 択式）



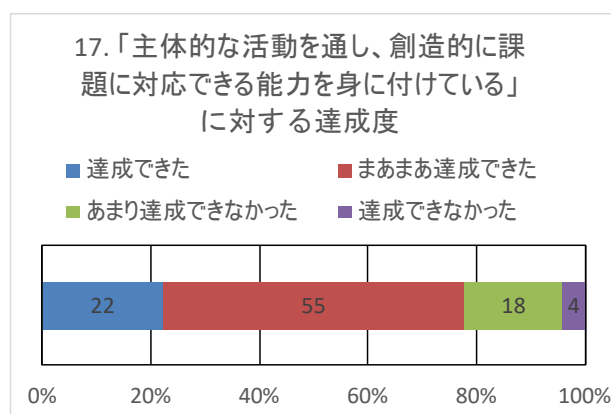
15. 「専門分野に活用できる工学に関する基礎知識を身に付けている」について、どのくらい達成できたと思いますか（必須 4 択式）



16. 「実務や研究に活用できる専門知識や専門技術を身に付けている」について、どのくらい達成できたと思いますか（必須 4 択式）



17. 「主体的な活動を通し、創造的に課題に対応できる能力を身に付けている」について、どのくらい達成できたと思いますか（必須 4 択式）



本校卒業生からの学校評価アンケート調査結果 報告

■調査目的：今後の学校の発展を意識して，学校のあり方、教育活動の充実・改善等について，様々な検討を進めるにあたり，本校の卒業生で，現在各方面で活躍されているOB・OGからの意見を把握する．

■調査対象：2012年度，2013年度，2014年度の3年間に本校本科の卒業生のうち，同窓会名簿に名前がある414名

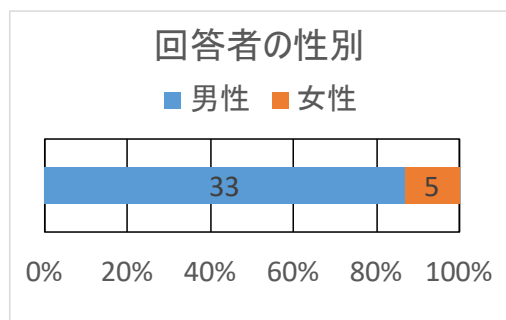
■調査方法：Microsoft FormsによってWeb上に作成したアンケートで実施した．Web上に作成したアンケートへ誘導するQRコードを印刷したハガキを上記対象調査対象者の同窓会名簿上の住所郵送した．

■調査期間：2020年3月30日に郵便局から発送．Webアンケート回答期限は4月30日．

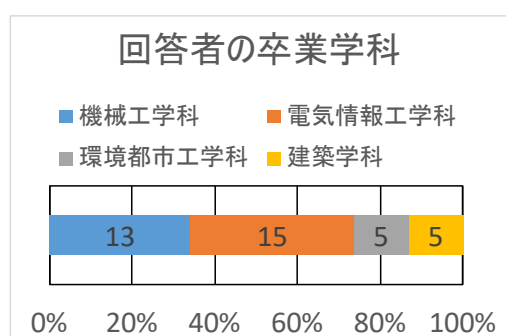
■回収回答数（回答率）：38（9.2%）

■ 回答結果

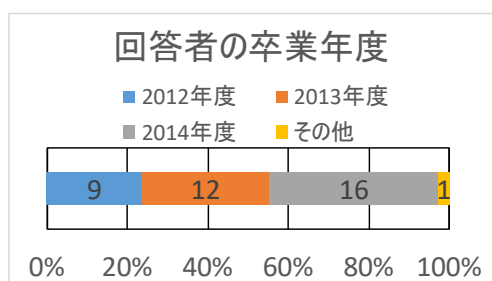
問 1 回答者の性別



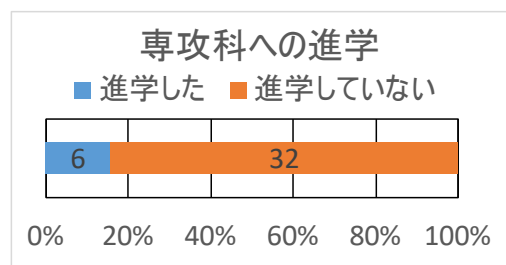
問 2 回答者の卒業学科



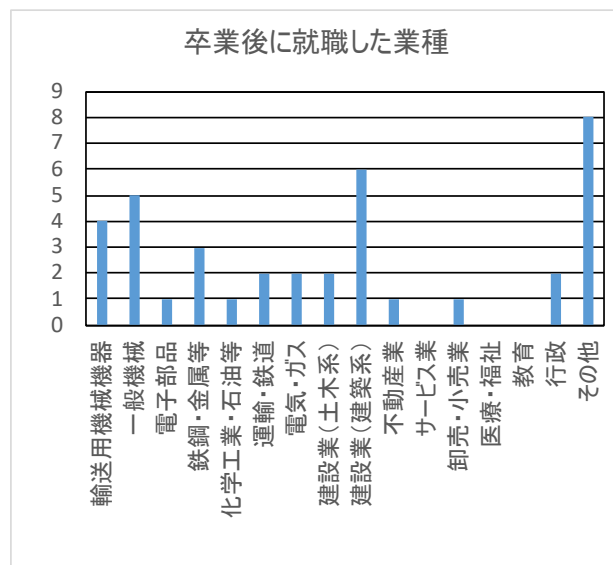
問 3 回答者の卒業年度



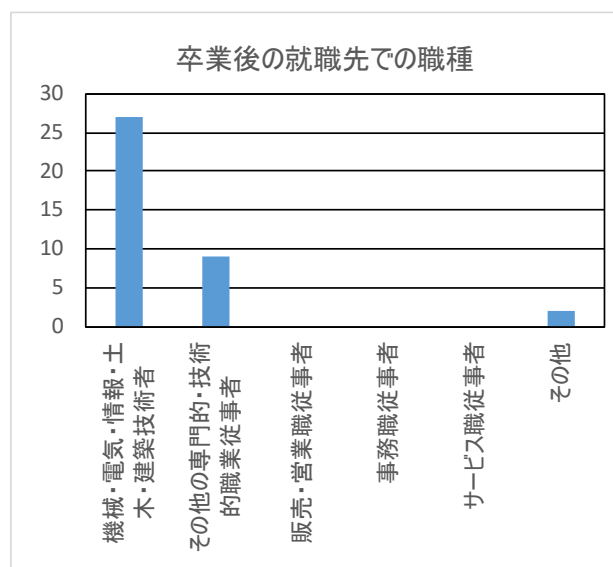
問 4 本科卒業後に専攻科に進学したか



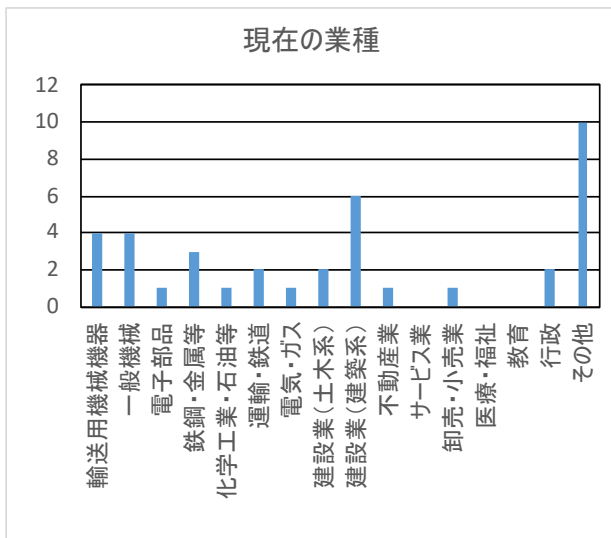
問 5 卒業後に就職した業種



問 6 卒業後の就職先での職種

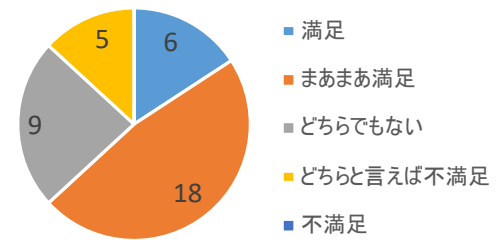


問7 現在の業種



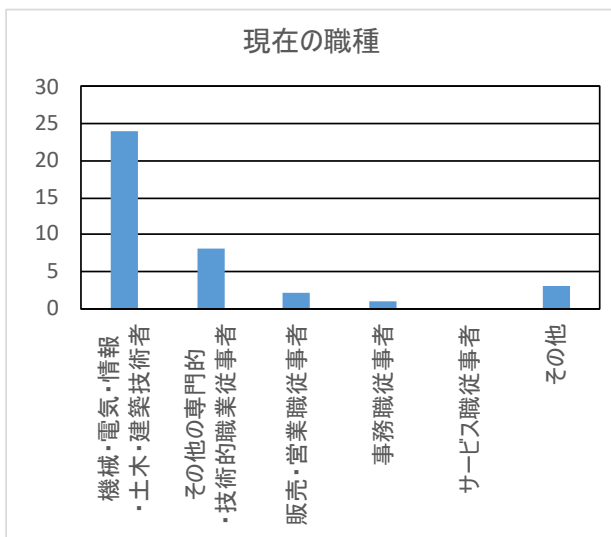
問9 専門科目の講義に対する満足度

専門科目の講義



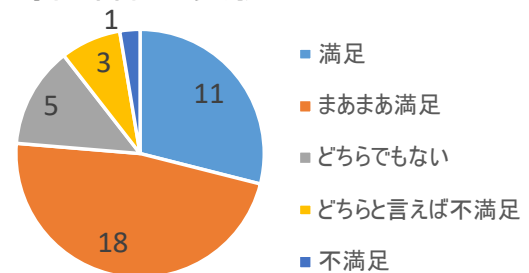
※問10は質問の重複のミスがあったため、集計からのぞく。

問8 現在の職種



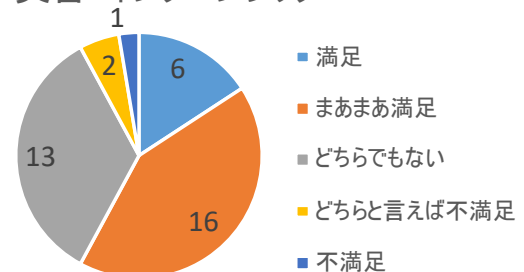
問11 専門科目の講義に対する満足度

専門科目の実験



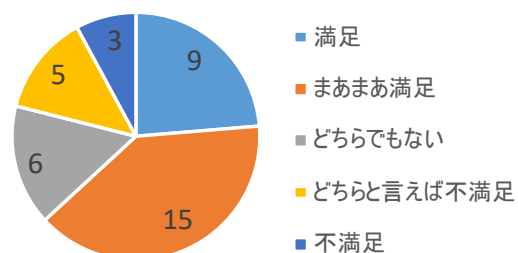
問12 実習・インターンシップに対する満足度

実習・インターンシップ



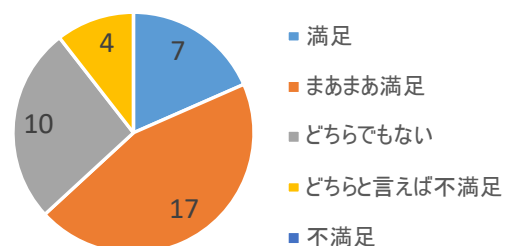
問 13 卒業研究に対する満足度

卒業研究



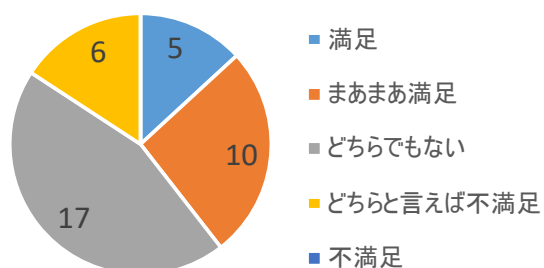
問 16 教育施設・設備に対する満足度

教育施設・設備



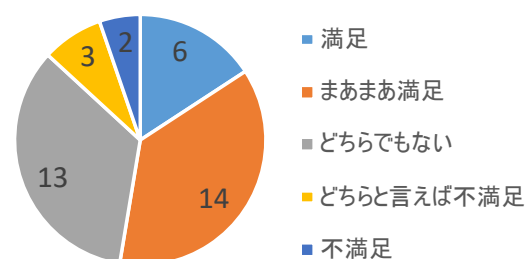
問 14 人文社会系科目の講義に対する満足度

人文社会系科目の講義



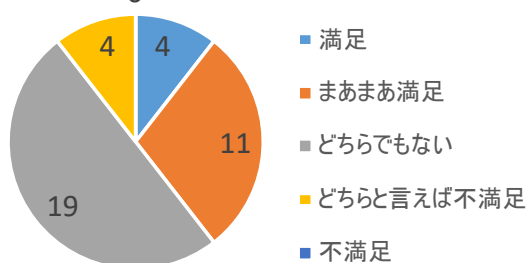
問 17 厚生施設・設備に対する満足度

厚生施設・設備



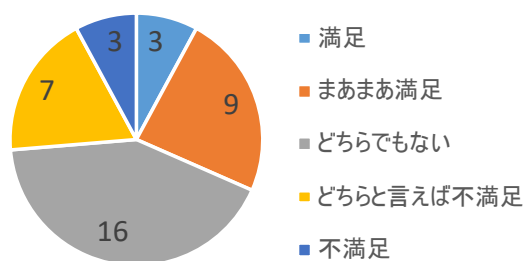
問 15 自然科学系科目の講義に対する満足度

自然科学系科目の講義

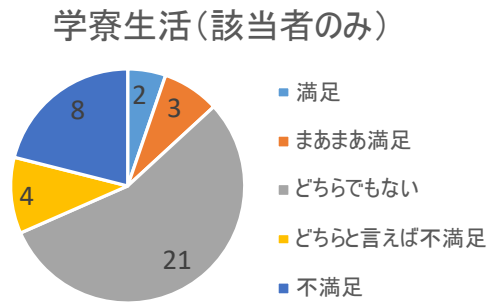


問 18 課外活動に対する満足度

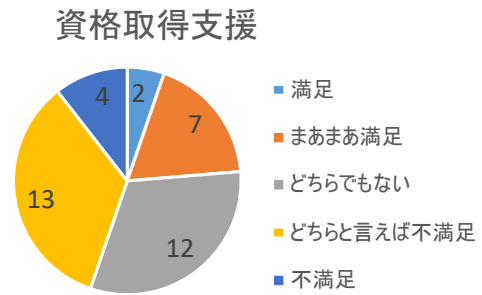
課外活動



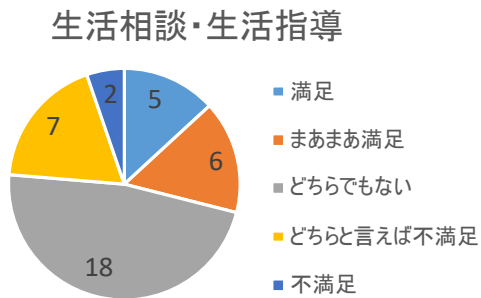
問 19 学寮生活に対する満足度（該当者のみ）



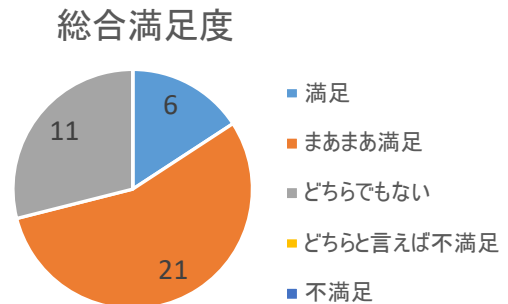
問 22 資格取得支援に対する満足度



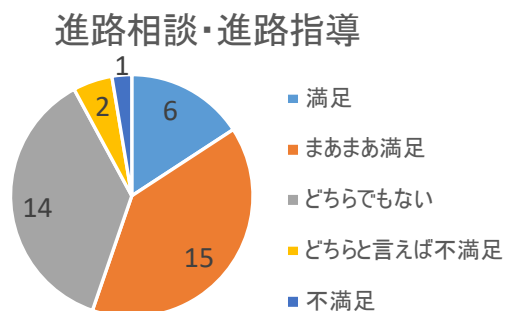
問 20 生活相談・生活指導に対する満足度



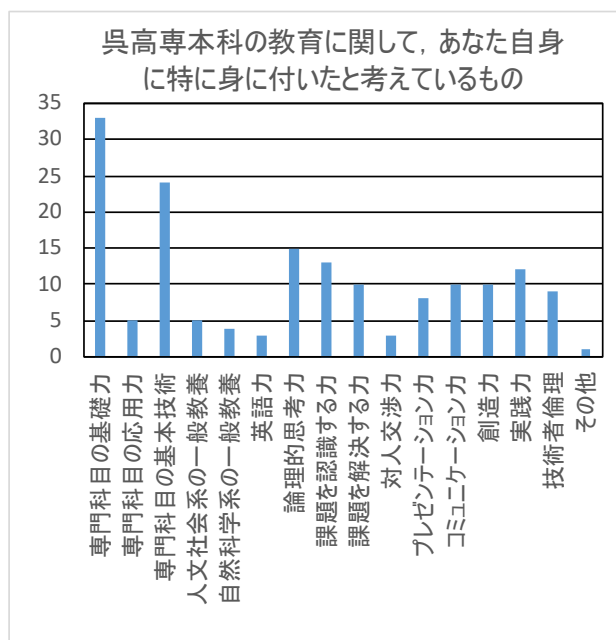
問 23 総合満足度



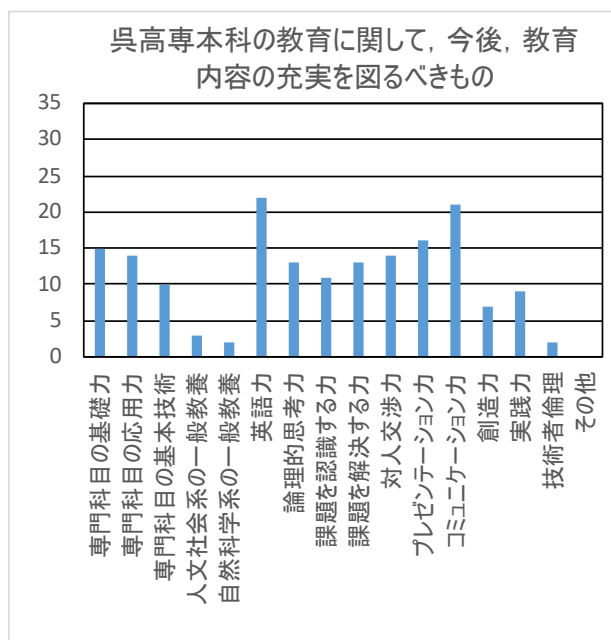
問 21 進路相談・進路指導に対する満足度



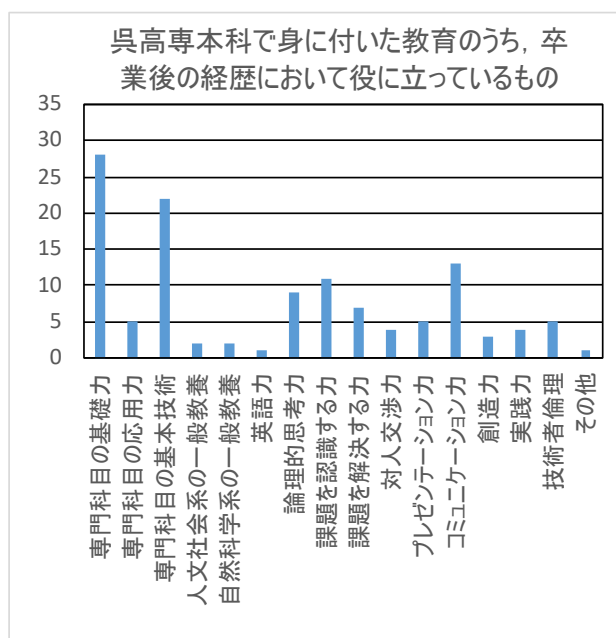
問 24 呉高専本科の教育に関して、あなた自身に特に身に付いたと考えているもの（複数回答可）



問 26 呉高専本科の教育に関して、今後、教育内容の充実を図るべきもの（複数回答可）

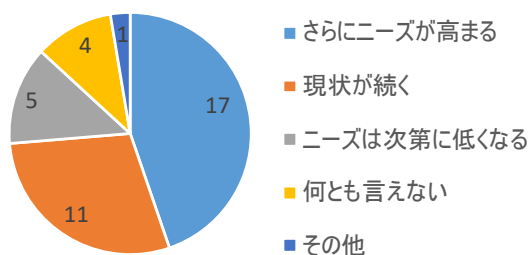


問 25 呉高専本科で身に付いた教育のうち、本校卒業後の経歴において、役に立っているもの（複数回答可）



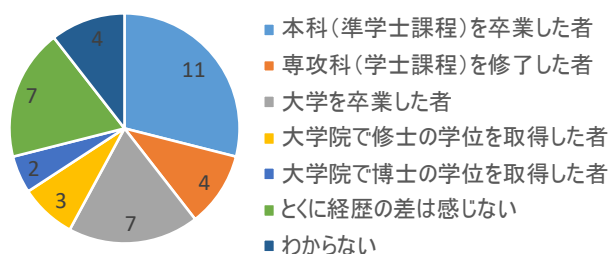
問 27 高等専門学校本科（準学士課程）卒業生に対する社会からの人材ニーズについて、今後どうなるとお考えですか。

高専本科（準学士課程）卒業生に対する社会からの人材ニーズについて、今後どうなる

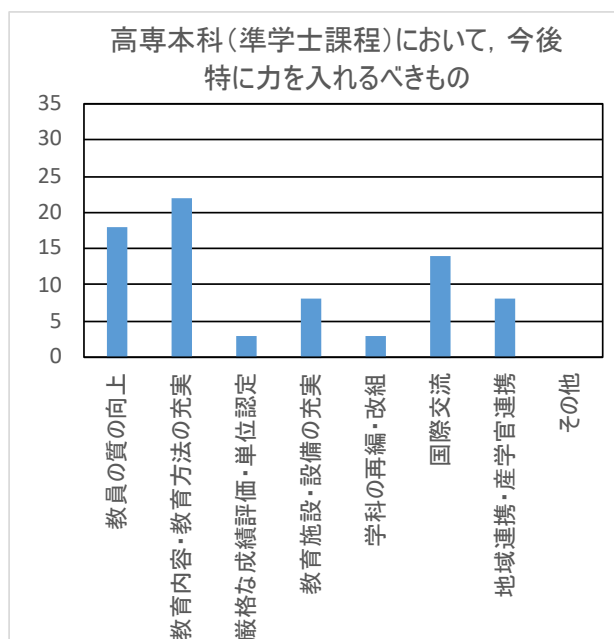


問 28 高等専門学校卒業で次の経歴を有する者のうち、今後社会からの人材ニーズが最も高くなると思うもの

高専卒の経歴をもつ者のうち、今後社会からの人材ニーズが最も高くなると思うもの



問 29 高等専門学校本科（準学士課程）において、今後特に力を入れるべきもの（複数回答可）



本校卒業生からの学校評価アンケート調査結果 報告

■調査目的：今後の学校の発展を意識して，学校のあり方、教育活動の充実・改善等について，様々な検討を進めるにあたり，本校の専攻科修了生で，現在各方面で活躍されている OB・OG からの意見を把握する．

■調査対象：2012 年度，2013 年度，2014 年度の 3 年間に本校専攻科の修了生のうち，同窓会名簿に名前がある 70 名．

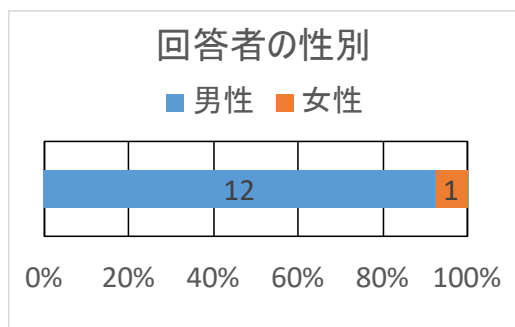
■調査方法：Microsoft Forms によって Web 上に作成したアンケートで実施した．Web 上に作成したアンケートへ誘導する QR コードを印刷したハガキを上記対象調査対象者の同窓会名簿上の住所郵送した．

■調査期間：2020 年 3 月 30 日に郵便局から発送．Web アンケート回答期限は 4 月 30 日．

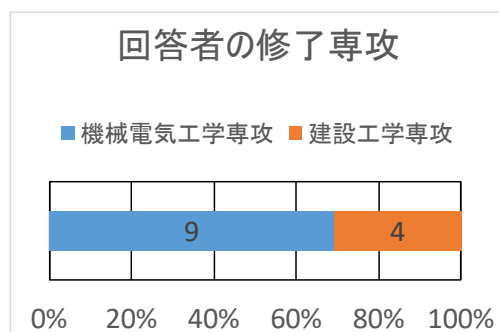
■回収回答数（回答率）：13（18.6%）

■回答結果

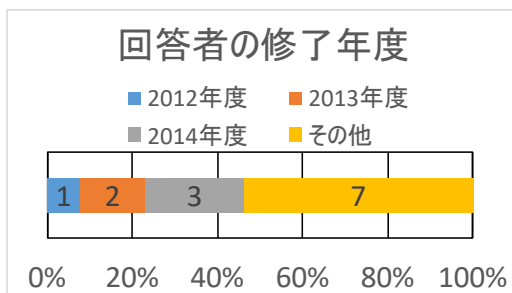
問1 回答者の性別



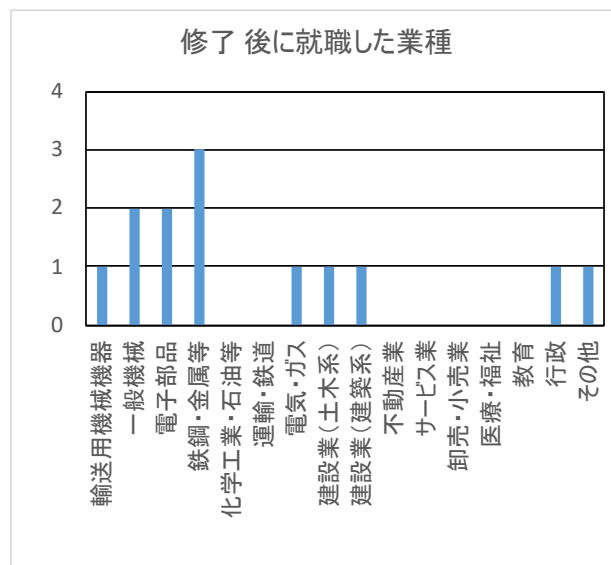
問2 回答者の修了専攻



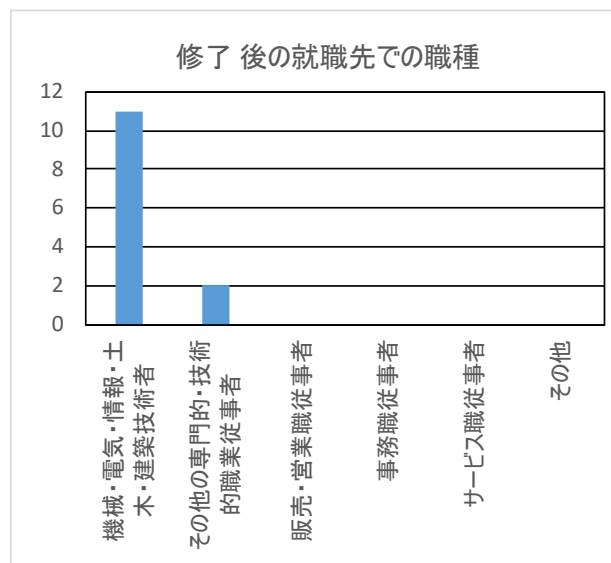
問3 回答者の修了年度



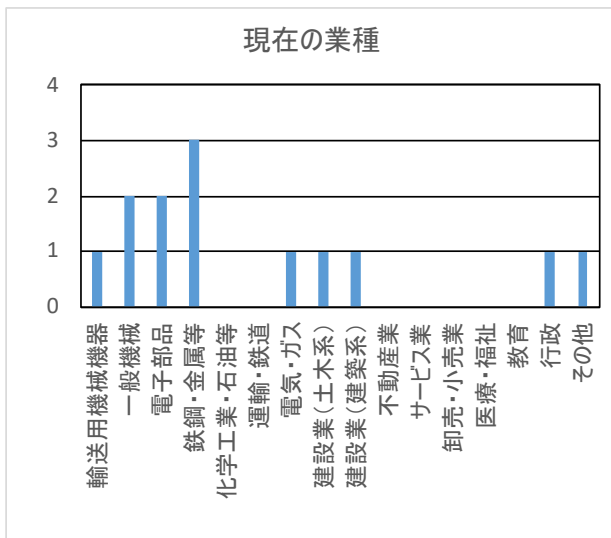
問5 修了後に就職した業種



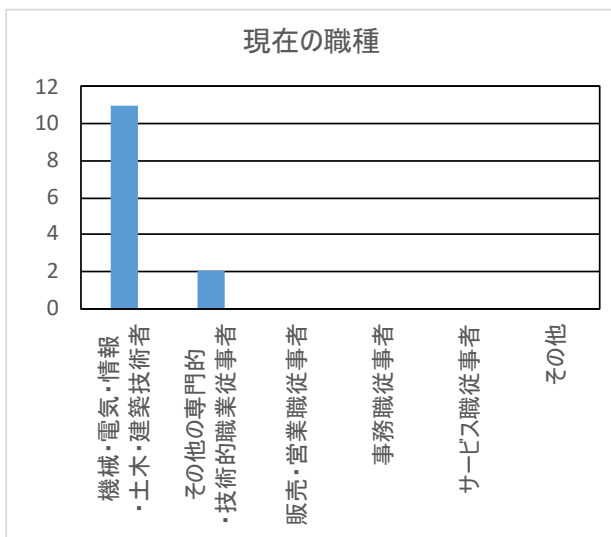
問6 修了後の就職先での職種



問7 現在の業種

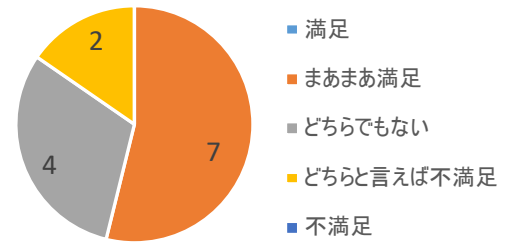


問8 現在の職種



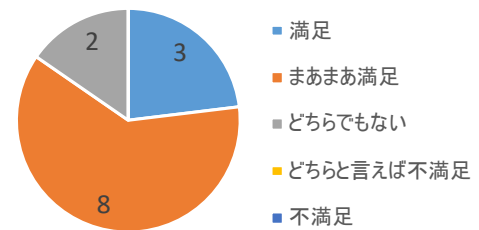
問9 教養科目の講義に対する満足度

教養科目の講義



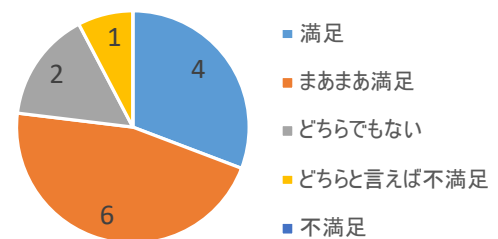
問10 専門科目の講義に対する満足度

専門科目の講義



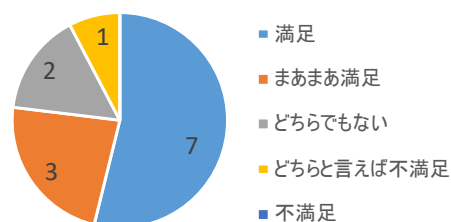
問11 インターンシップに対する満足度

インターンシップ



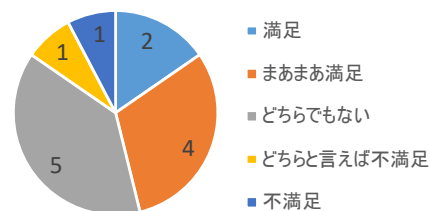
問 12 特別研究に対する満足度

特別研究



問 16 課外活動に対する満足度

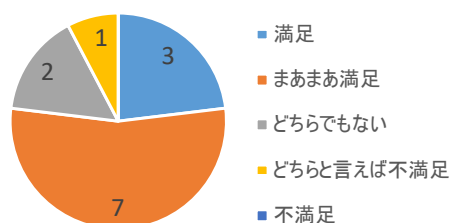
課外活動



※問 13 は質問の重複のミスがあったため、集計からのぞく。

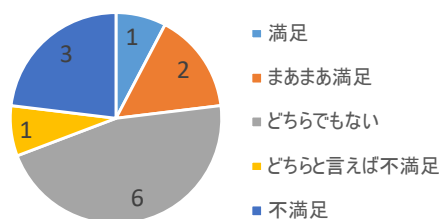
問 14 教育施設・設備に対する満足度

教育施設・設備



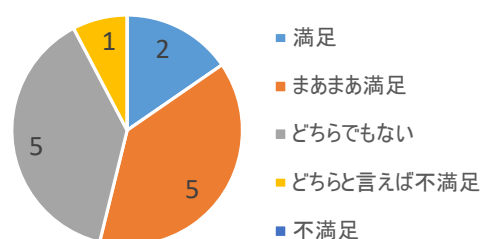
問 17 学寮生活に対する満足度（該当者のみ）

学寮生活（該当者のみ）



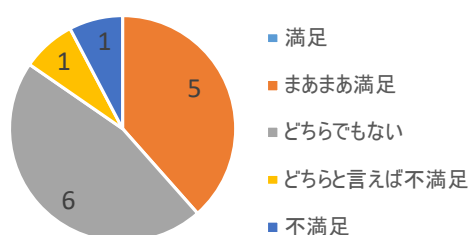
問 15 厚生施設・設備に対する満足度

厚生施設・設備



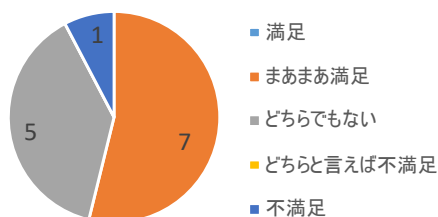
問 18 生活相談・生活指導に対する満足度

生活相談・生活指導



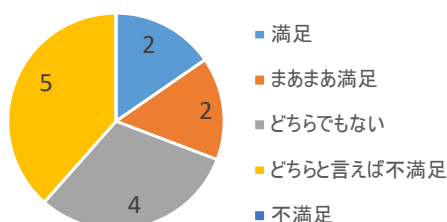
問 19 進路相談・進路指導に対する満足度

進路相談・進路指導



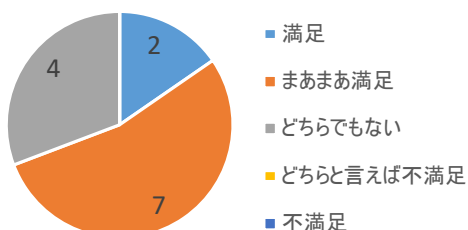
問 20 資格取得支援に対する満足度

資格取得支援

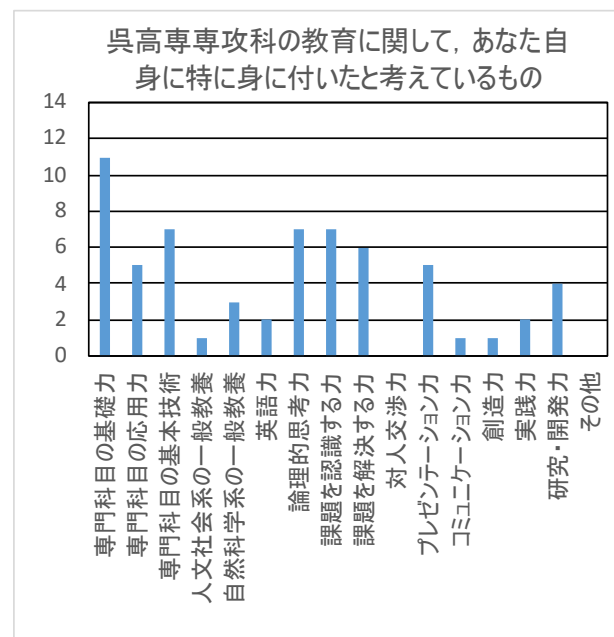


問 21 総合満足度

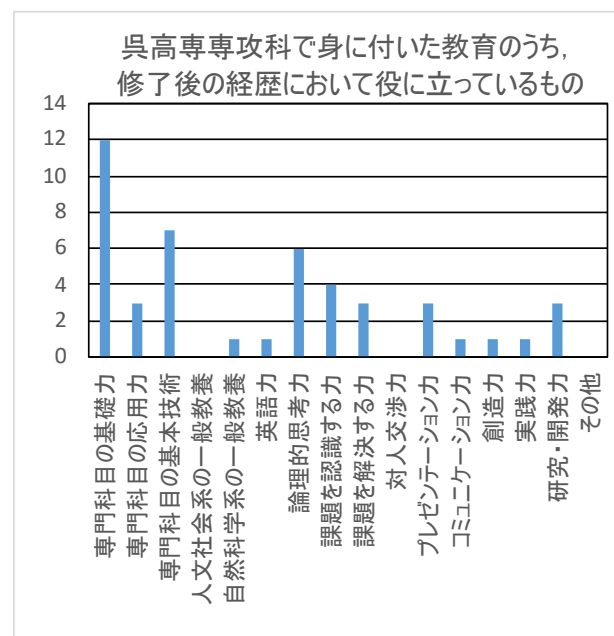
総合満足度



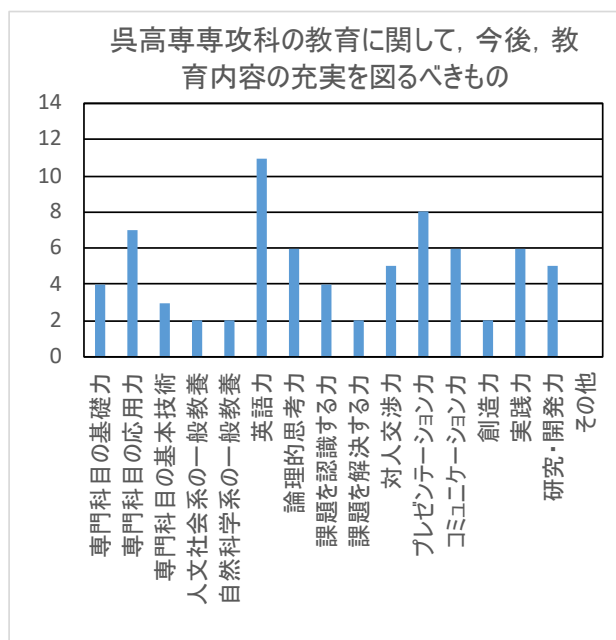
問 22 呉高専専攻科の教育に関して、あなた自身に特に身に付いたと考えているもの（複数回答可）



問 23 呉高専専攻科で身に付いた教育のうち、本校修了後の経歴において、役に立っているもの（複数回答可）

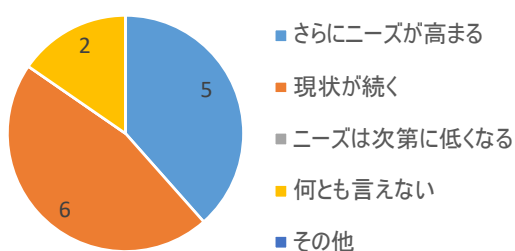


問 24 呉高専専攻科の教育に関して、今後、教育内容の充実を図るべきもの（複数回答可）

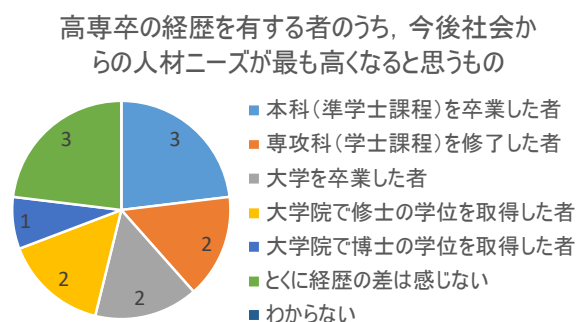


問 25 高等専門学校専攻科修了者に対する社会からの人材ニーズについて、今後どうなるとお考えですか。当てはまるものを次の中から選んでください

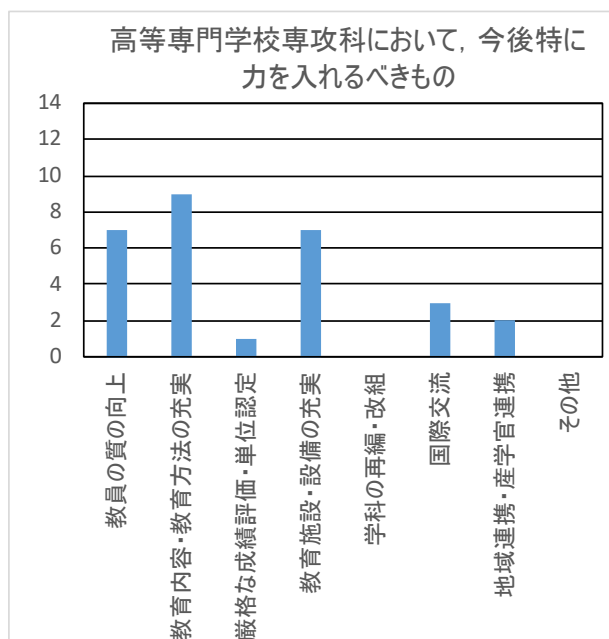
高専専攻科修了者に対する社会からの人材ニーズについて、今後どうなる



問 26 高等専門学校修了者で次の経歴を有する者のうち、今後社会からの人材ニーズが最も高くなると思うもの



問 27 高等専門学校専攻科において、今後特に力を入れるべきもの（複数回答可）



(3) 優れた教員の確保

【第3期中期計画】

① 公募制等によって多様な背景を持ち、優れた教育力・研究力を有する教員を採用する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

多様な背景を持つ教員（教授及び准教授）の確保

平成26年度年度計画

多様な背景を持つ教員組織とするため、引き続き公募制等を導入し、教授及び准教授については、採用された高専以外の高専や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。

【活動内容】

○機械工学分野、環境都市工学分野及び建築学分野の3件の公募を行った結果、民間企業での勤務経験者を教授、私立大学及び民間企業勤務経験者を准教授に新規採用者として選考した。その結果、次年度は、多様な経験を有する教員が全体として78%となる予定。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

公募などにより多様な背景を持つ教員を採用する。

【活動内容】

○人文社会系分野及び自然科学系分野の教員が各1名、9月30日付で退職したため、2件の公募を行った。その結果、国立大学勤務経験者を准教授、公立学校及び他高専勤務経験者を講師に新規採用者として選考した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

多様な背景を持つ優れた教育・研究力をもつ教員を、公募制により広く募集する。専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募により優秀な人財を確保する。

【活動内容】

○定年退職で不補充であった建築学分野の教員1名（助教）を公募した。その結果、公立大学大学院研究員を新規採用者として選考し、来年度から採用が決定した。また、本校教員の機構本部への配置替えに伴い環境都市工学科に民間企業・大学での経験が豊富で技術士資格ももつ教員1名を採用した。

○専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募し、優秀な人財を確保した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

多様な背景を持つ優れた教育・研究力をもつ教員を、公募制により広く募集する。

【活動内容】

○定年退職で不補充であった電気情報工学分野の教員1名（助教）を公募し、外部資金取得に優れた研究員を新規採用者として、来年度に向けて助教1名の採用が決定した。

○前年度末に中途退職した教員（英語）を公募し、来年度に向けて女性教員助教1名の採用が決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

公募などにより多様な背景を持つ教員を採用する。

【活動内容】

○定年退職で不補充であった人文社会系分野の教員1名（准教授）を公募し、多様な経歴をもつ優秀な女性教員の採用が決定した。

○自然科学系分野の教員1名（助教）を公募し、優秀な女性教員の採用が決定した。

○環境都市工学科の教員1名（任期付き）を公募し、韓国と日本で教育を受けた中国人女性教員の採用を決定した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

【第3期中期計画】

② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、他高専、大学等との人事交流を図る。

【年度計画活動内容及び実施評価】

他高専、大学等との人事交流を図る

平成26年度年度計画

平成27年度に向け、教員の力量を高める人事交流について検討する。

【活動内容】

○平成27年度高専・両技科大間教員交流制度により、平成27年4月から1年間他高専へ教員を派遣することが決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

津山高専に1名の教員を派遣し、人事交流を行う。

【活動内容】

○津山高専に本校から1名（機械工学分野）を派遣し、人事交流を行った。

○民間企業へ本校から1名を派遣し、実務を通じた意識啓発に努めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

民間企業に1名の教員を派遣し、人事交流を行う。

【活動内容】

○本校から教員1名（電気情報工学科）を民間企業へ派遣し、eラーニングの教材開発を行った。

これに伴い次年度の e-ラーニングの内容が充実することが期待できる。
実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ③ 専門科目、理系の一般科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者を全体として 70%、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を全体として 80%を下回らないように採用する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を全体として 80%を下回らないように採用する。

平成26年度年度計画

今年度採用する教員についても、専門科目（理系の一般科目を含む）は博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目は修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者を採用する。

【活動内容】

○機械工学分野、環境都市工学分野及び建築学分野の3件の公募を行った結果、博士の学位を持つ者3名を新規採用者として選考した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

定年退職に伴う新たな教員確保は行わないため、採用予定はない。

【活動内容】

○人文社会系分野は修士の学位を持つ者、自然科学系分野は博士の学位を持つ者を新規採用者として選考した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

専門科目の教員採用については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募により優秀な人財を確保する。

【活動内容】

○建築学分野は博士の学位を持つ者を新規採用者として選考した。

○専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募により優秀な人財を確保した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

専門科目の教員採用については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、

修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。

【活動内容】

○電気情報工学分野で博士の学位を持つ者を新規採用者として選考し、助教1名の採用が決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

専門科目の教員採用については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。

【活動内容】

○定年退職で不補充であった機械工学分野の教員1名（助教）を公募し、民間企業の勤務経験のある優秀な教員の採用が決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

④ 女性教員の比率向上を図るためのポジティブアクションを継続して実施するとともに、働きやすい職場環境の整備を推進する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

女性教員の比率向上、支援策及び働きやすい職場環境の整備

平成26年度年度計画

女性教職員に配慮した施設の整備を検討する。教員公募に際し、女性のみの公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用等を検討する。

【活動内容】

○第二体育館に女子トイレを新設した。また、女子トイレの和式から洋式への改修を検討し、来年度の営繕要求に盛り込んだ。

○建築学分野の教員公募で、女性限定公募を行い、女性教員1名を新規採用者として選考した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

女性教職員に配慮した施設の整備を検討する。教員公募に際し、女性のみの公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用等を検討する。

【活動内容】

○女性教職員や女子学生に配慮し、普通教室棟及び建築学科棟の外階段手すり部に目隠し板の設置工事を実施した。

○教員公募に際し、評価が同等な場合には女性を優先的に採用することを明記した公募を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

女性教職員に配慮した施設の整備を検討する。教員公募に際し、女性のみの公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用等を検討する。

【活動内容】

○女子学生や女性教職員用トイレのプライバシーを改善するためにトイレブースの改修を行った。また、警報ブザーの設置も今後行う予定である。

○教員公募に際し、評価が同等な場合には女性を優先的に採用することを明記した公募を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

女性教職員に配慮した施設の整備を検討する。教員公募に際し、女性のみの公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用等を検討する。

【活動内容】

○女性教職員に配慮し、トイレにウォシュレットを配備する検討を開始した。

○人文社会系分野（英語）で留学経験の豊富な女性教員1名（助教）の採用が決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

女性教職員に配慮した施設の整備を検討する。

【活動内容】

○女子学生や女性教職員の利用に配慮し、女子学生の更衣室にエアコン設備を整備した。

○女性用トイレの修理を先行して実施した。

○学生の要望により、女子更衣室の水道設備を改善した。

○人文社会系分野（社会）で国際的に活躍する女性教員1名（講師）、自然科学系分野（数学）で当該分野で実績を有する女性教員1名（助教）、環境都市工学科で中国人女性教員の採用が決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

⑤FDなど教員の能力向上を目的とした研修を計画的に実施するとともに、各種研修に積極的に参加する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

教員の能力向上を目的としたFD研修を計画的に実施し、教員の教育力の向上を図る

平成26年度年度計画

教員の能力向上を目的としたFD研修を計画的に実施するとともに、教職員間で十分な意見交換を行う機会を設ける。全国高専教育フォーラム等を活用し、教員の教育力の向上を図る。

【活動内容】

○FD研修会を4回（4/23，5/21，7/29，2/12）実施し、延べ162名教職員の参加があり、活発な意見交換が行われた。

○全国高専教育フォーラムへ教員6名が参加し、スキルアップを推進した。

○各種研修会へ延べ5名の教員が参加し、教育力・学生指導力等のスキルアップを推進した。

- ・英語授業講義力強化プログラム：1名
- ・「英語授業講義力強化プログラム」教育評価研修：1名
- ・高専・技科大連携教員研究集会：1名
- ・中国地区国立高等専門学校教員研修：1名
- ・教務主事研修：1名

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

教員の能力向上を目的としたFD研修を計画的に実施するとともに、教職員間で十分な意見交換を行う機会を設ける。

【活動内容】

○FD研修を5回（5/1，7/29，9/14，11/27，12/16）実施し、延べ204名の参加があり、活発な意見交換により教員の能力向上に努めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

教員の能力向上を目的としたFD研修を計画的に実施するとともに、教職員間で十分な意見交換を行う機会を設ける。

【活動内容】

○FD研修を5回（6/2，7/27，8/31，10/7，12/21）実施し、延べ239名の参加があり、活発な意見交換により教員の能力向上に努めた（12月末時点）。なお、1月25日に予定していた本年度最後のFD研修（英語での教育）はインフルエンザによる臨時休業のため中止となった。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

教員の能力向上を目的としたFD研修を実施するとともに、教職員間で十分な意見交換を行う機会を設ける。

【活動内容】

○FD研修を3回（6/28，7/26，8/29）実施し、延べ144名の参加があり、活発な意見交換により教員の能力向上に努めた。

○11月24日に本年度最後のFD研修（英語教育）を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

第36回学生指導担当教職員研究会、情報セキュリティの意識啓発などをテーマに各種FDを実施する。

【活動内容】

○FD研修を3回（6/20，7/25，8/28）実施し、【延べ159名】の参加があり、活発な意見交換により教員の能力向上に努めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ⑥ 教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰

平成26年度年度計画

教員の研究費傾斜配分に関するアンケート(教員の自己評価)、教員顕彰に係る学生アンケート、教員の相互評価などの結果を総合的に判断し、校長表彰するとともに、国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。教員評価方法について検討を行う。

【活動内容】

○教員顕彰に係る学生アンケートを実施した。なお、今年度は、アンケート等の結果を踏まえ高専機構への推薦を見送った。

○校長表彰、教員評価方法とともに暫定案により実施した。次年度もさらに検討を行う。

実施結果 II 「十分に実施していない。」

平成27年度年度計画

教員の研究費傾斜配分に関するアンケート(教員の自己評価)、教員顕彰に係る学生アンケート、教員の相互評価などの結果を総合的に判断し、校長表彰するとともに、国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。教員評価方法について検討を行う。

【活動内容】

○教員の研究費傾斜配分に関するアンケート(教員の自己評価)、教員顕彰の推薦を実施し、その中から国立高等専門学校教員顕彰候補者を高専機構に推薦した。

○教員評価方法について、そのシステムを新たに構築するとともに、提出された報告をもとに事務的にポイント集計ができるよう、システムの簡素化にも配慮した。

実施結果 III 「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案するとともに、国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。教員活動ポイント集計票の仕組みについて微修正を行う。

【活動内容】

○教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案した。

○教員活動ポイント集計票の仕組みについて微修正を行った。

実施結果 III 「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案するとともに、国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。

【活動内容】

○教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案するとともに、国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。教員活動ポイント集計票の仕組みについて微修正を行う。

【活動内容】

○教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ⑦ 文部科学省等の制度を利用した国内外の大学等の研究・研修への参加を促進するとともに、教員の国際会議への参加を推進する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

教員に長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を充実するとともに、教員の国際学会への参加を促進

平成26年度年度計画

FDの一環として、1名を内地研究員として大学へ派遣する。教員の国際会議への参加を推進するため、校長裁量経費で支援する。

【活動内容】

○准教授を1名内地研究員として岡山大学へ派遣した。

○校長裁量経費で5名（5件）が国際会議へ参加した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

FDの一環として、1名を高専間交流として津山高専へ派遣する。教員の国際会議への参加を推進するため、校長裁量経費で支援する。

【活動内容】

○准教授1名を、高専間交流として津山高専へ派遣した。

○助教1名を約2か月、民間企業へ研修のため派遣した。

○校長裁量経費で7名（9件）が国際会議へ参加した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

FDの一環として、在外研究員として1名をカリフォルニア大学バークレー校へ、民間企業へ1名を派遣する。教員の国際会議への参加を推進するため、校長裁量経費で支援する。

【活動内容】

○准教授1名を在外研究員として1年間、カリフォルニア大学バークレー校へ派遣

○教授1名を民間企業へ1年間、研修のため派遣

○校長裁量経費で、国際会議への参加を4名（4件）支援

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

F Dの一環として、在外研究員として1名をオーストラリアのカーティン大学へ、財団からの海外派遣で1名をオランダのトゥウェンテ大学へ、約6週間の短期英語研修で1名をニューヨーク市立大学クイーンズ校 English Language Institute へそれぞれ派遣する。教員の国際会議への参加を推進するため、校長裁量経費で支援する。

【活動内容】

- 准教授1名を在外研究員として1年間、オーストラリアのカーティン大学へ派遣した。
- 助教1名を6月から4カ月間、オランダのトゥウェンテ大学へ財団からの支援により派遣した。
- 准教授1名を7月から約6週間、ニューヨーク市立大学クイーンズ校 English Language Institute へ短期英語研修のため派遣した。
- 校長裁量経費で、国際会議への参加を4名（6件）支援した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

F Dの一環として、1名を内地研究員として東京大学へ派遣する。教員の国際会議への参加を推進するため、校長裁量経費で旅費の一部を支援する。

【活動内容】

- 准教授1名を内地研究員として1年間、東京大学へ派遣した。
- 校長裁量経費で、国際会議への参加を6名（7件）支援した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【総合分析、評価及び改善事項】

採用時の公募については、継続的に公募制を実施し、毎年度教員を採用することが出来た。なお、採用時には多様な経験を有している経歴や、博士の学位取得状況等を勘案し、優秀な教員の確保に努めた。【別表11】

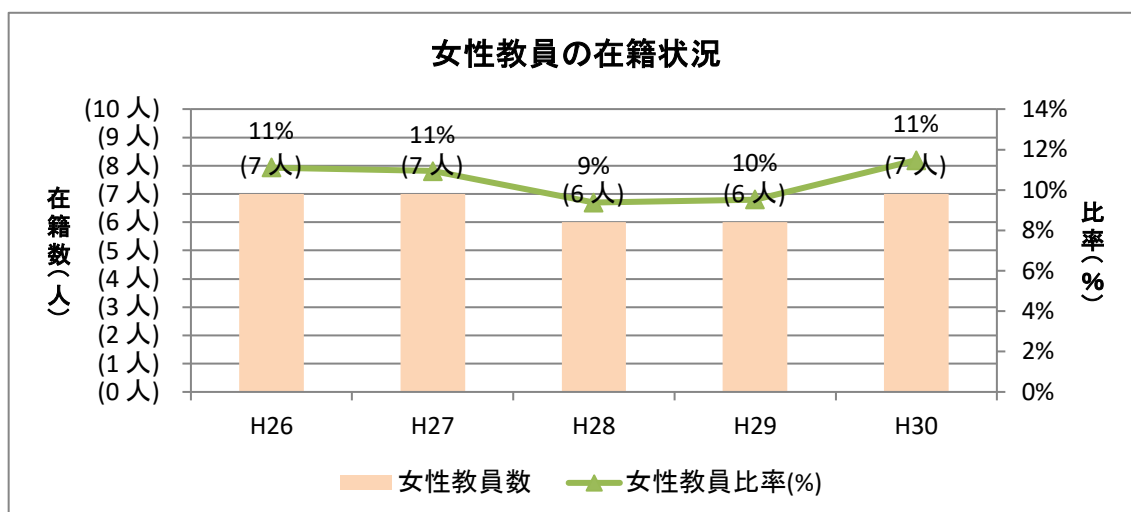
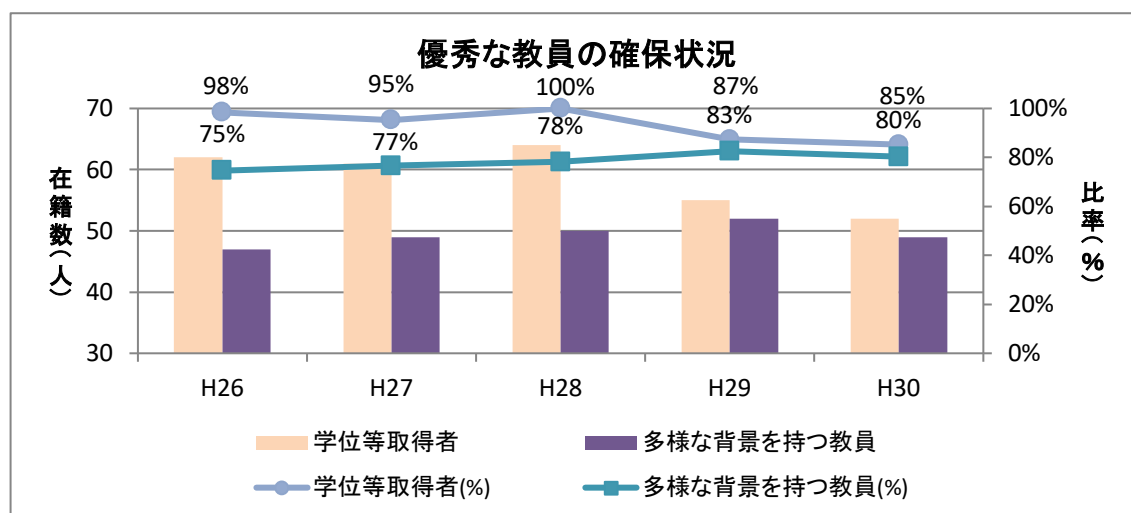
教員に対しては、在外研究員派遣、他高専や民間企業との人事交流や、継続的なF D研修等人材育成のための各種施策を実施した。また、平成28年度から導入した「教員活動ポイント」を教育研究基盤経費の傾斜配分や、校長表彰の表彰基準等の教員評価の指標と活用した。

上記事項を勘案し、優れた教員の確保について十分に実施していると評価できる。

別表11 優秀な教員等の確保(多様な背景を持つ教員、博士修得者、女性教員)

○教員数等

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
年度末教員数 (内女性教員)		63 人 (7 人)	64 人 (7 人)	64 人 (6 人)	63 人 (6 人)	61 人 (7 人)
多様な背景を持つ教員		47 人	49 人	50 人	52 人	49 人
内 訳	他学校勤務	35 人	34 人	37 人	37 人	34 人
	民間企業勤務	17 人	19 人	20 人	21 人	20 人
	海外経験	5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
学位等修得者		62 人	61 人	64 人	55 人	52 人
内 訳	博士修得者	56 人	56 人	58 人	50 人	47 人
	修士修得者 (博士取得者を除く)	6 人	5 人	6 人	5 人	5 人
専 門 科 目 一 般 科 目	博士修得者	49 人	49 人	51 人	43 人	41 人
	修士修得者 (博士取得者を除く)	2 人	2 人	2 人	1 人	1 人
	博士取得者	7 人	7 人	7 人	7 人	6 人
	修士修得者 (博士取得者を除く)	4 人	3 人	4 人	4 人	4 人



(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

【第3期中期計画】

- ① 学生の主体的な学びを実現する ICT 活用教育環境を整備し、モデルコアカリキュラムも導入することにより、教育の質保証を推進する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

モデルコアカリキュラムの導入と教育の質保証

平成26年度年度計画

モデルコアカリキュラムを考慮し、教育の質が保証できるように、Web シラバスシステムの活用を図る。ICT を活用した教材及び教育方法、教材管理システムの利活用を図る。

【活動内容】

- モデルコアカリキュラムに基づいてカリキュラムの改定を行い、Web シラバスに入力した。
- ICT を活用した教育を進めるため、ICT 活用ポリシーを策定した。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成27年度年度計画

モデルコアカリキュラムに考慮した教育を行う。ICT を活用した教材及び教育方法、教材管理システムの利活用を図る。

【活動内容】

- モデルコアカリキュラムに考慮した教育を行うため、環境都市工学科のカリキュラムを改訂した。
- タブレット型端末を利用した教育実施の試行などを行った。インターネット上の教材システムの利用を進めた。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

モデルコアカリキュラムに考慮した教育を行う。ICT を活用した教材及び教育方法、教材管理システムの利活用を図る。

【活動内容】

- モデルコアカリキュラムに考慮した教育を行うため、シラバスを Web シラバスに変更した。これにより従来の紙媒体のシラバスの印刷物を廃止し、印刷費用を節約することができた。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

モデルコアカリキュラム（本案）を考慮した新カリキュラムの検討を行う。

【活動内容】

- モデルコアカリキュラムに考慮した教育を行うため、シラバス（Web シラバス）を更新した。
- 「KOSEN4. 0イニシアティブ」のために地域実践教育センター準備WGにおいて新カリキュラムの概要を検討し、年度内に大枠を決定した。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

モデルコアカリキュラム（本案）を考慮した新カリキュラムの検討を行う。

【活動内容】

- 「KOSEN4.0イニシアティブ」のために地域実践教育センター準備WGにおいて、教員削減や時代のニーズに配慮した新カリキュラムの概要を検討し、決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ② 呉高専教育改革検討プロジェクトの答申に基づき、「地域発・インキュベート型教育」を行うことにより、学生を”世界目線”の技術者へ孵化させ、従来の「ものづくりの中核技術者」に加え、「社会を変える人材」を3%（学科で1人）育てる。

【年度計画活動内容及び実施評価】

地域発・インキュベート型教育を実現させる

平成26年度年度計画

呉高専教育改革検討プロジェクトの答申に基づき、「地域発・インキュベート型教育」を実現すべきカリキュラムを構築し、具体的教育内容及び教育方法を検討する。

【活動内容】

- 平成27年度から「地域発・インキュベート型教育」として、全学年・全学科一斉に実施するインキュベーションワークを開講するようにカリキュラムを改定し、具体的なシラバスを作成した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成27年度年度計画

「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行う。

【活動内容】

- 「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年、全教員で実施した（65テーマ）。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

アクティブラーニングを各科目に適宜導入し、学生の主体的な学習を促す。

【活動内容】

- アクティブラーニングを全教員が各自の科目で実践し、各自の実践例を報告書に取りまとめた。これについては次年度FDに活用し、授業改善に役立てる。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

アクティブラーニングを各科目に適宜導入し、学生の主体的な学習を促す。

【活動内容】

○アクティブラーニングを全教員が各自の科目で実践し、各自の実践例を報告書に取りまとめた。
実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

アクティブラーニングを各科目に適宜導入し、学生の主体的な学習を促す。

【活動内容】

○平成31年度入学生から適用される教育課程表を本校ホームページで公開した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ③ 専攻科において、他高専と連携することにより、良質な教育資源を有効活用し、教育力を向上させることで専攻科の充実を図る。

【年度計画活動内容及び実施評価】

他高専との連携による、良質な教育資源の有効活用と教育力の向上

平成26年度年度計画

専攻科の一般教育科目と専門基礎科目において、他高専（宇部高専、徳山高専）と連携し、ビデオ会議システムを用いた共同教育について具体的に検討を進める。専攻科のエンジニアリング・デザイン教育において、3高専で連携し、同じテーマで取り組む可能性について検討を始める。高専学生情報統合システムへの対応を検討する。

【活動内容】

○4高専（呉、徳山、宇部、北九州）連携教育について、5科目（数学応用工学Ⅰ、物理応用工学、化学応用工学、生命科学、経営管理工学）を平成27年度後期実施に向けて、5科目におけるシラバスを作成した。また、ICTを活用するアクティブラーニングの事例として経営管理工学において遠隔アクティブラーニングの模擬授業を実施した。（2/3）

○専攻科エンジニアリング・デザインとして、4コース合同で3Dプリンタを活用してスカイツリーを製作した。

○高専学生情報統合システムへの対応状況を検証し、報告した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成27年度年度計画

4高専連携教育を実践するためのICT環境を整備し、遠隔アクティブラーニングを推進する。高専学生情報統合システムへの対応を検討する。

【活動内容】

○4高専連携教育を実践するためのICT環境を整備し、専攻科の後期から連携授業を実施し、経営システム工学において遠隔アクティブラーニングを実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

4高専連携教育を実践するため、ICT機器を活用し、遠隔アクティブラーニングを実践する。高専学生情報統合システムへの対応を検討する。

【活動内容】

○専攻科改組に伴い ICT 環境が整ったアクティブラーニング室を専攻科棟内に 2 室整備し、5 高専連携教育を実践した。

○専攻科経営マネジメント(連携教育)にて ICT 機器を活用した遠隔アクティブラーニングを実践した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 29 年度年度計画

6 高専連携教育を実践するため、ICT 機器を活用し、遠隔アクティブラーニングを実践する。高専学生情報統合システムへの対応を検討する。

【活動内容】

○後期より、5 高専（呉・宇部・北九州・広島商船・大島商船）連携教育において、ICT 機器を活用した遠隔アクティブラーニングを実践した。

○機構本部主催で広島市で行われた 9 月 15 日の研修会に教職員 3 名が参加した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 30 年度年度計画

6 高専連携教育を実践するため、ICT 機器を活用し、遠隔アクティブラーニングを実践する。機構本部と連携し、高専学生情報統合システムの対応を検討する。

【活動内容】

○後期より、4 高専（呉・宇部・広島商船・大島商船）連携教育において、ICT 機器を活用した遠隔アクティブラーニングを実践した（専攻科）。

○機構本部主催で実施する各種研修会に、教職員が適宜参加して、システム導入に向けて対応を検討している。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第 3 期中期計画】

- | |
|--|
| ④ 在学中の資格取得を積極的に推進するとともに、JABEE プログラムを再構築することにより、教育の質の向上を図る。 |
|--|

【年度計画活動内容及び実施評価】

JABEE プログラムの再構築と資格取得の積極的な推進

平成 26 年度年度計画

在学中の資格取得を積極的に推進する。現在 4 つ存在する JABEE プログラムの統一に向け、具体的に対応を始める。

【活動内容】

○宅地建物取引主任者を非常勤講師として雇用して「不動産概論Ⅰ（建築学科）」を開講し、学生の資格取得を推奨した。その結果、2 名の資格取得者があった。

○平成 28 年度の専攻科改組については「プロジェクトデザイン工学専攻」の 1 専攻に改組する方向で機構本部の了承のもと、3 月 10 日に文部科学省にてヒアリングを受けた。

○JABEE については、平成 29 年度に改組後の専攻科から修了生が輩出されるので、平成 2

9年度にJABEEの統一手続きの申請を行う予定である。
実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

在学中の資格取得を積極的に推進する。

【活動内容】

- 宅地建物取引主任者を非常勤講師として雇用して「不動産概論Ⅰ（建築学科）」を開講し、学生の資格取得を推奨した。
- 機械設計技術者試験の受験会場を提供し、本校の学生の受験を推進した（本校学生17名が機械設計技術者試験3級を受験）。
- JABEE 認定継続審査を受審し、専攻科建設工学専攻 環境都市工学プログラムが継続認定された。
- 平成28年度に専攻科の改組に伴ったJABEE受審のために一本化に向けて検討する。

実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

平成28年度年度計画

在学中の資格取得を効果的に支援する方法を見直し、積極的に推進する。JABEE 認定の環境都市工学プログラムを専攻科改組に伴って変更申請する。

【活動内容】

- 宅地建物取引主任者に関して非常勤講師により「不動産概論Ⅰ（建築学科）」を開講し、学生の資格取得を推奨した（本校建築学科学生13名が宅地建物取引主任者試験を受験）。
- 機械設計技術者試験の受験会場を提供し、本校の学生の受験を推進した（本校機械工学科学生14名が機械設計技術者試験3級を受験）。
- 平成28年度に専攻科の改組に伴ったJABEE受審のために一本化に向けて検討した結果、平成29年度4月に本科4年生に対して、プロジェクトデザイン工学プログラムの提示を行う予定である。
- JABEE 認定の環境都市工学プログラムを専攻科改組に伴って変更申請した結果、平成32年度まで認められた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

学生の在学中の資格取得を積極的に推進する。

【活動内容】

- 宅地建物取引士の資格をもつ非常勤講師として雇用して「不動産概論Ⅰ（建築学科）」を開講し、学生の資格取得を推奨した（建築学科学生14名が宅地建物取引士試験を受験し、1名が合格した）。
- 機械設計技術者試験の試験会場に本校教室を提供し、機械工学科学生26名が機械設計技術者3級を受検し、11名が合格した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

学生の在学中の資格取得を積極的に推進する。

【活動内容】

○宅地建物取引士の資格をもつ非常勤講師を雇用して「不動産概論Ⅰ（建築学科）」を開講し、学生の資格取得を推奨した。

○機械設計技術者試験の試験会場に本校教室を提供し、機械工学科の学生の受験を推奨した。

○資格を取得した場合、資格によっては単位取得として認めることによって、資格取得を促進した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

⑤ 高専間や大学等の多方面における学生の交流活動を積極的に推進する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

高専間や大学等の多方面における学生の交流活動を積極的に推進

平成26年度年度計画

包括連携協定締結校である広島大学をはじめとする大学におけるインターンシップを含め、学生の交流活動を推進する。中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。

【活動内容】

○夏季休業期間中に、包括連携協定校の広島大学へ本科生2名が校外実習、専攻科生2名がインターンシップに行き、大阪大学へ本科生1名が校外実習として行き、交流を図った。

○専攻科生研究交流会が4月25日～26日にRCC文化センター（広島市）で開催され、専攻科2年生全員が発表をし、1年生全員が聴講した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

包括連携協定締結校である広島大学をはじめとする大学におけるインターンシップを含め、学生の交流活動を推進する。中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。

【活動内容】

○夏季休業期間中に、東北大学に本科生2名、長岡技術科学大学に本科生1名がそれぞれ校外実習として行き、交流を図った。

○専攻科生研究交流会が4月25日～26日に徳山高専で開催され、専攻科2年生は全員発表をし、1年生は全員聴講した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

包括連携協定締結校である広島大学をはじめとする大学におけるインターンシップを含め、学生の交流活動を推進する。中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。

【活動内容】

○夏季休業期間中に、広島大学に本科生3名が校外実習で行き交流を行った。また、長岡技術科学大学に本科生1名が「戦略的技術者育成アドバンスコース」で参加し、交流を行った。

○専攻科生研究交流会が4月28日～29日に新居浜高専で開催され、専攻科2年生は17名が発表、1年生は15名が発表した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 29 年度年度計画

広島大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学等とインターンシップ等を含め、学生の交流活動を推進する。中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。

【活動内容】

○夏季休業期間中に、本科の学生が校外実習として大阪大学に 1 名、長岡技術科学大学に 1 名、豊橋技術科学大学に 3 名それぞれ参加し、交流を図った。

○4 月 21 日～22 日に宇部高専において平成 29 年度中国・四国地区高専専攻科研究交流会が開催され、専攻科 2 年生 8 名が研究発表を行った。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成 30 年度年度計画

広島大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学等とインターンシップ等を含め、学生の交流活動を推進する。

【活動内容】

○夏季休業期間中に、本科の学生が校外実習として大阪大学に 2 名、長岡技術科学大学に 1 名、広島大学に 1 名それぞれ参加し、交流を図った。

○専攻科 1 年生の長期インターンシップとして、広島大学に 2 名、長岡技術科学大学に 1 名、兵庫県立大学に 2 名が参加し、交流活動を推進した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第 3 期中期計画】

⑥ 呉高専教育改革検討プロジェクトから答申された「地域発・インキュベート教育」による特色ある教育への取組や優れた教育実践例を機構へ提供する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

特色ある優れた教育実践例や取組事例を収集・公表し、教育方法の改善を促進する。

平成 26 年度年度計画

スマートボードを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を公開する。平成 27 年度からの先行実施に向け、「地域発・インキュベート型教育」への取組を具体化する。

【活動内容】

○3 月末にスマートボードと高速無線 LAN のアクセスポイントおよび 8 台のタブレット端末を大講義室に整備した。平成 27 年度後期から経営管理工学の中で、遠隔アクティブラーニングを実施する予定である。

○平成 27 年度から「地域発・インキュベート型教育」として、全学年・全学科を対象に全教員が実施するインキュベーションワークを開講するようにカリキュラムを改定した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成 27 年度年度計画

スマートボードを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を公開する。「地域発・インキ

ュベート型教育」として、「インキュベーションワーク」を全学年において実施し、各メディアを通じて公表する。4 高専連携教育においてスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を公開する。

【活動内容】

- スマートボードを用いた授業を実施し、保護者参観公開授業で公開した。
- 「地域発・インキュベート型教育」として、「インキュベーションワーク」を全学年において実施し、取り組み事例が中国新聞に掲載された。
- 4 高専連携教育でスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業を実施した。1 1 月中に学生アンケートを行ったが、学生の満足度は低かったため、平成 2 8 年 3 月 2 3 日に連携教育担当教員 FD を開催した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 2 8 年度年度計画

スマートボードを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を公開する。「地域発・インキュベート型教育」として、「インキュベーションワーク」を全学年において実施し、各メディアを通じて公表する。4 高専連携教育においてスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を実践し、公開する。

【活動内容】

- スマートボードを用いた授業を実施し、保護者参観公開授業で公開した。
- 「地域発・インキュベート型教育」として、「インキュベーションワーク」を全学年において実施し（7 0 テーマ）、取り組み事例が呉市の広報誌のトップ記事として掲載された。
- 5 高専連携教育でスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を高専フォーラムで公開した。
- 5 高専連携教育について 1 1 月中に学生アンケートを行い、学生の満足度は昨年より改善したが、高いとは言えず、1 月 5 日に関係する高専の専攻科長会議を行い、対応を検討した。アンケート結果については新年度ガイダンス（4 月）で学生に対して公表した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 2 9 年度年度計画

3 年目となった「インキュベーションワーク」を全学年において実施し、各メディアを通じて公表する。

【活動内容】

- 「地域発・インキュベート型教育」として、「インキュベーションワーク」を全学年において実施し（合計 7 9 テーマ）、取り組み事例の一部が中国新聞や朝日新聞等の記事として 1 6 件掲載され、TV でも 1 3 件紹介された。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 3 0 年度年度計画

4 年目となった「インキュベーションワーク」を全学年において実施し、各メディアを通じて公表する。6 高専連携教育においてスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を実践し、公開する。

【活動内容】

○「地域発・インキュベート型教育」として、「インキュベーションワーク」を全学年において実施し、その取り組み事例の一部が中国新聞や朝日新聞等の記事として紹介されている。

○後期より、4 高専（呉・宇部・広島商船・大島商船）連携教育において、ICT 機器を活用した遠隔アクティブラーニングを実践した（専攻科）。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

【第3期中期計画】

⑦ 機関別認証評価の結果を教育の改善に活用する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

機関別認証評価の結果を教育の改善に活用する。

平成26年度年度計画

機関別認証評価結果に基づいて、教育を改善するための取組を行う。

【活動内容】

○教育理念や教育目標の周知を図るために、今年度から2～5年生を対象とした新年度ガイダンスを4月7日に実施した。なお、新入生と専攻科生に対しては従来からの新入生オリエンテーション、専攻科2年生オリエンテーションで周知した。

○学修単位科目における事前学習・事後展開の具体的な内容を学生に伝えるため、シラバスに自学自習の実施内容と確認方法を明記した。

○「地域発・インキュベート型教育」としてインキュベーションワークを新設するなど、カリキュラムの改定を行った。また、専攻科については、平成28年度から現在の2専攻を1専攻に統合することとした。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

機関別認証評価結果に基づいて、教育を改善するための取組を行う。

【活動内容】

○教育理念や教育目標の周知を図るために、2～5年生を対象とした新年度ガイダンスを4月7日に実施し、周知するようにした。なお、新入生と専攻科生に対しては従来からの新入生オリエンテーション、専攻科2年生オリエンテーションで周知した。

○平成28年度からの専攻科改組に伴い、平成29年度を目標にした本科改組を行うために本科改組WGを組織し、検討したが、機構本部に承認されなかったため、引き続き検討する。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

機関別認証評価結果に基づいて、教育を改善するための取組を行う。運営顧問会議を実施し、本校の教育・研究活動についての自己点検評価を行う。

【活動内容】

○本校の教育理念や学習・教育目標を基に3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッションポリシー）を新たに設定し、3月に公開した。

○本科新入生（4/4～4/6）、専攻科新入生（4/4）を対象に新入生オリエンテーションを、

本科2～5年生を対象に新年度ガイダンス（4/4）を実施し、新しい制度（90分授業など）を周知した。

○運営顧問会議を3月1日に開催し、本校の教育・研究活動についての自己点検評価を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

機関別認証評価や運営顧問会議の結果に基づき、教育改善に努める。

【活動内容】

○9月21日～22日に高専機構による監事監査を受け、本校の特色ある取組や優れた取組の評価を得るとともに、改善点の指摘を受けた。

○運営顧問会議を2月28日に開催し、本校の教育・研究活動についての自己点検評価を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

機関別認証評価や運営顧問会議の結果に基づき、教育改善に努める。

【活動内容】

○運営顧問会議を2月26日に開催し、本校の教育・研究活動についての自己点検評価を実施した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|---|
| ⑧ インターンシップ等による産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育の推進を図る。 |
|---|

【年度計画活動内容及び実施評価】

地域産業界との連携

平成26年度年度計画

本科生の学外実習や専攻科生のインターンシップを積極的に奨励・支援する。地域の産業界と連携した共同教育を実施する。

【活動内容】

○本科4年生161名中、127名（79%）が校外実習に参加した。

○専攻科1年生12名中、病気の1名を除く残り11名全員がインターンシップに参加した。

○(株)アドウインと共同して教材作成を行っており、次年度も引き続き実施予定である。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

本科生の学外実習や専攻科生のインターンシップを積極的に奨励・支援する。特に専攻科では平成28年度長期インターンシップの実現に向けて、今年度はプレステージとして4週間程度のインターンシップを実施する。地域の産業界と連携した共同教育を実施する。

【活動内容】

○本科4年生170名中、140名が校外実習に参加した。

○専攻科の1年生25名がインターンシップ（最長期間：45日（実労働日数22日）に参加した。来年度からの長期インターンシップの受け入れ企業を確保するための企業訪問を行い、民間8社・行政など3機関などの受け入れ企業を確保した。

○インキュベーションワークの授業立案に際して、民間企業よりコンサルタント1名を講師として雇用し、共同教育を立案・実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

本科生の学外実習を積極的に奨励・支援する。専攻科生は平成28年長期インターンシップを実施し、実習期間中は学生のフォローを行う。また次年度に向けて、長期インターンシップ受入先の確保を行う。地域の産業界と連携した共同教育を実施する。

【活動内容】

○本科4年生169名中、146名が校外実習に参加した。

○専攻科の1年生23名が長期インターンシップ（5/9～8/4）に参加した。

○インキュベーションワークの授業立案・実施に当たり、民間企業よりコンサルタント1名にプログラムディレクターを委嘱し、共同教育を立案・実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

本科生の校外実習を積極的に奨励・支援する。専攻科生は長期インターンシップを実施し、実習期間中は学生のフォローを行う。また次年度に向けて、長期インターンシップ受入先の確保を行う。

【活動内容】

○本科4年生158名中、144名（機械34名、電気37名、環境40名、建築33名）が校外実習に参加した。

○インキュベーションワークの授業立案・実施に当たり、民間企業よりコンサルタント1名にプログラムディレクターを委嘱し、適宜、助言・指導を得た。

○5月8日～7月14日の期間において、専攻科1年生19名が長期インターンシップを実施し、8月4日にインターンシップ報告会を開催した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

本科生の校外実習を積極的に奨励・支援する。専攻科1年生において長期インターンシップを実施する。

【活動内容】

○本科4年生174名中、139名（機械31名、電気30名、環境39名、建築39名）が校外実習に参加した。今年度は平成30年7月豪雨の影響で受入企業の事情により中止となるケースがあった。

○5月7日～7月20日の期間において、専攻科1年生43名が長期インターンシップを実施し、10月19日にインターンシップ報告会を開催した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

【第3期中期計画】

- ⑨ 企業技術者や外部の専門家など、知識・技術をもった人材に加え、幅広いスキルやネットワークを有した外部人材を活用し、教育体制の充実を図る。

【年度計画活動内容及び実施評価】

幅広いスキルやネットワークを有した外部人材を活用した、教育体制の充実

平成26年度年度計画

企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授（技術アドバイザー）として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。地域に対して卒業研究テーマを公募し、地域とともに学生教育を支援する。幅広いスキルやネットワークを有した外部人材を「プログラム・ディレクター」として登用し、「地域発・インキュベート型教育」の達成に向けた推進組織を立ち上げる。

【活動内容】

○知財教育、キャリア教育、グローバル教育に関して特命教授などを雇用し、それぞれの教育を推進した。また、ものづくりコーディネータ及び教育アドバイザーを雇用し、前者では3Dプリンタ、CAD・CAM教育を、後者では学内アクティブラーニングの構築を進めた。

○地域に対して卒業研究テーマを公募した結果11テーマの応募があり、本校教員の研究分野の整合性から5テーマを採択し、担当学生がそれぞれの卒業研究テーマとして実施した。

○外部人材を登用することにより、「地域発・インキュベーション型教育」を実施するために、推進組織としてインキュベーションデザイン室を設けるとともに、プログラムディレクターを置くこととした。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成27年度年度計画

企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授（技術アドバイザー）として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。地域に対して卒業研究テーマを公募し、地域とともに学生教育を支援する。

【活動内容】

○インキュベーションワークの特別講師に企業の方を13名（延べ50名）招聘し、共同教育を実施した。

○地域に対して卒業研究テーマを公募した結果、7件の応募があり、本校教員の研究分野の整合性からこの内5件を採択し、担当学生がそれぞれの卒業研究テーマを実施、すべて完了した。研究を進めるにあたっては、スポットで依頼者、担当教員、学生を含めて研究の方向性についてディスカッションを行った。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成28年度年度計画

企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授（技術アドバイザー）として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。地域に対して卒業研究テーマを公募し、地域とともに学生教育を支援する。専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募により優秀な人材を確保する。

【活動内容】

○インキュベーションワークの特別講師に外部の方を11名(延べ26名)招聘し、共同教育を実施した。

○地域に対して卒業研究テーマを公募した結果、8件の応募があり、本校教員の研究分野の整合性からこの内6件を採択し、担当学生がそれぞれの卒業研究テーマを実施した。研究を進めるにあたっては、スポットで依頼者、担当教員、学生を含めて研究の方向性についてディスカッションを行った。

○専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募し、確保した。優秀な人材により、それぞれ担当の教育を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を検討する。

【活動内容】

○8月30日に群馬大学、9月26日、2月2日に豊橋技術科学大学、10月25日に長岡技術科学大学の進路説明会を実施した。

○長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を実施した。8～9月の夏期休業期間中に、本科166名中111名、専攻科1年生全員27名が校外実習・インターンシップを履修した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

地域に対して卒業研究テーマを公募し、地域とともに学生教育を支援する。

【活動内容】

○地域に対して卒業研究テーマを公募した結果、9件の応募があり、本校教員の研究分野の整合性からこの内3件を採択し、担当学生がそれぞれの卒業研究テーマを実施した。研究を進めるにあたっては、スポットで依頼者、担当教員、学生を含めて研究の方向性についてディスカッションを行いながら実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|---|
| ⑩ 理工系大学との間で、教員の研修、教育課程の改善、卒業生の継続教育などで、有機的な連携を推進する |
|---|

【年度計画活動内容及び実施評価】

理工系大学との間で、有機的な連携を推進する

平成26年度年度計画

長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を検討する。

【活動内容】

○11月7日に長岡技術科学大学の出前授業および学校紹介を実施した。

○長岡・豊橋両技術科学大学で開催されるワークショップ等への学生および教員の参加を推奨し

た。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を検討する。

【活動内容】

○12月10日に長岡技術科学大学の出前授業・学校紹介を、12月16日に同大学の生物機能工学科の学科紹介をそれぞれ実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を検討する。

【活動内容】

○11月2日に豊橋技術科学大学、12月19日に熊本大学の大学紹介を実施した(12月時点)。また、1月11日に大阪大学、1月23日に豊橋技術科学大学(2回目)の大学紹介を実施した。これにより学生への進路情報をより詳しく提供・説明することができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を検討する。

【活動内容】

○8月30日に群馬大学、9月26日、2月2日に豊橋技術科学大学、10月25日に長岡技術科学大学の進路説明会を実施した。

○長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を検討する。

【活動内容】

○12月に熊本大学、1月に豊橋技術科学大学の進路説明会を実施した。

○長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を実施した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|---|
| ⑪ アクティブラーニングを効果的に実施できるように校内ネットワーク等の情報基盤を整備し、ICT活用教育を充実する。 |
|---|

【年度計画活動内容及び実施評価】

インターネットなどを活用したICT活用教育の取組の充実

平成26年度年度計画

ICT活用教育に必要な情報機器及び校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を

進める。eラーニングやスマートボードを利用した授業など、ICTを活用した教育を充実する。

【活動内容】

○教育センターの中に教育環境タスクフォースを立ち上げ、パソコン演習室の更新を念頭に、ICTを活用した教育環境整備に向けた検討を行った。その結果、学生の私有パソコンの使用状況の変化も考慮してパソコン演習室の更新は平成29年度にすることとした。

○3月末にスマートボードと高速無線LANのアクセスポイントおよび8台のタブレット端末を大講義室に整備した。平成27年度後期から、経営管理工学の中で、遠隔アクティブラーニングを実践する予定である。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

ICT活用教育に必要となる情報機器及び校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を進める。eラーニングやスマートボードを利用した授業など、ICTを活用した教育を充実する。

【活動内容】

○教育センター内の教育環境改善WGにおいて、平成29年度を想定したパソコン演習室の更新と集約化について検討した。

○数学などでeラーニングによる教材を実際に使用し、Blackboard移行に向けて、函館高専主催の到達度試験(CBT)トライアルを実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

ICT活用教育に必要となる情報機器及び校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を進める。eラーニングやスマートボードを利用した授業など、ICTを活用した教育を充実する。4高専連携教育においてスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を実践し、公開する。

【活動内容】

○教育センター内の教育環境改善WGにおいて、平成29年度を想定したパソコン演習室の更新と集約化について検討した。

○数学などでeラーニングによる教材を実際に使用し、Blackboard移行に向けて到達度試験(CBT)トライアルを物理で10月に実施した。

○4高専連携教育でスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を高専フォーラムで公開した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

授業時間以外でeラーニングを中心とした自主学習を低学年を中心に促し、学生の基礎学力を高める。6高専連携教育においてスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業を推進する。

【活動内容】

○1年生全員に対し、数学や英語などでeラーニングによる教材(すららなど)を昨年に引き続き使用し、学生の自宅学習の改善に努めた。

○後期より、5 高専（呉・宇部・北九州・広島商船・大島商船）連携教育において、スマートボードやビデオ会議システムを用いた授業を実施した。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成30年度年度計画

授業時間以外でeラーニングを中心とした自主学習を低学年を中心に促し、学生の基礎学力を高める。6 高専連携教育においてスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を実践し、公開する。

【活動内容】

○1 年生全員に対し、数学や英語などでeラーニングによる教材（すららなど）を昨年に引き続き使用し、学生の自宅学習の改善に努めた。

○後期よりアドウインのeラーニングを導入し、数学の自宅学習用教材として活用した。

○後期より、4 高専（呉・宇部・広島商船・大島商船）連携教育において、ICT 機器を活用した遠隔アクティブラーニングを実施した（専攻科）。

実施結果 III「十分に実施した。」

【総合分析、評価及び改善事項】

モデルコアカリキュラム及びアクティブラーニングを導入するため、平成28年度に地域実践教育センター準備WGを組織し、時代のニーズに則した新カリキュラム改定に向けての検討を行った。

また、教育センター内に教育環境改善WGを組織し、ICT活用教育の環境整備のため検討を行った。検討の結果、平成29年度にパソコン演習室の更新、学内の通信環境の整備、eラーニングシステムの導入等を実施した。また、専攻科においては他高専との遠隔連携教育を実施するため、ビデオ会議システム及び電子黒板の導入を行った。

資格取得を推進する取組として、資格保有者による授業科目の開講や、本校を試験会場として誘致する等の取組を行った。学生の交流活動については、夏季休暇や長期インターンシップ等を活用し、積極的な交流を図った。

平成25年度に実施した機関別認証評価の結果を受け、平成26年度から新入生オリエンテーションの充実や、シラバスの変更、カリキュラムの改定等の各種施策を講じた。各種施策を講じたうち、平成27年度に本科の改組に向けたWGを立ち上げ検討を重ねたが、高専機構本部からの承認が得られず、本科の改組については達成することができなかった。【別表12】

地域産業界や企業技術者等との連携については、校外学習やインターンシップはもちろんのこと、インキュベーションワークを活用し、民間企業から講師を招聘し、地元の課題に対して各種の取組を実施した。また、卒業研究でも地域から課題を募集し、課題解決に取り組んだ。【別表13】

上記事項を勘案し、教育の質の向上及び改善について十分に実施したと評価できる。

別表12 平成25年度受審機関別認証評価 改善点についての対応一覧表

	改善を要する点	対応部署等	改善対処方針 《平成25年度第8回総務委員会審議(平成25年12月4日)》	対応状況
基準1	教育理念や教育目標に関する周知を図る取り組みはなされているものの、準学士課程、専攻科課程ともに学生の周知状況は十分とは言えない。	教務主事	・新学期ガイダンス（4月初旬、2時間）を実施し、全員に周知を徹底 対象：2～5年生及び教員 ・新入生オリエンテーション（4月初旬、1時間）での周知を徹底 対象：1年生及び教員 ・専攻科新入生オリエンテーション（4月初旬、1時間）、2年生ガイダンス（4月初旬、1時間）での周知を徹底 対象：全専攻科生及び教員	○毎年実施する新学期ガイダンスにて周知徹底 《平成26年度以降》 本科：配付資料(キャンパスガイド)に教育理念、教育目標、ポリシーを記載。新学期ガイダンス(2時間)を毎年実施し、全員に周知を徹底(対象：2～5年生及び教員)また、新入生オリエンテーション(1時間)を毎年実施し、周知を徹底(対象：1年生及び教員) 専攻科：配付資料(スタディズアンドキャンパスライフ)に教育理念、教育目標を記載、ポリシーは本校HPに記載している旨口頭周知。専攻科新入生オリエンテーション(1時間)、2年生ガイダンス(1時間)を実施し、周知を徹底(対象：全専攻科生及び教員)
基準5	準学士課程、専攻科課程ともに学修単位科目に関してシラバス冒頭に自学・自習の必要性について記述されているものの、各授業科目のシラバスにおいては、事前学習、事後展開の具体的な内容が明記されておらず、学生に伝わりにくい状況にある。	教務主事	・シラバスに明記（2行程度）	○シラバス改定 《平成26年度以降》 一部科目については、各科目シラバスに事前学習・事後展開について記載。その後、全科目に渡り事前学習、事後展開の具体的な内容を明記 《令和元年6月の高等教育の修学支援新制度の申請時》 事前学習、事後展開の具体的な内容を明記 《令和元年度 教務委員会(令和元年12月4日)》 自学自習内容をシラバスに新しく明記することを承認 《令和元年度 教員会(令和元年12月18日)》 教員会で教員にWebシラバス作業について依頼 ○学修単位の説明 《平成26年度以降》 シラバスの前書きにて説明している
基準6	カリキュラムの再構築に向けて教育改革検討プロジェクトを設置して、改善の取組みを進めているものの、準学士課程の教育目標の達成状況を把握・評価する方法には、必修選択科目や選択科目の修得状況との関連で不明瞭な点がある。 また、専攻科課程の教育目標の達成状況を把握・評価する方法としているプログラム修了要件には、準学士課程で達成可能な内容を含んでおり、一部不明瞭な点がある。	教育改革検討プロジェクト 専攻科長	本科及び専攻科とも ・具体的到達目標の設定及びその実現方法の検討（それを達成するために必要な科目の必修化など） ・カリキュラムの再構築 ・専攻科の一本化 ・JABEEの一本化 なお、専攻科のカリキュラムについては、専攻科及びJABEEの一本化も念頭に置き、専攻科長が先行して検討を開始	○呉高専教育改革検討プロジェクト中間報告への対応 《平成26年度 第3回教員会(平成26年6月11日)》校長報告 資料2 中間報告への対応について 《平成26年度 第7回教員会(平成26年11月12日)》校長報告 レジューメ及び資料4 本科の改組について 《平成27年度 第3回教員会(平成27年6月10日)》校長報告 本科改組検討WGの設置について 検討を行った 《平成28年度 第9回教員会(平成28年12月19日)》校長報告 地域実践教育センター準備WGの設置について 検討を行い、平成31年4月1日から新カリキュラムを導入した ○高専MCCに準拠した新カリキュラムの導入を決定し、平成27年4月1日から実施 《平成26年度 第8回教務委員会(平成26年10月24日)》第7回教員会報告資料 新カリキュラムの導入を決定した ○専攻科を改組し、平成28年度からプロジェクトデザイン工学専攻に一本化 《平成26年度 第3回教員会(平成26年6月11日)》専攻科資料 専攻科を改組し、プロジェクトデザイン工学専攻に一本化を検討。学位授与機構に申請することを決定した 《平成27年度 第6回教務委員会(平成27年8月7日)》 学位授与機構に申請することを決定した ○JABEEの一本化 《平成26年度 第3回教員会(平成26年6月11日)》 専攻科のカリキュラムについては、専攻科及びJABEEの一本化も念頭に置き、専攻科長が先行して検討することを、以下のとおり実施 《平成26年度 第7回総務委員会(平成26年11月7日)》 本科及び専攻科の具体的到達目標の設定及びその実現方法の検討、カリキュラムの再構築、専攻科の一本化を行った。 各学科の意向もあることから、継続して検討中である
	一部の学科・専攻の企業アンケート以外は、卒業・修了生や進路先の関係者から教育目標の達成状況についての直接の意見聴取がなされていない。	自己点検等管理委員会 (総括：黒木副校長)	・H24年度に教育目標を変更したため、教育目標変更後初めての卒業生が出るH29年以降に卒業・修了生や進路先の関係者から意見聴取を実施	○卒業を控えた5年生及び専攻科2年生を対象のアンケート 《令和元年度 第12回教務委員会(令和2年2月12日)》 アンケートの実施を決定し、アンケートを実施 《令和元年度 第38回教務連絡会(令和2年3月27日)》 結果を報告し、分析・検討を行った。分析結果検討後、教務委員会にて審議を行った。 ○過去3年間(2017年～2019年)に本校の「校外実習」および専攻科の「3ヵ月インターンシップ」の受け入れ実績がある企業246社にアンケート調査を実施 《令和元年度 第29回教務連絡会(令和2年1月21日)》 アンケートの実施を決定し、アンケートを実施 《令和元年度 第38回教務連絡会(令和2年3月27日)》 結果を報告し、分析・検討を行った。分析結果検討後、教務委員会にて審議を行った。
	教育目標の達成状況に関する、直接の意見聴取ではないが、卒業生アンケートにおいて満足度の調査がなされており、英語についての満足度が低く表れている。	英語科 教育改革検討プロジェクト	・英語科と教育改革検討プロジェクトで相互に連携を取りながら検討	○英語科と教育改革検討プロジェクトで相互に連携を取りながら検討 ○言語運用の4技能(読む・書く・聞く・話す)を重視したカリキュラムへの見直しを実施 《平成25年度 第9回入試委員会(平成25年9月27日)》 本校専攻科入試において、平成27年度実施入試から、TOEICで一定基準を満たした場合のみ出願が可能となるよう入試制度改革を決定 《平成26年度 第6回入試委員会(平成26年6月18日)》 TOEICの出願資格を見直した 《令和元年度 第12回教員会(令和2年3月4日)》 本校の英語レベルの向上結果を報告
基準8	バリアフリー化への取組みは、改善に向けて取り組まれているものの、なお、改善の余地がある。	施設計画部会	・保健室を2階から1階に移設するなどの検討を今年度中に行う。 ・図書館のバリアフリー化（階段にスロープを併設）は当面行わない。	○バリアフリーマップの整備 《平成26年度》 バリアフリーマップを作成し、HP掲載 ○第二体育館スロープ設置 《平成26年度 第1回総務委員会施設計画部会(平成26年5月19日)》 第二体育館スロープ設置承認。同年度に設置 ○図書館棟へのエレベーター設置及び保健室の図書館棟1階への移動 《平成29年度 第3回総務委員会施設計画部会(平成29年12月5日)》 図書館改修を平成31年度概算の要求で順位1位とすることが承認 《平成31年度 施設整備費補助金として交付決定(平成31年4月22日)》 図書館改修を着手、完成は令和2年6月

別表12 平成25年度受審機関別認証評価 改善点についての対応等一覧表

	改善を要する点	対応部署等	改善対処方針 《平成25年度第8回総務委員会審議(平成25年12月4日)》	対処状況
基準9	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取結果を基に行われる教育の状況に関する自己点検評価の実施状況は、不十分な点が見られ、公表されている自己点検評価には、点検評価の評価内容が十分には記述されていない。	自己点検等管理委員会 (総括：黒木副校長)	・教育点検システムに関するPDCAサイクルのうち、CAに関するシステムの構築(授業アンケート等、各種アンケート内容の見直し等を含む) ・教員評価内容の見直し	OCAIに関するシステム構築(授業アンケート等、各種アンケート内容の見直し等を含む) 《平成25年度 第1回自己点検評価委員会(平成26年2月7日)》 教育環境に関する学生評価アンケートの見直し実施 《平成27年度 第1回自己点検評価委員会(平成27年10月1日)》 アンケート結果の形骸化を受け、別途授業アンケートを実施し、教員評価の「教育活動」に部分に反映させ、教育環境に関する学生評価アンケートは平成27年度から実施しないこととした ○教員評価内容の見直し 《平成27年度 第1回自己点検評価委員会(平成27年10月1日)》 《平成27年度 第2回自己点検評価委員会(平成27年10月14日)》 《平成27年度 第3回自己点検評価委員会(平成27年10月19日)》 《平成27年度 第11回総務委員会(平成27年12月3日)》 《平成28年度 第1回自己点検評価委員会(平成29年2月24日)》 教員評価方法について見直しを実施
基準10	外部資金の獲得状況については、改善が図られているものの、なお、改善の余地がある。	副校長(総務企画)	・科学研究費補助金及びその他補助金について採択件数や獲得金額を増やすよう、環境を整備・教員評価内容にも実績を反映	○教員評価の見直し 《平成27年度 第11回総務委員会(平成27年12月3日)》 外部資金獲得のため、教員評価について研究評価の見直しを実施。 ○研究企画会議の組織化 《平成28年度》 副校長、各分野代表で構成する研究企画会議を組織。各分野の進捗管理及び競争的資金の獲得を支援する体制とした。ただし、試行実施であったため、規則整備は行わなかった 《令和2年度 第3回総務委員会(令和2年6月4日)》 研究活動の目的、基本方針及び目標を校長裁定にて明文化 《令和2年度 第4回総務委員会(令和2年7月10日)》 体制に専攻科長及び協働研究センター長を加え、研究企画会議を規則化
基準11	学校の活動の総合的な状況に対する効果的な自己点検評価の実施について、評価項目・評価基準の設定が不十分であり、公表されている自己点検評価には、点検評価の評価内容が十分には記述されていない。	自己点検等管理委員会 (総括：黒木副校長)	・各組織の活動ならびに学校全体としての活動に関する点検・評価システムの構築(年度目標の設定・実施内容の報告ならびにその検証とそれを受けての見直し) ・学校組織・委員会等の見直し ・年度計画の見直し・スリム化	○各組織の活動ならびに学校全体としての活動に関する点検・評価システムの構築 ○学校組織・委員会等の見直し 《平成25年度～令和元年度》 校長において数値等に伴う各種評価を実施し、運営顧問会議の場で評価結果を報告。翌年度第1回目の教員会にて評価結果を報告。 《平成25年度 第1回自己点検等管理委員会》 自己点検等における学則改正 《平成25年度 第10回総務委員会(平成26年2月7日)》 各種委員会委員の効率化を図るため、組織の見直しを行い、委員会数及び委員数の増減を行った。その際に自己点検等管理委員会専門小委員会を自己点検等管理委員会へ統合 《平成27年度 第11回総務委員会(平成27年12月3日)》 自己点検・評価委員会規則制定。規則制定に併せて、自己点検等管理委員会を廃止 《令和2年度 第2回自己点検・評価委員会(令和2年6月4日)》 自己点検・評価体制を検討 《令和2年度 第4回総務委員会(令和2年7月9日)》 自己点検・評価規則を改正し、自己点検・評価委員会専門部会を規則化 ○年度計画の見直し・スリム化 機構本部が策定する年度計画に対応させる必要があるため、大幅な見直しを行うことは困難であった

別表13 教育の質の向上及び改善のためのシステム

○ 校外実習・インターンシップ実施状況

			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
校外実習 （本科）	在籍者数		172 人	172 人	168 人	170 人	167 人
	参加者数		127 人 (74 %)	140 人 (81 %)	146 人 (87 %)	144 人 (85 %)	139 人 (83 %)
	実施期間	1週間未満	91 人	102 人	98 人	102 人	116 人
		1週間以上2週間未満	36 人	33 人	45 人	43 人	23 人
		2週間以上1ヶ月未満		4 人	7 人	6 人	
		1ヶ月以上3ヵ月未満					
インターンシップ （専攻科）	参加者数		11 人	26 人	23 人	19 人	43 人
	実施期間	1週間未満					
		1週間以上2週間未満	8 人	11 人			
		2週間以上1ヶ月未満	1 人	15 人			
		1ヶ月以上3ヵ月未満	2 人		23 人	19 人	43 人
参加者数計			138 人	166 人	169 人	163 人	182 人

※実施期間における参加人数は、複数回参加した者を含めている。

○ 卒業研究テーマ応募採択一覧

年度	申請数	採択数	採択された研究テーマ	分野
H26	5	5	小型直線翼(固定ピッチ翼VS連続可変ピッチ翼)垂直軸風車の性能比較	機械工学分野
			冷間鍛造用内径セレーションパンチの損傷要因解析に関する研究	機械工学分野
			縫合糸切断機能付きピンセットの開発	機械工学分野
			ごみ処理方法の違いによるエネルギー回収率の比較	環境都市工学分野
			天然の電離水素水で栽培した野菜の還元作用に関する研究	環境都市工学分野
H27	7	5	小型非対称複合翼(固定ピッチ)垂直軸風車の出力性能の検討	機械工学分野
			RFID実験装置(アールエフアイディ)	電気情報工学分野
			一人暮らし高齢者見守りシステム用人体位置情報把握技術の探索	電気情報工学分野
			電離水素水を応用した衣類の洗浄法に関する研究	環境都市工学分野
			創造性と生産性の高い未来型開発・生産空間の研究	建築学分野
H28	8	6	繰返し衝突によるステンレス表面の損傷現象に関する研究	機械工学分野
			小型直線翼垂直軸風力発電装置の出力効率向上の研究	機械工学分野
			一人暮らし高齢者見守りシステム技術の開発(継続開発)	電気情報工学分野
			阿賀町の埋立と町造りの歴史を遡り阿賀湾原風景回復の追求	環境都市工学分野
			呉市地域における湧水源の有効活用のための基礎データ収集・解析	環境都市工学分野
			牡蠣殻焼成セラミックボールおよび野呂山天然の電離水素水の性質分析と用途開発	環境都市工学分野
H29	8	6	繰返し衝突によるステンレス表面の損傷現象に関する研究	機械工学分野
			鳥獣被害低減システムの開発	電気情報工学分野
			呉市地域における湧水源の有効利用のための基礎データ収集	環境都市工学分野
			天然の電離水素水である野呂山湧き水の活性化による機能付与効果と用途開発	環境都市工学分野
			呉YWCAの耐震化に関する研究	建築学分野
			海友舎の耐震化に関する研究	建築学分野
H30	3	3	鳥獣被害低減システムの開発	電気情報工学分野
			公共交通活用型周遊パッケージの導入効果評価に関する研究	環境都市工学分野
			水素発生器の水質特徴分析と応用に関する研究	環境都市工学分野

(5) 学生支援・生活支援等

【第3期中期計画】

① 学生支援に関する機能の強化・充実を図る。

【年度計画活動内容及び実施評価】

学生に対する就学支援・生活支援の推進

平成26年度年度計画

発達障害学生やメンタル面で支援が必要な学生のために設置した相談室サポートルームの充実を図る。学生及び教職員対象のカウンセラー講話を実施する。保護者対象に精神科医による講演会を実施する。学生対象の生活習慣調査及び心とからだの健康調査等のアンケートの実施及び事後の学生指導を行う。

【活動内容】

○カウンセラーによる、本科1, 2, 3年生及び全教職員を対象とした講話、並びに新任教員対象の研修会を実施した。また今年度より専攻科生を対象にした精神科医による講演会も実施した。
○学生対象のアンケートは3回実施し、事後の指導も行った。また、新たに学生相談室員と一年生女子寮生との懇談会を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

発達障害学生やメンタル面で支援が必要な学生のために設置した相談室サポートルームの充実を図る。学生及び教職員対象のカウンセラー講話を実施する。学生対象の生活習慣調査及び心とからだの健康調査等のアンケートの実施及び事後の学生指導を行う。教職員対象に、発達障害・カウンセリング等に関する書籍・DVD等を揃え、貸出体制をつくる。

【活動内容】

○カウンセラーによる、本科1, 2, 3年生及び全教職員を対象とした講話を実施した。また精神科医との連携を図り、適宜本校に来校して助言指導していただいた。
○学生対象のアンケートは2回実施し、事後の指導も行った。なお、生活習慣調査については、例年通り実施し事後指導を行った。
○書籍・DVDのリストについては作成中であり、作成後教職員に配布予定である。
○来年度の相談室の体制の充実を図った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

学生及び教職員対象のカウンセラー講話を実施する。学生相談室長、学生相談室員の情報共有の機会として相談室会議を定期的開催する。学生対象の生活習慣調査及び心とからだの健康調等のアンケートを実施し、事後の学生指導を行う。従来の中国地区学生相談室長会議を学生相談室会議とし、学生相談を担当する教職員の高専門の連携を推進する。学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会に参加し、人材育成をはかる。

【活動内容】

○カウンセラーによる、本科1, 2, 3年生および全教職員を対象とした講話を実施した。また、

精神科医に適宜本校に来校していただき、助言指導いただいた。

○相談室長、相談室員による相談室会議を4回開催し、情報共有の場とした。

○学生対象のアンケートは2回実施し、事後指導を行った。また、生活習慣調査は例年通り実施し事後指導を行った。

○徳山高専主幹で中国地区相談室会議に室長と看護師が参加し、高専間の連携をはかった。

○学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会等に相談室員が参加し、人材育成をはかった（特別支援教育士の資格を持つ教員は資格更新講習に参加した）。

○高専機構の主催するメンタルヘルス関連の研修会等に相談室員が参加し、人材育成をはかった（特別支援教育士資格を持つ教員は資格更新講習に参加）。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

入学料免除、各種授業料免除等を適切に実施する。学生及び教職員対象のカウンセラー講話を実施する。自殺予防の対策として「いのちの授業（仮称）」を学生対象に実施する（6回程度）。学生相談室長、学生相談室員の情報共有をはかるため相談室会議を定期的に開催する。学生対象の生活習慣調査及び心とからだの健康調査等のアンケートを実施し、事後の学生指導を行う。自殺予防のアンケート後の事後指導の在り方について相談室を中心に再検討する。学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会に参加し、人材育成をはかる。学生相談や発達障害・カウンセリング等に関する書籍・DVD等を揃え、教職員が積極的に利用できるようにする。

【活動内容】

○入学料免除について、新入生宛に案内書類の送付やガイダンス等で周知を行った。入学料徴収猶予1名分を実施した。

○授業料免除は、教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、申請案内の周知を行った。前期授業料について全額免除26名、半額免除13名、特別措置による免除1名（就学支援金によって賄いきれない授業料残額について免除）を実施した。後期授業料については、全額免除24名、半額免除16名、卓越した学生に対する授業料免除を4、5年生各クラスの成績優秀者1名（計8名に各4分の1額免除）に実施した。

○学生対象のカウンセラー講話を6月14日（1年生）、7月12日（3年生）、10月11日（2年生）に、教員対象に7月26日に実施した。

○自殺予防の対策として「いのちの授業」を7月5日、7月19日、9月20日、10月4日、12月6日、1月17日、2月2日に実施した。

○学生相談室長、学生相談室員の情報共有をはかるため相談室会議を4月1日、5月23日、7月25日、11月27日、3月26日に開催した。

○学生対象の心とからだの健康調査等のアンケートを5月に実施し、事後の学生指導を行った。また、同アンケートを12月にも実施し、結果と対応策を関係教員に周知した。

○自殺予防のアンケート後の事後指導の在り方について相談室を中心に再検討し、実施結果を報告する範囲を以前より広げ自殺予防につなげるようにした。

○学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会には8月28、29日、9月26日、10月10、11日に相談室員、学生課長らが参加した。さらに12月17、18、19日に開催された全国学生相談研究会にも相談室員が参加し、人材育成をはかった。

○学生相談や発達障害・カウンセリング等に関する書籍・DVD等を揃え、リストを配布し、教職員が積極的に利用できるようにした。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

入学料免除、各種授業料免除等を適切に実施する。学生及び教職員の心の教育に役立てられるようなカウンセラー講話を実施する。学生相談室員を各学科教育主任と兼任にさせることにより、情報の集約及び共有を行い、全学的に対応できるような組織を構築する。学生相談室長、学生相談室員の情報共有の機会として相談室会議を定期的に行う。学生対象の心とからだの健康調査等のアンケートを実施し、事後の学生指導を行う。外部の専門人材を活用し、学生支援体制の強化を図るとともに、教職員の負担軽減につなげる。従来の中国地区学生相談室長会議を学生相談室会議とし、学生相談を担当する教職員の高専門の連携を推進する。学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会に参加し、人材育成をはかる。

【活動内容】

○入学料免除について、新入生宛に案内書類の送付やガイダンス等で周知を行った。今年度は申請者はいなかった。

○授業料免除は、教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、申請案内の周知を行った。前期授業料について全額免除29名、半額免除16名を実施した。後期授業料については、全額免除30名、半額免除12名、卓越した学生に対する授業料免除を4、5年生各クラスの成績優秀者1名（計8名に各4分の1額免除）に実施した。

○学生対象のカウンセラー講話を6月13日（1年生）、9月12日（3年生）に、教員対象に7月25日に実施した。

○2年生を対象とした「デートDVの講話」を10月10日に、「いのちの授業」を1月9日に実施した。

○学生相談室長、学生相談室員の情報共有をはかるため相談室会議を5月1日、9月3日、3月29日に開催した。

○学生相談室員を各学科教育主任と兼任させることにより、情報の集約及び共有を行い、問題等を抱える学生に対しては専門人材（カウンセラー）を含めた合同カンファレンスを実施し、全学的に、また即時的に対応できる体制を構築した。

○学生対象の高専生活に関するアンケート（学校適応感尺度調査）を7月と3月に実施し、結果と対応策を関係教員に周知した。

○学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会には6月28、29日、9月13、14日に学生相談室長、看護師らが参加した。また6月5日に開催された広島県発達障害支援基礎研修にも相談室員が参加し、人材育成をはかった。さらに9月6、7日に中国地区高専学生相談室長会議に学生相談室長と看護師が参加し、他高専のスタッフとの情報交換等を行った。

○学生相談や発達障害・カウンセリング等に関する書籍・DVD等を揃え、教職員が自由に利用できるようにした。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

② 寄宿舍等の学生支援施設の整備計画を策定する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

学生支援施設の整備

平成26年度年度計画

寮生などを対象としたアンケートを実施し、学生寮の実態、ニーズを調査し、整備計画に反映させる。学生寮のインターネット環境の整備を検討する。

【活動内容】

○寮生全員を対象としたアンケートを2回実施して、インターネットの利用状況、要望などの把握に努めた。

○アンケート結果を踏まえて、次年度から寮生が自室で無線LANを利用できるように、設備を整えた。

○保護者を対象として、PFIを活用した寮改修について意向調査を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

学生寮のインターネット環境を整備・運用する。女子入寮希望者の増大に対応して、各寮棟の利用の在り方について検討を加え、整備計画に反映させる。

【活動内容】

○各居室でインターネットに接続できる環境を整えて、運用を開始した。

○女子寮生数の増加を予測して、一部居室を整備するとともに、女子寮棟を増やす整備計画を立案した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

学生寮のインターネット環境を整備・運用する。女子入寮希望者の増大に対応して、各寮棟の利用の在り方について検討を加え、整備計画に反映させる。

【活動内容】

○インターネット環境を整備したうえで、運用上の問題点について把握に努めている。

○入寮者の増減を把握したうえで、整備計画について修正している。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

学生寮の環境整備を行う。具体例——放置自転車の処分／ダンボール置き場の整理／各寮棟の階段の清掃徹底／浴室（ボイラー含）の修繕／昼食時、寮食堂に音楽を流す／会議室の有効利用（学生間の親睦、学習等）。

【活動内容】

○学生寮の環境整備

・放置自転車の処分…4/27実施済／・ダンボール置き場の整理…夏・秋以降、継続して実施／・各寮棟の階段の清掃徹底…業者委託と寮生による清掃を徹底／・浴室（ボイラー含）の修繕…継続課題／・昼食時、寮食堂に音楽を流す…4月より実施中／・会議室の有効利用（学生間の親睦、学習等）…4月より開放して有効利用中…それぞれを年度中に遂行したC（懸念）評価となっている基準を明確にした。引き続き統一に向けて準備を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

寮運営の業者委託の可能性を継続的に検討する。学生寮の環境美化を継続的に推進する。女子入寮希望者の増大に対応して、各寮棟の利用の在り方について検討を加え、整備計画に反映させる。

【活動内容】

○向後、豪雨等の災害に遭った際には、寮生は速やかに離寮をして保護者なり縁者の居宅に戻るよう指導することとした。

○上記と併せ、災害時には貯水タンク等の生活用水、非常用飲食物を留学生のため優先的に確保することとした。

○週二回、寮棟の清掃を業者に委託し、環境美化を進めた。

○次年度より女子寮（第六寮）において改修工事を行うことが決定した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

【第3期中期計画】

③ 各種奨学金制度の情報を学生に紹介し、奨学金の効果的な活用を促進する

【年度計画活動内容及び実施評価】

奨学金制度の効果的な活用

平成26年度年度計画

各種奨学金について分かりやすく学生に情報提供する。

【活動内容】

○教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、奨学金の情報提供を行った。その結果、日本学生支援機構奨学金27名、小松育英会奨学金5名、広島県高等学校等奨学金2名などの奨学金を斡旋することができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

各種奨学金について分かりやすく学生に情報提供する。

【活動内容】

○教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、奨学金の情報提供を行った。その結果、日本学生支援機構奨学金18名、小松育英会奨学金5名、天野工業技術研究所奨学基金2名、ウシオ財団奨学金1名、広島県高等学校等奨学金1名、の奨学金を斡旋することができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

各種奨学金について分かりやすく学生に情報提供する。

【活動内容】

○教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、奨学金の情報提供を行った。その結果、日本学生支援機構奨学金11名、小松育英会奨学金3名、天野工業技術研究所奨学基金2名、ウシオ財団奨学金1名、川村育英会奨学金1名、広島県社会福祉協議会交通遺児就学奨励金1名の奨学金を

幹旋することができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

各種奨学金について分かりやすく学生に情報提供する。

【活動内容】

○教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、奨学金の情報提供を行った。その結果、日本学生支援機構奨学金13名、日本学生支援機構給付型奨学金（予約）1名、小松育英会奨学金5名、天野工業技術研究所奨学金基金1名、ウシオ財団奨学金1名、広島県高等学校等奨学金2名の奨学金を幹旋することができた。中間評価後にも数件の奨学金案内があり、学生に向けて周知を行ったが、希望者はいなかった。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

各種奨学金について分かりやすく学生に情報提供する。

【活動内容】

○教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、奨学金の情報提供を行った。その結果、日本学生支援機構奨学金12名、日本学生支援機構給付型奨学金（予約）2名、日鉄鉱業奨学会2名、上田記念財団2名、小松育英会奨学金5名、天野工業技術研究所奨学金1名、古川技術振興財団奨学生1名の奨学金を幹旋することができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|--|
| ④ 入学から卒業までのキャリア形成支援を充実させるとともに、就職率については高い水準を維持する。 |
|--|

【年度計画活動内容及び実施評価】

学生の適性や希望に応じた進路選択のため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を含めたキャリア形成支援を充実させる。

平成26年度年度計画

学生の進路選択を支援するため、キャリア教育（SAPAR）を実施する。就職・進学ガイダンスを計画的に実施する。就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行う。「高専女子フォーラム in 中国」を代表幹事校として開催する。

【活動内容】

- 学生の進路選択を支援するため、キャリア教育（SAPAR）に関する一連の企画を実施した。
- 合同会社説明会や編入学対策セミナーなど就職・進学ガイダンスを計画的に実施した。
- 就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行った。
- 「高専女子フォーラム in 中国」を代表幹事校として12月20日に開催し、383名の参加者があり、中国地区8高専から64名の女子学生が高専の専門教育、研究、学生生活についてのポスター発表を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

学生の進路選択を支援するため、キャリア教育（SAPAR）を実施する。就職・進学ガイダンスを計画的に実施する。就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行う。

【活動内容】

- 学生の進路選択を支援するため、キャリア教育（SAPAR）に関する、SPI 模擬試験などの一連の企画を実施した。
- 編入学試験対策セミナー、就職準備セミナーなど就職・進学ガイダンスを計画的に実施した。
- 合同会社説明会（3/9）や編入学試験対策セミナー、就職準備セミナーなど就職・進学ガイダンスを計画的に実施予定。
- 就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行った（大阪、東京など11～3月）。
- 合同会社説明会（4/25）やSPI 模擬試験（6/1）、編入学対策セミナーなど就職・進学ガイダンスを計画的に実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

学生の進路選択を支援するため、キャリア教育（SAPAR）を実施する。就職・進学ガイダンスを計画的に実施する。就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行う。

【活動内容】

- 学生の進路選択を支援するため、キャリア教育（SAPAR）に関する、適性検査（12/7）、SPI 模擬試験（12/21）、就職活動のための身だしなみセミナー（11/9）などの一連の企画を実施した。
- 編入学試験対策セミナー（4/27、10/26）、就職準備セミナー（6/8）など就職・進学ガイダンスを計画的に実施した。
- 合同会社説明会や編入学試験対策セミナー、就職準備セミナーなど就職・進学ガイダンスを計画的に実施した。
- 就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行った（大阪、東京など11～3月）。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

学生の進路選択を支援するため、キャリア教育（SAPAR）の内容を再検討し、実施する。就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行う。就職・進学ガイダンスを計画的に実施する。

【活動内容】

- 就職支援として、就職準備セミナー（6/7、1/15）、学生の就職活動のための身だしなみセミナー（6/28）、合同会社説明会（1/21他適宜紹介）などの一連の企画を実施した。
- 進学支援として、編入学試験対策セミナー（4/26、10/25）、SPI 模擬試験（7/12、12/11）などを実施した。
- 進路選択支援として、自己分析（11/1、1/17）、適性検査（12/6）などを実施した。
- 就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集や求人依頼を11～3月に行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

学生の進路選択を支援するため、キャリア教育（SAPAR）の内容を再検討し、実施する。就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行う。就職・進学ガイダンスを計画的に実施する。

【活動内容】

○就職支援として、身だしなみセミナー（4/4）、就職準備セミナーⅠ（4/25）、公務員試験説明会（11/7）、第1回SPI模擬試験（6/20）、第2回SPI模擬試験（11/21）、就職準備セミナーⅡエントリーシート作成講座（1/16）、合同会社説明会（12月・1月）などを行った。

○進学支援として、編入学試験対策セミナーⅠ（4/25）、編入学試験対策セミナーⅡ（10/31）を実施した。

○進路選択支援として、適性検査（2年、11/8）、自己分析Ⅰ（2年、11/14）、自己分析Ⅱ（2年、1/16）を実施した。

○就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集や求人依頼を11～3月に行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【総合分析、評価及び改善事項】

学生支援の活動として、メンタルヘルスに関する各種講習会等を開催した。また、学生に対して「心と健康に関するアンケート」を実施し、アンケート内容から対応策等の情報共有を図った。

また、学生支援機構や高専機構等が主催する研修会に学生相談室員が参加し、教職員の人材育成にも取り組んだ。

寄宿舎の整備については、平成28年度から3か年で第4寮の改修を行い、第4期中期計画以降に第6寮の改修を行う予定である。その他にも学生の生活環境の向上のため、インターネット環境や、学習スペースの開放等の整備を行っている。

奨学金についても、各種奨学金制度の情報提供に努め、各種斡旋を行った。

キャリア形成支援については、キャリア教育を一貫して行う、呉高専キャリア教育プラン“SAPAR（サパー）”を策定し継続的に実施している。キャリア教育推進室の主導の下、各クラス担任を中心に全教員が協力して実施している。準学士課程1～3年生（職探し＝“S”earch, 自己分析＝“S”elf“A”nalysis）ではLHRの年間計画に自己分析、適性試験などを組み込み、準学士課程3年生（計画＝“P”lan）、4年生（実行＝“A”ction）、5年生と専攻科課程（実現＝“R”ealize）の学生には、就職準備セミナー、編入学試験対策セミナー、合同会社説明会、SPI模擬試験などを受講可能にしている。また、就職・進学体験記を全学生に提出させ、報告書をまとめて後輩の進路指導に活用できるようにしている。SAPARの活動の一環として、学生が企業について情報収集を行う場を設け、学生への進路決定の意識付けを促すことを目的に、平成22年からメディア総研と合同で「中国・四国地区高専生のための合同会社説明会」が本校を会場に開催し始めた。現在はメディア総研主催で広島会場での開催となり、準学士課程3、4年生および専攻科課程1年生の参加を奨励支援している。また、他社主催の就活に係るセミナーや説明会への参加も奨励支援している。これらの活動の成果から、就職率及び卒業率については高い水準で維持されている。【別表14】

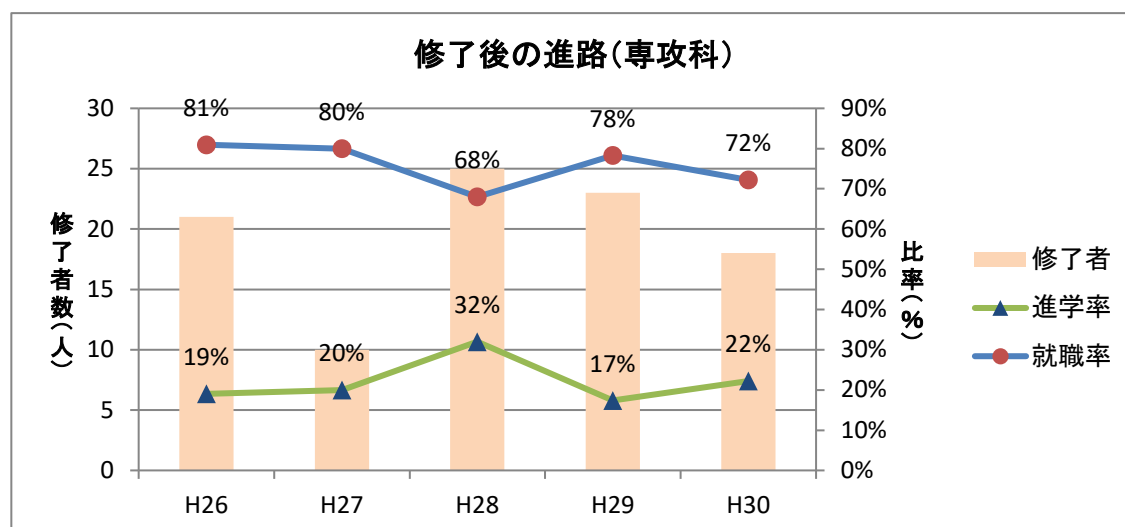
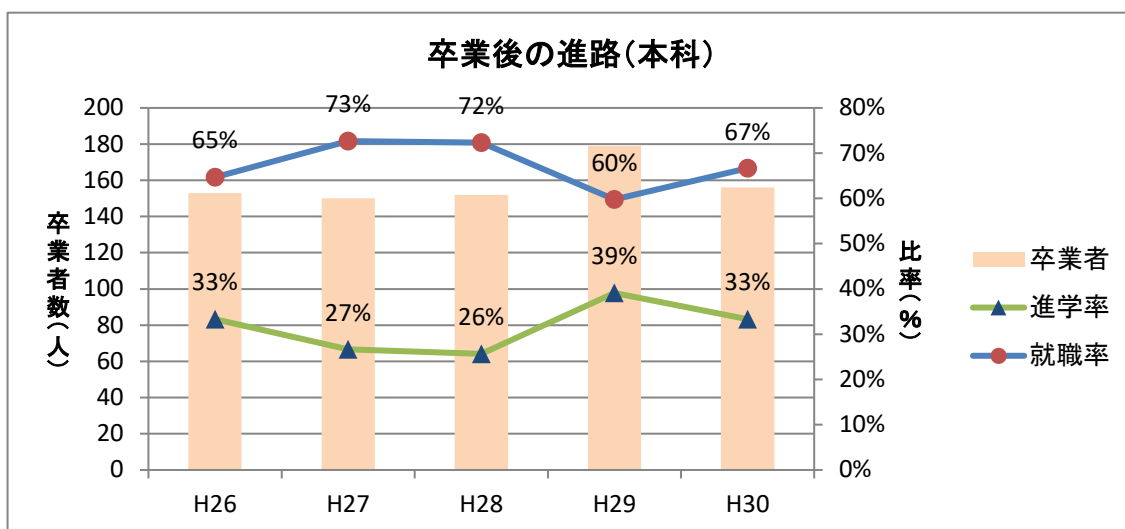
上記事項を勘案し、学生支援及び学生生活支援について十分な活動を実施していると評価できる。

別表14 卒業生・修了者の進学・就職状況(H26～H30)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
本科	卒業生数	153 (17)	150 (21)	152 (29)	179 (25)	156 (26)
	進学者数	51 (2) 33% (12%)	40 (3) 27% (14%)	39 (7) 26% (24%)	70 (7) 39% (28%)	52 (6) 33% (23%)
	内訳					
	国立大	20	15	17	22	17
	公立大	3	1	1	2	
	私立大	1	1		2	
専攻科	専攻科	27	23	20	43	35
	就職者数	99 (15) 65% (88%)	109 (18) 73% (86%)	110 (21) 72% (72%)	107 (17) 60% (68%)	104 (20) 67% (77%)
	その他	3	1	3	2	
専攻科	修了者数	21 (1)	10 (2)	25 (2)	23 (2)	18 (2)
	進学者数	4 19%	2 20%	8 32%	4 17%	4 22%
	内訳					
	国立	4	2	6	4	4
	公立					
	私立			2		
専攻科	就職者数	17 (1) 81% (100%)	8 (2) 80% (100%)	17 (2) 68% (100%)	18 (2) 78% (100%)	13 (1) 72% (50%)
	その他					1

※()は、女子学生内数

※その他は、進学予定者、各種学校及び研究生等で当該年度末時点の数



(6) 教育環境の整備・活用

【第3期中期計画】

- ① 施設の老朽度・狭隘化、耐震性を考慮し、その結果を踏まえて整備、及び省エネ化対策を推進する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

安全で快適な教育環境の整備を計画的に推進

平成26年度年度計画

施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを作成する。省エネ化対策を推進する。マスタープランに基づき、寮の改修ならびにインキュベーション・ラボへの改修につき概算要求する。

【活動内容】

○寮地区および教育センター・静心館の整備計画を作成し、平成28年度概算要求として申請することとした。

○第2体育館、グラウンドの改修、校内各部屋入口の半透明化、各分野等における自動点灯等を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを作成する。節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を得る。体育館等に設置されている非構造部材の耐震改修工事を行う。電気情報工学科棟屋上防水改修工事を行う。省エネ化対策を推進する。マスタープランに基づき、寮食堂、風呂、誠心館、第4寮の改修ならびにインキュベーション・ラボの整備につき概算要求する。平成26年度の監事監査における指摘事項について対応する。

【活動内容】

○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを作成した。

○節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を依頼した。

○体育館内部改修が予算化され、1月～3月で改修を実施した。

○電気情報工学科棟屋上防水改修工事の予算がつき、改修を完了した。

○省エネ化対策を推進した。

○マスタープランに基づき、まずは第4寮の改修整備につき概算要求し、予算化された(3期に分けて工事)。

○平成26年度の監事監査における指摘事項について、機械工学科棟外部建具改修の要求を完了した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを

作成する。節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を得る。第4寮3階内部改修工事を延滞なく行う。専攻科棟3・4階教室改修を延滞なく行う。省エネ化対策を推進する。マスタープランに基づき、寮食堂、風呂、誠心館、ならびにインキュベーション・ラボの整備につき検討する。引き続き、平成26年度の監事監査における指摘事項について対応する。図書館整備について、整備計画をまとめ、概算要求を行う。平成29年度高専統一ネットワークシステム整備に向け、設計業務を完了させる。全学的に施設や設備の稼働状況を調査し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づき、整備計画の見直しを行う。当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的に推進する。

【活動内容】

- 施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを継続して検討した。
- 節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を依頼した。
- 専攻科改組に伴い、専攻科棟の内部改修を実施した。
- 省エネ化対策を推進した。
- マスタープランに基づき、第4寮の3階の改修整備を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを作成する。節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を得る。第4寮3階内部改修工事を延滞なく行う。省エネ化対策を推進する。引き続き、平成26年度の監事監査における指摘事項について対応する。図書館整備について、整備計画をまとめ、概算要求を行う。平成29年度高専統一ネットワークシステム整備に向け、設計業務を完了させる。全学的に施設や設備の稼働状況を調査し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づき、整備計画の見直しを行う。当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的に推進する。

【活動内容】

- 施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを作成した。
- 引き続き、冬の節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を依頼した。
- 省エネ化対策を推進した。
- 引き続き、平成26年度の監事監査における指摘事項について対応する。
- 図書館・教育センター整備について、整備計画をまとめ、平成30年度の概算要求を行った。
- 全学的に施設や設備の稼働状況を調査し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づき、整備計画の見直しを行う。
- 当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的に推進する。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを

ブラッシュアップする。節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を得る。第4寮3階内部改修工事を延滞なく行う。省エネ化対策を推進する。マスタープランに基づき、寮食堂、風呂、誠心館、ならびにインキュベーション・ラボの整備につき検討する。引き続き、平成26年度の監事監査における指摘事項について対応する。全学的に施設や設備の稼働状況を調査し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づき、整備計画の見直しを行う。当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的に推進する。

【活動内容】

○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランをブラッシュアップした。

○夏期節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を得た。冬期も同様に実施した。

○第4寮内部改修工事が遅滞なく完了した。

○省エネ化対策を推進中である。

○マスタープランに基づき、第6寮改修、基幹環境整備、図書館棟・教育センター改修に関して平成31年度概算要求を申請した。

○引き続き、平成26年度の監事監査における指摘事項について対応した。

○全学的に施設や設備の稼働状況を調査し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づき、整備計画の見直しを実施中である。

○当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的中である。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

② 安全衛生に関する講習会を継続して実施するほか、実験実習安全必携を配付する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

専門科目の指導に当たる全ての教員・技術職員が受講できるように、安全管理のための講習会を実施

平成26年度年度計画

安全衛生に関する講習会を実施する。実験実習安全必携を配付する。

【活動内容】

○10月8日に外部講師による「安全衛生に関する講習会」を実施した。

○新規採用者及び新入生に対し実験実習安全必携を配付した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

安全衛生に関する講習会を実施する。実験実習安全必携を配付する。

【活動内容】

○2月3日に外部講師による「安全衛生に関する講習会」を実施した。

○新規採用者及び新入生に対し実験実習安全必携を配付した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 28 年度年度計画

安全衛生に関する講習会を実施する。実験実習安全必携を配付する。

【活動内容】

- 12月21日に外部講師による「安全衛生に関する講習会」を実施した。
- 新規採用者及び新入生に対し実験実習安全必携を配付した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 29 年度年度計画

安全衛生に関する講習会を実施する。実験実習安全必携を配付する。

【活動内容】

- 11月1日に「安全衛生に関する講習会」を実施した。
- 新規採用教職員に対し、実験実習安全必携を配付した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 30 年度年度計画

安全衛生に関する講習会を実施する。実験実習安全必携を配付する。

【活動内容】

- 2月に「安全衛生に関する講習会」を実施した。
- 新規採用教職員に対し、実験実習安全必携を配付した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|---|
| ③ 男女共同参画を推進するため、各高等専門学校の参考となる情報を収集し、必要な取組を実施する。 |
|---|

【年度計画活動内容及び実施評価】

男女共同参画の推進

平成 26 年度年度計画

「男女共同参画推進モデル校」として同事業を実施し、全国高専への男女共同参画の普及を推進する。「高専女子フォーラム in 中国」を代表幹事校として開催する。男女がともに働きやすい環境整備について検討する。

【活動内容】

- 本校で実施されるイベントには必ず主として女子中学生を対象とした女子向けのモデル校活動の中核をなす女子学生広報部主催による工作部ブースを出展し、広報活動を実施した。その結果、平成 27 年度の入学生の女子学生比率は今年度入学生の約 17%から約 20%に向上した。また、女子学生広報部の部員数人が、3D プリンタ、レーザー加工機の使用法を習得し、工作キットの開発を行った。
- 女子学生広報部員 10 名が、3 月に出身中学校を訪問し、広報活動を行った。平成 28 年度の女子学生比率向上のための活動を開始した。

○12月20日に代表幹事校として「高専女子フォーラム in 中国」を開催し、企業出展数が過去最多となるなど成功裏に終えた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

「男女共同参画推進モデル校」として同事業を実施し、全国高専への男女共同参画の普及を推進する。男女がともに働きやすい環境整備について検討する。

【活動内容】

○モデル校としての活動を、高専女子フォーラム in 関西、男女共同参画推進協議会で発表した。

○女子学生が要望していた階段手すり部の目隠し板を、普通教室棟と建築学科棟に設置した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

「男女共同参画推進モデル校」として実施した事業を継続・発展させ、全国高専への男女共同参画の普及を推進する。男女がともに働きやすい環境整備について検討する。男女共同参画に関する情報を適切に提供するとともに、ワーク・ライフ・バランスを推進するための意識醸成等環境整備に努める。

【活動内容】

○本校女子学生が春期休業中に6校訪問し、本校のPRを行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

「男女共同参画推進モデル校」として実施した事業を継続・発展させ、全国高専への男女共同参画の普及を推進する。女子学生に対するセミナーを開催し、キャリア形成に努める。

【活動内容】

○女子学生が夏期休業中に出身中学校を中心に3校訪問し、本校のPRを行った。春期休業中にも実施した。

○12月7日に広島県との共催で、県下で活躍する女性技術者7名を本校に招き、体験談を中心としたセミナーを開催し、女子学生のキャリア形成を図った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

「男女共同参画推進モデル校」として実施した事業を継続・発展させ、全国高専への男女共同参画の普及を推進する。

【活動内容】

○8月23日高専フォーラムにて本校の女子学生広報部の活動と成果を発表した。その後、いくつかの高専から問い合わせがあった。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【総合分析，評価及び改善事項】

第3期中期目標期間中の整備状況については，施設の老朽化状況の調査等を行い，キャンパスマスタープランの見直しを平成30年度に実施。また，総務委員会において節電アクションプランを毎年策定し，ホームページ上で公表，省エネ対策にも取り組んでいる。

教職員に対する安全衛生に関する講習会についても，テーマを変更し毎年度継続的に開催した。

【別表15】

男女共同参画の推進については，平成26年度に「男女共同参画推進モデル校」に指定されてこともあり，学校見学会での女子学生企画ブースや，高専女子フォーラムにおいて活動内容等の発表を行った。

上記勘案して，教育環境の整備及び活用について，十分な活動を実施していると評価できる。

別表15 安全衛生に関する講習会開催実績

年度	日 時	講 師	題 目	場 所
H21	10月7日	木村誠一郎(産業医)	医療よもやまばなし	第一会議室
H22	11月10日	中央労働災害防止協会 中国四国安全衛生サービスセンター 労働衛生コンサルタント 山岡和寿	何故騒がれるの？ 労働災害	〃
H23	10月5日	木村誠一郎(産業医)	ためになる医療の話	〃
H24	11月14日	共立インシュアランスプロカーズ(株) 営業第一部 荒川進之助	事例でみるリスクと低減策	〃
H25	1月29日	広島大学保健管理センター 准教授 岡本百合	教職員のメンタルヘルス	〃
H26	10月8日	広島大学専任衛生管理者 上村 信行	安全衛生に関する取り組み (広島大学を事例に)	〃
H27	2月3日	広島大学 保健管理センター長 教授 吉原 正治	生活習慣病の予防と健康増進	〃
H28	12月21日	広島大学保健管理センター 准教授 岡本百合	教職員のメンタルヘルス ー抑うつとうつ病の予防と対策	〃
H29	11月1日	広島修道大学 健康科学部 教授 内野 悌司	自殺予防に向けた取り組みについて	〃
H30	2月7日	広島大学保健管理センター 准教授 日山 亨	広島大学における敷地内禁煙 への取り組み	〃

呉工業高等専門学校
第3期中期目標期間 自己点検・評価

2 研究や社会連携に関する事項

2 研究や社会連携に関する事項

【第3期中期計画】

- ① 全国高専テクノフォーラム等への参加を推奨し、外部資金獲得では組織的、計画的に取り組む、全教員が何らかの外部資金獲得に向けて応募できるような活動を促進する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

外部資金獲得に向けた組織的、計画的に取り組む

平成26年度年度計画

外部資金獲得のために、ガイダンスを実施し計画的な申請ができるように働きかける。また獲得の組織的な活動として、分野毎に協働研究センター委員が中心となって立案された申請書のブラッシュアップと計画的なフォローアップを行う。

【活動内容】

○7月9日にA-STEP説明会、10月1日に科学研究費補助金説明会を実施し、申請書類の査読を行った。

○A-STEPは昨年までは応募が無かったが、今年度教員に対し積極的な働きかけを行った結果、4件応募することができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

教員全員が自ら研究計画シートを作成し、自己点検等管理委員会の下でその進捗を把握、研究力向上に努める。各分野ごとに研究成果報告に関するミニマムゴール(MG)を設定し、全教員はMG以上の成果をあげるよう努力する。各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、補助金申請書の査読システムなど実施することで、外部資金獲得を支援する。

【活動内容】

○学内に研究企画会議を設置し、各分野ごとに研究成果報告に関するミニマムゴール(MG)を設定、教員会で全教員に「MG以上の成果をあげるよう」喚起した。

○教員全員が自ら研究計画シートを作成し、研究企画会議の下でその進捗を把握、研究力向上に努めた。

○各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、補助金申請書の査読システムなど実施することで、外部資金獲得を支援した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

教員全員が自ら研究計画シートを作成し、自己点検・評価委員会の下でその進捗を把握、研究力向上に努める。全教員はMG以上の成果をあげるよう努力する。各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、補助金申請書の査読システムなど実施することで、外部資金獲得を支援する。

【活動内容】

○学内に研究企画会議を設置し、各分野ごとに研究成果報告に関するミニマムゴール(MG)を設定、

教員会で全教員に「MG以上の成果をあげるよう」喚起した。

○教員全員が自ら研究計画シートを作成し、研究企画会議の下でその進捗を把握、研究力向上に努めた。

○各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、分野内の研究グループでディスカッションを行うなど、外部資金獲得に向けた取り組みを実施した。

○補助金申請書の査読システムを実施することで、外部資金獲得を支援した。

○上記活動の結果、平成29年度科研費基盤研究(C)9件、若手(A)1件、奨励研究1件採択された。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

教員全員が自ら研究計画シートを作成し、研究企画会議等でその進捗を把握、研究力向上に努める。全教員はミニマムゴール以上の成果をあげるよう努力する。各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、補助金申請書の査読システムなど実施することで、外部資金獲得を支援する。

【活動内容】

○教員全員が自ら研究計画シートを作成し、年度末の研究企画会議等でその進捗を把握した。

○全教員はミニマムゴール以上の成果をあげるよう依頼し、その結果として昨年度末と比べてミニマムゴールを越えた教員が増加した。

○各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、補助金申請書の査読システムなど実施することで、外部資金獲得を支援したり、分野内の研究グループでディスカッションを行うなど、外部資金獲得に向けた取り組みを実施している。

○科研費獲得に向けて、査読システムを実施することで、科研費獲得を支援している。

○医工連携を本校の研究の柱にすべく、呉市、くれ医療センターと連携を開始した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

教員全員が自ら研究計画シートを作成し、自己点検・評価委員会の下でその進捗を把握、研究力向上に努める。全教員はミニマムゴール以上の成果をあげるよう努力する。各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、補助金申請書の査読システムなど実施することで、外部資金獲得を支援する。

【活動内容】

○教員全員が自ら研究計画シートを作成し、研究企画委員会で各分野代表がその進捗状況を報告した。会議で把握、議論した内容を各教員にフィードバックし、研究力向上に努めている。

○全教員はミニマムゴール以上の成果をあげるよう努力すべく依頼した。

○外部資金導入についても年間計画を立案しており、分野代表を通してフォローしている。

○科研費については、教員会議などを通じて応募までのフォローを行っており、また10月には校長を筆頭とするフォローアップ会議を開催し、分野代表から応募状況をヒアリング、そのフィードバックを分野代表経由で行っている。応募予定者は全員申請書を提出した。

○特に科研費獲得に向けて、申請書の査読システムを実施することで、科研費獲得を支援した。今年度は17件の科研費申請に対して副校長が査読した。

○医工連携を本校の研究の柱にすべく、くれ医療センター・中国がんセンターと包括連携協定を

締結し、連携を開始した（９月３日調印式）。
実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第３期中期計画】

- ② 協働研究センターを活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取組を促進するとともに、これらの成果を公表する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取組を促進

平成２６年度年度計画

広島県西部工業技術センターやくれ産業振興センターと連携して産業界との連携を深め、共同研究や受託研究を積極的に進めるとともに広報活動を行う。また、三機関連携の場も活用して、技科大や高専間の連携を深める。関連団体の開催する技術説明会などに出展を行い、地域の産業界に利用してもらえる技術の売り込みを図る。イノベーションジャパンへ出展する。

【活動内容】

○５月２８日に研究設備見学会を開催、企業関係者等７０名の参加があり、共同研究に向けた相談が多く寄せられた。また、３月３日には備後地域地場産業振興センターからの依頼による研究設備見学会を開催し、２８名の参加があった。

○広島県西部工業技術センター研究成果発表会（６／２５）、イノベーションジャパン（９／１１、９／１２）、くれエコフェスタ（９／２７）へ出展し、シーズを発信した。

○３Ｄプリンタを地域産業で活用するため、くれ産業振興センター、ひろしま産業振興センターと連携して、広島県内の企業２５社、関連団体８組織を訪問して地域の要望の収集や情報の交換を行った。また、３Ｄプリンタの技術応用に関する相談に多数対応した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成２７年度年度計画

広島県西部工業技術センターやくれ産業振興センターと連携して関連企業との共同研究や受託研究の受入れを推進する。関連団体の開催する技術説明会などに出展を行い、本校のシーズを発信し、企業等との共同研究への展開を図る。

【活動内容】

○広島県西部工業技術センター研究成果発表会、環境展、くれエコフェスタ等へ出展し、シーズを発信した。

○「次世代ものづくり技術セミナー」を開催、大学・企業関係者等７４名の参加があり、技術相談及び共同研究に向けた相談に対応した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成２８年度年度計画

広島県西部工業技術センターやくれ産業振興センターと連携して関連企業との共同研究や受託研究の受入れを推進する。関連団体の開催する技術説明会などに出展を行い、本校のシーズを発信し、企業等との共同研究への展開を図る。

【活動内容】

○広島県西部工業技術センター研究成果発表会、環境展、イノベーションジャパン等へ出展し、シーズを発信した。

○関係団体と連携し、「次世代ものづくり技術セミナー」を3回開催した。そのうち1回は本校を会場として開催し、大学・企業関係者等28名の参加があった。実技を交えて最新の技術を紹介し、技術相談及び共同研究に向けた相談に対応した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

広島県西部工業技術センターやくれ産業振興センターと連携して関連企業との共同研究や受託研究の受入れを推進する。橋渡し機関認証（NEDO）を利用した連携強化を検討する。関連団体の開催する技術説明会などに出展を行い、本校のシーズを発信し、企業等との共同研究への展開を図る。イノベーションジャパン等のマッチングイベントへの出展を検討する。

【活動内容】

○広島県西部工業技術センター研究成果発表会、環境展、イノベーションジャパン等へ出展し、シーズを発信した。

○平成28年度に橋渡し機関認証（NEDO）を受けており、平成29年度も継続中であるが、本制度を利用した公募が行われていないため、未実施となっている。

○科学技術振興機構（JST）や総務省が公募する大型競争的資金の獲得に向けて、関係企業との連携を行っている。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

広島県西部工業技術センターやくれ産業振興センターと連携して関連企業との共同研究や受託研究の受入れを推進する。橋渡し機関認証（NEDO）を利用した連携強化を検討する。関連団体の開催する技術説明会などに出展を行い、本校のシーズを発信し、企業等との共同研究への展開を図る。イノベーションジャパン等のマッチングイベントへの出展を検討する。

【活動内容】

○広島県西部工業技術センター研究成果発表会、イノベーションジャパン等へ出展し、シーズを発信した。

○平成28年度に橋渡し機関認証（NEDO）を受けており、平成30年度も継続中であるが、本制度を利用した公募が行われていないため、未実施となっている。

○科学技術振興機構（JST）や総務省が公募する大型競争的資金等の獲得に向けて、関係企業との連携を行っている。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- | |
|---|
| ③ 高専機構コーディネータと連携して知財化を推進するための学内ルールを明確化し、漏れない知財出願ができるような環境を整備する。 |
|---|

【年度計画活動内容及び実施評価】

研究成果を知的資産化するための体制の整備

平成26年度年度計画

機構開催の講習会を積極的に利用し、教員のレベルアップを図る。知財担当特命教授のサポートにより教員が発明した知財をブラッシュアップし、明細書等の質を向上させ、特許の出願件数増加を目指す。産官学連携セミナーを開催する。

【活動内容】

- 9月8日に知財担当特命教授による知財説明会を開催した。
- 11月27日、12月17日に外部の専門家を招いて講演会を開催し、教職員及び学生約100名が聴講した。
- 特許庁、文化庁の主催する知財関連の研修会へ積極的に参加した。
- 知財委員会での課題に対し、高専機構コーディネータなどの協力のもと意匠権などの対応を行った。
- 3Dプリンタによる試作の提供にあたり、高専機構の知財部門の協力のもと成果有体物提供のための契約を利用できるようにし、実際の試作物提供に対して適用することができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

知的財産特命教授を講師に知的財産講演会等を実施する他、特許庁等が主催する講習会を積極的に利用し、教職員のレベルアップを図る。知財担当特命教授のサポートにより教員が発明した知財をブラッシュアップし、明細書等の質を向上させ、特許の出願件数増加を目指す。

【活動内容】

- 知的財産特命教授及び弁理士を講師に知的財産に関する講演を行った。
- 特許庁が主催する研修会へ参加し、知識の習得に努めた。
- 3件の特許出願を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

知的財産特命教授を講師に知的財産講演会等を実施する他、特許庁等が主催する講習会を積極的に利用し、教職員のレベルアップを図る。知財担当特命教授のサポートにより教員が発明した知財をブラッシュアップし、明細書等の質を向上させ、特許の出願件数増加を目指す。

【活動内容】

- 特許庁が主催する研修会へ参加し、知識の習得に努めた。
- 3件の特許出願を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

知的財産講演会等を実施する他、特許庁等が主催する講習会を積極的に利用し、教職員のレベルアップを図る。教員が発明した知財をブラッシュアップし、明細書等の質を向上させ、特許の出願件数増加を目指す。

【活動内容】

- 知的財産講習会は実施していないが、4月の教員会で特許出願における留意点を周知した。
- 特許出願は行わなかったが、特許出願を行う案件が生じた際には、知的財産委員会を中心にサポートを行っていく。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

知的財産講演会等を実施する他、特許庁等が主催する講習会を積極的に利用し、教職員のレベルアップを図る。教員が発明した知財をブラッシュアップし、明細書等の質を向上させ、特許の出願件数増加を目指す。

【活動内容】

- 12月5日及び12日に日本弁理士会高専学生向け知的財産セミナーを実施した。
- 特許庁が主催する講習会に参加し、担当職員のレベルアップを図った。(7月、2名参加)
- 新規の発明(2件)及び意匠(1件)が機構承継となった。特許出願を行う際には、知的財産委員会を中心にサポートを行っている。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ④ 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられる広報体。

【年度計画活動内容及び実施評価】

広報体制の充実

平成26年度年度計画

技術シーズ集の充実を図るとともに、地域の推進団体を活用して情報発信を行う。協働研究センターの発行する年度報告、紹介パンフレット、シーズ集などを見直し、効果的な広報活動を行う。

【活動内容】

- シーズ集、協働研究センター年報を作成し、ホームページへ掲載するなど情報発信を行った。
- 呉商工会議所、呉市及くれ産業振興センターなど地域の関係諸団体と情報共有を図り、当該団体を通して情報発信を行った。
- 年次報告書の見直しを行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

技術シーズ集の充実を図るとともに、地域の推進団体を活用して情報発信を行う。協働研究センターの発行するセンターパンフレット、シーズ集などを見直し、効果的な広報活動を行う。

【活動内容】

- 技術シーズ集を作成、ホームページへ掲載し情報発信を行うとともに、広島県西部工業技術センター、くれ産業振興センター等の地域の推進団体と情報共有を図り、当該団体を通して情報発信を行った
- 広報物の見直しを行い、新たにセンターパンフレットを作成した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

技術シーズ集の充実を図るとともに、地域の推進団体を活用して情報発信を行う。協働研究セン

ターの発行するセンターパンフレット、シーズ集などを見直し、効果的な広報活動を行う。

【活動内容】

○技術シーズ集を作成、ホームページへ掲載し情報発信を行うとともに、広島県西部工業技術センター、くれ産業振興センター等の地域の推進団体と情報共有を図り、当該団体を通して情報発信を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成２９年度年度計画

技術シーズ集の充実を図るとともに、地域の推進団体を活用して情報発信を行う。協働研究センターの発行するセンターパンフレット、シーズ集などを見直し、効果的な広報活動を行う。

【活動内容】

○技術シーズ集を作成、ホームページへ掲載し情報発信を行うとともに、広島県西部工業技術センター、くれ産業振興センター等の地域の推進団体と情報共有を図り、当該団体を通して情報発信を行っている。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成３０年度年度計画

技術シーズ集の充実を図るとともに、地域の推進団体を活用して情報発信を行う。協働研究センターの発行するセンターパンフレット、シーズ集などを見直し、効果的な広報活動を行う。

【活動内容】

○技術シーズ集を作成、ホームページへ掲載し情報発信を行うとともに、広島県西部工業技術センター、くれ産業振興センター等の地域の推進団体と情報共有を図り、当該団体を通して情報発信を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第３期中期計画】

- | |
|--|
| ⑤ 地域の教育委員会等と連携を深め、公開講座、出前授業及びサイエンスショー等を実施し、満足度調査を実施する。 |
|--|

【年度計画活動内容及び実施評価】

地域の生涯学習機関として高等専門学校における公開講座を充実特許出願の推進

平成２６年度年度計画

公開講座等の満足度調査を実施し、分析する。地域企業技術者のスキル向上を目的とした公開講座の充実と、地元の小学校などの児童・生徒向け施設や大和ミュージアムなどでの出前授業を行う。

【活動内容】

○公開講座実施時における満足度調査を実施、集計した結果、満足度の平均は９５．６％と高く、本校公開講座の好評価が確認された。

○大和ミュージアムの理科教室（３件）及び工作教室（１件）、出前授業を実施し、理科教育の推進に努めた。特に今年度から出前授業実施を強化し、実施件数は２５件と昨年度の１１件と比べて格段に増加した。

○地域からの要望が多かった3DCADの講習会を開催した。(1/14, 1/21, 1/24)。
実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

公開講座等の満足度調査を実施し、分析する。地域企業技術者のスキル向上を目的とした公開講座の充実と、地元の小中学生を対象に理科教室、工作教室、出前授業を実施し、理科教育支援を推進する。「びっくりワクワクサイエンスショー」を実施する。

【活動内容】

- 公開講座等の満足度調査を実施、分析中である。
- 地域企業技術者を対象とした公開講座を実施した。また、小中学生を対象とした理科教室、工作教室、及び出前授業を実施し、理科教育の推進に努めた。
- 「びっくりワクワククリスマスサイエンスショー」を開催し、647名の参加があり、盛況裏に終了した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

公開講座等の満足度調査を実施し、分析する。地域企業技術者のスキル向上を目的とした公開講座の充実と、地元の小中学生を対象に理科教室、工作教室、出前授業を実施し、理科教育支援を推進する。「びっくりワクワクサイエンスショー」を実施する。

【活動内容】

- 公開講座等の満足度調査を実施、分析中である。
- 地域企業技術者を対象とした公開講座を実施した。また、小中学生を対象とした理科教室、工作教室、及び出前授業を実施し、理科教育の推進に努めた。
- 「びっくりワクワククリスマスサイエンスショー」を開催し、761名の参加があり、盛況裏に終了した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

公開講座等の満足度調査を実施し、分析する。地域企業技術者のスキル向上を目的とした公開講座の充実と、地元の小中学生を対象に理科教室、工作教室、出前授業を実施し、理科教育支援を推進する。「びっくりワクワクサイエンスショー」を実施する。

【活動内容】

- 公開講座等の満足度調査を実施、分析した。
- 12月2日、12月9日に地域企業技術者を対象として、3DCADに関する公開講座を実施した。また、小中学生を対象とした理科教室、工作教室、及び出前授業を実施し、理科教育の推進に努めた。
- 12月10日にびっくりワクワクサイエンスショーを開催し、775名の参加があり、盛況裏に終了した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

公開講座等の満足度調査を実施し、分析する。地域企業技術者のスキル向上を目的とした公開講

座の充実と、地元の小中学生を対象に理科教室、工作教室、出前授業を実施し、理科教育支援を推進する。「びっくりワクワクサイエンスショー」を実施する。

【活動内容】

○公開講座等の都度アンケートを実施。満足度調査を実施、分析した。

○12月1日、12月8日に地域企業技術者を対象として、3DCADに関する公開講座を実施予定。また、地元の小中学生を対象とした理科教室、工作教室、及び出前授業を実施し、理科教育の推進に努めた。

○12月9日に「びっくりワクワクサイエンスショー」を開催し、800名を超える来場者を得た。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【総合分析、評価及び改善事項】

研究活動を推進するため、平成27年度に副校長及び各分野代表から構成される研究企画会議を組織し、研究成果報告に関するミニマムゴール（MG）を分野毎に設定させ、各教員がミニマムゴールを達成できるよう研究企画会議及び協働研究センターで支援する体制を構築した。また、研究企画会議で進捗を把握しながら、各分野において研究に関するグループディスカッションや、査読システム等を構築、校長参加によるフォローアップ会議など学校全体で研究活動を支援する取組を行った。また、対外的にはシーズ集のホームページ掲載、協働研究センターパンフレット作成・配付等の広報活動も行った。

上記施策を講じたことにより、前中期計画期間中は毎年10件程度で推移していた科学研究費等補助金の採択件数が、第3期中期計画期間中は年平均20件採択、獲得金額も前中期計画期間中の77,632千円に対して、171,240千円と大幅な増額につながっている。また、共同研究、受託研究の獲得金額に関しても前中期計画期間中の33,346千円から、76,763千円と大幅な増額となっており、外部資金の獲得実績は年々増加傾向にある。また、比例するように学会発表、論文数、著書数についても増加しており、研究推進のために講じた上記施策の効果が出ていることが確認できる。【別表16、17、18】

特許出願についても計10件（前中期計画期間：1件）の出願が出来ており、前中期計画期間中に作成した、特許出願マニュアルが活用されていることがわかる。ただし、特許については、成立した特許を用いて、自己収入が得られていないため、今後は特許収入を得ることが課題となっていく。

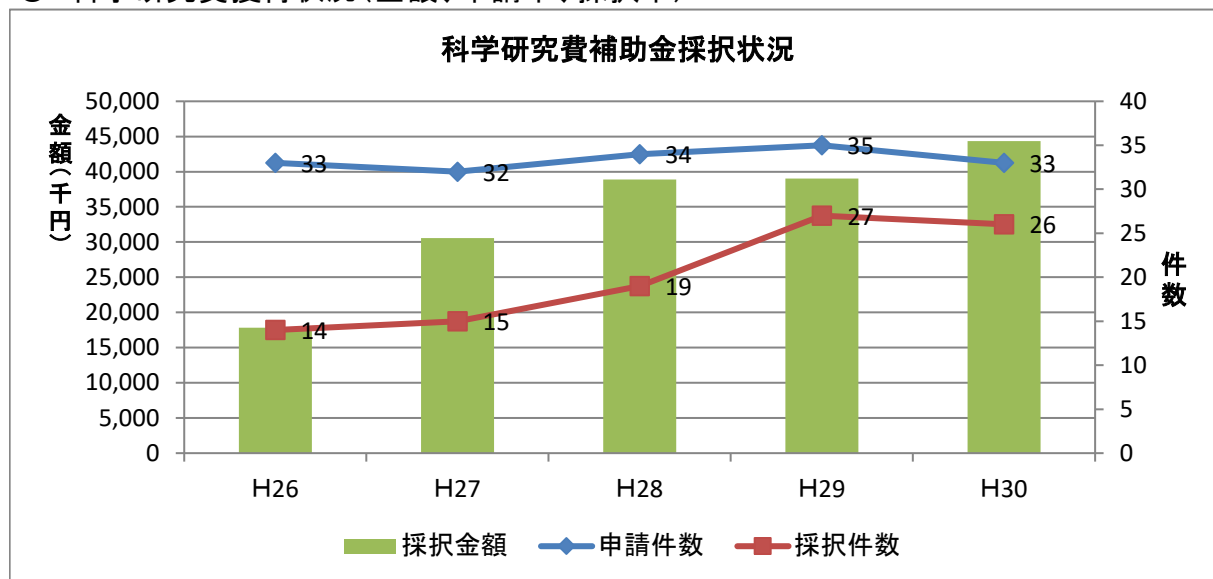
本校の課題の一つにコーディネータを活用した、外部ステークホルダーとの連携体制（他高専の産業振興交流会のようなもの）が形成できていないことが挙げられる。第4期中期目標期間においては、外部との連携体制を構築・強化していくことが課題として挙げられる。

地域貢献活動である、公開講座、出前授業について、受講者数は前中期目標期間中が平均430名参加・平均満足度94%だったところ、第3期中期計画期間においては平均760名参加・平均満足度98%と参加者の増加に加え、満足度についても高水準で維持出来ている。また、サイエンスショーについても、年々参加者が増加しており、参加人数約800名と学校見学会と並び、本校を代表する集客力のあるイベントへ昇華することが出来ている。【別表19】

上位事項を勘案し、研究や社会連携に関して十分な活動を実施していると評価できる。

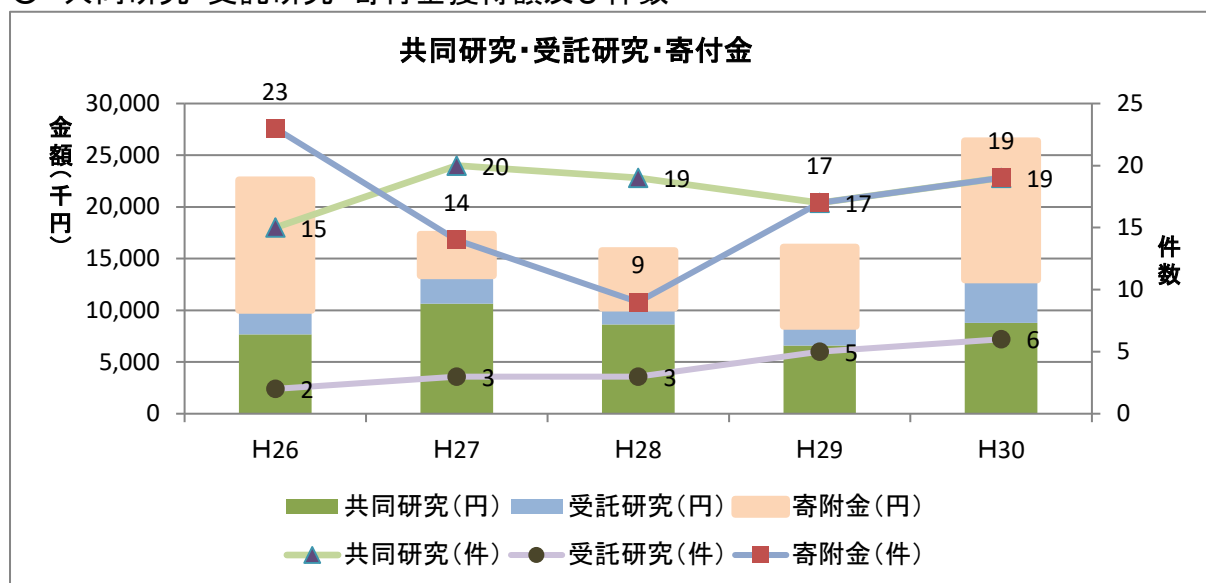
別表16 科学研究費等獲得等及び技術相談の状況(H26～H30)

○ 科学研究費獲得状況(金額、申請率、採択率)



※申請件数、採択件数、採択金額には、継続分を含む

○ 共同研究・受託研究・寄付金獲得額及び件数

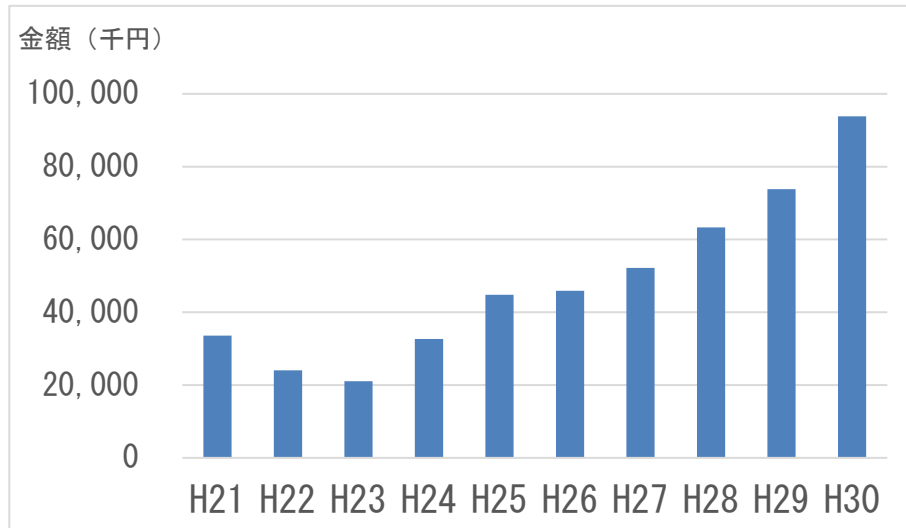


○ 企業からの技術相談

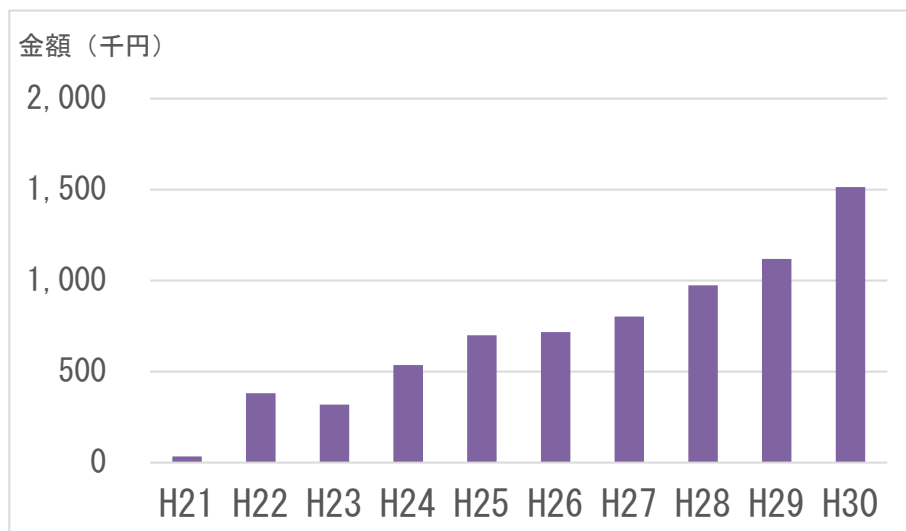
年度	技術相談 件数	うち技術相談から 共同研究に発展した事例		うち技術相談から 受託研究に発展した事例	
		件数	金額	件数	金額
平成26年度	56件	2件	1,600,000		
平成27年度	37件	2件	1,943,700		
平成28年度	20件	1件	203,500		
平成29年度	16件				
平成30年度	5件				

別表 1 7 外部資金の獲得推移

○ 外部資金合計（助成金含む）



○ 教員一人あたりの外部資金

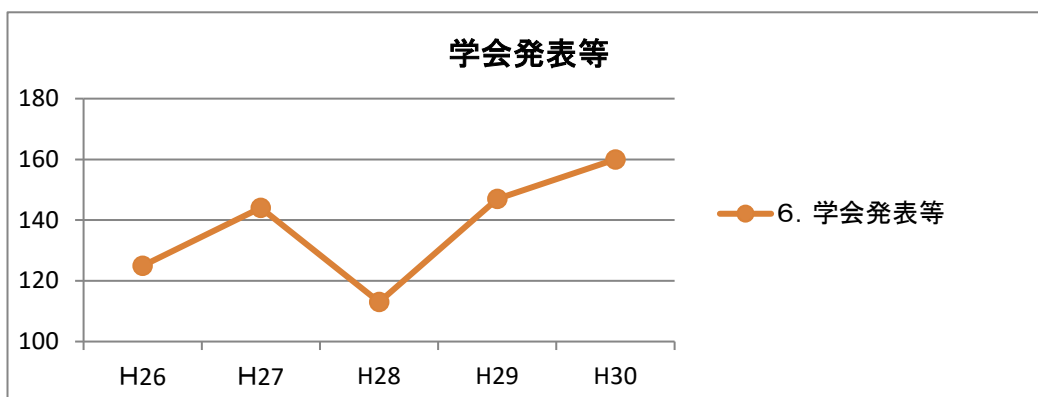
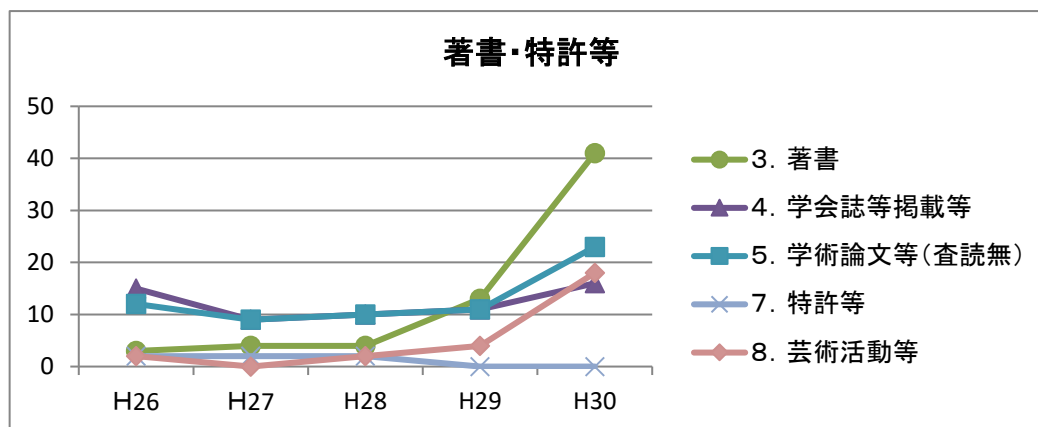
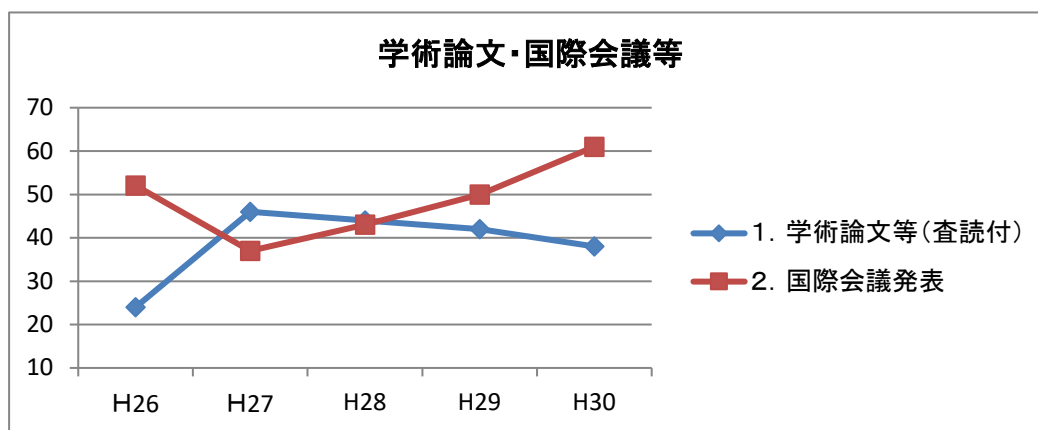


別表18 研究活動等の状況

○ 業績状況等

		H26	H27	H28	H29	H30
1	学会誌、協会誌等掲載学術論文(査読付)	24	46	44	42	38
2	国際会議発表*	52	37	43	50	61
3	著書	3	4	4	13	41
4	学会誌、協会誌等掲載記事(総説、解説、技術資料等), 報告書	15	9	10	11	16
5	研究報告等掲載学術論文(査読なし)	12	9	10	11	23
6	学会発表, シンポジウム発表	125	144	113	147	160
7	特許等	2	2	2	0	0
8	芸術活動, 建築作品, フィールドワーク	2	0	2	4	18
	合計	235	251	228	278	357

*はProceeding発表, Symposium発表, Poster Session発表を含む



別表19 講座等実施状況及び満足度(H26～H30)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
実施講座等数		31 講座	30 講座	23 講座	33 講座	20 講座
内訳						
講座等の開設分野	専門分野(機械系)	2 講座	1 講座		2 講座	1 講座
	専門分野(電気・電子系)	10 講座	13 講座	10 講座	10 講座	11 講座
	専門分野(情報系)	2 講座				
	専門分野(建築・環境都市系)	12 講座	12 講座	10 講座	14 講座	3 講座
	一般教養(人文系)	4 講座	3 講座	3 講座	5 講座	5 講座
	その他	1 講座	1 講座		2 講座	
講座の対象者	小・中学生向け	24 講座	29 講座	18 講座	25 講座	13 講座
	高校・大学生向け	6 講座	4 講座		25 講座	13 講座
	高専生向け	7 講座		1 講座	1 講座	1 講座
	一般成人向け	7 講座	4 講座	4 講座	32 講座	18 講座
	初心者向け					
	経験者向け	1 講座			1 講座	1 講座
	技術者・専門家向け	3 講座	1 講座	1 講座	1 講座	2 講座
目的	小中学生に理科の面白さを伝えることを目的とする	18 講座	25 講座	18 講座	18 講座	13 講座
	社会人向けのリカレント教育を目的としている	7 講座	5 講座	3 講座	8 講座	5 講座
	その他			2 講座		2 講座
受講者数		829 人	964 人	822 人	720 人	422 人
満足度調査を実施講座数		27 講座	30 講座	23 講座	25 講座	20 講座
有効回答者数(A)		483 人	454 人	500 人	439 人	413 人
左のうち満足回答者数(B)		466 人	444 人	476 人	413 人	398 人
満足度率(B/A)		96.5%	97.8%	95.2%	94.1%	96.4%
満足度率70%以上の講座		27 講座 (87.1%)	30 講座 (100.0%)	22 講座 (95.7%)	24 講座 (72.7%)	20 講座 (100.0%)

呉工業高等専門学校
第3期中期目標期間 自己点検・評価

3 国際交流等に関する事項

3. 国際交流等に関する事項

【第3期中期計画】

- ① 「世界に挑戦」をキャッチフレーズにし、海外の大学との学術交流及び海外インターンシップを推進する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

海外の大学との学術交流及び海外インターンシップの推進と学術交流を締結

平成26年度年度

「世界を知る」ため、低学年を対象とした「大連・異文化体験プログラム」を継続して行う。「世界と対話する」ため、高学年を対象とした「ハワイ大学マウイ校」との交流研修を計画して行う。

【活動内容】

- 「世界を知る」ため、9月10日～14日に低学年を対象とした「大連・異文化体験プログラム」を実施し、26名が参加した。
- 「世界と対話する」ため、9月7日～17日に高学年を対象とした「ハワイ大学マウイ校」との交流研修を実施し、19名が参加した。

計画実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

「世界を知る」ため、低学年を対象とした「大連・異文化体験プログラム」を継続して実施する。「世界と対話する」ため、高学年を対象とした「ハワイ大学マウイ校」との交流研修を継続して実施する。

【活動内容】

- 外国人留学生の研修旅行を実施した。本校在学中の6名の留学生全員を国際交流室員1名が引率して、3月21日と22日の1泊2日で京都の歴史と建築物の研修旅行を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

- 「世界を知る」ため、
 - ・低学年を対象とした「大連・異文化体験プログラム」を継続して実施する。
 - ・海外研修としてを3学年全学科が参加する台湾研修旅行を実施する。
- 「世界と対話する」ため、
 - ・高学年を対象とした「ハワイ大学マウイ校」との交流研修を継続して実施する。
 - ・中国5県8高専からなる中国コンソーシアムの枠組みの中で、学校の枠を超えて、All English Camp、アジアDAYを実施する。
 - ・豪州ラドフォード高校のホームスティの受け入れを実施する。

【活動内容】

- 「世界を知る」
 - ①低学年を対象とした「大連・異文化体験プログラム」を継続して実施した。8月28-31日にかけて実施。参加学生7名。

②海外研修として3学年全学科（133人）が参加する台湾研修旅行を実施した。

来年度から感受性の豊かなより若い2年次に実施する予定。

○「世界と対話する」

①高学年を対象とした「ハワイ大学マウイ校」との交流研修を継続して実施した。8／29－9／8，1年生から5年生まで幅広い学年から10名参加。ホームステイ，英語授業などを通じて異文化を吸収した。

②アジアDAYを実施した。本校や中国地区高専からの学生が参加した。12月17日，約50名が参加し，アジアの建物，文化，習慣，ゲームなどを紹介した。

③ALL English Campは3月2－3日に実施した。

昨年に続いて中四国地区高専から約50名の学生と13名のNativeの先生が参加した。テーマは上手なコミュニケーションと将来の夢。1泊2日の密度の濃い英語合宿ができ好評だった。

④豪州ラドフォード高校のホームステイの受け入れを実施した。4月8－14日にかけて生徒14名・教員2名受入。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成29年度年度計画

○「世界を知る」ため、

・海外研修としてを本校第3学年4学科全員（160人）が参加する、台湾研修旅行を実施する。

12月に実施し、台湾の文化・歴史を知り、学生間交流を深める。

○「世界と対話する」ため、

・姉妹提携校である米国ハワイ大学マウイ校（UHMC）における、語学研修・ホームステイ・学生間交流を9月11－22日（11泊12日）で実施する。

・中国四国13高専の学生70～80名を対象とした英語合宿を、8月28－30日の2泊3日で小豆島で実施する。

・学校の枠を超えた学生の交流として、東南アジアの国々をより深く理解するため、アジアDAYを実施する。

【活動内容】

○「世界を知る」ため、

・海外研修として本校第3学年4学科全員（160人）参加の、台湾研修旅行を、12月13－16日（3泊4日）に実施し、台湾の文化・歴史を知り、海洋大学と中央大学との学生間交流を深めることができた。

○「世界と対話する」ため、

・姉妹提携校である米国ハワイ大学マウイ校（UHMC）における、語学研修・ホームステイ・学生間交流を9月11－22日（11泊12日）で実施した。参加学生は5名であったが、英語学習・学生間交流・ホームステイの3領域で大きく成長した。成果報告書を作成し、中国地区8高専にも配布した。

・中国四国13高専の学生を対象とした英語合宿を、8月28－30日の2泊3日で小豆島で実施した。参加学生は40人であったが、Nativeが14人と恵まれた環境で、多数のワークショップを通じて、夢実現力とコミュニケーション力を鍛える英語合宿となった。アンケート調査での学生満足度は高く、活動の様子は動画で成果報告をまとめた。成果報告会は中四国高専13高専からなる第4ブロック会議で報告した。

・学校の枠を超えた学生の交流として、東南アジアの国々をより深く理解するため、アジア DAY を実施した。宇部・徳山・大島の 3 校の高専の参加があり、インドネシア、カンボジア、ベトナム、マレーシア、シンガポールからの留学生の参加があった。各校の紹介もあり、学校・国の枠を超えた活発な交流ができた。

実施結果 IV 「計画を上回って実施した。」

平成 30 年度年度計画

○「世界を知る」ため、

- ・低学年を対象とした「大連・異文化体験プログラム」を継続して実施する。
- ・海外研修としてを 2 学年と 3 学年全学科が参加する台湾研修旅行を実施する。

○「世界と対話する」ため、

・中国 5 県 8 高専からなる中国コンソーシアムの枠組みの中で、学校の枠を超えて、All English Camp, アジア DAY を実施する。

【活動内容】

○「世界を知る」ため、

・低学年の「大連・異文化体験プログラム」は、下記の 2 学年・3 学年が全員参加する台湾研修旅行に置き換え、実施した。

・2 年と 3 年の全学科が参加する台湾研修旅行は 12/12-15 の 3 泊 4 日で実施し、学生 321 名、引率教員 18 名の合計 339 名が参加した。2 年生は基隆高級商工職業学校と交流し、双方の学校紹介や文化紹介を行い交流を深めた。また、3 年生は中央大学と海洋大学の 2 つの国立大学と交流し、大学生と一緒に台北市内研修を行った。今年度は 3 年生から 2 年生に研修時期を移行する年に当たり、同時研修となっているが、次年度以降は 2 年生のみの研修を予定している。

○「世界と対話する」ため、

・中国 5 県 8 高専からなる中国コンソーシアムにおいて、学校の枠を超えて、All English Camp、アジア DAY を実施する。英語 Camp は中国・四国高専を対象とし 8 月末に香川県で実施した。また、アジア DAY については、中国地区高専の留学生・日本人学生が参加し、特にアジアの異文化を深める目的で、1 月 20 日に実施した。

実施結果 III 「十分に実施した。」

【第 3 期中期計画】

② 海外の教育機関と学術交流を締結し、双方向の交流を推進する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

海外ネットワーク構築の実現

平成 26 年度年度計画

「世界に挑戦する」ため、高学年を対象とした「大連大学との学術交流」を機械工学科において相互交流する。海外交流ネットワークの実現に向けて、豪州ラドフォード高校との姉妹校協定締結を検討する。海外インターンシップ構想の実現に向けて、東南アジアを中心に日本企業との調整を行う。

【活動内容】

○「世界に挑戦する」ため、高学年を対象とした「大連大学との学術交流」を機械工学科におい

て相互交流を行った。8月27日～9月5日に大連より学生2名を受入れ、9月7日～17日に本校より大連へ学生2名を派遣した。

○3月25日に海外交流ネットワークの一環として、豪州ラドフォード高校との姉妹校協定を締結した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

「世界に挑戦する」ため、高学年を対象とした「大連大学との学術交流」を電気情報工学科において相互交流する。また、ISTSにて、国際会議での研究成果発表を行う。H26年度に交流協定を締結した、豪州ラドフォード高校との研修を実施する。海外インターンシップ構想の実現に向けて、東南アジアを中心に日本企業との調整を行う。外国人留学生の研修として、琉球当時の日本と東南アジアの貿易交流について理解を深める沖縄研修を実施する。

【活動内容】

○外国人留学生の研修旅行を実施した。本校在学中の6名の留学生全員を国際交流室員1名が引率して、3月21日と22日の1泊2日で京都の歴史と建築物の研修旅行を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

○「世界に挑戦する」ため、

- ・高学年を対象とした「大連大学との学術交流」を電気情報工学科において相互交流する。
- ・ISTSにて、国際会議での研究成果発表を行う。
- ・機構の海外インターンシップ専門部会委員として、東南アジアを中心に日本企業の受け入れ先の拡充を図る。

【活動内容】

○「世界に挑戦する」

- ① 大連大学との学術交流を実施した。本校から2名を派遣、大連大学から2名を受け入れ、双方の交流を8月末から9月初めにかけて各々10日間実施。
- ② JSTSには1名参加した。海外インターンシップは応募が無く、今後の課題。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

○「世界に挑戦する」ため、

- ・国際学会での発表を促進する。
- ・姉妹校である大連大学との学術交流・インターンシップの枠組みを新たに構築する。

【活動内容】

○「世界に挑戦する」ため、

- ・国際学会での発表件数が10件以上あり、各学科とも積極的に取り組んでいる。
- ・大連大学と合同でのインターンシップを行うことが決定した。

3月12-14日に大連にあるインターン受け入れ予定の会社2社を視察すると共に、大連大学の宋副学長と面談し大連大学・呉高専連携インターンシップを実施することになった。大連大学3名、呉高専3名の合計6名参加予定。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成30年度年度計画

○「世界に挑戦する」ため、

・第4学年を対象とした「大連大学・呉高専連携インターンシップ」を実施する。

(1) 期間：①8/20～8/29(9泊10日)：大連現地会社2社、②9/10～9/19(9泊10日)：(株)ディスコ(株)

(2) 募集人員：大連大学、呉高専から各3名。

・ISTSにて、国際会議での研究成果発表を行う。

・機構の海外インターンシップ専門部会委員として、東南アジアを中心に日本企業の受け入れ先の拡充を図る。

【活動内容】

○「世界に挑戦する」ため、

・第4学年を対象とした「大連大学・呉高専連携インターンシップ」を実施した。

① 8/20～8/29(9泊10日)：大連日系会社2社

② 9/10～9/19(9泊10日)：呉高専で実施した。

大連大学から3名、呉高専から2名の学生が参加し、仕事や研究を体験することで異文化理解を深めることができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

③ 海外留学を希望する学生を支援するため、必要な情報を提供するとともに東南アジア諸国を中心に海外インターンシップを奨励する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

海外留学の支援と海外インターンシップの推奨

平成26年度年度計画

海外留学を希望する学生に必要な情報を提供し、支援する。海外インターンシップを奨励する。
海外インターンシップの受入れ企業の検討を始める。

【活動内容】

○海外インターンシップ構想として、中国地区8高専からなる中国地区高等専門学校学生国際交流支援コンソーシアム活動を活性化させ、各校1社、8高専8社の海外企業の開拓を行うことで、専攻科の学生が希望する会社を選択できる自由度を広げていけるよう、3月27日に国際交流支援コンソーシアム事務局を訪問し、構想実現を加速するための善後策を協議した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

海外留学を希望する学生に必要な情報を提供し、支援する。海外インターンシップ活動を推進する。中国5県8高専からなる中国コンソーシアムの枠組みの中で、今後の海外インターンシップ活動環境を整備する。

【活動内容】

○中国 8 高専で海外インターンシップを行うには機構のインターンシップを活用することが効果的との結論に至った。平成 28 年度から呉高専が機構のインターンシップ専門部会の委員を担当することになり、年に 2 回（夏季と春季）、海外インターンシップの派遣学生 の選考、オリエンテーション及び現地での視察を行う中で、今後の海外インターンシップの在り方を考えていくことにした。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 28 年度年度計画

海外留学を希望する学生に必要な情報を提供し、支援する。海外インターンシップ活動を推進する。

【活動内容】

○下記のプログラムで海外留学を希望する学生に必要な情報を提供し、支援した。

①AIU 高校生国際交流プログラムに 4 名が応募し、1 名合格

②Japan society junior fellows leadership program 2017 に応募（2 名）

③トビタテ！留学 JAPAN

プログラムの説明会の情報を、希望する学生に提供した。その他海外留学に関する情報が入り次第、対象となる学生に向けて情報発信を行った。

○海外インターンシップは応募が無く、新たな施策が必要である。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 29 年度年度計画

海外留学を希望する学生に必要な情報を提供し、支援する。海外インターンシップ活動を推進する。

【活動内容】

○海外留学に関心を持ってもらえるように、留学説明会や留学情報を積極的に提供し、すでに 10 名程度の応募があった。今年度実施した海外イベント報告会を、1 年生から 3 年生までの約 500 名を集めて実施した。

○海外インターンシップを促進するため、大連大学と連携したインターンシップの全体概要が決定した。参加 6 名で計画。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成 30 年度年度計画

海外留学を希望する学生に必要な情報を提供し、支援する。海外インターンシップ活動を推進する。

【活動内容】

○海外留学を希望する学生に向けて、留学説明会を実施すると共に、留学した先輩からの体験談を直接聞く機会を設けた。

○今回の大連日系会社でのインターンシップを通じて、海外インターンシップは、日系企業の理解が得られると比較的実施が容易であることが分かった。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ④ 海外からの留学生の受け入れを充実させるため、地域社会、周辺の中学・高校との交流を推進するほか、寄宿舎等の整備について検討する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

留学生の受入れに必要な環境整備

平成26年度年度計画

海外からの留学生受け入れ人数を拡大するため、次の活動を実施する。日本語及び英語ホームページの見直しを図り、呉高専の魅力を国内外の留学生にアピールする。国際交流パーティを、学校周辺の地域の方も交えて実施する。留学生と日本人学生による ALL English Campを実施する。「English ラウンジ」を実施し、ネイティブの教員を囲んで、留学生と日本人学生との交流を推進する。

【活動内容】

- 海外からの留学生受け入れ人数を拡大するため、学校の枠を超えて、次の活動を実施した。
- ・ホームページのトップページに国際交流のバナーを設け、独立したページ構成に見直しを行った。今後、本校の魅力を国内外の留学生にアピールできるように改定を進めていく予定である。
- ・6月6日に国際交流パーティを学校周辺の地域の方も交えて実施し、75名が参加した。
- ・2月28日に国際交流交歓会、3月14日に英語チャレンジデー、3月26日～27日に英語キャンプを実施し、中国地区他高専からの留学生、高専生等合わせ385名が参加した。ネイティブスピーカーによる英語活動を通して、プレゼンスキルの向上と留学生との交流を深めた。
- ・大連学術交流では大連より2名の女子学生が8月27日～9月5日まで寮に滞在した。
- 毎週木曜日午後4時～6時まで「English ラウンジ」を実施し、ネイティブの教員を囲んで、留学生と日本人学生との交流を推進した。毎回20名程度の参加があった。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

海外からの留学生受け入れ人数を拡大するため、次の活動を実施する。日本語及び英語ホームページの見直しを図り、呉高専の魅力を国内外の留学生にアピールする。国際交流パーティを、学校周辺の地域の方も交えて実施する。留学生と日本人学生による ALL English Campを実施する。「English ラウンジ」を実施し、ネイティブの教員を囲んで、留学生と日本人学生との交流を推進する。

【活動内容】

- 機構のグローバル経費（学校の枠を超えた活動）の予算を活用して、活動を実施した。
- 3月16・17日で実施した ALL English Camp では中国地区6高専から47名の学生と Native の先生約10人と一緒になって英語のプレゼン・ホームステイでの上手なコミュニケーションの取り方、トーストマスタークラブ員による英語スピーチなど、今までにないプログラムを行い大盛況であった。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

海外からの留学生受け入れ人数を拡大するため、次の活動を実施する。日本語及び英語ホームページの見直しを図り、呉高専の魅力を国内外の留学生にアピールする。国際交流パーティを、学校周辺の地域の方も交えて実施する。「English ラウンジ」を実施し、ネイティブの教員を囲んで、留学生と日本人学生との交流を推進する。

【活動内容】

○海外からの留学生受け入れ人数を拡大するため、次の活動を実施した。

①国際交流パーティーを実施した。6月3日、50人を超える参加者があった。マレーシアから5名、カンボジアから3名の合計8名。国際交流部が主催し、賑やかに新留学生3名を歓迎した。

○English ラウンジを毎週木曜日 17 時～18 時で実施している。平均 10 名程度が参加し、ネイティブの先生と会話やゲームを実施。

○ホームページの見直しについては、次年度の継続課題である。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

海外からの留学生受け入れ人数を拡大、および入学後の留学生の学生生活の充実を図るため、下記の活動を実施する。

○日本語及び英語ホームページの見直しを図り、呉高専の魅力を国内外の留学生にアピールする。

○国際交流パーティを実施し、留学生・日本人学生との交流を深める。

○「English ラウンジ」を実施し、ネイティブの教員を囲んで、留学生と日本人学生との交流を英語を通じて推進する。

○留学生交流シンポジウム（山口徳地青少年自然の家）に参加し、中国地区8高専の留学生と日本人学生との交流の規模を広げる。

【活動内容】

○ホームページの刷新を目指して、検討中である。

○6月中旬に新たに入学したマレーシア、モンゴルの学生の歓迎会を6月9日に実施した。50人以上の参加があり、ゲームや各国の文化を紹介するプレゼンがあり、賑やかな交流会となった。

○English ラウンジを、国際交流部の学生が主体となり、継続的に実施している。

○今年も留学生交流シンポジウムに参加し、中国8高専の留学生や日本人学生との交流を深めることができた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

海外からの留学生受け入れ人数を拡大するため、次の活動を実施する。国際交流パーティを、学校周辺の地域の方も交えて実施する。「English ラウンジ」を実施し、留学生と日本人学生との交流を推進する。

【活動内容】

○国際交流パーティーは6月22日に、新しくミャンマーとモンゴルからの留学生を迎えて賑やかに執り行った。

○「English ラウンジ」を毎週木曜日に、国際交流部が中心になり実施し、留学生と日本人学生との交流を推進している。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

⑤ 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行を毎年度実施する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

外国人留学生への研修の実施

平成26年度年度計画

年間に2回程度、日本文化体験の研修旅行を実施する。

【活動内容】

○6月20日～22日に中国地区の留学生や学生を集めた留学生交流シンポジウムに、今年度入学した留学生2名が参加した。12月14日に留学生から要望のあった琉球文化をテーマとした研修旅行を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

年間に2回程度、日本文化体験の研修旅行を実施する。

【活動内容】

○機構のグローバル経費（学校の枠を超えた活動）の予算を活用して、中国8高専と一緒に実施した。アジアDAYを3月11日に開催した。中国地区高専から24名の東南アジアの留学生が参加し、自国の食習慣を紹介した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

外国人留学生の研修として、琉球当時の日本と東南アジアの貿易交流について理解を深める沖縄研修を実施すると共に、沖縄高専の海外留学生との交流を深める。

【活動内容】

○本校留学生全員の8名と大島商船の学生1名の合計9名の留学生が参加し、12月26-28日の2泊3日の研修を実施した。首里城で琉球時代の歴史・遺跡に触れ、琉球村では古民家や三線・踊りなど昔から伝わる伝統文化を体験した。なお、沖縄高専との交流は相手校の事情で中止となった。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

恒例の留学生研修旅行を実施し、日本人在校生との交流を深めると共に、日本の文化・歴史・社会をより良く理解する機会を提供する。

【活動内容】

○12月25日に日帰りのバス旅行を実施した。呉市内の留学生交流会との連携した活動が実施できた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行を毎年度実施する。

【活動内容】

○毎年実施している留学生研修旅行は、愛媛の道後温泉体験を１２月に実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【総合分析、評価及び改善事項】

第３期中計画において「世界を知る」「世界と対話する」をキャッチフレーズとして掲げ、国際交流室主導のものの各種取組を実施した。

「世界を知る」活動として、平成２６年度から低学年対象の「大連・異文化体験プログラム」、平成２８年度からは３学年全学科を対象とした「海外研修旅行」を実施し、海外へ派遣する学生の増加を図った。また、平成２７年度に採択された「グローバルエンジニアの育成経費」を活用し、中国地区の他高専や地域の方々に参加できるイベントを開催し学生や留学生同士が、高専間においても交流できる場の提供を実施した。【別表２０】

「世界と対話する」活動として、高学年を対象として、ハワイ大学マウイ校と継続的な交流研修を実施している。また「グローバルエンジニアの育成経費」を活用し、中国地区の他高専を招き日本語を使用しないALL English Campを開催した。また、平成２９年度からは広島県教育委員会と連携し、STEM研修で来日するオーストラリア・クイーンズランド州の学生の受入れも行っている。

海外の教育機関との協定締結状況については、平成２７年３月にオーストラリア・ラドフォード高校、平成２９年４月に中国・大連大学とそれぞれ国際交流に関する協定を締結した。協定を活用し、各種教育研究交流や学生の受入れ等を行っているところである。【別表２０，２１】

また、留学生の受入支援のため、毎週定期的にEnglishラウンジを開催し、ネイティブ教員を参加させた、日本人学生との交流の場を設けた。他にも、留学生に対して研修旅行を毎年度実施しており、前中期目標期間中は近郊（広島県内、四国）に留まっていた研修先を、京都や沖縄など遠方でも開催し、日本文化や歴史建築に触れる機会を提供できるよう配慮した。【別表２１，２２】

上記事項を勘案し、国際交流等について十分な活動を実施していると評価できる。

別表20 国際的な教育研究交流等

○海外の教育機関との国際交流活動状況調査(H26～H30)

	取組名称	取組の具体的内容(期日、会場、テーマ、単位認定状況等)	取組状況(出席者数等)
H26	大連大学との学生相互交流プログラム	平成26年9月10日(水)～19日(金)(本校学生2名を大連大学へ派遣) 平成26年8月27日(水)～9月5日(金)(大連大学生2名を本校で受入) 本校と交流協定を締結した中国・大連大学を拠点として、学生ニーズに合わせた交流を10日程度のプログラムで実施。	(本校) 学生2名、引率教員2名 (中国) 学生2名
	UHMCホームステイ語学研修	平成26年9月7日(日)～17日(水) 本校と交流協定を締結しているハワイ大学マウイ校で、語学力の向上を目指し、ホームステイをしながら現地大学のプログラムに参加した。	(本校) 学生19名、引率教員2名
	大連・異文化体験プログラム	平成26年9月10日(水)～14日(日) 本校と交流協定を締結した中国・大連大学で、世界に目を向ける第1歩として、本校学生が現地の生活や文化に触れることができる内容で実施。	(本校) 学生26名、引率教員2名
	ラドフォード高校生受入	平成26年4月11日(金)～16日(水) ラドフォード高校の学生を受け入れることにより、世界に目を向ける第1歩として、学生同士の交流を育むことができる内容で実施。この結果、H27.3月に交流協定を結ぶことが出来た。	(オーストラリア) 学生15名、引率教員3名
H27	NP:Jプログラムの受入 (Glendale Union High school生徒受入)	平成27年6月15日(月)～22日(月) ローラシアン協会が主催するNP:Jプログラムは、アメリカの中学生、高校生が指導教師と共に日本について学び、スタディーツアーで実際に来日し、日本の生活や文化に直接触れるスタディープログラムで、本校での受入れを行った。	(アメリカ) 学生5名、引率教員1名
	大連大学との学生相互交流プログラム	平成27年9月9日(水)～18日(金)(本校学生2名を大連大学へ派遣) 平成27年8月26日(水)～9月4日(金)(大連大学生2名を本校で受入) 本校と交流協定を締結した中国・大連大学を拠点として、学生ニーズに合わせた交流を10日程度のプログラムで実施した。	(本校) 学生2名、引率教員2名 (中国) 学生2名
	ラドフォード高校短期交換留学プログラム	平成28年2月27日(土)～3月8日(火) 学生が互いに交流し、語学力の向上を図る目的でラドフォード高校へ学生を派遣した。 ラドフォード高校生宅へホームステイをしながら、高校の授業に参加した。 (平成28年4月にラドフォード高校からの留学生を本校で受け入れた)	(本校) 学生16名、引率教員1名
H28	ラドフォード高校短期交換留学プログラム	平成28年4月8日(金)～4月14日(木) 日本の歴史や文化に触れることを目的としてラドフォード高校の学生が来日し、本校にて受入を行った。本校の学生宅でのホームステイ、レーザー加工機を利用したの工作体験、宮島や広島市内の観光等を通して、学生・教員ともに交流を深めた。 (平成28年2月27日(土)～3月8日(火)の期間でラドフォード高校へ学生を派遣した。)	(オーストラリア) 学生14名、引率教員2名
	NP:Jプログラムの受入 (Glendale Union High school生徒受入)	平成28年6月20日(月)～6月27日(月) ローラシアン協会が主催するNP:Jプログラムは、アメリカの高校生が指導教師と共に来日し、日本の生活や文化に直接触れるスタディープログラムで、本校での受入れを行った。	(アメリカ) 学生14名、引率教員1名
	ハワイ大学マウイ校(UHMC)姉妹校交流研修	平成28年8月29日(月)～9月8日(木) 中国地区8高専の高専生を対象とし、ハワイ大学マウイ校(UHMC)において研修を行った。ホームステイをしながらの語学研修に加え、日米文化の違いについて英語で表現するクラスに参加するプログラムを実施した。	(本校) 学生10名、引率教員1名
	大連・異文化体験プログラム	平成28年8月28日(日)～8月31日(水)にわたって実施。 中国・大連大学を拠点として、英語によるプレゼンテーション、英語での授業参加、大連大学の学生との交流、日系企業の現地工場訪問、大連市内の歴史的建造物視察等を含む3泊4日のプログラムを行い、交流を図った。	(本校) 学生7名、引率教員1名
	大連大学学術交流	平成28年8月28日(日)～9月7日(水)にわたって、本校より2名の学生を大連大学へ派遣。 平成28年9月9日(金)～9月18日(日)にわたって、大連大学より2名の学生を本校で受入。 平成24年3月に交流協定を締結した中国・大連大学との間での学術交流を通して相互の文化への理解を深めた。	(本校) 学生2名、引率教員1名 (中国) 学生2名
H29	NP:Jプログラムの受入 (Pleasant Valley High School生徒受入)	平成28年6月20日(月)～6月26日(月) ローラシアン協会が主催するNP:Jプログラムでは、アメリカの高校生が指導教師と共に来日し、日本の生活や文化に直接触れるスタディープログラムで、本校での受入れを行った。	(アメリカ) 学生9名、引率教員1名
	ハワイ大学マウイ校(UHMC)姉妹校交流研修	平成29年9月11日(月)～9月22日(木) 中国地区8高専の高専生を対象とし、ハワイ大学マウイ校(UHMC)において研修を行った。ホームステイをしながらの語学研修に加え、日米文化の違いについて英語で表現するクラスに参加するプログラムを実施した。	(本校) 学生5名、引率教員1名
H30	ラドフォード高校短期交換留学プログラム	平成30年4月16日(月)～4月23日(月) 日本の歴史や文化に触れることを目的としてラドフォード高校の学生が来日し、本校にて受入を行った。本校の学生宅でのホームステイ、レーザー加工機を利用したの工作体験、宮島や広島市内の観光等を通して、学生・教員ともに交流を深めた。 (2020年3月に本校から派遣予定)	(オーストラリア) 学生9名、引率教員2名
	大連大学・呉高専合同インターンシップ	平成30年月20日(月)～8月29日(水)にわたって、本校より2名の学生を大連大学へ派遣。 平成30年9月10日(月)～9月19日(水)にわたって、大連大学より3名の学生を本校で受入。 平成24年3月に交流協定を締結した中国・大連大学との間での学術交流を通して相互の文化への理解を深めた。	(本校) 学生2名 (中国) 学生3名

別表21 海外学生受入れ状況調査

年度	派遣元国名	派遣元機関等	受入 人数	受入れ内容							受入れ期間						
				1	2	3	4	5	6		年	月	日	～	年	月	日
H26	アメリカ合衆国	ブレマトン市	3			○	○				26	8	4	～	26	8	4
	オーストラリア	ラドフォード高校	15			○	○				26	4	11	～	26	4	16
	中華人民共和国	大連大学	2		○						26	8	27	～	26	9	5
H27	アメリカ	ローラシアン協会 Glendale Union High school	5			○	○				27	6	15	～	27	6	22
	中華人民共和国	大連大学	2		○						27	8	26	～	27	9	4
	オーストラリア	ラドフォード高校	1		○						27	4	1	～	27	12	12
	オーストラリア	ラドフォード高校	2		○						27	12	12	～	28	1	28
H28	オーストラリア	ラドフォード高校	14		○	○	○				28	4	8	～	28	4	14
	アメリカ	ローラシアン協会 Glendale Union High school	14		○	○	○				28	6	20	～	28	6	27
	中国	大連大学	2		○	○	○				28	9	9	～	28	9	18
H29	アメリカ	ローラシアン協会 Glendale Union High school	9		○	○	○				29	6	19	～	29	6	26
	オーストラリア	ラドフォード高校	1		○	○	○				29	4	1	～	29	12	31
H30	オーストラリア	ラドフォード高校	9		○						30	4	16	～	30	4	23
	中国	大連大学	3		○						30	9	10	～	30	9	19
	オーストラリア	ラドフォード高校	1		○						30	12	13	～	31	1	19
	オーストラリア	ラドフォード高校	13			○					30	12	6	～	30	12	6

○「受入れ内容」……以下の区分で該当する番号の欄に○を記入してください。

1. 語学研修(日本の語学学校や大学などで、日本語を学ぶこと)
2. 勉学・研究(語学研修を除き、日本の学校や大学などで勉学や研究を行うこと)
3. 異文化体験(日本の歴史・文化・社会を知ったり体験したりすること【例:博物館見学、文化遺産見学、市内見学】)
4. 異文化交流(日本の学生や教員とコミュニケーションを取ることで、日本の文化等を知ること)
5. 施設等見学(日本の研究施設や工場等の施設を見学すること)
6. その他

別表22 外国人留学生に対する研修旅行実施状況調査

年度	名称	概要	実施年月日						参加人数					
			年	月	日	～	年	月	日	留学生	学生	教員	その他	計
H26	留学生研修旅行	留学生に自然景観や各地の習俗，風俗を見学・体験させることにより，日本の歴史や文化に対する理解を深めることを目的に毎年実施。平成26年度は，岡山大学や倉敷美観地区などを訪れ，日本史学の講義や天領時の町並み散策を行った。	26	12	14	～	26	12	14	4	2		5	11
H27	外国人留学生実地見学旅行	本校に在学する外国人留学生が，日本の歴史や文化に触れる機会を設けることを目的とする。 留学生が興味を持っている京都について，日本文化，建築や歴史など，留学生の出身国および日本との関係について理解を深める。	28	3	21	～	28	3	22	6		1		7
H28	留学生研修旅行	本校に在学する外国人留学生が，日本の歴史や文化に触れる機会を設けることを目的とする。平成28年は留学生が興味を持っている沖縄の文化・歴史・生活について理解することを目的とする。	28	12	26	～	28	12	28	9		1		10
H29	留学生研修旅行	本校に在学する外国人留学生が，日本の歴史や文化に触れる機会を設けることを目的とする。平成29年度は留学生が所属している日本語教室と合同で実施した。	29	12	24	～	29	12	24	2	11	1		14
H30	留学生研修旅行	本校に在学する外国人留学生が，日本の歴史や文化に触れる機会を設けることを目的とする。平成30年度は愛媛県を訪問した。	31	1	12	～	31	1	13	7		1		8
	留学生文集作成のための実施調査	日本語日本事情の授業で作成する文集のため，宮島を訪問し，厳島神社見学・宮島商店街調査をおこなった。	30	11	17	～	30	11	17	7		1		8

呉工業高等専門学校
第3期中期目標期間 自己点検・評価

4 管理運営に関する事項

4 管理運営に関する事項

【第3期中期計画】

- ① 校長がイニシアティブをとり、迅速かつ責任ある意志決定を行うとともに、校長裁量経費により戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

【年度計画活動内容及び実施評価】

戦略的かつ計画的な予算配分の執行(H26～H30)

平成26年度年度計画

校長がイニシアティブをとり、いくつかの懸案事項について迅速かつ責任ある意志決定を行う。
校長裁量経費により、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

【活動内容】

- 校長のイニシアティブにより、懸案事項であった項目に関し、次のとおり実施した。
 - ・平成28年度に専攻科の改組を行うことを決定した。
 - ・ホームページのリニューアルを行った。
 - ・自主・自立性のある優れた学生を確保するため、平成27年度入試から特別推薦制度を導入し、15名の学生を合格とした。
 - ・呉高专教育改革検討プロジェクトの中間答申を受け、平成27年度から「地域発・インキュベーション型教育」を実施することとした。
 - ・教員の負担を軽減するため、寮務委員会のあり方を検討し、各分野からの寮務委員を廃止することとした。また、クラブ数のあり方についても検討し、次年度以降の継続課題とした。
- 校長裁量経費により、平成27年度から実施する「地域発・インキュベーション型教育」への諸準備ならびに教育改善や地域からの要望が多い3Dプリンタ関連に重点的に資源配分を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

校長がイニシアティブをとり、いくつかの懸案事項について迅速かつ責任ある意志決定を行う。
校長裁量経費により、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

【活動内容】

- 校長のイニシアティブにより、懸案事項であった次の項目に関し、実施した。
 - ・平成28年度の専攻科改組に向け、準備を着実に推進
 - ・平成29年度に本科の改組を行うことを決定。7年一貫教育の体制強化を念頭に、共通専門教育を充実。教員の負担軽減も念頭に置きつつ。育てようとする学生像やカリキュラムなどを抜本的に見直し。結果的に改組は認められず、再検討となった。
 - ・全学年全学科で取り組むインキュベーションワークの開始
 - ・不備であった自己点検・評価規則を新たに制定。それに合わせ、組織も改編
 - ・教員評価方法を透明化し、必要な教員評価に用いるとともに、自己点検評価にも活用できるよう、教員評価方法を制定
 - ・授業改善と教員評価及び教職員の負担軽減を目的とし、授業アンケート内容を大幅に見直し

- ・教員の負担軽減を図りつつクラブ活動を活性化するため、クラブ数を見直し、平成29年度より削減することを決定
- ・50周年記念モニュメントの設置及び付属する電光掲示板による地域への学内外の情報発信を開始
- ・分野共通経費の各分野への配分方法の見直し
- ・遠隔地の中学校37校を校長が訪問。教員の負担軽減PR。本校への評価と要望を今後の運営・方針に反映
- ・教員を民間企業へ研修のため派遣。次年度も派遣予定
- ・全教員のメールボックス室の統合

○インキュベーションワークに対する校長裁量経費からの支給額の指標を決め、積極的に支援。18件を支援。順調に成果が上がりつつある。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成28年度年度計画

校長がイニシアティブをとり、いくつかの懸案事項について迅速かつ責任ある意志決定を行う。
校長裁量経費により、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

【活動内容】

○校長のイニシアティブにより、懸案事項であった次の項目に関し、実施した。

- ・4月1日に教員会を開催。前年度の達成度評価・総括ならびに当該年度の学校運営方針・目標とその実現方策の周知
- ・専攻科を1専攻に改組、定員も本科定員の25%に増やし、7年一貫教育の体制強化へと教育方針の転換。在校生・保護者へ説明会開催。中学校・中学生・保護者へPR
- ・改組した専攻科の主幹となるプロジェクトデザイン工学演習ならびにプロジェクトマネジメントの内容検討
- ・教育理念のもとに、本科・専攻科に対しそれぞれ教育目的・学科と専攻の教育目的ならびに学習・教育目標を見直し、それらに対し「三つの方針（DP, CP, AP）」を策定。HPで公表
- ・遠隔地の内側の中学校30校を校長が訪問。教員の負担軽減とPR。本校への評価と要望を今後の運営・方針に反映
- ・中学校訪問のルール見直し（選択と集中、指定教員制導入）
- ・推薦選抜方法の見直し：特別推薦の推薦基準引き上げならびに一般推薦における適性検査の廃止と面談方法の学科間統一
- ・専攻科入試：推薦基準、学力入試方法の見直し
- ・透明化した教員活動ポイントに基づく教員評価、面談と検証
- ・クラブ数・クラブコーチ謝金のあり方について見直し
- ・退職教職員の蔵書の扱いについて申合せの制定

○機能的でない施設の利用状況改善を目的とし、校長裁量経費を用い、専攻科・協働研究センター棟を中心として、教員室や実験室の適切な再編成を実施。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成29年度年度計画

校長がイニシアティブをとり、いくつかの懸案事項について迅速かつ責任ある意志決定を行う。
校長裁量経費により、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

【活動内容】

○校長のイニシアティブにより、懸案事項であった次の項目に関し、実施した。

- ・KOSEN 4. 0 イニシアティブの策定。地域実践教育プログラムの実施
- ・教育体制整備の計画策定。特別枠で2名採用
- ・受託事業の規則制定。1件受入れ
- ・図書館・教育センター、第6寮の女子寮への改修計画策定（平成31概算要求）
- ・校長裁量経費の改正（5年間の実績を踏まえ、一部改正）
- ・呉高専の特色を9項目にまとめ直し、HPなどを中心に公開。PRに活用
- ・実績を上げている教育内容を「工学教育」へ投稿するよう、複数名の教員に指導
- ・広島県の遠隔地内側と呉市遠隔地の中学校のうち未訪問校ならびに有力校26校を校長が訪問。3年間で、呉市街地を除き、広島県の主な中学校をほぼ訪問。教員の負担軽減と本校のPR。来年度以降の訪問重点校の方向性に目途
- ・本科推薦入試募集人員の変更（一般推薦と特別推薦合わせて50％に）
- ・特別推薦基準の見直し（調査書基準点を引き上げ、優れた実績の内容も精査）
- ・一般推薦における面接評価方法の見直し（面接室間における評価点の是正）
- ・入学説明会実施日の変更（広島県教委からの要請を受け、公立高校入試日の翌日に実施）
- ・授業アンケートの見直し（内容精選）
- ・TOEIC得点の推移をグラフ化し、現状を把握
- ・本科学業成績優秀者に本校オリジナルの副賞を授与
- ・専攻科の入試説明会資料の見直し。専攻科の定員を充足（43名入学）
- ・専攻科生の研究業績の推移をグラフ化
- ・慶弔関連規則の改正
- ・呉高専主催による送別会の実施

○学生の落ちこぼれ対策に加え自学自習の習慣を確立するため、校長裁量経費を用い、1年生全員を対象に、eラーニングシステム「すらら」を導入。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

校長がイニシアティブをとり、いくつかの懸案事項について迅速かつ責任ある意思決定を行う。
校長裁量経費により、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

【活動内容】

○校長のイニシアティブにより、懸案事項であった次の項目に関し、実施した。

- ・本校のウリを確立。地域への貢献を2本柱（教育と研究）で行い、地域活性化の中核（コア）に。教育はインキュベーションワークやプロジェクトデザイン工学演習、研究は医工連携で
- ・呉医療センター・中国がんセンターとの包括連携協定を調印
- ・要覧2018に本校の主要な情報はほとんど盛り込み、内容を把握しやすいように多くのデータを図式化し、ほぼ完成形となった。
- ・2019年度以降の教育体制整備計画を策定
- ・2019年度から実施予定の新カリキュラムを策定
- ・KOSEN 4. 0 イニシアティブで3Dプリンタの活用を策定。採択
- ・校長による県内の訪問校は約100校となり、重点訪問校の選定と訪問に好適な担当教員の絞り込み

- ・中学校説明会用各種パワポ、ほぼ完成形となった
- ・専攻科入試説明会用パワポ、ほぼ完成形となった
- ・専攻科生の学会等参加旅費の支出に関する取扱いの変更
- ・第6寮の女子寮への改修計画が平成31年度概算要求で採択
- ・平成31年度概算要求でS評価の図書館・教育センター改修採択
- ・中国新聞と定例情報交換会を開始

○学生の能力向上を図るため、校長裁量経費を用い、MATLAB 包括ライセンス、ALK NetAcademy NEXT を導入。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ② 管理運営の在り方について、各種研修会及び会議で得た情報が共有できるよう、定期的に運営連絡会を開催するほか、管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図る。

【年度計画活動内容及び実施評価】

「管理職研修」を実施

平成26年度年度計画

機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。幹部教職員による意見交換会を定期的に開催する。管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図るため、自己点検等管理委員会で具体策を検討する。

【活動内容】

○会議出席旅費が50%削減される中、重要度を考慮し機構等の主催する研修会等へ役職員を積極的に参加させた。

※主な研修会等

- ・高専機構（管理職研修：教授1名）
- ・高専機構（全国高専教育フォーラム：教員6名）
- ・呉公共職業安定所主催（企業トップマネジメント人権問題研修会：課長1名）

○校長、副校長、3主事、専攻科長、事務部長、2課長の9名による運営連絡会を毎週1回開催し、情報共有と日々発生する諸課題に迅速に対応した。

○管理運営体制の改善のため、教職員の負担軽減を図るための体制について、企画・戦略WGでの検討を経て、平成27年度から広報関係業務の集約化のため、広報室と企画係を統合して企画広報室を設置することとした。また、自己点検・評価体制の改善を図るため、教員の自己評価、学生の教員評価、その他、本校独自で行っている各種アンケートの見直し等について、自己点検等管理委員会で具体策の検討を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。幹部教職員による意見交換会を定期的に開催するほか、管理運営上の重要事項の伝達方法の改善について検討する。管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図るため、運営連絡会においても必要に応じた審議・検討を行い、その意見を踏まえ自己点検等管理委員会で具体策を検討する。

【活動内容】

- 機構等の主催する研修会等へ役職員を積極的に参加させた。
- 幹部教職員による意見交換会（運営連絡会）を定期的（毎週1回）開催し、管理運営上の重要事項の伝達方法の改善について検討した。
- 管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図るため、運営連絡会においても必要に応じた審議・検討を行い、その意見を踏まえ自己点検・評価規則を制定し、自己点検及び評価に関する体制を整備するとともに、教員の年間活動プラン及び実施状況を数値化するための入力フォーマットを作成し、教員の成果の把握と改善につなげることにした。
- 学生会と幹部教職員による懇談会を12月に開催した。次年度以降は、年2回、開催することを決定した。

実施結果 IV「計画を上回って実施した。」

平成28年度年度計画

- 機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。幹部教職員による意見交換会を定期的に開催するほか、管理運営上の重要事項の伝達方法の改善について検討する。管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図るため、運営連絡会においても必要に応じた審議・検討を行い、その意見を踏まえ自己点検・評価委員会で具体策を検討する。

【活動内容】

- 機構等の主催する研修会等へ役職員を積極的に参加させた。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

- 機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。

【活動内容】

- 機構等の主催する研修会等へ役職員を積極的に参加させた。

実施結果 III「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

- 機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。

【活動内容】

- 機構等の主催する研修会等へ役職員を積極的に参加させた。

実施結果 III「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ③ 業務の集約化、効率化及び合理化を推進するため、費用対効果を考慮した上でアウトソーシング等で対応可能な業務がないか検討する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

効率的な運営

平成26年度年度計画

- 業務改善に係る面談を通して業務内容の把握と改善を促すとともに、アウトソーシング等で対応

可能な業務がないか検討する。

【活動内容】

○業務改善に係る面談を通して業務内容の把握を行い、改善することを念頭に置いて職務に取り組むよう助言した結果、一定の成果があった。また、学生指導教職員研修会で提議された広報等の在り方に関し、企画・戦略WGで検討し、広報関係印刷物の集約と担当部署の統合を平成27年度から行うこととした。特に学校要覧については可能な限りアウトソーシングで対応することとした。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

業務改善について、事務部連絡会を通じて業務内容の把握と改善を促す。また、アウトソーシング等で対応可能な業務について、費用対効果を考慮して実施する。

【活動内容】

○業務改善について、事務部連絡会を通じて業務内容の把握と改善を促し、以下の事項について見直し等を行った。

- ・会議室、公用車、マイクロバスの予約方法の変更
- ・総務委員会及び教員会の開催日を最適日となるよう変更
- ・年間契約（警備業務）の複数年化

また、第4ブロックでの事務の協働共有化計画の動向に沿った対応を行うこととした。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

業務改善について、事務部連絡会を通じて業務内容の把握と改善を促す。また、アウトソーシング等で対応可能な業務について、費用対効果を考慮して実施する。

【活動内容】

○管理業務の集約やアウトソーシング可能な業務の具体的な洗い出しを行い、費用を勘案し集約手順及びマニュアルの検討に至った。

実施結果Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

管理業務の分析により必要性、実施時期の適正を勘案したうえで共通認識で利用できるマニュアル及び仕様書の作成を図る。

【活動内容】

○企画広報係においては外部資金受入関係のマニュアル構築

○用度係においては納品研修マニュアルの構築等により研究費等の適正執行に貢献できるように対応した。

実施結果Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

部長、課長、課長補佐（総務担当及び財務担当）、係長による意見交換会を開催し管理業務の再検証及び問題、課題を抽出する。若手職員を中心とした「課題、問題」解決に向けたWGを設置し検討を開始する。

【活動内容】

○管理業務の集約化の一環として総務係及び人事係を平成30年10月より一本化し、業務の効率化及び情報共有並びに協同化を計った。

○企画広報業務の効率化及び更なる情報発信力の強化のため平成30年10月に配置移動を実施した。

実施結果Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

④ 学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態等を予測し、防止策等に取り組む。

【年度計画活動内容及び実施評価】

教職員のコンプライアンスの向上と危機管理

平成26年度年度計画

学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態（リスク）等の発生を予測するため、運営連絡会において危機管理に関する情報共有を行い、防止策等について意見交換を行う。

【活動内容】

○運営連絡会において危機管理、ガバナンス及びコンプライアンスの強化等に係る情報共有を行い、防止策等について意見交換を行った。

※具体的事項等

- ・南海トラフ地震及びその地震発生に伴う津波に対する避難時の対策
- ・個人情報との管理と情報漏洩防止等に係る対策
- ・知的財産の管理等
- ・不適切な会計経理等の防止。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態（リスク）等の発生を予測するため、運営連絡会において危機管理に関する情報共有を図り、防止策等について意見交換を行い、各部署へ適切な指示と必要な情報提供を行う。危機管理基本マニュアル等の点検、見直しを行う。

【活動内容】

○学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態（リスク）等の発生を予測するため、運営連絡会において危機管理に関する情報共有を図り、防止策等について意見交換を行い、各部署へ適切な指示と必要な情報提供を行った。

○不適切な会計経理等を防止するため、呉高専公的研究費使用マニュアルを策定し、教員会において留意点等について説明した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成28年度年度計画

学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態（リスク）等の発生を予測するため、運営連絡会において危機管理に関する情報共有を図り、防止策等について意見交換を行い、各部署へ適切な指示と必要な情報提供を行う。危機管理基本マニュアル等を点検し、必要な見直しを行う。

【活動内容】

○不適切な会計経理等を防止するため、平成28年12月14日開催の教員会において留意点等について説明した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態（リスク）等の発生を予測するため、クレーム及び不具合等の蓄積並びに関係者へ周知する報告書作成。

【活動内容】

○更なるリスク管理を検証することとした。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

⑤ 機構及び地区等の主催する各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

各種研修会等へ参加

平成26年度年度計画

各種研修会等への参加及び本校における研修実施計画を策定する。

【活動内容】

○各種研修会等については、予算の範囲内で必要な研修等に参加させた。学内ではFD研修会計画に沿って実施したほか、テレビ会議システムを利用して複数の高専が実施するFD研修を視聴した。平成27年度以降の実施について具体的な調整を行いたい。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

コンプライアンス意識向上に関する各種研修会等への参加及び本校における研修実施計画を策定する。

【活動内容】

○コンプライアンスに特化した研修計画は策定しなかったが、意識向上に関する各種研修会等へ可能な限り参加させた。

実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

平成28年度年度計画

コンプライアンス意識向上に関する各種研修会等への参加及び本校における研修実施計画を策定する。

【活動内容】

○平成29年度以降の実施について具体的な調整を行いたい。

実施結果 Ⅰ「実施していない。」

平成29年度年度計画

コンプライアンス意識向上に関する各種研修会等へ参加する。

【活動内容】

○12月20日に公的研究費のコンプライアンス教育及び不正防止に関するFD研修会を実施した。また、意識向上に関する各種研修会等に可能な限り参加させた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

コンプライアンス意識向上に関する各種研修会等への参加及び本校における研修会等を実施する。

【活動内容】

○コンプライアンス教育の推進のため平成30年8月に教職員FD研修を実施した。

○事務職員のコンプライアンス、機能強化、組織力向上のため平成30年8月に1泊2日の宿泊研修を実施した。

○危機管理「いざというときの行動力」養成のため平成30年7月及び10月に呉市防災センターにて研修を実施した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

⑥ コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

コンプライアンスに関するセルフチェック

平成26年度年度計画

コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。

【活動内容】

○コンプライアンスに関するセルフチェックは、常勤職員及び非常勤職員の実施回収率は100%であったが、非常勤講師については87%の回収率にとどまった。

実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

平成27年度年度計画

コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施す。

【活動内容】

○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施した（回収率：常勤教職員100%、非常勤教職員95%）。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施す。

【活動内容】

○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施した（回収率：常勤教職員１００％，非常勤教職員９２％）。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成２９年度年度計画

コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施す。

【活動内容】

○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施した（回答率：常勤教職員１００％，非常勤教職員１００％）。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成３０年度年度計画

コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施す。

【活動内容】

○校内での安全管理の徹底のため「安全マニュアル」の見直し及び検討を開始した。

○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施した。（回答率：常勤教職員１００％，非常勤教職員１００％）

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

【第３期中期計画】

⑦ 学内の監査体制の充実を図る。

【年度計画活動内容及び実施評価】

監事監査体制を強化

平成２６年度年度計画

監事監査，相互監査，内部監査を実施する。

【活動内容】

○監事監査：２月３日～５日監事監査及び内部監査を実施し、総評として本校の様々な取り組みに評価いただいた。また、監事及び機構本部職員から個別事項に関する改善を要する点等について意見交換を行い、実りある監査となった。

○相互監査：１月２２日及び２２日に相互監査を実施した。特段の指摘事項等はなし。

○内部監査：１０月２７日～３１日に実施し、特段の問題点等なし。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成２７年度年度計画

相互監査，内部監査を実施し，監査結果を確認の上，必要に応じた対策を施す。また，現状の監査体制で十分なのかを検証し，必要に応じて監査体制の見直しを行う。

【活動内容】

○相互監査：12月7日、8日に実施され、特段の指摘事項等はなし。

○内部監査：12月21日～12月25日に実施し、特に指摘事項はなかった。

○物品検査：12月4日～2月29日で実施し、大きな問題点はなかったが、ラベルのないものについては再発行し、使用者や設置場所の変更については手続き書類を提出するよう依頼した。

実施結果 II「十分に実施していない。」

平成28年度年度計画

相互監査、内部監査を実施し、監査結果を確認の上、必要な対策を施す。また、現状の監査体制で十分なのかを検証し、必要に応じて監査体制の見直しを行う。

【活動内容】

○相互監査：平成28年11月17日、18日に米子工業高等専門学校を監査校として実施され、特段の指摘事項はなかった。

○内部監査：平成29年1月23日～平成29年1月27日に実施し、特に指摘事項はなかった。

○物品検査：平成28年12月8日～平成28年12月22日で実施し、大きな問題点はなかったが、ラベルのないものについては再発行し、使用者や設置場所の変更については手続き書類を提出するよう依頼した。

実施結果 II「十分に実施していない。」

平成29年度年度計画

相互監査、内部監査を実施し、監査結果を確認の上、必要な対策を施す。また、現状の監査体制で十分なのかを検証し、必要に応じて監査体制の見直しを行う。

【活動内容】

○相互監査：平成29年11月1日、2日に松江工業高等専門学校を監査校として実施され、特段の指摘事項はなかった。

○内部監査：平成29年12月18日～平成29年12月22日に実施し、特に指摘事項はなかった。

○物品検査：平成29年11月20日～平成29年12月27日で実施し、大きな問題点はなかったが、ラベルのないものについては再発行し、使用者や設置場所の変更については手続き書類を提出するよう依頼した。

実施結果 II「十分に実施していない。」

平成30年度年度計画

相互監査、内部監査を実施し、監査結果を確認の上、必要な対策を施す。また、現状の監査体制で十分なのかを検証し、必要に応じて監査体制の見直しを行う。

【活動内容】

○相互監査：平成30年11月19日、20日に弓削商船高等専門学校を監査校として実施。

○内部監査：平成31年1月に5日間で実施。

実施結果 II「十分に実施していない。」

【第3期中期計画】

- ⑧ 平成 24 年 3 月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」
確実に実施する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の確実な実施

平成 26 年度年度計画

「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」を確実に実施させるため、教職員に対する情報提供のほか、会計室において勉強会を開催し、その徹底を図る。

【活動内容】

○ 10 月 1 日に開催された教員会終了後、情報提供として科研費に関する資料の配付と説明を行った。機構本部より各種通知があった場合は、構成員に情報提供（資料提供及びメール等にて）している。また、会計室において、11 月・1 月・2 月・3 月にテレビ会議システムによる研修会に参加（研修会映像の再視聴を含む）し、再発防止の徹底を図った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 27 年度年度計画

「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン（平成 26 年 2 月 18 日改正）」を確実に実施させるため、教職員に対する情報提供のほか、会計室において勉強会を開催し、その徹底を図る。

【活動内容】

○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン（平成 26 年 2 月 18 日改正）」を確実に実施させるため、本校独自の公的研究費使用マニュアルを 12 月に作成し、教員会において説明を行った。また、地区別の勉強会に担当職員を派遣またはテレビ会議にて参加し知識の習得に努めたほか、会計室においても必要な情報共有（勉強会）を行い、その徹底を図った。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成 28 年度年度計画

「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン（平成 26 年 2 月 18 日改正）」を確実に実施させるため、平成 27 年 12 月に本校で策定した「呉高専 公的研究費使用マニュアル」により必要事項の周知を行うほか、財務事務室において勉強会を開催し、その徹底を図る。

【活動内容】

○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン（平成 26 年 2 月 18 日改正）」を確実に実施させるため、平成 28 年 12 月 14 日の教員会にて公的研究費の不正使用防止及び本校独自の公的研究費使用マニュアルにより説明を行った。また、地区別の勉強会に担当職員を派遣またはテレビ会議にて参加し知識の習得に努めたほか、会計室においても必要な情報共有（勉強会）を行い、その徹底を図った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 29 年度年度計画

「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン（平成２６年２月１８日改正）」を確実に実施させるため、平成２７年１２月に本校で策定した「呉高専 公的研究費使用マニュアル」により必要事項の周知を行うほか、財務事務室において勉強会を開催し、その徹底を図る。

【活動内容】

○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン（平成２６年２月１８日改正）」を確実に実施させるため、１２月２０日の教員会終了後において、公的研究費のコンプライアンス教育及び不正使用防止に関する研修会を実施した。また、地区別の勉強会に担当職員を派遣またはテレビ会議にて参加し知識の習得に努めたほか、会計室においても必要な情報共有（勉強会）を行い、その徹底を図った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成３０年度年度計画

平成２４年３月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」確実に実施する。平成２７年１２月に本校で策定した「呉高専 公的研究費使用マニュアル」の更新及び研究費不正に関するＱ＆Ａ集を作成、教員への周知を確実に実施する。

【活動内容】

○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン（平成２６年２月１８日改正）」を確実に実施させるため、平成３１年３月６日の教員会にて公的研究費の不正使用防止及び本校独自の公的研究費使用マニュアルにより説明を行った。また、平成３０年８月２日に新任教職員を対象とした公的研究費のコンプライアンス教育として「不正防止の取組み」「公的研究費等の管理・執行」に関する研修会を実施した。さらに地区別の勉強会に担当職員を派遣またはテレビ会議にて参加し知識の習得に努めたほか、会計室においても必要な情報共有（勉強会）を行い、その徹底を図った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第３期中期計画】

⑨ 事務職員や技術職員の能力の向上のため、各種研修を計画的に実施するとともに、必要に応じ文部科学省、地方自治体及び企業などが主催する研修に職員を参加させる。

【年度計画活動内容及び実施評価】

事務職員や技術職員の能力向上を図る

平成２６年度年度計画

事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施する。国、地方自治体、国立大学法人等が主催する研修会等へ参加する。

【活動内容】

○事務職員や技術職員を対象とした、学内研修として外部講師を招へいし、次の研修等を実施した。

- ・採用面接官研修１０名
- ・カウンセラー特別講演１０名
- ・アクティブラーニングに関する講習会９名

○事務職員及び技術職員を対象とした、次の学外研修に参加した。

【高専機構主催】

・初任職員研修会，中堅職員研修，新任課長補佐研修，I T人材育成研修会，・人事事務担当者説明会（係長），学務関係職員研修会 7 名

【人事院主催】

・中国地区係長研修，給与実務初任者等研修会，中国地区中堅係員研修 3 名

【大学・高専主催】

・中国地区高等専門学校技術職員研修，西日本地域高専技術職員特別研修会，中国地区高等専門学校技術職員研修，新任主査フォローアップ研修，中国・四国地区国立大学法人等労務担当職員研修会 5 名

【総務省主催】

・情報システム統一研修 1 名

【財務省主催】

・政府関係法人会計事務職員研修 1 名。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 2 7 年度年度計画

事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施する。国，地方自治体，国立大学法人等が主催する研修会等へ参加する。

【活動内容】

○事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会の実施と外部の研修会等へ参加させた。

・カウンセラー特別講演 9 名

・ハラスメント防止講演会 1 4 名

○国，地方自治体，国立大学法人等が主催する研修会等へ可能な限り参加させた。

○事務職員及び技術職員を対象とした、次の学外研修に参加した。

【高専機構主催】

・初任職員研修，中堅職員研修，新任係長研修，新任課長研修，新任部長研修，人事事務担当者説明会（係長） 6 名

【人事院主催】

・服務制度説明会，勤務時間・休暇制度説明会，給与実務初任者等説明会，ハラスメント防止講演会 4 名

【大学・高専主催】

・西日本地域技術職員特別研修会（情報系），中国地区高等専門学校技術職員研修，中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修，中国・四国地区国立大学法人等施設系技術職員研修 4 名

【総務省】

情報統一研修 1 名。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 2 8 年度年度計画

事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施する。国、地方自治体、国立大学法人等が主催する研修会等へ参加する。

【活動内容】

○事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会の実施と外部の研修会等へ参加させた。

- ・カウンセラー特別講演 13名
- ・SD研修 20名

○国、国立大学法人等が主催する研修会等へ可能な限り参加させた。

○事務職員及び技術職員を対象とした、次の学外研修に参加した。

【高専機構主催】

- ・初任職員研修、若手職員研修、グローバルSD、人事事務担当者説明会 4名

【人事院主催】

- ・育児休業・女子福祉制度等説明会、改正給与法等説明会 2名

【大学・高専主催】

・中国・四国地区国立大学法人等安全衛生研修会、中国地区高等専門学校技術職員研修、中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会、中国・四国地区国立大学法人等施設系技術職員研修 14名

【総務省】

情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会 1名。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施する。国、地方自治体、国立大学法人等が主催する研修会等へ参加する。

【活動内容】

○事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施した。

カウンセラー特別講演 9名

○事務職員及び技術職員を対象とした次の学外研修に参加した。

【高専機構主催】

- ・初任職員研修
- ・新任課長研修
- ・IT人材育成研修会
- ・情報担当者研修会
- ・若手職員研修会

【大学・高専主催】

- ・中国・四国地区国立大学法人等安全衛生研修会
- ・中国地区高等専門学校技術職員研修
- ・中国・四国地区国立大学法人等人事労務担当職員研修会
- ・西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（建築・環境系）
- ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修（機械系・情報系）
- ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会
- ・中国・四国地区国立大学法人等係長研修

【労働基準協会】

- ・職長等教育講習会

- ・自由研削といし特別教育
- ・玉掛け技能講習・クレーン運転特別教育併合講習

【総務省】

- ・政策評価に関する統一研修

【人事院】

- ・改正給与法に関する規則等の説明会。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

○事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施する。国，地方自治体，国立大学法人等が主催する研修会等へ参加する。

【活動内容】

○事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施した。

カウンセラー特別講演 13名

○事務職員及び技術職員を対象とした次の学外研修に参加した。

【高専機構主催】

- ・新任課長研修
- ・IT人材育成研修会
- ・若手職員研修会
- ・情報担当者研修会

【大学・高専主催】

- ・中国・四国地区国立大学法人等安全衛生研修会
- ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修
- ・中国・四国地区国立大学法人等人事労務担当職員研修会
- ・中国・四国地区国立大学法人等係長研修
- ・西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（機械系）
- ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会

【財務省】

- ・政府関係法人会計事務職員研修

【総務省】

- ・情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会

【外務省】

- ・教育機関向け 海外安全対策セミナー

【人事院】

- ・勤務時間・休暇制度説明会及び服務制度等説明会
- ・育児休業・女子福祉制度説明会

【労働基準協会】

- ・動力プレス金型等の取付け等業務に係る特別教育講習

【国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）】

- ・実践的サイバー防御演習「CYDER」。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ⑩ 事務職員及び技術職員については、国立大学や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。

【年度計画活動内容及び実施評価】

人事交流の積極的な推進

平成26年度年度計画

近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について検討を開始する。

【活動内容】

○広島大学及び広島商船高専と事務職員や技術職員の人事交流について、そのあり方を含め具体的な検討を行い、特に若手職員育成の観点から、交流の促進について事務部長レベルで確認した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。

【活動内容】

○近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討し、職員の人事交流を実現した。（平成27年4月：総務省1名、10月：広島商船高専1名）。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成28年度年度計画

近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。

【活動内容】

○近隣の大学（広島大学）及び高専（広島商船高専、徳山工業高専、大島商船高専）と面談及び電話等を用いて密に情報交換を行い具体的な方針等を検討した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。事務職員との面談実施及び業務内容を勘案し適正及び適所を提案並びに広範囲な業務対応能力の養成支援。

【活動内容】

○近隣の広島大学や広島商船高専と相互に往来し、情報交換、今後の課題や対処策を協議検討した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

新規採用者の募集及び広島大学、近隣高専へ出向による人事交流、人材育成。

【活動内容】

○近隣の広島大学及び広島商船高専と頻繁に相談及び交流を継続した。

○高専機構を含め他高専との人事交流を積極的に推進するため情報収集に努め、平成30年10月に高専機構へ1名人事交流者を派遣した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

⑪ 情報セキュリティ対策を適切に推進し、情報システム環境を整備する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

情報セキュリティ対策の見直しと意識向上

平成26年度年度計画

情報の格付け作業を実施する。機構ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェア管理検査を実施する。

【活動内容】

○情報の格付け作業を実施中である。

○機構ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェア管理検査を実施し、適正に運用管理されていることを確認した。

実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

平成27年度年度計画

情報の格付け作業を実施する。機構ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェア管理検査を実施する。

【活動内容】

○「呉工業高等専門学校情報格付標準（案）」を作成し、情報セキュリティ管理委員会の承認を経て、具体的作業に着手した。

○機構ソフトウェア管理規則に基づく今年度のソフトウェア管理検査を10月以降に行い、1月26日に機構本部に報告した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

機構ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェア管理検査を実施する。平成28年度末までに向けてPC機器の更新とPC演習室の3室集約化を実施する。

【活動内容】

○機構ソフトウェア管理規則に基づき、ソフトウェア管理検査を1月に実施し、機構本部に報告する予定である。

○平成29年度のパソコン機器の更新仕様を検討し、これに伴いパソコン演習室を現行の6室から4室に再編することに決定し、年度末にパソコンの更新に伴い利用環境が改善された。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 29 年度年度計画

情報セキュリティ推進委員会を中心に、各種研修を通じて学生や教職員の情報セキュリティ意識の向上に努める。

【活動内容】

○情報セキュリティ推進委員会が、教職員や全学生に対して情報セキュリティに関する規則遵守のための誓約書やセルフチェックリストを提出させ、意識啓発を促した。

○機構ソフトウェア管理規則に基づき、ソフトウェア管理検査を 11 月に実施し、機構本部に報告した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 30 年度年度計画

教職員を情報セキュリティ推進委員会を中心に、FDにおいて外部講師を招き教職員の情報セキュリティ意識の向上に努める。

【活動内容】

○情報セキュリティ推進委員会が、教職員や全学生に対して情報セキュリティに関する規則遵守のための誓約書やセルフチェックリストを提出させ、意識啓発を促した。

○機構ソフトウェア管理規則に基づき、ソフトウェア管理検査を 10 月に実施し、機構本部に報告した。

○全学生に対して機構や高知高専の e ラーニング教材を活用し、Office 365 の使用上の注意や情報倫理教育を実施して、大半の学生が受講を完了した。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

【第 3 期中期計画】

⑫ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、中期計画及び各年度計画を定める。

【年度計画活動内容及び実施評価】

中期計画および年度計画の策定

平成 26 年度年度計画

機構の中期計画及び平成 26 年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成 26 年度年度計画を定める。

【活動内容】

○平成 26 年度の年度計画については、各部署で計画等を定めて実行した。

実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

平成 27 年度年度計画

機構の中期計画及び平成 27 年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成 27 年度年度計画を定める。

【活動内容】

○機構の中期計画及び平成 27 年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成 27 年度年度計画を定めた。

実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

平成 28 年度年度計画

機構の中期計画及び平成 28 年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成 28 年度年度計画を定める。

【活動内容】

○機構の中期計画及び平成 28 年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成 28 年度年度計画を定めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 29 年度年度計画

機構の中期計画及び平成 29 年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成 29 年度年度計画を定める。

【活動内容】

○機構の中期計画及び平成 29 年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成 29 年度年度計画を定めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成 30 年度年度計画

○機構の中期計画及び平成 30 年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成 30 年度年度計画を定める。

【活動内容】

○機構の中期計画及び平成 30 年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成 30 年度年度計画を定めた。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

【第 3 期中期計画】

⑬ 具体的成果指標を検討し、実現に向け努力する。

【年度計画活動内容及び実施評価】

国立高等専門学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定

平成 26 年度計画

具体的な成果指標の検討を始める。

【活動内容】

○学校全体の指標については、専攻科の改組を平成 28 年度に予定しているほか、本科の改組についても検討中のため、指標の具体的内容については継続検討することとした。

実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

平成 27 年度計画

成果指標について、本校の特徴や各学科の特性に応じた具体的な成果指標の策定に着手する。

【活動内容】

○学校全体の指標については、平成 28 年度より専攻科を現在の 2 専攻より 1 専攻に改組する。また、本科についても改組を検討中であり、指標の具体的内容については継続検討することとし

た。

実施結果 Ⅱ「十分には実施していない。」

平成28年度年度計画

成果指標について、本校の特徴や各学科の特性に応じた具体的な成果指標の策定に着手する。

【活動内容】

○具体的な成果指標については、ディプロマ・ポリシーを策定することで大きな方向性を定めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【総合分析、評価及び改善事項】

管理運営について、平成26年度から執行部である校長、副校長、各主事、専攻科長、部長、両課長が参加する運営連絡会を毎週開催し、重要事項や懸案事項の対応等の迅速な意思決定及び情報共有の場を設けた。また、学外有識者で組織される運営顧問会議においても、執行部及び各部署の責任者が出席し、運営顧問会議委員からの提言に対応する形で学校運営の改善に努めた。

【別表23】

また、校長裁量経費の支援基準についても、校長のイニシアティブが発揮できるよう平成29年度及び平成30年度に支援基準の改正を行い、弾力的な運用に努めている。また、教員評価において各教員の活動実績をポイント化し、評価を行う「教員活動ポイント」制度を導入。ポイント結果を毎年度の基盤研究費の配分や校長表彰等に活用している。

自己点検・評価について、平成25年度に受審した機関別認証評価の評価結果を受け、形骸化していた自己点検等管理委員会を廃止し、自己点検・評価委員会を組織した。ただし、活動内容が「教員活動ポイント」の制定に注力してしまったこと及び総務委員会委員と委員が重複していたため両委員会の審議内容が重複する等差別化が図れなかった。第4期中期計画期間においては、自己点検・評価体制及び自己点検・評価項目の見直しが必要である。

業務の負担軽減策を講じるため、組織の改編について運営連絡会や企画・戦略WG等で議論を行い、広報業務を集約し企画広報係を設置、管理業務集約のため総務係と人事係の一本化等事務組織の見直しを図った。

リスク管理の取組として、危機管理マニュアル、公的研究費使用マニュアル等の作成を行い教職員への周知を行った。また、コンプライアンスのセルフチェックリストも本校で作成し、常勤・非常勤教職員のチェックリスト回収率は100%となっている。他にも、コンプライアンス教育や不正防止に関する研修会等も実施した。

監査については、監事監査、外部機関による監査、高専相互監査、内部監査等実施し、いずれも大きな指摘事項はなかった。

教職員の人事交流について、教員については在外研究員や内地研究員を毎年派遣する形としており、職員についても従来は管理職に限定されていた交流を、主任以下の若手職員を対象に、本省や他高専との人事交流を実施した。研修についても、他機関等で開催されるものに積極的に派遣しつつ、本校主催のFD研修及びSD研修も開催し、教職員の職務能力の向上に務めた。

情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ推進委員会において、教職員及び学生に対して情報セキュリティに関するセルフチェックや誓約書等を提出させ、意識啓発に努めた。

上記事項について、自己点検・評価体制の構築等に課題は残るが、管理運営に関する各種取組を実施していると評価できる。自己点検・評価体制等については、評価項目の設定と併せて、早急に整備を行う必要がある。

別表23 運営顧問会議委員からの提言への対処状況(平成26年度～平成30年度)

平成26年度第1回運営顧問会議における委員からの提言に対する回答

提言内容	提言内容にかかる回答等
社会を変える人材をつくるなどかなり先まで行きすぎている、もう一つ前段階があるのではないか。地に足がついている、物事を自分で考えることができる人材を育てることが大事ではないか。	「社会を変える人材」と言う場合の「社会」とは、世界や国単位の社会から、地域社会や身の回りの人間関係の小さな社会まで幅広い社会を想定している。目標としては、本当に社会を変え得る人材を育てることを目指すが、教育としては学生の意識を外の実社会に向けることを意図しており、それは、実社会に根差して、物事を自分で考えることができる人材を育てることを意味している。
教育改革プロジェクトとして、木曜日の6～7時限に行うインキュベーション授業について具体的にどうしていくのか。	インキュベーション授業は来年度から、全教員、全学科、全学年通じ、1グループ10人程度で実施する予定である。 ひとつの時間帯に800人の学生が集り、グループごとに全学年・全学科の学生が入ることで、いろいろな立場の学生が交流することで得られるものは大きい。 テーマについては当面は教員からの提案とするが、将来的には学生が自分たちでテーマを挙げて活動するよう検討する。
学生をインキュベートするという表現にはどんな意図があるのか。	「インキュベート」は「孵化する」と言う意味であり、所属している社会から目線を外に向けて、外の世界と接点を持つことを意味している。学生においては、友達、クラス、高専及び工学といった所属している社会から、実社会や学んでいる専門分野以外の専門領域にも目を向けて、その接点においてどのような活躍ができるかと言う意識を持つことを意図している。
呉高専のブランドが低下し、入学生の倍率が年々下がってきている。どんな対応を考えているか。高専の良さをもっとよく知ってもらうことが必要ではないか。	倍率の低下は質の低下と実感しているもので、まずは、良質の教育を提供し、いい学生を育てることが、不可欠である。また広報活動としては、新たに小学生を対象としたイベントを開催している。 なお、来年度から、コンテストやクラブ活動等で優れた実績をあげた中学生に対し、特別推薦制度を行うこととしている。
「地域学」とは、具体的にどういうものか。	「呉・芸南学」という5年生の一般選択科目として、1年間通年で行っている。 呉高専へ入学した多くの学生は、呉市で5～7年間過ごすにもかかわらず、呉市のことをあまり知らずに卒業・修了してしまうため、呉の街の魅力を見つけ、広く発信できるように授業を行っている。前期は本校、広島文化学園大学、広島商船高専、3校の教員及び外部の講師による専門分野に関する講義、後期はフィールドワークを行う。受講生は20名程度である。
電気学会で過去に高専の学生の研究発表会を行ったが、呉高専からは発表がなかった。地域の研究発表や研究財団等の補助金を利用するなどして発表を積極的に行っていったらどうか。	機械、電気、土木、建築関連学会の中国支部大会などの機会を利用して、教員や専攻科生が研究成果を発表しているが、今後さらに発表件数向上に向けて取り組んでいく。
今回のプロジェクトについて、どのような力をつけようとしているのか、また、共通認識は、教員全体で取れているのか。	インキュベーション授業でつけるべき能力としては、本校の教育目標を達成することである。プロジェクトとして更に提案していることは、勉強の意義を学生が自覚的に捉え、勉強に対する姿勢を変えることである。 また、全教職員が共通認識を持てるように、教員会などいろいろな会議等で継続的に説明を行っているところである。
専攻科について2専攻を1専攻にすることだが、カリキュラムの構成は大胆に行うのか。多様性をどう涵養するのか。	多様性を涵養するため、1専攻にすることでカリキュラムは大きく変わる。多様性は、本科で身につけた得意とする専門分野以外の教育を受けることや、本校を含めた4高専（徳山高専、宇部高専、北九州高専）で行う連携教育、さらには社会人や留学生も在学しており、多種多様な人材との交流によっても涵養され、教育効果が上がることが期待できると考えている。
学校で学んだことがそのまま社会で通用するとは思わない。ひとつのことをしっかりやり、基本的なことを身につければものの考え方は理解でき、他の分野でも通用する。感性をみがくことが重要であると考えているがどうか。	まずは基本的なことを身に付けることが大切である。基本的な知識と技術を応用する力を育成するには、課題をみつけ、それを解決するための方法を考案し、実行するという取り組み（PBL型アクティブラーニング）が必要であり、その経験と成功体験を繰り返すことにより感性は磨かれるものとする。改組後の専攻科では、本科で完成する専門性を活かしながら、他の専門分野の学生と協調、複合しながら課題解決を行う科目を設定する予定である。
中国新聞での呉高専の話題は昨年10本程度である。今年は50周年、コワーキングスペース、4高専のビデオ会議による共同教育などのいくつかイベントや、3Dプリンタを活用してやっている教育、民間とやっている共同研究、専門的に特化していることがら等を積極的にリリースしてほしい。	広報室の機能を充実させ、ホームページなどの見直しを行い、また、メディアに対しても積極的に情報発信を行う。
呉は、造船、大和ミュージアム、酒、やすり、瀬戸内海の潮の満ち引きなどいろいろな研究テーマ、世界に知られているものがある。これらを活用し共同研究などを行ってはどうか。	地域に根差した高専を目指すため、教育・研究と同様に地域への貢献も重要視し取り組んでいる。
企業は、好奇心が旺盛で明るく、熱意が持続して粘り強く、相談相手がいて、相談を受けることも多い、このような人材がほしい。自主性・継続性を伸ばしてほしい。なお、特化した人材3%の話が出ていたが、97%の人にも期待したい。	早い変化に対応できること、生き抜く力が必要であり、学生の卒業研究がひとつの切り札になる。インキュベーション授業も低学年から高学年まで、5年間でバックボーンとなる専門力を身につけることを期待している。

提言内容	提言内容にかかる回答等
インキュベーション型の取組みは詰め込みになり、高専の良さである自由度が薄れるのではないか。	基礎的な部分で教える内容は最低限とし、具体的到達目標を明確に定め、詰め込みではなく自分で勉強する能力をつけるようにする。結果として多くの時間は、例えばエンジニアリングデザインなど、その応用に使い、知識を使いこなす、自由な発想のもとで知恵を育む時間としていく。
県内企業へ就職している人が少ない。県内から学生を集めて、県外の大企業に輩出されているので、逆に他県の学生が呉で学び、県内の企業で活躍できるようにお願いしたい。	現在30%程度の学生が県内に就職しており、今後50%を目標に推進したい。今回のプロジェクトにより、学生自身に実力・自信がつけば中小企業でも経営者や工場長を目指すことになり、地域にも残ることになると考えている。
タイやカンボジアなど東南アジアの国々に技術を還元することも世界目線ではないか。	そのとおりである。プロジェクトの校長答申においても同様のことを記述しており、答申を作成する前の議論においても、検討した内容である。
小中学生に、呉高専に入りたいと思わせる魅力を見せた方がよい。	小中学生に、魅力ある呉高専を知ってもらうため、従来より、おもしろ科学体験フェスティバル、市民セミナーや大和ミュージアムと連携した工作教室、科学教室を展開している。昨年から地域青少年へのイベントとして新企画「びっくりわくわくサイエンスショー」を実施した。また今年度から出前授業実施も強化し、呉市教育委員会はもとより、安芸高田市教育委員会とも連携し、実施件数は昨年度と比べて格段に増加している。
留学しても留年しない単位互換制度などのシステムを検討した方がよい。	学期制が異なるため、本来は2年間の留年になるところを、年度の違う前期と後期を合わせて1年間の留年で済むようにしているのが現状である。本校の理系科目や専門科目などの単位を互換できる協定先を探す必要がある。
学校説明会での説明が難しいので、判りやすく噛み砕いた説明にした方がよい。	電子工作のはんだ付け作業やレーザー加工機を使ったスカイツリー製作など、作業しながら説明できる参加型の企画を取り入れた。また、学生が製作したジオラマの展示なども行い、できるだけ本校の学生が学生の目線で説明するようにした。
女子学生を増やすとあるが、女子学生の比率が30%になっても就職は大丈夫か。	男子学生に比べると女子学生の方が就職活動は厳しいが、一般大学に比べると高専女子学生の方がはるかに就職状況は良く、就職希望者全員が就職できている。
高専ホームページについて、大人から見ると充実しているように思えるが、中学生から見た場合、文字が多くて難しいため、文字数を少なくし、イラストや写真を多用するなど表現を工夫した方がよい。	平成27年4月に向けてホームページをリニューアル中であり、ご要望に対応した改善を計画している。

平成26年度第2回運営顧問会議における委員からの提言に対する回答

提言内容	提言内容にかかる回答等
異業種交流が大切、積極的に行っていただきたい。	広く活動を広げているわけではないが、教員の中には農業、医療の 関係に踏み込んでいる教員が何名かいる。
入学者選抜における特別推薦の出願資格の「体育系クラブ活動の成績が、団体競技では都道府県大会8位以内、個人競技では都道府県大会16位以内の成績を残した者。ただし、団体競技においては、正選手として活躍した者」とあるが、キャプテンで正選手でない人について、団体をまとめる技量を評価されてもよいのではないか。	団体戦の登録メンバーの中に入っているのであればよい。中学校のレベルではキャプテンについては登録メンバーに入っていると思われるが、そのような例があれば対応するよう考えたい。
一般高校入試の勉強は学習塾で対応できるが、高専の受験を考えている場合どのような勉強をするのがよいか、高専専門の学習塾はあるのか。	高専専門の塾は聞いたことはない。例年高専に学生を出している塾についてはノウハウをもっておられ個別に対応されていると思われるが、そういった塾がどのくらいあるのか全体像は把握していない。
「ツクルバ」は呉高専へどのような形で参加しているのか。継続的に予算をとっているのか。	イベントには非常勤講師として参加、設計費は仕事として発注している。経費は企業技術者等活用経費で、今年度も継続する予定である。
ワーキングスペースを作るために集まった学生150名は同じことをするのか。	当初50名を想定し、木材で棚を作る予定であったが、予想以上の人数となり、食事を作る班、木工する班、塗る班、Tシャツを作る班等、いくつかの班を作り、作業をローテーションで回しいろいろな作業を行った。
呉高専のHPを見たところ、歴史を扱っているテーマでHPを引用しているが、間違っているものがかかりあった。HPから引用する場合、根拠のないものを取りあげることのないよう注意してもらいたい。	ご指摘の箇所を確認し、訂正するとともに、引用媒体に関しては正確を期すよう教職員に対して注意喚起する。
アクティブラーニングで、到達する姿を現そうとしているところは素晴らしいが、その前にテーマに沿って学生が課題を自分で見つけ出していくことがアクティブラーニングの一番のポイントだと思う。その意味ではもう少し検討された方がいい。	そのとおりである。初めてということもあり、教員で課題を提案しているが、その中で学生にもできる範囲で課題を見つけるところから発展させていきたい。
アクティブラーニングの特長として共同の学習がある。自学する能力を伸ばすとあるが、その前には人間関係能力、情報、言語力等共有して活用する能力を目指していくが、途中段階としては共同して学んでいく視点を示した方が学生たちにとってはわかりやすい。	共同の学習は重要であり、1つのグループの中にいろいろな学年、学科の学生が入ることを設定しており、全学生でやることで意味がある。
インキュベーションワークについて面白い取組みと思うが、教員間の話し合いやすき合わせを数年やることで成果が出てくると思われる。教員間の体制はどのようになっているか。	学習指導研修会の時間を利用し、全教員の研修をする。最終的な成果発表として、全学生でポスター発表をする予定である。学生、教員同士が協力しながらコラボレーションが生まれること、有機的なテーマが生まれることを考えている。 3月16日にインキュベーションワークFD研修を行った。9月に中間反省会、2～3月にまとめをするよう計画している。また、新たにインキュベーションデザイン室を作り、メンバーが中心となり、さらに核となる人間を増やし広めていきたい。
インキュベーションワークについて、テーマが難しいものから簡易なものまで混在しているが、1年を通じてどのような形でもっていくのか、最終的なカリキュラムの提示など、テーマの絞り込みはできているのか。	教員がテーマをあげた時にもう少し詳しい概要を出してもらっている。テーマは出だしであって、ここから学生が提案することでテーマが発展することがこの授業の醍醐味であり、学生、教員の今後のがんばりに期待したい。 テーマの濃淡については、創造的な科目、独創的なテーマを目標とした場合、半分程度は成果が出るが、残りは何も出ず終わることが多い。テーマの密度が薄くても、その中で学生が達成感を味わうとモチベーションもあがる。次につながるものとなるよう、全員に達成感を与えることが先決と考えている。
インキュベーションワークは1年で完結なのか。	授業は1年単位で終わるが、プロジェクトとしては1年で終わりではない。学生は最長2年間でローテーションしていき、いろんな学生がそのプロジェクトを継続的に続けていくのが1つのやり方と 思っている。
専攻科の改組について、1つに統合した時に大学を受験するとなると、分野が分かれていて分野の試験を受けないといけないなどデメリットになるのではないか。	学位授与機構の中では専門分野が区分として残っており、それらの学位をとることは必須となっており、修了する際には4つの専門分野のうち、1つを取得することになる。

平成26年度第2回運営顧問会議における委員からの提言に対する回答

提言内容	提言内容にかかる回答等
課題の発見とあるが、専門的なものがわかれば課題も見えてくるので、ある程度の専門的な勉強をやらせる必要があると思うが、その点はどのようになっているのか。	専門分野は本科で骨格を完成させる。その上で専攻科の2年間で多様性を涵養させながらイノベーションを起こす人材を育成していく。イノベーションを起こすためには課題を発見する能力が必要であり、そのためには自分の専門を活かしながら他人の知恵を借りてアイデアを形にすることの繰り返しが大切で、それを実践できる時間と場所を専攻科の中で作り上げたいと考えている。
インターンシップのスケジュール及び海外インターンシップでの語学力の関連性はどうか。	呉自社商品開発推進研究会（K I T 2 1）、くれ産業振興センター、呉商工会議所及び呉市の協力のもと3か月のインターンシップの確保に動いているところである。具体的な内容としては、1年生の4月に本校で新人教育的な内容を実施した後、5月に企業へ派遣する。海外インターンシップ先は、高専機構や長岡技科大学、豊橋技科大学のコンテンツを利用し進めている。語学力はT O E I Cの点数向上に併せてコミュニケーション能力が高められる内容のプログラムを考えている。
基礎学力のアップは絶対必要となる。コミュニケーション能力をもつ学生を送り出してもらえればどの企業でも通用する。	基礎学力をつけることは当たり前と考えている。専攻科としてもインキュベーションワークに参加し、学生が地域と共同してプロジェクトに参加することで、コミュニケーション能力が向上すると期待している。基本的な知識、専門的なところは本科で仕上げ、専攻科では複合的な素養を身につける。
学校がどれだけ良いことをしていても、中学生や保護者、中学校関係者に知られていなければ意味がなく、これから入ってくる学生のためにわかりやすく広報活動してほしい。	わかりやすく子供たちや地域の皆様に本校の諸活動が伝えられるよう、今以上に新聞記事等を利用した情報発信を行うよう努力していきたい。
新しい専攻科へ途中から入ることは可能か。 本科1分野でやってきた学生が、総合的なところに入り、他の3分野の対応ができるのか。	入ることは可能であり、他高専から入ることも想定している。本科の5年間は1つの分野をしっかりとやる。1つの分野を確立し、自信ができると、専攻科でもやっていくことができる。
「プロジェクトデザイン」という言葉を中学生にもわかってもらうにはどうすべきか。	中学生にも理解できる内容に替えて伝えたいと思っており、7年の一貫教育とした場合の学科名については、もっと考えないといけないと思っている。

平成27年度運営顧問会議における委員からの提言に対する回答

No.	提言内容（要旨）	提言内容に係る回答等
1	【呉高専の現状と課題】 呉高専の全体のレベルを上げる、進学率を上げるなど説明されたが、目指すべき何かというのが少し伝わってこない。	今回は、現状の分析、現状のデータをご紹介した。インキュベーションワークを延長したような形の、課題を発見して解決する、そういう学生を育てたいと思っている。
2	【呉高専の現状と課題】 卒業生の、入社3年後の会社への歩留まり率のようなデータは取っていないのか。	歩留まり率についてのデータはこれまでは取っていない。取る必要はあると思うが、これから本格的に教育改革を行ったあとのデータが重要であると考えている。
3	【呉高専の現状と課題】 学習到達度試験結果について、この上がり方はすごいことだ。	学生の様子（タイプ）を見ながらその学年・状況に合わせた指導を積み重ねたこと、また、ゴール・目標を定めたことが大きかったと担当教員から聞いている。例えば、専攻科入試における受験資格や学力試験（筆記試験）に代えて外部試験による評価を用いることにしたことなど。
4	【呉高専の現状と課題】 全体のレベルアップを図るということは非常に素晴らしいことであり、当然、それに伴い全体の底上げも同時に図られると思われる。その中で優秀な学生は進学（大学編入学、大学院進学）となると、就職を選択する学生のレベルが全体として下がるのが懸念されないか。	全体の底上げは、学校全体、全員をとっている。もちろん、優秀な学生だけが進学するわけではない。進学を希望する者、就職を希望する者の誰もが、希望するところに行ける（力をつける）、そのような学校にしたいと思っている。
5	【呉高専の現状と課題】 本科推薦選抜で入学した学生の入学後の成績は、学力選抜で入学した学生と比較して、どうであるか。 また、推薦選抜では学力検査を受けずに入学するわけだが、そのなかで、出来る子と出来ない子の2極化はないか。	過去の調査でみると、推薦入学者の入学後の学力は、もちろん上位層も下位層もいるが、大きな二極化はなく、トータルでみた場合は、全体平均よりも上位である。また、推薦選抜の特別推薦の学生については、学力に多少不安のある学生が一部見られたため、入試方法の見直しを含め対応を検討したい。
6	【呉高専の現状と課題】 呉高専の評価指標に「君の未来を共に創る」ことができたか、そして「学生の夢を実現」することができたか、と二つ大きくある。学生の夢というのはどういう位置付けの夢なのか、「夢の実現」というのは、何を示しているのか。	短期的には、あるものを創ってコンテストで高い評価を得る、大会で上位に入賞する、そういったものが夢であり、学生の夢を実現することであろう。また、そういった想いを実現するためにそれにふさわしい会社に入る、というのが夢になる学生もいると思う。
7	【呉高専の現状と課題】 卒業後（就職先）、呉市へどのくらい定着されているのかデータがあればご紹介いただきたい。	要覧の中に地域別就職人数のデータがある。このグラフでは呉市のみとしての分類ではなく、広島県として分類されている。約5年前は県内就職率15%程度だったが、今は30%程度に向上した。ただし本データは県内に本社を有する企業のみを集計したもので、県内事業所に就職した学生を考慮するとともに比率が上がると思う。
8	【呉高専の現状と課題】 女子の入学を増やしたいという働きかけをやっておられるとのことだが、進捗率は具体的にどのようになっているのか、	今年（平成28年度入試）は、45名（合格者の26%）だった。平成27年度の女子の在籍者数は、5年生22名、4年生29名、3年生25名、2年生28名、1年生33名であるので、大幅に伸びている。目標は30%である。
9	【インキュベーションワーク】 先生方には、特別なご負担があるのではないかとと思うがそのあたりはどうか。	普通の授業の数倍の労力を要している。しかし、今後必要とされる教育だと考えているので、これは「（今まで）やってないものを作る」という最初の労力がかかっているのだらうと思っている。
10	【インキュベーションワーク】 これは続けることが大事だと思う。先生方のご負担も含めていろいろ課題もあると思うが、是非、続けることをしっかり考えていただきたい。	経費に関しては、企業の方に取組を説明し、ご支援をいただいております。来年度以降もやろうと思っている。時間に関しては、独立した授業としては大変であるけれど、是非の中で、教員自らの研究テーマを見つけてそれとリンクしながらやる形を提案している。このような形で、研究も授業もリンクしてくれればうまく業務が回るようになるのではないかと期待している。
11	【インキュベーションワーク】 このインキュベーションワークのことを中学校から質問等されたことはあるか。	今年度始めたばかりの取組なのであまり認知度は高くないのか、質問等されたことはない。今年度6月に校長が37校中学校訪問をした際には、事前に知っている学校はあまりなかったものの、多くの学校で大きな関心を示された。来年度は先方からそういう質問をどんどんされるような活動をしていきたいと思っている。
12	【インキュベーションワーク】 外部との連携について、子供（学生）はまだ心身の発達中なので、特に外部の方との折衝のときには、失礼がないように指導していただきたい。	そういう意味も含めて授業に入れたというのは、大変大きな意味があると思っている。当然、授業担当教員の監督責任が伴うので、現実としては、学生が勝手に行動することは今のところは無いが、学習をすすめて、上級生になるころには失礼のない形で自主的にどんどん動けるような学生が育ってほしいと思っている。

13	【インキュベーションワーク】 インキュベーションで育てたい資質は何かということを明確にしておかないと評価はできない。育てたい資質が何かということに対して、どのようなすべを身につけてやるのかということを明確にしないといけない。その資質能力をどうするのか、まず、皆さんで議論しなければいけない。	評価するためには指標が必要だが、指標を限定してしまうと逆に学生がそれだけに特化した活動をしがちになり、活動が限定される。その中でどうしたらいいのかを今後、議論していきたいと思っている。
14	【インキュベーションワーク】 この1年間を振り返って、学生アンケートでは、割と十分満足できるという結果だったが、教員からもアンケートをとって、インキュベーションに関わった（取り組んだ）ことによって、自分の授業又は研究にどのような効果があったかということを検証していかないと、目玉としてうまく伸びて行かないのかなと感じた。	教員のアンケートは、今後インキュベーションデザイン室でヒアリングをしながらとっていくということで作成・準備している。教員、学生の両方がある、この授業の振り返りができると思っている。
15	【インキュベーションワーク】 社会的活動となると学外に出て活動する場合、何らかの形で損害賠償責任が発生する等いろいろな事故の問題がでてくると思うが、そのあたりどのようにお考えなのか。	今は充分な取組はしていないが、基本的に授業であるので、インターンシップと同様に物損の保険（怪我の補償あり）をかけている。通常学生が外で企業と何かするということと同じ保険に入り実施しているが、それを超える何かが起きた時には学校又は機構としての形になると思っている。
16	【インキュベーションワーク】 大変おもしろい試みだと思うが、其々のグループで取り組んでいるいろいろな情報を、例えば、その課題に参加してなかった学生にも情報提供できればと思う。そういう意味で発表会というのはどれくらいの時間をかけて実施しているのか。	前期最後に実施した中間発表では、何回か発表しながら学生が自由に見て回れる形をとった。最終発表会は成績（点数）を付けないといけないので、110分かけて3、4グループが1つの教室に集まって発表する形をとった。ただ、これは学生からも、他のテーマも見なかったという意見があったので、来年度に向けては、各グループのリーダーが集まって学生連絡会を立ち上げ、そこでイベント開催等の情報共有をしながら、相互に参加出来る形を構築していきたいと考えている。
17	【インキュベーションワーク】 将来のイメージとしてだが、授業としてとりあえずは整理させていくということが大事なのだろうけれど、例えば、高専発の起業、そういうイメージも将来的には抱いておられるのかなと思ったのだから。	まさにそれを考えている。学生が、自らやりたいことを自ら組織を作って、我々教員も入った形で学校として責任が取れる形で進めていきたいということも想定はしている。
18	【呉高専の将来構想：本科改組】 4学科を新しく6コースに改組する。改組後のコースは、企業側からみると、本科でどういことをやってきたかというのが分かりにくいので、採用の時に困るのではないかな。	改組後のコース名が企業側からみて分かりにくいというのは問題である。もしコースを新たに設ける場合、そのコース名については企業や中学生などから理解されやすいコース名となるよう再検討したい。
19	【呉高専の将来構想：本科改組】 企業の側にとってもそうだし、実際に受験する中学生が、プロジェクトデザイン工学科という言葉聞いて果たしてどこまでわかるのだろうか。	学科のネーミングは、昨年度の運営顧問会議でもプロジェクトデザインというのは分かるのかというようなご質問をいただいた。それはまさに中学生に対して伝わるのかという問題であり、改組では必ずついてくることである。多くの生徒や保護者からも分かりにくいという声があがることは予想されるので、今日のような意見を参考に慎重に検討したいと考えている。
20	【呉高専の将来構想：本科改組】 今回の改組の狙いの1つに、今後予想される教員削減（2割減）に対応するということがある。この状況の中で、4つの学科を今度は6つにしていくことは、果たして可能なのか。	各学科（各コース）に共通する専門教育を、共通専門教育を行う専門科目として再構築し、共通の教員が担当するなど合理的な授業運営すれば、可能であると考えられる。
20	【呉高専の将来構想：本科改組】 1つのことに特化してということだが、そこで育てるべき資質能力とそれに対する具体的なすべを育てていき、要するに仕事をしていく上での考え方をしっかり付けていけば、幅広いことに取り組むことは可能だと思う。	よりどころのある教育をするべきであるということだと思う。そこはしっかりと押さえながら、多様な価値観に対応しなければいけない。しっかりと軸足があれば、幅広いことにも対応できるであろうと考えている。
21	【呉高専の将来構想：本科改組】 特に高校生ぐらいのレベルでは、教える内容が同じであったとしても教え方やファシリテーションのやり方によってはデザイン思考（デザインシンキング）の伝え方は難しいと直感的に思っている。教える方はファシリテーションをしっかり練習するなど留意されたいと思った。	昨今、学生の能動的な学習姿勢をファシリテートできる教員とその授業実践が社会から求められている。授業手法についてはアクティブラーニングを含め、学内外の各種FDを通じて、教員の教育技術の資質向上の努めたい。
22	【呉高専の将来構想：本科改組】 学科を改組して1学科にすると、モチベーションがない学生がどこかのコースにかたまると可能性が出てくることを危惧する。自分の専門を決めないで入学した学生が、1年か2年ぐらい見てからコースを選ぶようにことに定員の一部を当てるといったことを考えてもいいのかなと思うが、どうだろうか。	自分の進むべき道を決めて入学した学生の方が、おそらく伸びるのではないかとWGでも考えているが、入口は一緒にして一年間共通教育をやっていくという案を現段階では提案している。入学前に学科を決められない一部の生徒に対しては、それが決められるように猶予期間を設けて、学科に配属するという考えは、現場の教員として共感できる。その辺りはもう一度考える余地はあろうかと思っている。
23	【呉高専の将来構想：本科改組】 入学後、他の学科に2年目ぐらいに移るとかはできないのか。	現状では転学科についての規則はあるが、実態としては運用されていない。1年生から専門科目があるので実際は少し難しい。

24	【呉高専の将来構想：専攻科改組】 プロジェクトデザイン工学専攻の4高専連携教育の学生アンケート結果で学生の不満があったが、情報通信機器の不具合についてはすぐに解決できると思う。本当の学生の不満は、何なんだろうというのは調べた方がよろしいのではないと思う。	アンケートの回答方法は選択式であったが、自由記述の欄があり、そこに辛辣な言葉があった。学生たちは授業の内容に不満を持ち、ICT機器関係の不具合によってストレスを感じ、さらに教員側の不慣れなところもあり、うまく授業進行ができなかったという反省がある。これらの点をしっかり改善していきたい。
25	【呉高専の将来構想：専攻科改組】 4高専連携教育では、各高専の特徴、他の高専にないものを其々出し合ってやらないと意味がない。これは宇部高専にない、徳山にない、これは呉だけにしかないもの、そういうものをお互いに出し合ってやるのであれば有意義だと思う。	まさにそのとおりである。授業の編成については、よく担当者と連携しながら、時間をかけて組みたいと思う。
26	【呉高専の将来構想：専攻科改組】 専攻科から公務員になる人は毎年、数名はいるのか。公務員の新卒試験を受けるために専攻科に行くという選択肢もあるのか。	そういう学生もいる。最近の傾向としては安定志向が強いので、特に公務員志望は多いと思う。

平成28年度運営顧問会議における委員からの提言に対する回答

No.	提言内容（要旨）	提言内容に係る回答等
1	【呉高専の現状と課題】 TOEICに関しては、実際にしゃべれなくても対策をすれば点数がとれるという面もあるので、TOEICの点数を伸ばすというよりも、実際に話せる、使える英語力を伸ばすというような方針が良いのではないかと。	高専生は大学生に比べて英語力が劣っている。高専の場合、大学入試にあたるハードルがないため、頑張っていく要素が小さい。話せる、使える英語は次の段階で、まず基礎学力を上げるのが先だろうと考えている。TOEICに限らず英検でも良いのだが、基礎学力を上げるためにはハードルが必要だと思っている。
2	【呉高専の現状と課題】 本科の大幅な見直しについて、組織を改革したら問題が解決するというのではなく、解決するために何かを考えるいい機会を与えられたというふうに考えながらやれば視点も出てくるのではないかと期待している。 また、人間力というものの重要性が3～4年前と大きく変わってきた。人間力というものをどういう形で育てるかというところに、「呉高専はそういうところは凄い」というような学校になってもらいたい。	カリキュラムの見直しについても、従来の科目にはこだわらないで、これから何が必要なのか、本当に必要な科目、将来につながるような科目、総合演習では学生が本当に興味をもってやるテーマにするようにと考えている。 それから、自分で課題を見つけて解決する、インキュベーションワークをもっと特化した、学科を横断したコースをひとつ設けようかななどとも考えている。
3	【呉高専の現状と課題】 外部資金獲得を倍増したいとの話があったが、具体的にどういう取り組みをされるのかということがあれば伺いたい。	外部資金獲得について、科研費や共同研究は全国高専の中で高いところにいる。劣っているのは受託研究費・受託事業なので、それを上げたいと思っている。呉市や広島県がやろうとしているようなことをにらみながら、興味関心をもってもらえるような提案をして、任せてもらうことができるようになれば、そこが改善され倍増までいくかなと思っている。
4	【呉高専の現状と課題】 高専からの進学実績の説明があった。時代により、就職・進学の波があると思うが、目指す進路に応じたコース分けを行い、カリキュラムを別に行う等の指導があるのかをお聞きしたい。	就職・進学についてのコース分けは考えていない。全員に同じ教育を行い、全員が希望する進路に行けるという形をとっている。
5	【呉高専の現状と課題】 要覧によると、近隣の中学校からかなりの人数が入学しているが、卒業後の就職先はほとんどが東京である。 学生が就職先を選ぶ時には、自分のやりたいことで選んでいるのか、会社の安定性・規模で選んでいるのか。また、地元企業を希望する学生の割合はどうかの状況をお聞かせいただきたい。 さきほど人間力の育成という話があったが、人材の育成は大事なことだと思っており、この人間力を高める教育の方も是非力をいれたい。	6割くらいの学生が一部上場企業を希望する。学生の進路相談（面談）では最初に、「どんな会社に行きたいのか」、「会社で何がしたいのか」、「何処に行きたいのか」を3択で聞く。回答は割合的には5：3：2の割合である。ミスマッチを防ぐためなるべく聞くようにしているのだが、地元に残りたいという本当の気持ちをなかなか言わないので、その希望を聞きだすのに時間がかかっている。 大企業に就職すると、広島県に事業所があるかも知れないが、全国的にみると東京スタートが多い。そういうケースでも3年もつ子の方が多い。人間力ということが出てきているが、高専生は地頭があつて、卒業してから伸びるというところが、企業に評価されているのだろうと思う。 ***** 地元に残るかどうかのポイントは、インターンシップが効果があると思っている。今年度から、専攻科生を長期インターンシップ（3ヶ月）に行かせている。地元の中小企業で3ヶ月のインターンシップを経験し、地元の企業に魅力を感じ、自分の力を活かせると自信を持って就職する学生が増えるかなとそういう展望をもっている。
6	【呉高専の現状と課題】 インターンシップ制であるが、是非どんどん企業の方へ行かせてもらいたいと思う。 いい会社に入りたいのか、どんな仕事があるのかを知るのでは全然違う。企業を選択する際に、ただ大きい会社がいいからと勤めるのではなく、そこで何の仕事があるのか、どういう仕事の中で自分が活かせるかを学生とも話しながらやって欲しい。	専攻科改組に併せてインターンシップ専任教員を置き、企業へ対し本校の求めていることなどの趣旨説明をしっかりと行った上で、インターンシップ受入をお願いしている。多くの企業から賛同いただき、受入希望をいただいている。
7	【呉高専の現状と課題】 中学からの進路先を選ぶ際に、「学位、学士のところまでしっかり面倒をみてくれるのなら話は別」という中学校の意見もあったとの話だった。本科から専攻科への進学が15%ということだったが、これは今後増えていく可能性があるのだろうか。	全国的には15%ぐらいではないかと思うが、本校の場合、改組後の専攻科定員が本科定員の25%（40名）ある。（全国高専のほとんどが10%。）また、定員を超えた場合も十分指導ができと思っているので、30～40%ぐらいは受入可能と思っている。
8	【教育目的、3つのポリシーについて】 本科では「創造的に課題に対応できる能力」、一方専攻科では「課題を解決できる能力」と表現されている。この表現（明記）の違いは、対応も解決までいくのか、「対応できる」というのは、そういうものがあるよと知るだけでいいのか、そのあたりが分かりにくい。	本科の「対応できる」というのは、そういう課題があるということをもっと知ること、それに取り組もうという意識、姿勢を持つこと、そのような段階までを身につけてもらいたい。それに対して専攻科では、まさに学科の横断で「異分野と協働して」課題解決を試みるというような能力を身に付けるということであり、ただ単に課題を知るだけでなく、あるレベルの答えを出せるようなところまで持っていきたいということである。「対応できる能力」なのか「解決できる能力」なのかという目標設定の若干の違いをこういう形で表現した。

9	【教育目的、3つのポリシーについて】 異分野ということが出てきたので少しお伺いしたい。ここにあるのは4つの分野ということのようだが、世の中にはこれ以外の分野でも協働していかないという解決できない問題がたくさんあると思う。これ以外の分野との協働というのも含めたらいかがだろうか。	異分野というのは、本校の4学科を一つの例として例示させていた。特定の専門分野に沿ったカリキュラムを設定して、その分野での専門知識、技術は本科5年間で身に付けようということである。専攻科（プロジェクトデザイン工学専攻）ではそれをもう少し融合・複合するような形で縦割りの壁を取り払い、横のつながりを持つということである。ここに書いてある4つの専門分野以外の異分野を含め、そういう人たちと協働するということも含めての異分野協働ということである。
10	【教育目的、3つのポリシーについて】 本科の教育目的には「工学に関する知識や技術を身に付け、各分野の課題に対応できる」とあり、専攻科の方は「学修してきた専門分野」とあって、「工学に関する」という表現が明記されていない。工学という表現がないので、「プロジェクトをデザインできる」といった時に、何に関するということを抑えておかなければいいか？	「学修してきた専門分野を深めながら」というのは、本科5年間で学修してきた工学の専門分野ということを指しているため、あえて「工学」という言葉を使っていない表現となっている。
11	【呉高専の将来構想について】 ”KOSEN4.0”イニシアティブというのは、高専の中ではどれくらいの位置づけのものなのか伺いたい。	これは次期5ヵ年計画に関わることで、どの高専にとっても学校全体に関わる本質的な内容のものである。この2年間で特に力を入れて次の5ヵ年計画につなげていくという捉え方である。
12	【呉高専の将来構想について】 就職先の開拓の問題と地域貢献の話は不可分と思うのだが、地域の企業などどう連携するか、そのための受け皿づくりなども今後考えられるのかを伺いたい。	地域の課題に工学の知識・スキルでどう取り組んでいくかという教育のフィールドとして地域をとらえている。 卒業後に地元に残らないということへの解決策になるかどうかは分からないが、テーマとして地元中小企業と共同して道具を作ったり、大会に参加することがきっかけとなり中小企業へ見学に行ったりという例もある。こういう積み重ねで地元企業の方々と連携をとりながら、学生が地元企業のことを知っていくことにつながればと思っている。
13	【呉高専の将来構想について】 高専は何ができるのかというときに、言葉としては”ものづくり”と言う言葉が出てくるが、具体的にどのようなものなのか？ 例えば、商店街の活性化策を提案されているが、これはデザイナーとしての提案なのか、建築士としてのアイデアなのか、ビジネスの流れなのか、地域に対してどういう姿勢で提案されているのかを伺いたい。	これまでであれば教育で済まされていたが、これからは背景的なことや社会的なことを含めた提案をしなければならないところなので、基本的にはデザイナー的な立場ではあるけれども、それを少し踏み込んだ立場で提案していこうというスタンスである。 ***** 今後専攻科修士が増えてくると、まちづくりコンサル、公務員などに行く人材が増えてくるのではないと思う。本科の学科構成からいっても、建築学科、環境都市工学科などがものをつくるだけでなく、まちづくり全体の構想を練るといったこと自体が研究テーマになってくるかと思う。そういう意味で教育の結果、研究の結果が結びついてくるのではないと思う。
14	【呉高専の将来構想について】 地域貢献に関して、インキュベーションの中で解決する課題というのは、人口減少を食い止める、あるいは食い止めないが活性化を目指すというような具体的なところまで目指しているのか、それとも単に授業だから授業として設定して解決するような方策を皆で考えればいいというそこまでなのかを教えていただきたい。	授業の設定としては、リアルな課題、リアルな現場と言っている。とにかく現場に行き、何が起きているのか、何ができるのかを知り、その中で課題を見つけて来いと指導している。本当の解決策になっていくところを目指してやっている段階である。
15	【呉高専の将来構想について】 インキュベーションワークについて、70テーマも設定されているが、何人ぐらいの教員で指導されているのか。また、課題設定はどういうふうになっているのか、やり方や手ごたえをお聞きたい。	全教員で担当している。教員は60名ぐらいなので、テーマ数が教員数より多いが、それは一人の教員が複数担当しているケースがあるためである。 課題設定は、教員の研究や趣味、以前から持っていた課題、外部から招聘したコーディネーターからの提案等さまざまである。課題設定と学び（専門科目）関係はあまり気にしていない。専門科目に「卒業研究」があり、そこで工学的な課題をやるという担保ができているという実情もある。 ***** ディプロマ・ポリシーの一番最後に「インキュベーションワークを修得する」、その目的は「主体的な活動を通して創造的に課題に対応できる能力を身に付けている」と明記している。こういう意味で必ずしも専門科目でなくてもよくて、自分でやりたいこと、必要だろうと思う課題を見つけて、能動的に取り組んでいく。それが大事なことだと思い、人間力を身に付けることの一環かなと思っている。
16	【呉高専の将来構想について】 地域貢献という中で、理想を考えるだけでなく自分でやる達成感を味わえるような形にすることで、学生達が達成感を味わえて続けていくのではないと思う。 また、もっと企業と一緒にやって、その中で高専の立ち位置を決めてやる方が、より学生の達成感が出るのではないと思う。	実施の一例として。インキュベーションワークの中で、老人介護施設と共同して指のリハビリをテーマにして取り組んだ。現場に行くと課題（ニーズ）を知り、施設職員やお年寄りと一緒に話をしながら、ややもすると苦痛になりがちのリハビリを、どうやったら楽しくできるかを考え、「ゲームをしながら指の訓練をする」というソフトや器具を作成し、先方に喜んでいただいている。実際にこういう経験をした学生は達成感を持ったのではないと思う。

17	【呉高専の将来構想について】 保護者の立場として、実際に現場に行き、それが実感できるという取り組みは非常にありがたいと思っている。このような（インキュベーションワークのような）取り組みは他の高専でもやられているのか。また、本来専攻科はより専門性を深めるという教育目的があると思うのだが、こういう形で横断的な学習をしていることで、本来工学的な企業へ就職するところが気持ちが変わって別の分野へ進んでいくというようなこともあるのだろうか。	他の高専では明石高専が同じような取り組みをしている。本校が取り組みを導入する前に参考としたのは、木更津高専と津山高専であるが、両校とも3年生の1学年のみの取り組みで、現場に出て行くということもなかった。 本校ではすべての学生に現場に出て行く経験をしてほしいと思い、1年生から5年生まで全学年でやっている。 ***** 専攻科では「特別研究」があり、専門についてその分野を深めている。異分野と協働することによって、自分のやってきた専門の分野を使いこなせる能力、知識を知能にする、人間力、教養、語学力等を高めることを目指している。
18	【呉高専の将来構想について】 県においても同じような取り組みをしているが、まだなかなか現場に出ることまでは出来ていない。実際に現場に出て、それを実践してその経験を力にし学生の将来に活かそうということで、非常に進んでいると感じた。このような取り組みはすぐに結果がでるというものではないので、ある程度の期間をしっかりと持ち取り組んでいただきたい。将来、成果がこうだったんだ、あるいは地域でこの取り組みから意欲的な活動がいくつも出てきたとか熱意のある人達がこの地域に根付いてくれたなどが評価だと思うので、高専の取り組みの評価だけでなく、地域としての変わり具合といったこともみていただきたい。	インキュベーションワークを始めて、教育改革の成果が明らかに増えてきている。少しずつ結果がみえてきて、入ってくる生徒の質が上がり、またそれがいい結果を生むというふうにつながっていければと思っている。

平成29年度運営顧問会議における委員からの提言等に対する回答

No.	提言内容（要旨）等	提言内容に係る回答等
1	【呉高専の現状と課題】 若者が減少傾向にある中で、志願者があまり減っていないということが数字に表れているが、特にこういうところが評価されて認められているためという具体的な要因があれば、自己評価で構わないので教えていただきたい。	今年の新入生アンケート（新入生及び保護者）によると、本科・専攻科の7年一貫教育（学士を取り修了する）に魅力を感じたとの回答割合が増えている。また、本校の活動内容がいろいろと新聞等のメディアに掲載され、興味を持たれているのかとも思う。
2	【呉高専の現状と課題】 試験勉強ではなく、生きた英語というのをやるのはいいのではないと思う。 積極的に海外に行くというようなカリキュラムを組んでみたり、交換留学生を迎えたりと、そこに外国人がいるというような状況を作り出すということがいいのではないと思う。	交換留学生の受入は一つのキープポイントだと思う。海外に出るのも良いが、留学生の受け入れ態勢が構築でき、受入が増えることで、英語教育に更にはずみがつくのではないかと考えている。 また、海外へは3年生全員を研修旅行（台湾）に行かせることを2年前から始めている。（来年度からは2年生で実施する。） なお、TOEICの点数で、700点以上が留学生を除き5名いる。彼らは短期で海外留学した学生であり、そのことから、いかに早く海外を経験させ、モチベーションを上げるかということが重要であると実感している。
3	【呉高専の現状と課題】 専攻科の学生の研究レベルが非常に高いと説明いただいたが、どのような指標の部分で研究レベルが高い（例えば他の大学と比べて高い）ということなのか。	専攻科では、大学院修士課程とほぼ同レベル程度の研究を行っている。 専攻科の修了要件に、最低1回は学会で発表する、という要件を設けた。そこまで研究レベルを上げるということが研究力向上の結果になってきていると思っている。
4	【地域実践教育センター準備WG報告】 いろいろなプロジェクト案件について、これは地域の企業や団体などが積極的にやりたいと提案しているものなのか、それとも学校側で提案したり、準備WGの中で見つけているのか、どういう形で進めているのか聞かせていただきたい。	現状はインキュベーション・デザイン室を中心に、企業及び行政との話し合いやつながりの中から自然に出てくる形で進めている。 将来的には枠組みを作り、オファーがあった中で学生とマッチングするという仕組みを作ろうとしている。
5	【地域実践教育センター準備WG報告】 地域実践プログラムの課題を学生が探してくるということはないのか。	学生が自分で探してくることが理想的なのだが、現状はそこまで行っていない。 現状は、学生が自分でやりたいことを自主テーマの中で掲げ、それをどう外に向けて（地域貢献）できるかということを、教員と話し合いながらテーマを設定し、進めている。企業等とのマッチングの際にも教員が入り、テーマを進めている。
6	【地域実践教育センター準備WG報告】 地域実践教育プログラムあるいはプロジェクトデザイン工学演習で実際にやったプログラムの内容が学生間で伝わるような、どういった仕組みがあるのか。 例えば学生間でも、違う分野（専攻）の授業、先生の指導を受けるということで、自分の専門性とのやりくりが非常に難しくなるような気がしている。そこで、それに対して、一度社会に出し、具体的な問題から色々なノウハウが必要だということを実感させて、チームを組んで何かやる、みたいな仕掛けが必要な時代に入ってきている気がする。 地域実践プログラムが実際に動いていくのはありがたいという気がするが、一方で先生方の努力も凄く大変だというふう思うので、うまくいっている部分、不足の部分、あるいは予想される困難等、どういうふうに対応されるかということをお願いしたい。	インキュベーションワークの70テーマの中で、学生は好きなところに希望して入っている。同じ学年、同じ学科で集まるテーマもあるが、いろいろな学科で集まるテーマもあり、学年学科を越えた中で、自分たちが何をやるかということにもなっている。 また、専門性が先か、地域でやるのが先かということについて、そこは学生次第だと思っている。インキュベーションワークの中で、他学科の内容を低学年からやる学生、自分たちの専門を教員の指導により深掘りしている学生と多様である。 専攻科では、さらにその授業の中で他学科を交えた形で地域と連携した形で取り組んでいるので、本科ではわりと自由な形で進めながら、地域実践教育プログラムを履修すればそこでより深掘りをして、専攻科に進んでもう一度他の専門と交じった形で、地域と連携した形で展開できるのではないかとこのように見込んでいる。
7	【地域実践教育センター準備WG報告】 地域実践教育の人数（定員）が1学年各8名ぐらいということだが、それ以外の学生はどういうプログラムになるのか。	教育実践プログラムを履修しない学生は特別のプログラムがあるわけではなく、従来の学科ごとの授業（カリキュラム）を履修する。また、例えば卒業研究では、より学科（専門）に則したテーマに取り組む。 一方で教育実践プログラムを履修した学生は、学科に属しながら、地域に根ざした形の研究テーマに取り組み、地域の中でどうしていくか、ということプラスアルファで学んでいく。 専門をより深掘りしていくか、より地域と連携していくか、という2つの形をイメージしている。地域実践教育プログラムを履修しない学生に特に何かあるというわけではない。
8	【地域実践教育センター準備WG報告】 この1年間、マスコミに取り上げられた回数が増えており、呉高専は目立っていると感じる。ただマスコミというのは、新しいことに対しては飛びついて大きく報道していくが、これを継続していくには、材料をいかにしていくか、より高専（学生）の自主的なものでいう、そういうことがまさに今後の課題であろうかと思う。	単発でやっている活動、あるいは呉の地域活性化という意味での活動等いろいろと行政等と相談しながらやっており、まだ点の段階であるが、線から面になっていくよう、スポットで終わらないようにと考えている。

9	【地域実践教育センター準備WG報告】 インキュベーションワークのテーマの情報としては行政だけではなく、一般市民から提供して貰うというのも一つの方法だと思う。 高専の窓口が市民一般に周知されれば、多くの情報が提供されるのではないかと思いますので、そのような方向でいけば、学生も楽になるのではないかと思いますところがある。	今後は、一般市民とより広く連携できる枠組みを構築する必要があると考えている。現状では、先ずはインキュベーション・デザイン室の教員が中心となって、地域との繋がりを広げている最中である。ただし、インキュベーションワークは何でも屋ではないので、学生の教育と言う観点と地域との連携の両立を注意深く検討しながら今後も進めて行く必要があると考えている。
10	【地域実践教育センター準備WG報告】 このインキュベーションワークを学んだ学生が就職する時に、こういう授業（活動）を体験して、地元に残ってその会社に就職することなどが想定されるが、その辺りの手応えはあるのか。	例えば自治体に就職したいという学生は増えるかも知れないと思っている。そういう意味では地元に残るとい学生は増えるかもしれない。 実際にものづくりでといことになる、その点はまだ少し弱いと感じている。 ***** 専攻科は1年前期のカリキュラムで長期インターンシップを3ヶ月やっている。これが今年で2年目となり、大分定着しはじめたなと思っている。専攻科の長期インターンシップではかなり地元に行っている、こういう学生がいろいろな所（企業）に行って活動し始めると、そういう機運は少しは高まってくるかなと思っている。
11	【地域実践教育センター準備WG報告】 「高専日本一」という説明があったが、その日本一とは何をもって定義するのか。一つの考えとして、呉高専の卒業生の多くが地元に残って活躍することなどが、「日本一」と定義できるのではないと思う。	「日本一」の指標について、次回運営顧問会議に提出したい。 具体的な数値（指標）について検討中だが、その中に地元への就職定着率ということは考えていなかった。参考にさせていただきたい。
12	【医工連携構想について】 がんに関する研究について、何をどこまでやるのかという想定があるか教えていただきたい。	基本的な研究は既に臨床ですべており、今後は装置を作りたいと思っている。 それについて地元企業で製作できないかと、いろいろと調査したが見つからなかった。しかし一方でアッセンブルするような形で最終的には地元企業で計測装置を製作したいと考えている。
13	【医工連携構想について】 「呉高専」と「がんの研究」が、イメージとして結びついてこない。そのあたりをもう少し分かりやすくご説明いただきたい。	本校が設置している専門学科（機械、電気、環境、建築）と「がんの研究」ということがどう結びつくのか、というところが少し分かりにくいというご質問だと思う。 例えば、血液1滴（数億くらいの細胞）の中から、10個前後の腫瘍細胞を見つけるためには、いろいろ電氣的な操作が必要で、そういう、電気系のかなり先端の技術を持っていないと出来ないということで結びついている。また、機器の製作等あたりでも、本校の学科としっかり結びついている。 さらに、卒業後に医療機器のメーカーに就職する学生も少なからずおり、そういう意味でも本校としての違和感はないと思う。
14	【医工連携構想について】 医工連携に参画しない先生方の研究に対する方向性といったものはどうなのか。	医工連携に参画しない教員は、それぞれ自身の研究を進めていってもらおうということになるかと思う。その中で、なるべく教員が自身の研究の中で、地域に根ざしたような研究をしていただくようお願いしている。
15	【医工連携構想について】 医工連携構想というのは素晴らしいのだが、説明の資料では、課題は高齢化・人口減少で、想定される改善策が医工連携にある、と話が飛躍している気がする。 課題があり、この課題の解決のために環境がこのように整っている、と説明したほうがいいのではないかと思います。	呉市の課題は高齢化・人口減少だが、一方で中核都市規模の割に総合病院が多く、これら総合病院と本校との連携は重要と考えらる。この観点から、「これまで個々の教員レベルで実施されていた医工研究をこれらの病院と連携して、組織規模で医工連携研究を実施して行く」という筋道で医工連携構想を説明して行く。

16	【医工連携構想について】 がん研究をするというのは、おそらく新産業を創生して人口減少をくい止めようというような意図をしておられるのではないかと思います。 がん研究は非常にテーマとしては大きくて、実際に診断機器というものは一般の人が使うわけではないので、台数の需要は絶対に少なく、新産業というのは小さい規模でしかできない。 なので、先ほどの説明にあったように快適空間の設計や介護など、こちらの方が産業としては大きくなるのではないかと思います。 産業としてはこちらの方を育て、研究テーマとしてはがん研究のような大きいものを挙げるという位置付けとする。そのような説明をされたらいいのではないかと思います。	ご指摘の通り、短期計画としては快適空間の設計や介護などを産業として育て、長期計画としてがん研究を実施し、新産業創出につなげてゆきたい。
----	--	--

平成30年度運営顧問会議における委員からの提言等に対する回答

No.	提言内容（要旨）等	提言内容に係る回答等
1	【呉高専の現状と課題】 高専の強みを皆が共通認識し、外部に発信していくことが、重要だと思う。 ハードウェアをしっかりと学んだ上で、ソフトウェアが出来るという、まず、その辺りをPRしてはいかか。 高専のすごさが実証され、高専の教育方法を海外で取り入れようとしている、というメディア報道（読売新聞記事）もあった。	読売新聞記者に本校学生がインタビューされ、高専で学んだグローバル化とグローバル化ということ話をしている。 技術をベースにして地域の課題を解決する、地域の課題が解決できるようになって初めてグローバルにも通用するのだと。技術（ものづくり）をベースに、地域のいろいろな課題にトライできる、それが強みだとわかってきたと言っていた。 委員の言われたとおりだと思う。
2	【呉高専の現状と課題】 大学と高専との違い、他の専門学校と高専との違いを差別化して、その中で高専の強みというのを出すと、課題も解決するし将来の高専の形としてみえる化できるのではないかな。	専攻科では既に「プロジェクト工学演習」という科目でやり始めているが、本科では、5年間で専門の勉強をした結果、こういうものが作れるようになるというその成果物が明確ではなかったが、次年度入学生からの新カリキュラムで、「工学総合演習」という科目を全学科で開設する。
3	【呉高専の現状と課題】 卒業後の、就職受け入れ先の評価（外部評価として使えるような資料）について、意見をいただきたいとのことであった。 どこに行ったというのは、個々の数値でわかるが、入社後にどのような仕事につき、どうしているかを見ていくのも（進学（大学、大学院）者のその後を含めて）、一つの目安となるのではないかな。 また、定職率というの、一つの指標になるのでは。	企業に入ってから満足度というの、一つの指標だと感じており、入社後、5年目、10年目の2つぐらいに絞ってアンケートを実施する等を考えている。
4	【呉高専の現状と課題】 教員の研究（実績）、外部資金獲得を全体にあげていく工夫をしてほしい。（一部の教員の頑張りだけでなく、全体に）	現在、研究企画会議を年2回開催し、年度初めに、各教員から研究計画を書面で提出していただき、年度末に総括することをやっている。 教員の所属する分野全体で責任を持つという形を作り、意識づけている。 今後も、工夫しながら、取り組みを活性化していきたい。
5	【呉高専の現状と課題】 志願者数が減少している原因をはっきりとは言えないが、PRの不足を感じている。 中学生に、高専に行きたいと思う気にさせるには、「高専を卒業した後にこういうことができる。」ということや中学生レベルで、中学生に直接紹介して欲しいと思う。積極的にそういう場を作って欲しい。	呉地区では、中学校（中学生対象）の説明会に大分呼んでいただけたようになった。広島の中学校では実績はまだない。 広島では予備校主催の説明会に出て行っているが、中学生や保護者に、まず呉高専というのを認識していただくということが、大きな課題だと感じている。
6	【地域実践教育センター準備ワーキング最終報告】 インキュベーションワークの最終的な規模感は、どこまでを考えられているか。 産学が連携（協働）して新しい企業化を進めようと中国経済連合会が予算をつけて、2019年度のテーマの一つに挙げているので、そういう情報も入手されたらよろしいのではないかなと思う。	インキュベーションワークは、今後は3年生までで考えているので、商品開発（試作品レベル）等を考えている。ただし、4・5年生は研究として取り組むので、研究レベルでの開発までは行きたいと思っている。具体的に外部資金を獲得して実施するなど、大学と近い内容で取り組むことを想定している。
7	【地域実践教育センター準備ワーキング最終報告】 地域連携コーディネーターを活用して地域の課題当事者との連携を強化するとの説明があった。具体的に地域の課題、自治体（防災、まちづくり）等の連携はあるのか。	いわゆる「地域に出て」ということは、地域連携コーディネーターを中心に考えている。企業との連携は、学内の協働研究センターと協力体制をとりながら、連携の仕方によって、いろいろな部署との連携を想定している。 自治体との連携も既に取り組んでおり、いろいろな専門の教員とも協力体制をとりながら、今後もぜひ行政関係にも取り組みたいと思っている。
8	【地域実践教育センター準備ワーキング最終報告】 地域というのは、どの範囲を考えておられるのか。	当初は、地元の呉、もう少し広げて広島、と考えていた。 学生が動ける距離（交通費の負担）という意味では、インキュベーションワーク（3年生以下）は呉に近いところを考えている。しかし、地域実践教育プログラム（4・5年生）は、研究も入ってくるので、広島県内がより好ましいと思うが、県外であっても地域に根付いた活動であれば地域実践であるとして考えを広げている。

9	【地域実践教育センター準備ワーキング最終報告】 いろいろな成果を、ぜひ外へ向かって見せていただきたい。それがまた、地域の活性化につながるのではないかなと思う。	インキュベーションワークも教育としては、外へ出て、何かしらで外部の評価を受けろという指導をしている。自己満足だけでは教育にならないので、学生のやりたいことが成長となる形で、どんどん発展していくよう仕組みを考えて行きたい。
10	【医工連携実施状況】 地域実践教育と医工連携ということについて、どのような関わりがあるのか、あるいは関わりがないのかということについて教えていただきたい。	学生に関して言うと、地域実践教育の中で学生が医療関係の課題を見つけてきた段階で、その範疇に入ると思う。 実際、平成30年度のインキュベーションワークの70近いテーマの中の何件かは、医療関係のテーマがあり、その学生に関しては、そのプログラムに入ろうかなと思う。
11	【医工連携実施状況】 産学官連携に取り組んでいる公的団体などの連携等、具体的に何かあるか。 企業との連携を深めるきっかけづくりは？	ひろしま産業振興機構には医工連携のチームがあるので、月1回程度、いろいろな意見交換をしている状況である。 くれ産業振興センターに基本的にはご支援いただいている。 企業との連携については、一番には広島県内あるいは呉市内の企業とやりたい希望はあるが、県内には医療関係の企業が非常に少なく、県外へ出ざるを得ない状況である。呉市内にも大手医療メーカーからOEMで受けている企業が数社あり、そういう企業と共同研究の実例はある。

呉工業高等専門学校
第3期中期目標期間 自己点検・評価

5 業務運営の効率化に関する事項

5. 業務運営の効率化に関する事項

【第3期中期計画】

- ① 一般管理費の縮減及び随意契約の見直しを行う。

【年度計画活動内容及び実施結果】

事務等の効率化・合理化

平成26年度年度計画

不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行い、コストを削減するための手段を検討する。電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わないとともに、フォローアップを適宜実施する。

【活動内容】

○不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行うとともに、環境に配慮した製品の購入、印刷機用トナーのリサイクル品の使用などを継続した。また、封筒・コピー用紙・文具類等、必要数量を的確に把握し、無駄な在庫が発生しないよう取り組んだ。

○不用物品の把握に努め、学内メール等を利用し、学内でのリサイクルを促進し、物品管理を適正に行った。

○電気、ガス、水道、電話、郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約を行わないよう適正な契約の執行に万全な注意を払うよう適宜徹底を図り、競争性の確保に努めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行い、コストを削減するための手段を検討する。電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わないとともに、フォローアップを適宜実施する。

【活動内容】

○新たな物品の購入依頼があった際、その必要性・使用目的を確認し、在庫品や他分野で不必要となったもので代替え可能なものは、新たに購入することなく現有品を再利用することで、コストの削減に取り組んだ。

○少額備品の購入についても、複数者から見積を取ることで競争性を確保し、適正価格での契約を行った。

実施結果 Ⅱ「十分に実施していない。」

平成28年度年度計画

不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行い、コストを削減するための手段を検討する。電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わないとともに、フォローアップを適宜実施する。

【活動内容】

○新たな業務（物品購入・役務）の依頼があった際、その必要性・使用目的を確認し、不要不急なものの仕分けを行い、在庫品や他分野で不必要となったもので代替え可能なものは、新たに購

入することなく現有品を再利用することでコストの削減に取り組んだ。

○少額備品等の購入においても、複数者から見積を取ることで競争性を確保し、適正価格での契約を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行い、コストを削減するための手段を検討する。電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わないとともに、フォローアップを適宜実施する。なお、電気については、平成30年度からの一般競争入札移行に伴い市場調査を行う予定。

【活動内容】

○物品購入・役務に関する契約を行う際、従来取引のあった業者に加え、新規業者からも見積徴取を行うように努め、競争性の確保及びコスト削減につなげた。

特に、構内廃棄物（臨時分）収集運搬業務について、支出額ベースで前年比58%減、構内（職員宿舍含む）除草業務で前年比29%減の実績を得た。

また、構内廃棄物（定期分）収集運搬業務においては、平成30年度開始分について新規業者との契約締結を行い、本年度比25%の削減となる予定である。

○電気供給契約の一般競争入札への移行を見据えた市場調査として、中国地方近隣複数高専から仕様書及び契約内容等についての情報提供を受けるとともに、複数業者からの見積聴取も行った。

平成30年度においては、一般競争入札に付する予定である。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

不要不急な業務（物品購入・役務）の仕分けを行い、コストを削減するための手段を検討する。また、コスト削減につながる新規業者の積極的な開拓を行う。公共料金に類する契約を除き、原則1者随意契約は行わないとともに、フォローアップを適宜実施する。なお、電気供給契約については、平成30年度中に一般競争入札に付する予定である。

【活動内容】

○物品購入・役務における競争性の確保及びコスト削減につながる新規業者の開拓及び複数業者による価格比較に積極的に努めた。

また、コスト削減の取組みの一例として、学内の複合機及び印刷機の配置見直しを行い、1台を削減（集約）した。

○電気供給契約の一般競争入札への移行について、近隣高専（広島商船高専）との共同調達を行うこととなり、仕様策定等を行った。平成31年10月からの履行開始に向け、平成31年5月中に入札公告（政府調達）を行うことが決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

② 自己収入の増加と固定的経費の削減を図る。

【年度計画活動内容及び実施結果】

収支計画及び資金計画

平成26年度年度計画

自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保する。共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保する。事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図る。

【活動内容】

○自己収入（入学料・授業料等の学納金収入）について、未納者には再三の文書通知を行い納入を促し、学納金確保に努めた。

○共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金を積極的に獲得するために協働研究センター委員会で検討を行い、分野代表を通して各教員へ呼びかけを行った。

○事務・事業の継続性及び円滑な実施に必要最小限の基盤的経費の配分を行い、固定的な経費の節減を図った。また、学内の戦略的な事業を推進させるため、校長裁量経費を弾力的に活用できるよう、計画的な執行に努めた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保する。共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保する。事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図る。

【活動内容】

○自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保するため、未納者への督促を遅滞なく行った。

○共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保するため、教員会において科研費等の申請の進捗状況を確認し、申請を促した。

○事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図った。

○共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保するため、教員会において科研費等の申請の進捗状況を確認し、申請を促した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保する。共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保する。事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図る。

【活動内容】

- 自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保した。
- 事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図った。
- 共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保するため、教員会において科研費等の申請の進捗状況を確認し、申請を促した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保する。共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保する。事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図る。

【活動内容】

- 自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保した。
- 事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図った。
- 共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保するため、教員会において科研費等の申請の進捗状況を確認し、申請を促した。
- 高専機構に「受託事業」に関する規則がなかったため、事務手続きが簡便で、受託事業の適切な受け皿となり、更なる外部資金の獲得に繋がるよう、機構本部と相談の上、先行して「受託事業取扱規則（平成29年10月10日）を制定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保する。事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図る。共同研究、受託研究、受託事業、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保する。

【活動内容】

- 自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保した。
- 事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図った。
- 共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保するため、教員会において科研費等の申請の進捗状況を確認し、申請を促した。引き続き、外部資金獲得に積極的に取り組んでいく。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ③ 保有施設の長寿命化，省エネルギー化，及び障害者等に配慮した長期的な施設整備計画としてのキャンパスマスタープランを策定する。

【年度計画活動内容及び実施結果】

重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

平成26年度年度計画

重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画。

【活動内容】

○重要財産である広職員宿舎（木造）については、平成26年3月末で入居者が全て退去した。建物の老朽化（築49年）などもあって、建替え等に係る学内アンケート調査を実施したが、建替え後の宿舎へ入居を希望する者が少数だったため、当該宿舎については国庫へ返納する方向で資料を作成し、平成27年3月24日に機構本部に提出を行った。今後も機構本部と調整を行う。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

重要財産である広職員宿舎（木造）については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。今後、文科省協議、財務省協議の上、文部科学大臣の認可を得た上で、必要な手続きを進める。

【活動内容】

○重要財産である広職員宿舎（木造）については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。文科省協議、財務省協議の上、文部科学大臣の認可について申請中。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

重要財産である広職員宿舎（木造）については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。今後、文科省協議、財務省協議の上、文部科学大臣の認可を得た上で、必要な手続きを進める。

【活動内容】

○重要財産である広職員宿舎（木造）については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。文科省協議、財務省協議の上、文部科学大臣の認可について申請中。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

重要財産である広職員宿舎（木造）については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。今後、文科省協議、財務省協議の上、文部科学大臣の認可を得た上で、必要な手続きを進める。

【活動内容】

○重要財産である広職員宿舎（木造）については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。文部科学大臣から承認され、高専機構本部の通知を待ち売払いに向けて準備中。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

重要財産である広職員宿舎（木造）については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認され、文部科学大臣から承認を得た。今後、高専機構本部の通知を受けて、必要な手続きを進める。

【活動内容】

○重要財産である広職員宿舎（木造）については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。第4期中期計画に処分計画等の掲載に向け不動産鑑定評価書を機構本部へ提出。本部連絡により平成31年度以降「現物国庫納付」の方向性となった。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

施設マネジメントの充実

平成26年度年度計画

施設・整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様省エネに努める。長期的な施設整備計画としてのキャンパスマスタープランを検討し、策定を進める。

【活動内容】

○本年度の主な施設整備事業として、以下の2事業を実施完了した。

- ・第二体育館女子トイレ設置に伴う改修工事（7月～10月）
- ・グラウンド改修工事（1月～3月）

○省エネと予算削減の観点から、夏季及び冬季にエアコン温度を適正な温度設定とするように周知した。また、予算削減に対応するためデマンド監視を行い、学内へ協力を呼びかけ、前年度からの契約電力を超過することなく乗り切った。

○前年度に作成されたマスタープラン原案を基に、今後の専攻科改組及び教育改革プロジェクトに向けた長期的な視点から、学寮、福利施設及び図書館等の改修計画を策定し、予算要求の準備を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

施設・整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様省エネに努める。長期的な施設整備計画としてのキャンパスマスタープランについて、平成27年4月の高専機構との意見交換会での意見等を踏まえ、香川高専施設課と具体の検討を行う。

【活動内容】

○施設・整備計画による整備を行うとともに、継続して省エネに努めるため、エアコン温度を適正な温度設定とするよう周知した。また、予算削減に対応するためデマンド監視を行い、オーバーしそうな時は、メール等で学内へ協力を呼びかけた。

○キャンパスマスタープラン原案にある寄宿舍整備において、寄宿舍整備計画書を作成し、予算

要求を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

施設・整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様省エネに努める。長期的な施設整備計画として、資産の有効活用を視野に入れたキャンパスマスタープランについて、平成28年3月の高専機構との意見交換会での意見等を踏まえ、必要に応じて香川高専施設課及び機構本部施設課と具体の検討を行う。

【活動内容】

○施設・整備計画による整備を行うとともに、継続して省エネに努めるため、エアコン温度を適正な温度設定とするよう周知した。また、予算削減に対応するためデマンド監視を行い、オーバーしそうな時は、メール等で学内へ協力を呼びかけた。

○高専“4.0”イニシアティブも視野に入れつつ、機構本部施設課と平成30年度概算の意見交換会を2回行い、図書館改修・ライフライン再生・第六寮改修の概算要求を行っている。また、営繕事業については第四寮2階内部改修・専攻科棟空調機更新・第二体育館外部改修を要求し、第四寮2階内部改修の事業が決定した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

施設管理に係る調査として不動産検査・施設利用状況調査を継続的に実施し、全学的に立った施設マネジメントに基づき整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様省エネに努める。長期的な施設整備計画として、資産の有効活用を視野に入れたキャンパスマスタープランについて、平成29年3月の高専機構との意見交換会での意見等を踏まえ、必要に応じて関係機関と具体の検討を行う。

【活動内容】

○施設・整備計画による整備を行うとともに、継続して省エネに努めるため、エアコン温度を適正な温度設定とするよう周知した。また、予算削減に対応するためデマンド監視を行い、オーバーしそうな時は、メール等で学内へ協力を呼びかけた。

○高専“4.0”イニシアティブも視野に入れつつ、機構本部施設課と意見交換を踏まえ、図書館改修・ライフライン再生・第六寮改修の概算要求を行った。寄宿舍整備計画を基に営繕事業要求した第四寮2階内部改修が決定し、改修工事を行った。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成30年度年度計画

省エネ化の取組を推進し、前年度と同様に省エネに努める。平成29年度に見直しを行ったキャンパスマスタープランについて、今後さらなる検討を行う。

【活動内容】

○施設・整備計画による整備を行うとともに、継続して省エネに努めるため、エアコン温度を適正な温度設定とするよう周知した。また、予算削減に対応するためデマンド監視を行い、オーバーしそうな時は、メール等で学内へ協力を呼びかけた。

○キャンパスマスタープランのさらなる検討を行う予定である。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【第3期中期計画】

- ④ 教職員ともに積極的に人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、資質の向上と職務能力の向上を図る。

【年度計画活動内容及び実施結果】

人事交流と各種研修の計画的な実施

平成26年度年度計画

平成27年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流を検討する。機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について検討を開始する。

【活動内容】

- 平成27年度については、津山高専へ教員1名（1年間）派遣する。
- 各種研修会等については、予算の範囲内で必要な研修等に参加させた。学内ではFD研修会計画に沿って実施したほか、テレビ会議システムを利用して複数の高専が実施するFD研修を視聴することができた。平成27年度以降の実施について具体的な調整を行いたい。
- 広島大学及び広島商船高専と事務職員や技術職員の人事交流について、そのあり方を含め具体的な検討を行い、特に若手職員育成の観点から、交流の促進について事務部長レベルで確認した。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成27年度年度計画

（1）方針

- 平成28年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流を検討する。
- 機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。
- 近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。

（2）人員に関する計画

- 平成28年度から専攻科を改組することとしており、教職員の適切な人員配置について検討する。

【活動内容】

- 平成28年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流は、在外研究員1名及び民間企業研修1名を行うため、見送った。
- 機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させたほか、職務に必要な階層別の研修及び安全管理に必要な研修の受講計画を策定した。
- 近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討し、職員の人事交流を実現した。（平成27年4月：総務省1名、10月：広島商船高専1名）
- 平成28年度から専攻科を改組することとしており、教職員の適切な人員配置について検討を行い、新たな教育を実施するために必要な教員4名を公募し、採用することとした。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成28年度年度計画

(1) 方針

- 平成29年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流を検討する。
- 機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。
- 近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。

(2) 人員に関する計画

- 平成28年度の専攻科改組に伴い、本科のあり方を検討することとしており、その中で、教員の適切な人員配置について検討する。

【活動内容】

- 平成29年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流は、在外研究員1名を派遣するため見送った。
- 機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させたほか、職務に必要な階層別の研修及び安全管理に必要な研修の受講計画を策定した。
- 近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討している。
- 平成28年度の専攻科改組に伴い、本科のあり方について本科改組WGにおいて検討した。その中で教員の適切な人員配置について検討している。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

平成29年度年度計画

平成30年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流を検討する。機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。

【活動内容】

- 平成30年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流は、内地研究員1名を派遣するため見送った。
- 機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させた。
- 近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討している。

実施結果 Ⅳ「計画を上回って実施した。」

平成30年度年度計画

平成30年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流を検討する。機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修の実施を検討する。近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。

【活動内容】

- 平成30年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流は、内地研究員1名を派遣

するため見送った。

○機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させた。

実施結果 Ⅲ「十分に実施した。」

【総合分析，評価及び改善事項】

各種契約業務の見直し及び固定費の削減について，平成２９年度に廃棄物処理及び除草業務の契約見直しを行い前年度比２５％程度の経費削減を達成。また，平成３０年度は電力調達において，広島商船高専との共同調達のための仕様策定委員会を開催，令和元年度の政府調達に向けての準備を行った。

自己収入については「２ 研究や社会連携に関する事項」で分析した通り，外部資金の獲得増加のため施策を講じているところである。外部資金の獲得増加に伴い，平成２７年度に間接経費を獲得者へ一部フィードバックするよう制度設計を行い，弾力的な運用に努めている。

施設の整備については，重要財産である広職員宿舎の売却又は国庫返納について，調整を行っているものの進捗が見られていない状態である。第４期中期目標期間中に売却又は国庫返納を行う必要がある。

第３期中期目標期間中の整備状況については，平成２７年度に非構造部材の耐震化，平成２８年度から平成３０年度にかけて第４寮の改修工事を実施した。なお，令和元年度概算要求で図書館改修，第６寮改修，ライフライン更新の予算要求を行い，いずれも採択された。また，キャンパスマスタープランについても随時検討を行っており，平成３０年度にマスタープランの更新を行った。

教職員の人事交流について，教員については在外研究や内地研究員を毎年派遣する形としており，職員についても従来は管理職に限定されていた交流を，主任以下の若手職員を本省や他高専に派遣した。研修についても，他機関等で合同開催されるものに積極的に派遣しつつ，本校で独自に主催するＦＤ及びＳＤ研修も開催し，教職員の職務能力の向上に務めた。

上記事項について，重要財産の処分についての課題は残るが，経費削減及び教職員の能力向上について十分な活動を実施していると評価できる。重要財産の処分については，関係省庁及び高専機構本部と協議を進め，速やかに処分を行うよう努めるものとする。

学校教育法（抄）

（昭和二十二年法律第二十六号）

- 第九十九条 大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（次項及び第五項において「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。
- 2 大学は、前項の措置に加え、当該大学の教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（以下「認証評価機関」という。）による評価（以下「認証評価」という。）を受けるものとする。ただし、認証評価機関が存在しない場合その他特別の事由がある場合であつて、文部科学大臣の定める措置を講じているときは、この限りでない。
- 3 専門職大学等又は専門職大学院を置く大学にあつては、前項に規定するもののほか、当該専門職大学等又は専門職大学院の設置の目的に照らし、当該専門職大学等又は専門職大学院の教育課程、教員組織その他教育研究活動の状況について、政令で定める期間ごとに、認証評価を受けるものとする。ただし、当該専門職大学等又は専門職大学院の課程に係る分野について認証評価を行う認証評価機関が存在しない場合その他特別の事由がある場合であつて、文部科学大臣の定める措置を講じているときは、この限りでない。
- 4 前二項の認証評価は、大学からの求めにより、大学評価基準（前二項の認証評価を行うために認証評価機関が定める基準をいう。以下この条及び次条において同じ。）に従つて行うものとする。
- 5 第二項及び第三項の認証評価においては、それぞれの認証評価の対象たる教育研究等状況（第二項に規定する大学の教育研究等の総合的な状況及び第三項に規定する専門職大学等又は専門職大学院の教育課程、教員組織その他教育研究活動の状況をいう。次項及び第七項において同じ。）が大学評価基準に適合しているか否かの認定を行うものとする。
- 6 大学は、教育研究等状況について大学評価基準に適合している旨の認証評価機関の認定（次項において「適合認定」という。）を受けるよう、その教育研究水準の向上に努めなければならない。
- 7 文部科学大臣は、大学が教育研究等状況について適合認定を受けられなかつたときは、当該大学に対し、当該大学の教育研究等状況について、報告又は資料の提出を求めるものとする。
- 第二百二十三条 第三十七条第十四項、第五十九条、第六十条第六項、第九十四条（設置基準に係る部分に限る。）、第九十五条、第九十八条、第百五条から第百七条まで、第百九条（第三項を除く。）及び第百十条から第百十三条までの規定は、高等専門学校に準用する。

学校教育法施行規則（抄）

（昭和二十二年文部省令第十一号）

- 第百六十六条 大学は、学校教育法第九十九条第一項に規定する点検及び評価を行うに当たつては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行うものとする。
- 第百七十九条 第五十七条から第六十二条まで、第九十条第一項及び第二項、第九十一条、第九十二条第一項、第九十四条、第九十五条、第百四条第三項、第百六十四条から第百六十六条まで並びに第百六十九条から第百七十二条の二までの規定は、高等専門学校に準用する。この場合において、第百六十四条第一項中「第百五条」とあるのは「第二百二十三条において準用する第百五条」と、同条第三項中「第九十条第一項の規定により大学」とあるのは「第百十八条の規定により高等専門学校」と、同条第四項中「大学設置基準、大学通信教育設置基準、大学院設置基準、専門職大学院設置基準、短期大学設置基準及び短期大学通信教育設置基準」とあるのは「高等専門学校設置基準」と、同条第六項中「第百五条」とあるのは「第二百二十三条において準用する第百五条」と読み替えるものとする。

独立行政法人通則法（抄）

（平成十一年七月十六日法律第百三号）

（中期目標）

第二十九条 主務大臣は、三年以上五年以下の期間において独立行政法人が達成すべき業務運営に関する目標（以下「中期目標」という。）を定め、これを当該独立行政法人に指示するとともに、公表しなければならない。これを変更したときも、同様とする。

2 中期目標においては、次に掲げる事項について定めるものとする。

- 一 中期目標の期間（前項の期間の範囲内で主務大臣が定める期間をいう。以下同じ。）
- 二 業務運営の効率化に関する事項
- 三 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
- 四 財務内容の改善に関する事項
- 五 その他業務運営に関する重要事項

3 主務大臣は、中期目標を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。

（中期計画）

第三十条 独立行政法人は、前条第一項の指示を受けたときは、中期目標に基づき、主務省令で定めるところにより、当該中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）を作成し、主務大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときは、同様とする。

2 中期計画においては、次に掲げる事項を定めるものとする。

- 一 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
- 二 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

三 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

四 短期借入金の限度額

四の二 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画

五 前号に規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

六 剰余金の使途

七 その他主務省令で定める業務運営に関する事項

3 主務大臣は、第一項の認可をしようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。

4 主務大臣は、第一項の認可をした中期計画が前条第二項第二号から第五号までに掲げる事項の適正かつ確実な実施上不適當となったと認めるときは、その中期計画を変更すべきことを命ずることができる。

5 独立行政法人は、第一項の認可を受けたときは、遅滞なく、その中期計画を公表しなければならない。

（年度計画）

第三十一条 独立行政法人は、毎事業年度の開始前に、前条第一項の認可を受けた中期計画に基づき、主務省令で定めるところにより、その事業年度の業務運営に関する計画（次項において「年度計画」という。）を定め、これを主務大臣に届け出るとともに、公表しなければならない。これを変更したときも、同様とする。

2 独立行政法人の最初の事業年度の年度計画については、前項中「毎事業年度の開始前に、前条第一項の認可を受けた」とあるのは、「その成立後最初の中期計画について前条第一項の認可を受けた後遅滞なく、その」とする。

令和2年度 呉工業高等専門学校自己点検・評価委員会

委員長	篠崎賢二	校長
委員	黒木太司	副校長／協働研究センター長 ／技術センター長
委員	木原滋哉	教務主事／教育センター長
委員	西坂強	学生主事
委員	松野一成	寮務主事
委員	中迫正一	専攻科長
委員	外村彰	人文社会系分野代表
委員	笠井聖二	自然科学系分野代表
委員	高田一貴	機械工学分野代表
委員	田中誠	電気情報工学分野代表
委員	重松尚久	環境都市工学分野代表
委員	篠部裕	建築学分野代表
委員	林和彦	地域実践教育センター長
委員	梅田則好	事務部長
委員	小畑修司	総務課長
委員	篠原益夫	学生課長

第3期中期目標期間（平成26年度～平成30年度） 自己点検・評価報告書【第9報】

発行 令和2年7月
作成 呉工業高等専門学校自己点検・評価委員会
〒737-8506
広島県呉市阿賀南二丁目2-11
TEL：0823-73-8200
E-mail：kikaku@kure-nct.ac.jp